

東北大学埋蔵文化財調査年報6



東北大学埋蔵文化財調査委員会
1993

東北大学埋蔵文化財調査年報6

東北大学埋蔵文化財調査委員会
1993

序

遠見塚の道路脇に石棺が放置され、子供が蓋の石材でシーソー遊びをしていたのが極く最近のこととして思い出される。当時、損逸した文化財は大変な数になるだろうと考える。測定装置の進歩が大変画期的なもので、バイオなどと共に考古学も最も目覚しく進歩しつつある学問分野である。

その結果か否かは別として、本学名誉教授であられる芹沢長介先生の長年に亘る御努力と、従来の学術に拘らない観察が、効を奏して、東北大学近辺に最も大きいと云って差し支えない大変革を喚び起こしつつある。高森遺跡が50万年前とか、是川遺跡がトップ級の縄文文化を示すとか、東北人の心を振り立たせるような学問的発見が相次いでいるのは本当に嬉しいことである。

本学の位置する所にも多くの発見があり、遠く数十万年昔から、数百年前、百年足らずのところまで、歴史は散逸してしまっていて、発掘がすべて発見につながるのではないかとさえ思わせる。

ほんの数十年前のことすら散逸して分からなくなっていることを考えると、何か矛盾をさえ感ずる昨今であるが、出来れば、我々が日々経過している社会自体を、歴史として記述し一部を保存することを併用しながら考古学を発展させることが、歴史をより効果的に記述することになるのではないだろうか。

云い換えると、考古学の方から逆に歴史の意味を教えられていることになるし、顧ることによってこれから予測する、見通すということになるのが歴史学の根底だと考えている。

兎に角、近年の東北大学の考古学研究室を中心とした埋蔵文化財の発掘が東北人の心を揺るがせ、勇気を振り立たせたことは、東北地方の人達にも極めて大きな効果を与えたものと大いに自慢し、喜びとしているところである。

東北大学埋蔵文化財調査委員会委員長
東北大学長 西澤潤一

例 言

1. 本年報は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査委員会が1988年度に本調査を実施した仙台城二の丸跡第5次調査地点の調査成果をまとめたものである。第5次調査地点については、1985年度および1987年度に実施した、試掘調査の成果もあわせて掲載した。本年報では、検出遺構・出土遺物の報告を旨とし、それらに関する考察は、翌1989年度に実施した付帯施設（排水管）区域の調査までの全ての報告が終了した段階で、1989年度の年報（年報7）において、これらをまとめて検討して報告する予定である。
2. 報告される遺跡と略号、発掘調査期間は以下の通りである。
仙台城二の丸跡第5次調査地点（NM5）

1次調査（試掘調査）	1985年4月11日～5月30日
2次調査（試掘調査）	1987年9月18日～11月24日
3次調査（本調査）	1988年3月14日～1989年2月14日
3. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査委員会の委嘱を受け、埋蔵文化財調査室が行った。
4. 本年報の編集は、須藤隆の指導のもとに、山田しょう（～'92）・藤沢敦・関根達人（'92～）が担当した。
5. 本文は、藤沢敦・関根達人が分担執筆した。執筆分担はI章とII章1・2は藤沢、II章3の検出遺構については、藤沢と関根が協議して共同で執筆した。II章4の出土遺物については、(1)【陶磁器】、(2)瓦、(3)【箸状木製品】【漆塗製品】、(4)【煙管】の項目については関根が執筆し、それ以外については藤沢が執筆した。英文要旨は関根が原稿を作成し、阿子島香氏（東北大学文学部考古学研究室）の補筆を受けた。
6. 次の方々に各種の遺物について御教示をいただいた。
陶磁器：本田泰貴（東北陶磁文化館）
木簡・墨書陶磁器：田中秀和・中川学（東北大学文学部国史研究室）
石器・石製品：蟹沢聡史（東北大学教養部）
7. さらに以下の方々から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる。
宮城県教育委員会、東北歴史資料館、仙台市教育委員会、東北大学考古学研究室
8. 出土遺物は、東北大学埋蔵文化財調査委員会が保管・管理している。

凡 例

1. 遺物の実測図および写真の縮尺は、各々明記した。
2. 方位は真北に統一してある。国土座標は第X座標系である。
3. 川内地区の仙台城二の丸跡にあたる地域の地形測量図は、仙台市教育委員会の作成による「仙台城跡地形図」（縮尺500分の1）を使用した。
4. 引用・参考文献は、巻末に一括した。本文中で、東北大学埋蔵文化財調査年報を引用する場合は、年報1という形で略記した。
5. 挿图中的のスクリーン・トーンの表現は、特に記した以外は下記のとおりである。

遺構平面図	柱痕跡：		杭：	
遺構断面図	柱痕跡：		礎：	
遺物実測図	青磁釉：		付着物：	

（磁器）

6. 遺物観察表の法量の単位は、特に記載がないものは、cmである。

1988年度調査遺跡（本報告収録）の概要

仙台城二の丸跡第5次調査地点（NM5）

縄文時代？：石器

江戸時代

遺構

前期（17世紀）：礎石建物・掘立柱建物・塀・溝・池からなる庭園・井戸

元禄年間（17世紀末～18世紀）：溝・土坑・畑

中・後期（18・19世紀）：掘立柱建物・塀・門・溝・土坑

遺物：陶磁器・瓦・木簡・木製品・漆塗製品・金属製品・骨角製品・石製品

明治時代：礎石建物・石組溝・暗渠・井戸

陶磁器・瓦・木製品・金属製品・ガラス製品・皮製品

整理作業参加者

岩井利佳 小川徳子 大橋育順 菊地芳朗 菊池佳子 工藤健吾 黒須靖之 佐藤剛
庄子一夫 高橋朋子 多辺育子 千田祐美恵 津島知弘 独古史恵 三浦千秋 成田和歌子

発掘調査参加者

秋山真紀子 阿部喜美 阿部志う 阿部友衛 荒井聡 池田洋祐 石垣光朗 石堂幸子
市村賢則 伊藤千徳 伊藤道子 今高義也 歌川喜恵子 梅沢みえ 遠藤秀樹 及川茂
太田君子 太田すゑ子 太田はるよ 太田洋平 小熊博 河西健二 加藤恵子 金子拓
鹿野尚文 菅野春枝 菅野竜一 菊地修一 菊地スミ子 菊地とよゑ 菊池佳子
国安まほ子 栗谷川佳子 桑月鮮 小関勝英 小林文夫 小山さき子 小山八郎 佐伯晴子
桜井美枝 佐々木努 佐々木寅男 佐藤厚子 佐藤羅子 庄子一夫 申宗大 須貝啓一
菅井道彦 菅原伸明 菅原よしの 高橋いく子 高橋理 高橋和子 高橋健寿 高橋富勝
立身修 張玲 照井優一 東矢高明 富岡直人 中川光則 中村裕 新沼よしえ 新野一浩
朴榮淑 長谷川チエ子 長谷川範明 菱沼孝二 本田泰貴 丸山伝 三浦幸子 宮崎敬士
三好秀樹 村田章人 森嶋秀… 山岸清江 山田しょう 横山東市 吉田歎 李蓮 陸太進
劉毅 渡辺久子

東北大学埋蔵文化財調査委員会規程

施行 昭和58年11月15日

改正 昭和63年1月19日

(設置)

第一条 東北大学に、東北大学の施設の整備にともなう埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議するため、東北大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第二条 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 東北大学施設整備委員会地区協議会委員長
- 二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は助教授 若干人
- 三 発掘調査地に関連のある部局の長で、その都度委員長が指名するもの
- 四 事務局長

(委員長)

第三条 委員長は、学長をもって充てる。

(調査室)

第四条 委員会に、委員会が定める基本方針に基づき、発掘調査に関する実施計画、実施の細目及び調査報告書に係る事項を処理させるため、調査室を置く。

- 2 調査室に、室長及び調査員を置く。
- 3 室長は、調査室の業務を掌理し、調査員は、調査室の業務に従事する。

(委嘱等)

第五条 第二条第二号に掲げる委員及び調査員は、学長が委嘱する。

- 2 室長は、委員のうちから委員長が指名する。

(調査員の出席)

第六条 委員長は、調査員を委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(幹事)

第七条 委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(庶務)

第八条 委員会の庶務は、事務局施設部において行う。

(雑則)

第九条 この規定に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

この規定は、昭和六三年一月十九日から施行する。

埋蔵文化財調査室運営方針

東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という）の運営は、東北大学埋蔵文化財調査委員会規程によるもののほか、次の運営方針に基づき行うものとする。

- 1 調査室の運営及び発掘調査の実施方針等に関して審議するため、運営会議を置く。
- 2 運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 調査室長及び調査員
 - (2) 庶務課長、主計課長及び企画課長
 - (3) 発掘調査地を所管する部局の事務長
 - (4) 専門委員若干名
- 3 調査室は、東北大学構内遺跡の調査及び保護にあたる。
- 4 調査室は、発掘調査による出土文化財の整理と調査報告書の作成にあたり、公開、活用をはかる。
- 5 調査室は、出土文化財・資料（図面、写真等）の保存、管理にあたる。
- 6 調査室は、文化庁長官、教育委員会等への発掘調査に関わる届け出業務（発掘届けを除く）を担当する。

東北大学埋蔵文化財調査委員会 (1988年度)

委員長 学 長

石 田 名香雄

委員 川内地区協議会委員長 (法学部長)

太 田 知 行

青葉山地区協議会委員長 (薬学部長)

南 原 利 夫

星陵地区協議会委員長 (医学部長)

吉 永 馨

片平地区協議会委員長 (科研所長)

藤 村 忠 雄

文学部 教授 (調査室長)

渡 辺 信 大

文学部 教授

羽 下 德 彦

文学部 教授

須 藤 隆

文学部 助教授

今 泉 隆 雄

理学部 教授

中 川 久 夫

工学部 教授

坂 田 泉

附属図書館長

塚 本 哲 人

文学部 長

桑 原 輝 男

法学部 長

太 田 知 行

理学部 長

黒 田 正

工学部 長

大 谷 茂 盛

農学部附属農場長

庄 司 貞 雄

教養部 長

細 谷 昂

事務局 長

石 田 正 一 郎

調査員 文学部 助手

梶 原 洋

文学部 助手

佐 久 間 光 平

幹事 庶務部 長

勝 村 光 彦

経理部 長

滝 本 良 雄

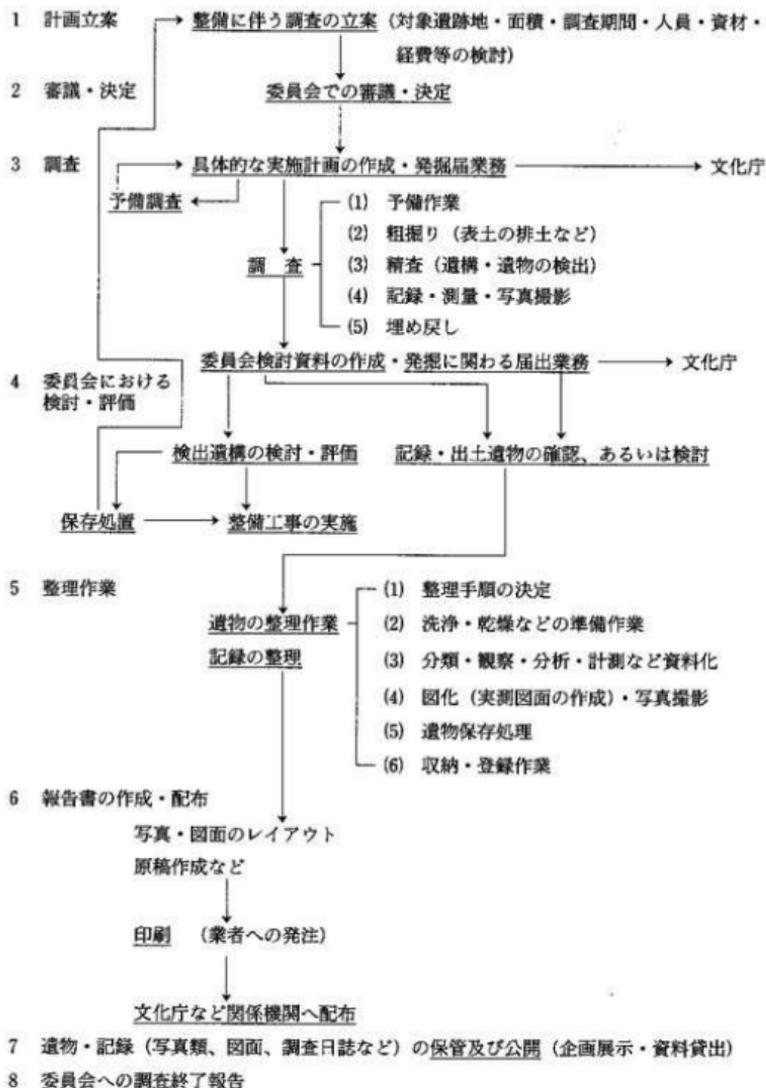
施設部 長

原 山 明 宗

東北大学埋蔵文化財調査委員会 (1993年2月現在)

委員長	学 長		西 澤 潤 一
委員	川内地区協議会委員長	(教養部長)	渡 部 治 雄
	青葉山地区協議会委員長	(工学部長)	斉 藤 正三郎
	星陵地区協議会委員長	(医学部長)	平 則 夫
	片平地区協議会委員長	(金研所長)	増 本 健
	文学部 教授		渡 辺 信 夫
	文学部 教授		羽 下 徳 彦
	文学部 教授	(調査室長)	須 藤 隆 雄
	文学部 助教授		今 泉 隆 雄
	工学部 助教授		飯 淵 康 一
	事務局 長		廣 田 火 郎
調査員	文学部 助手		藤 沢 敦
	文学部 助手		関 根 達 人
幹事	庶務部 長		菊 地 洋 男
	経理部 長		山 田 清 努
	施設部 長		山 本

埋蔵文化財発掘調査及び委員会審議の手順



目 次

序

例言・凡例

東北大学埋蔵文化財調査委員会規程

東北大学埋蔵文化財調査室運営方針

東北大学埋蔵文化財調査委員会組織

埋蔵文化財発掘調査及び委員会審議の手順

目次

図目次

表目次

図版目次

第Ⅰ章 1988年度調査の概要	1
1. はじめに	1
2. 発掘調査の概要	1
(1) 川内地区の調査	1
(2) 青葉山地区の調査	3
(3) 川渡地区の調査	3
3. そのほかの調査室の活動	3
第Ⅱ章 二の丸跡第5次調査地点(NM5)の調査	4
1. 調査経緯	4
(1) 川内地区の立地と歴史および1987年度までの調査	4
(2) 調査地点の位置	8
(3) 調査方法と経過	9
2. 層序と時期区分	12
3. 検出遺構	17
(1) I期(西原敷)の遺構	
① 北区18・19列	17
A. Ia期(地山上面)	17
B. Ib期(8層上面)	18
② 北区20～23列	25

A. I a 期 (⑧層上面)	25
B. I b 期 (⑦層上面)	26
③ 南区.....	32
A. I a 期.....	33
B. I b 期.....	43
(2) II 期 (西屋敷跡絶後・二の丸以前) の遺構.....	52
① II a 期 (北区 VI 層 上面)	52
② II b 期 (北区 V 層上面・南区 3 a 層上面)	56
(3) III 期 (二の丸中奥) の遺構.....	63
① III a 期 (北区 IV 層 上面・南区 2 d 層上面)	63
② III b 期 (北区 III 層 上面・南区 2 c 層上面)	75
(4) IV 層 (第二師団) の遺構 (2 b 層・2 a 層上面)	86
4. 出土遺物.....	98
(1) 陶磁器・土器・土製品.....	98
(2) 瓦	101
(3) 木製品	106
(4) 金属製品	109
(5) 石器・石製品	110
(6) 骨角製品	111
(7) ガラス製品	111
(8) その他の遺物	111

引用・参考文献

英文要旨

図版

目 次

図1 東北大学と周辺の遺跡……………2	図29 III a 期検出遺構(2)……………69
図2 仙台城と二の丸の位置……………4	図30 III a 期検出遺構(3)……………71
図3 仙台城二の丸跡・武家屋敷跡 調査地点……………5	図31 III a 期検出遺構(4)……………73
図4 二の丸跡第5次調査地点 調査区的位置……………10	図32 III a 期検出遺構断面図……………74
図5 基本順序模式図……………13	図33 III b 期遺構配置図……………77
図6 調査区外周壁断面図……………15	図34 III b 期検出遺構(1)……………80
図7 I a 期遺構配置図……………19	図35 III b 期検出遺構(2)……………81
図8 I b 期遺構配置図……………21	図36 III b 期検出遺構(3)……………83
図9 I 期18・19列検出遺構……………23	図37 III b 期検出遺構(4)……………85
図10 I a 期20～22列検出遺構……………27	図38 IV 期遺構配置図……………89
図11 I b 期20～22列検出遺構……………29	図39 IV 期検出遺構(1)……………91
図12 I 期20～22列断面図……………31	図40 IV 期検出遺構(2)……………93
図13 南区池跡堆積状況模式図……………32	図41 IV 期検出遺構(3)……………95
図14 南区 I a 期検出遺構(1)……………37	図42 第5地点出土磁器(1)……………112
図15 南区 I a 期検出遺構(2)……………39	図43 第5地点出土磁器(2)……………113
図16 南区 I a 期検出遺構(3)……………41	図44 第5地点出土磁器(3)……………114
図17 南区 I b 期検出遺構(1)……………45	図45 第5地点出土磁器(4)……………115
図18 南区 I b 期検出遺構(2)……………47	図46 第5地点出土磁器(5)……………116
図19 南区 I b 期検出遺構(3)……………49	図47 第5地点出土磁器(6)……………117
図20 南区 I 期断面図……………51	図48 第5地点出土磁器(7)……………118
図21 II a 期遺構配置図……………53	図49 第5地点出土磁器(8)……………119
図22 II a 期検出遺構……………55	図50 第5地点出土磁器(9)……………120
図23 II b 期遺構配置図……………57	図51 第5地点出土陶器(1)……………121
図24 II b 期検出遺構(1)……………59	図52 第5地点出土陶器(2)……………122
図25 II b 期検出遺構(2)……………61	図53 第5地点出土陶器(3)……………123
図26 II b 期検出遺構(3)……………62	図54 第5地点出土陶器(4)……………124
図27 III a 期遺構配置図……………65	図55 第5地点出土陶器(5)……………125
図28 III a 期検出遺構(1)……………68	図56 第5地点出土陶器(6)……………126
	図57 第5地点出土陶器(7)……………127
	図58 第5地点出土陶器(8)……………128

図59	第5地点出土陶器(9)	129	図86	第5地点出土その他の瓦(1)	156
図60	第5地点出土陶器(10)	130	図87	第5地点出土その他の瓦(2)	157
図61	第5地点出土陶器(11)	131	図88	第5地点出土その他の瓦(3)・ 刻印瓦(1)	158
図62	第5地点出土土器(1)	132	図89	第5地点出土刻印瓦(2)・ 瓦加工品	159
図63	第5地点出土土器(2)	133	図90	第5地点出土木簡(1)	160
図64	第5地点出土土器(3)	134	図91	第5地点出土木簡(2)	161
図65	第5地点出土土器(4)	135	図92	第5地点出土木簡(3)	162
図66	第5地点出土土器(5)	136	図93	第5地点出土木簡(4)	163
図67	第5地点出土軒丸瓦(1)	137	図94	第5地点出土木簡(5)・櫛	164
図68	第5地点出土軒丸瓦(2)	138	図95	第5地点出土箸状木製品	165
図69	第5地点出土軒丸瓦(3)	139	図96	第5地点出土下駄(1)	166
図70	第5地点出土軒丸瓦(4)・ 軒平瓦(1)	140	図97	第5地点出土下駄(2)	167
図71	第5地点出土軒平瓦(2)	141	図98	第5地点出土下駄(3)	168
図72	第5地点出土軒棧瓦	142	図99	第5地点出土 その他の木製品(1)	169
図73	第5地点出土平瓦(1)	143	図100	第5地点出土 その他の木製品(2)	170
図74	第5地点出土平瓦(2)・ 丸瓦(1)	144	図101	第5地点出土 その他の木製品(3)	171
図75	第5地点出土丸瓦(2)	145	図102	第5地点出土漆塗製品	172
図76	第5地点出土丸瓦(3)	146	図103	第5地点出土漆塗製品	173
図77	第5地点出土丸瓦(4)	147	図104	第5地点出土古銭	174
図78	第5地点出土板塀瓦(1)	148	図105	第5地点出土煙管	175
図79	第5地点出土板塀瓦(2)	149	図106	第5地点出土その他の金属製品	176
図80	第5地点出土熨斗瓦・棧瓦(1)	150	図107	第5地点出土石器・石製品・ 骨角製品	177
図81	第5地点出土棧瓦(2)	151			
図82	第5地点出土輪違い	152			
図83	第5地点出土面戸瓦(1)	153			
図84	第5地点出土面戸瓦(2)	154			
図85	第5地点出土棟瓦・板塀瓦	155			

表 目 次

<p>表1 1988年度調査概要表……………1</p> <p>表2 第5地点出土磁器集計表(1) ……178</p> <p>表3 第5地点出土磁器集計表(2) ……179</p> <p>表4 第5地点出土陶器集計表(1) ……180</p> <p>表5 第5地点出土陶器集計表(2) ……181</p> <p>表6 第5地点出土土器・ 土製品集計表(1) ……182</p> <p>表7 第5地点出土土器・ 土製品集計表(2) ……183</p> <p>表8 第5地点出土瓦集計表(1) ……184</p> <p>表9 第5地点出土瓦集計表(2) ……185</p> <p>表10 第5地点出土木製品・ 漆塗製品集計表(1) ……186</p> <p>表11 第5地点出土木製品・ 漆塗製品集計表(2) ……187</p> <p>表12 第5地点出土 その他の遺物集計表(1) ……188</p> <p>表13 第5地点出土 その他の遺物集計表(2) ……189</p> <p>表14 第5地点出土磁器観察表(1) ……190</p> <p>表15 第5地点出土磁器観察表(2) ……191</p> <p>表16 第5地点出土陶器観察表(1) ……192</p> <p>表17 第5地点出土陶器観察表(2) ……193</p> <p>表18 第5地点出土陶器観察表(3) ……194</p> <p>表19 第5地点出土 土師質土器皿観察表(1) ……194</p> <p>表20 第5地点出土 土師質土器皿観察表(2) ……195</p>	<p>表21 第5地点出土その他の 土師質土器・瓦質土器観察表 ……195</p> <p>表22 第5地点出土軒丸瓦類観察表 ……196</p> <p>表23 第5地点出土軒平瓦類観察表 ……196</p> <p>表24 第5地点出土軒棧瓦観察表 ……197</p> <p>表25 第5地点出土平瓦観察表 ……197</p> <p>表26 第5地点出土丸瓦観察表 ……197</p> <p>表27 第5地点出土棧瓦観察表 ……197</p> <p>表28 第5地点出土板瓦観察表 ……198</p> <p>表29 第5地点出土製斗瓦観察表 ……198</p> <p>表30 第5地点出土輪造り観察表 ……198</p> <p>表31 第5地点出土面戸瓦観察表 ……198</p> <p>表32 第5地点出土その他の瓦観察表 ……199</p> <p>表33 第5地点出土下駄観察表 ……199</p> <p>表34 第5地点出土木筒観察表 ……200</p> <p>表35 第5地点出土樽観察表 ……200</p> <p>表36 第5地点出土箸状木製品観察表 ……200</p> <p>表37 第5地点出土 その他の木製品観察表 ……201</p> <p>表38 第5地点出土漆塗製品観察表 ……201</p> <p>表39 第5地点出土古銭観察表 ……202</p> <p>表40 第5地点出土煙管吸口観察表 ……202</p> <p>表41 第5地点出土煙管葎首観察表 ……203</p> <p>表42 第5地点出土 その他の金属製品観察表 ……203</p> <p>表43 第5地点出土 その他の遺物観察表 ……203</p>
---	--

図 版 目 次

図版 1 第 5 地点全景(1) ……………211	図版29 第 5 地点出土陶器(7) ……………239
図版 2 第 5 地点全景(2) ……………212	図版30 第 5 地点出土陶器(8) ……………240
図版 3 第 5 地点断面 ……………213	図版31 第 5 地点出土陶器(9) ……………241
図版 4 第 5 地点 I a 期の遺構(1) ……………214	図版32 第 5 地点出土陶器(10) ……………242
図版 5 第 5 地点 I a 期の遺構(2) ……………215	図版33 第 5 地点出土陶器(11) ……………243
図版 6 第 5 地点 I a 期の遺構(3) ……………216	図版34 第 5 地点出土土器(1) ……………244
図版 7 第 5 地点 I b 期の遺構(1) ……………217	図版35 第 5 地点出土土器(2) ……………245
図版 8 第 5 地点 I b 期の遺構(2) ……………218	図版36 第 5 地点出土土器(3) ……………246
図版 9 第 5 地点 I b 期および II 期の遺構 ……………219	図版37 第 5 地点出土土器(4) ……………247
図版10 第 5 地点 II a 期・ II b 期の遺構 ……………220	図版38 第 5 地点出土軒丸瓦類(1) ……………248
図版11 第 5 地点 III 期・III a 期の遺構 ……221	図版39 第 5 地点出土軒丸瓦類(2) ……………249
図版12 第 5 地点 III a 期の遺構 ……………222	図版40 第 5 地点出土軒平瓦・ 軒棧瓦(1) ……………250
図版13 第 5 地点 III b 期の遺構 ……………223	図版41 第 5 地点出土軒棧瓦(2)・ 平瓦(1) ……………251
図版14 第 5 地点 IV 期の遺構(1) ……………224	図版42 第 5 地点出土平瓦(2)・ 丸瓦(1) ……………252
図版15 第 5 地点 IV 期の遺構(2) ……………225	図版43 第 5 地点出土丸瓦(2) ……………253
図版16 第 5 地点 IV 期の遺構(3) ……………226	図版44 第 5 地点出土棧瓦類(1) ……………254
図版17 第 5 地点出土磁器(1) ……………227	図版45 第 5 地点出土板瀬瓦 ……………255
図版18 第 5 地点出土磁器(2) ……………228	図版46 第 5 地点出土棧瓦類(2)・ 斐斗瓦・棟瓦 ……………256
図版19 第 5 地点出土磁器(3) ……………229	図版47 第 5 地点出土輪違い・ 面戸瓦(1) ……………257
図版20 第 5 地点出土磁器(4) ……………230	図版48 第 5 地点出土面戸瓦(2) ……………258
図版21 第 5 地点出土磁器(5) ……………231	図版49 第 5 地点出土その他の瓦(1) ……259
図版22 第 5 地点出土磁器(6) ……………232	図版50 第 5 地点出土その他の瓦(2) ……260
図版23 第 5 地点出土陶器(1) ……………233	図版51 第 5 地点出土刻印瓦・ 瓦加工品 ……………261
図版24 第 5 地点出土陶器(2) ……………234	図版52 第 5 地点出土木簡(1) ……………262
図版25 第 5 地点出土陶器(3) ……………235	
図版26 第 5 地点出土陶器(4) ……………236	
図版27 第 5 地点出土陶器(5) ……………237	
図版28 第 5 地点出土陶器(6) ……………238	

図版53	第5地点出土木簡(2) ……………	263	図版60	第5地点出土その他の 木製品(3)・漆塗製品(1) ……………	270
図版54	第5地点出土木簡(3) ……………	264	図版61	第5地点出土漆塗製品(2) ……………	271
図版55	第5地点出土箸状木製品 ……………	265	図版62	第5地点出土古銭 ……………	272
図版56	第5地点出土櫛・下駄(1) ……………	266	図版63	第5地点出土煙管 ……………	273
図版57	第5地点出土下駄(2) ……………	267	図版64	第5地点出土 その他の金属製品 ……………	274
図版58	第5地点出土その他の 木製品(1) ……………	268	図版65	第5地点出土その他の遺物 ……………	275
図版59	第5地点出土その他の 木製品(2) ……………	269			

第 I 章 1988年度調査の概要

1. はじめに

東北大学には、川内・青葉山・片平・星陵・雨宮の各地区のキャンパスと、ほかに多くの附属施設があり、その敷地は広大である。これらの各地区の構内には、多くの埋蔵文化財があり、特に文系4学部・教養部・記念講堂のおかれている川内地区は、近世の仙台城二の丸跡と武家屋敷にあたり、理・薬・工学部のおかれている青葉山地区には、主として旧石器時代～弥生時代の遺跡が残されている(図1)。

これらの大学構内の埋蔵文化財の調査・保護を組織的に行うために、1983年に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置され、その実務機関として埋蔵文化財調査班(1988年から調査室)が置かれた。以来、1988年度までに、合計41地点の調査が行われてきた。これらの調査を通じて、川内地区では仙台城二の丸跡の様相が明らかになりつつあり、青葉山地区では10数万年前と2万年前の旧石器群が発見されるなど、構内遺跡の重要性があらためて認識されてきた。これらの調査成果については、「東北大学埋蔵文化財調査年報」1～5で、学界のみならず一般にも広く公開されてきた。

1988年度においても、仙台城二の丸跡を中心に調査が行われ、新たな資料を提供することになった。本報告書は、これらの調査成果についてとりまとめたものである。

2. 発掘調査の概要

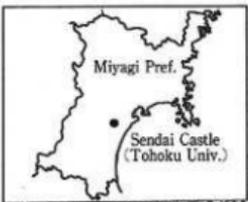
1988年度は、本調査1件、試掘調査1件、立会調査2件の、計4件の調査を実施した。これらの調査の内訳は、川内地区(仙台城二の丸跡)においては本調査1件、青葉山地区では立会調査2件、川渡地区では試掘調査1件である(表1)。

(1) 川内地区(仙台城二の丸跡)の調査

川内地区では、附属図書館本館増築に伴う本調査(仙台城二の丸跡第5次調査地点、NM5)を実施した。これは、1985年度の1次調査、1987年度の2次調査に続く、3次調査にあたる。これまで東北大学埋蔵文化財調査委員会で実施した調査では、最大面積となるものであり、ほ

表 1 1988年度調査概要表
Tab. 1 Excavations on the campus in the fiscal year 1988

調査の種類	調査地点	原因	調査期間	面積	時期
本調査	仙台城二の丸跡第5地点(NM5)	附属図書館本館増築	3/14～2/13	1520 m ²	近世
試掘調査	川渡農地第1地点(KW1)	浴槽施設新設	6/17・18	8 m ²	弥生
立会調査	工学部情報工学科テニスコート地点	テニスコート擁壁新設	10/11	10 m ²	—
	理学部生物学科実験室地点	理学部生物学科学生実験室新設	11/18	43.5m ²	—

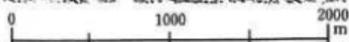


- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. 仙台城址 | Ruin of Sendai Castle |
| 2. 青葉山遺跡A地点 | Aobayama Site Loc. A |
| 3. B地点 | " " B |
| 4. C地点 | " " C |
| 5. D地点 | " " D |
| 6. E地点 | " " E |
| 7. F地点 | " " F |
| 8. 七野遺跡 | Kitamae Site |
| 9. 山田上の台遺跡 | Yanada-Uemotai Site |
| 10. 戸ノの遺跡 | Ainokuchi site |
| 11. 三神軍遺跡 | Mitsukami Site |
| 12. 富沢遺跡 | Tomizawa Site |
| 13. 上野遺跡 | Uwano Site |
| 14. 原子核物理学研究所跡地 | Lab of Nuclear Science |



図1 東北大学と周辺の遺跡

Fig. 1 Archaeological sites and Tohoku University



ほぼ1年間に渡る長期の調査となった。この地点は、二の丸中奥の置かれていた区域にあたり、上層から中奥に関連する掘立柱の堀跡・門跡や溝跡などが検出された。また、大規模な整地層をはさんで、下層からは、二の丸が元禄期に拡張される以前に置かれていた、西屋敷に関連する礎石建物跡・溝跡・池からなる庭園などが検出されたほか、この西屋敷が廃絶された後に造られた畑の跡が検出されている。また、江戸時代初頭以降の各時期の遺物が大量に出土した。本年報では、1987年度の2次調査と1988年度の3次調査、および1985年度の1次調査の成果の一部も併せて報告する。1985年度の1次調査の残る部分は、1988年度から翌年度にかけて行った排水管区域の調査（4次調査）と併せて、1989年度の年報（年報7）で報告する予定である。また、この第5地点の遺構・遺物に関する考察は、4次調査までの全ての報告が終了した段階で、これらをまとめて検討して報告する予定である。

(2) 青葉山地区の調査

青葉山地区では立会調査を2件実施した。工学部情報工学科テニスコート地点はテニスコート擁壁工事に伴うものである。当地点は、北東側に傾斜する斜面地で盛土がなされており、地層の地積状況も良くなく、また工事に伴う掘削面積も小さいことから立会調査を行った。理学部生物学科学生実験室建設に伴う調査では、建物がプレハブ建築であり、工事に伴う掘削も狭くて浅いため立会調査とした。いずれにおいても、遺構・遺物は発見されなかったため、これ以上の調査は行っていない。

(3) 川渡地区の調査

川渡地区では、川渡農場第一地点（KW1）の試掘調査を実施した。当地点は農学部附属農場の宿泊施設新営に伴う調査で、町A遺跡などの遺跡に隣接する地点であったため、遺構・遺物の有無を確認する目的で試掘調査を実施した。調査の結果、弥生時代の天王山式と見られる土器が出土したため、翌年に本調査を行うこととした。この調査については、1989年度の本調査の報告にまとめて行う予定である。

3. そのほかの調査室の活動

1988年度は、前述した二の丸跡第5次調査地点の調査がほぼ1年間を通して行われたため、調査成果の公開・活用も、この第5地点の成果に関するものが中心となった。第5地点の調査中の12月3日には現地説明会を開催し、初めて西屋敷の実態が明らかになったこともあり、多くの参加者があった。学会での発表としては、12月11日に開催された宮城県遺跡調査発表会では第5地点の調査成果について発表した。また『考古学ジャーナル』312に、調査成果の速報として「仙台城二の丸跡第5地点の調査」を投稿した。

第II章 二の丸跡第5次調査地点（NM5）の調査

1. 調査経緯

(1) 川内地区の立地と歴史および1987年度までの調査

東北大学の附属図書館、および文系4学部、記念講堂、教養部などが置かれている現在の川内地区は、江戸時代の仙台城二の丸跡、周辺の武家屋敷跡などに相当する。

仙台城は、仙台市街地の西方、広瀬川を渡った、通称青葉山の東端に位置している（図1）。本丸は、三方（北・東・南）を広瀬川と竜の口溪谷に囲まれた海拔115～140mの急崖上に立地

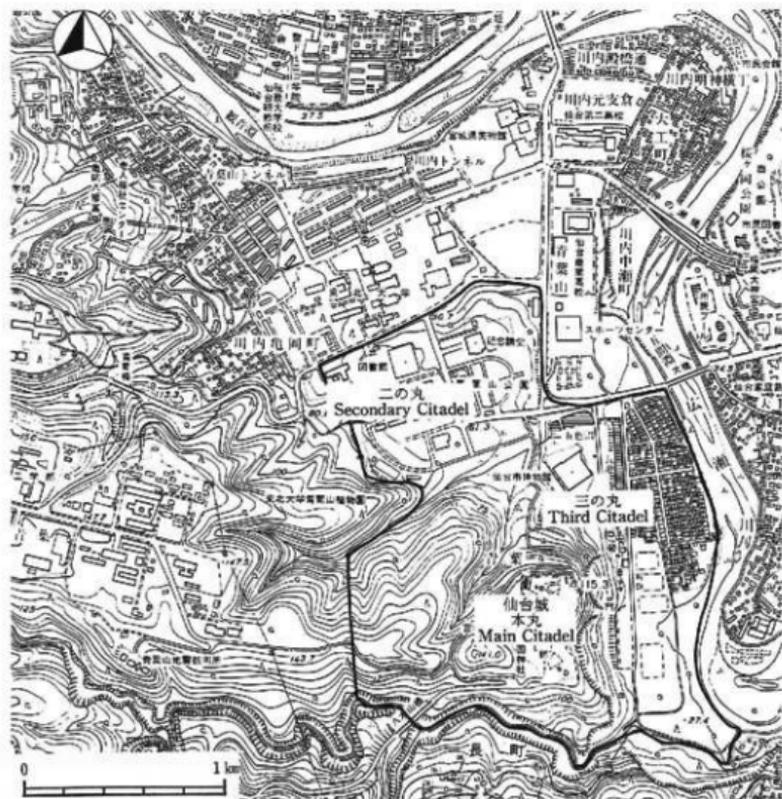


図2 仙台城と二の丸の位置
Fig. 2 Distribution of Sendai Castle

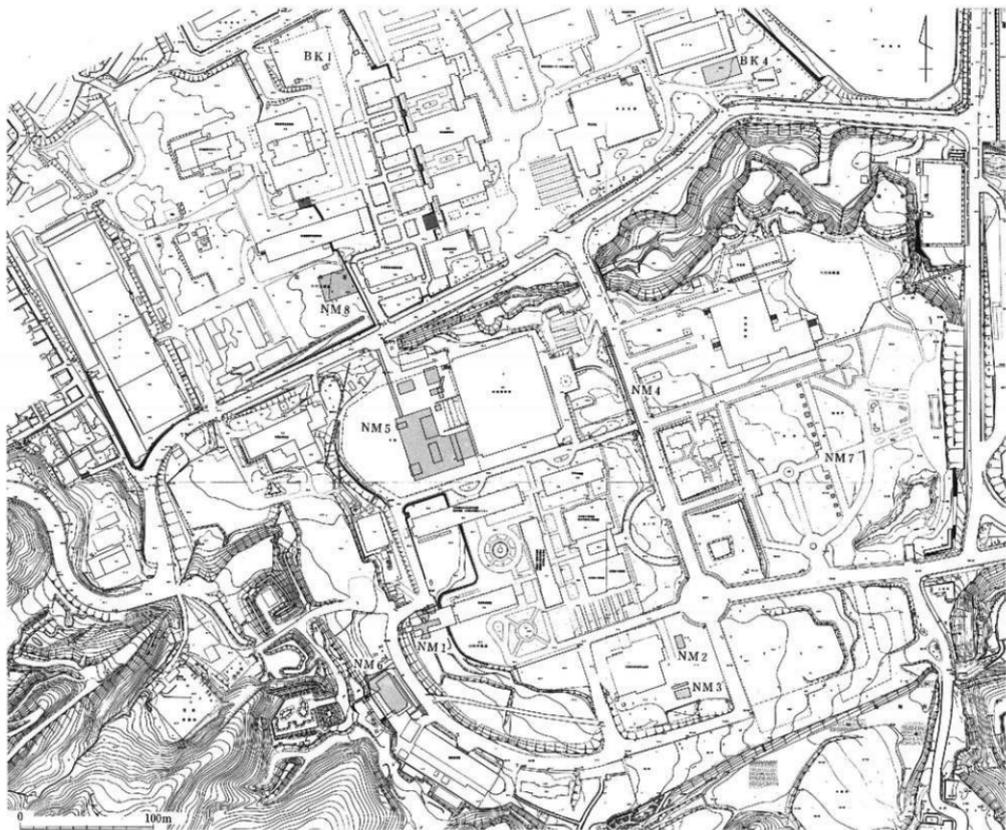


図3 仙台城二の丸跡・武家屋敷跡調査地点

Fig.3 Location of excavations until 1988 at *Ninomaru* (NM i.e. Secondary Citadel) and *samurai* residence (BK)

しており、また北側の二の丸、北東の三の丸も、それぞれ海拔61~78m、40mの階段状の河岸段丘面上にあり、自然地形を巧みに利用した配置となっている(奥津春生1967)。この中で東北大学構内の二の丸は、東方を蛇行する広瀬川に向かって緩やかに傾斜する上町段丘上(武蔵野面相当)に位置する(図2)。

仙台城は、慶長5年(1600年)伊達政宗によって本丸の築城が開始される。しかし幕藩体制の安定とともにその山城的な立地は不便となり、二代藩主忠宗は、寛永15年(1638年)、その麓において二の丸の造営を始める。これ以前、当地には政宗の四男宗泰(岩出山領主)の屋敷が置かれていた。二の丸の北隣には、政宗の長女五郎八姫の居住する西屋敷が元和6年(1620年)以降存続している。

二の丸が完成して後、仙台藩の政治・諸儀式の中心はここに移され、二代藩主以降はその居館ともなる。さらに元禄年間には、四代藩主綱村によって二の丸は大改造され、もとの西屋敷の敷地を取り込んで拡大される。その後いくたびかの災害や火災を被るが、その度に再建され、二の丸は幕末まで、事実上仙台城の中核として機能していく(仙台市教育委員会1967)。

版籍奉還の明治2年(1869年)には、二の丸に勤政庁が置かれ、明治4年(1871年)の廃藩置県後は、仙台城が明治政府・兵部省の管轄下に移るとともに東北鎮台(後に仙台鎮台と改む)が置かれる。この頃に本丸の建物群は取り壊されるが、二の丸建物群は依然として残っている。しかし、この二の丸建物群も、明治15年(1882年)の火災によって、ほとんどが焼失してしまう。その後、当地には陸軍第二師団が置かれ、敗戦まで続くこととなる。敗戦間近の昭和20年(1945年)7月、仙台空襲の際、大手門などわずかに残った建物も焼失し、仙台城の建物は全て失われてしまう。戦後は米軍の駐留地となり、昭和32年(1957年)、米軍より返還されてのち東北大学がこの川内地区に移転し、現在に至るのである。

仙台城二の丸・武家屋敷である川内地区の発掘調査は、仙台市教育委員会、東北大学考古学研究室によって小規模な調査が行われたことがあるが、組織的・継続的に行われるのは、東北大学に埋蔵文化財調査委員会が置かれる1983年度以降のことである。委員会による川内地区の発掘調査は、これまでに8地点を数える。この中で特に、二の丸の中心である小広間の付近を調査した第2地点では、礎石建物跡が発見され、良好な保存状態と遺構の重要性から、調査後は保存されることとなった。第3地点・第4地点・第6地点では、それぞれ二の丸の南・北東・西の外郭にかかわる遺構が発見されており、現在の地形上で二の丸の範囲がほぼ推定できるようになった。第7地点では二の丸東方の蔵にかかわる遺構が発見されており、第8地点では二の丸北側の堀(池)が発見されている。また、第4地点の調査では、二の丸造成時の大規模な整地層の下層から、宗泰の屋敷に関連すると考えられる遺構も検出されている(年報1、3、4・5)。

(2) 調査地点の位置

第5地点は、附属図書館の西側にあたり、グランドとして使用されていた場所である。当地点は、江戸時代初頭には伊達政宗の娘である五郎八姫の居館である「西屋敷」が置かれていた場所にあたる。

五郎八姫は文禄3年(1594年)、伊達政宗と正室愛姫の長女として生を受ける。五郎八姫は慶長4年(1599年)6才の時、徳川家康の七男松平忠輝と婚約し、慶長11年(1606年)松平家に嫁いだ。しかし忠輝は、元和元年(1615年)の大阪夏の陣の際の遅参・怠戦と、家臣による旗本殺害の不謝罪とによって改易処分とされ、越後および信濃の領地を没収され、元和2年には伊勢朝熊に配流される。五郎八姫はこの時、越後高田城から江戸の伊達家下屋敷に帰される。さらに元和6年(1620年)、五郎八姫27才の時、仙台に帰ることとなった。

この元和6年に帰仙した五郎八姫のために造営されたのが、西屋敷である。西屋敷を記した絵図面は、正保2・3年(1645・46年)の「奥州仙台城絵図」が唯一のものである(阿刀田令造1936)。これは城下全体を記した絵図であり、屋敷内の建物などの配置は描かれていない。これによると西屋敷は、二の丸の北側に位置し、東西百二間、南北六十間とされている。この絵図で二の丸とされている区域には、二の丸造営以前には、伊達政宗の四男である宗泰(後の岩出山領主)の屋敷が置かれていた。宗泰の屋敷と西屋敷を区画すると考えられる溝跡が、第4次調査地点の調査において検出されており、この両者の屋敷の境が、現在の文系4学部と附属図書館の間の道にほぼ対応すると考えられる(年報5)。西屋敷が造営される以前については、「御西様被成御座候ニ付。竹被切弘御作事御座候」(東奥老士夜話)との記録があり、竹林であったことが伺える(土生慶子1987)。

寛永13年(1636年)に伊達政宗が死去すると、その報に接したもとの伊達藩奉行茂庭綱元(了庵)が、それまで住んでいた愛子村栗生の屋敷を五郎八姫に差し上げ、自分は栗原郡文字村(現、栗駒町文字)に引き籠った。このことは『綱元君記録』の寛永八年条、同じく寛永十三年条、また安永三年(1774年)の「下愛子村風土記書出」の記述によって知られる。この愛子村栗生の屋敷(西館)とは、現在の仙台市青葉区下愛子栗生にある西館跡と考えられる。この寛永13年に愛子栗生のもとの茂庭綱元の屋敷を五郎八姫が譲り受けて以降、川内の西屋敷がどのように使われたかについては、明確な記述に欠けるが、伊達治家記録の寛文元年(1661年)5月12日に、五郎八姫の死去について「天麟院殿去ル八日仙臺城西館ニ於テ卒去セラル」とあるから、姫の死去まで存続しており、愛子栗生の西館は仮御殿として別荘的な性格をもっていたものと考えられている(佐藤宏一1987)。天麟院とは五郎八姫の法号である。

一方、西屋敷の南隣にあった伊達宗泰の屋敷の跡には、寛永15年(1638年)に、二代藩主伊達忠宗によって、二の丸が造営されている。五郎八姫が死去して後の西屋敷については、宮城

県立図書館所蔵の「仙台藩封内神社仏閣等作事方役所修繕ニ属スル場所調査文延宝貞享定書共天麟院様元御屋舖御屏風蔵々候候」にその様子を伺うことができる。これによると、屏風蔵や道具蔵などが見え、二の丸に付随する蔵として利用されたようである。これらの建物が、西暦敷時代の建物をそのまま利用したものか、新たに建てられたものかは明確ではない。

四代藩主伊達綱村の元禄年間に、二の丸はもとの西屋敷の敷地を取り込んで、北側に拡張され、もとの西屋敷の敷地には中奥が置かれる。当地点は、この拡大後の中奥のもっとも北よりの部分から、中奥の北側に置かれた「中奥馬場」にかけての地点にあたると思われる。

中奥の建物群はたびたび建て替えられ、また文化元年（1804年）の雷火による二の丸の全焼など、いくたびかの災害で被害を被り、その度に再建されている。絵図においても、中奥の建物群は細部では複雑な変遷を示している。しかし、今回の調査地点にあたると思われる中奥の北辺部分は、その外郭の位置はほとんど変化がないことが、各時期の絵図から見て取れる。

明治2年（1869年）の版籍奉還に伴い、落務と家務が区分され、元の藩主伊達慶邦の家族は中奥に移され、二の丸の表の建物は勤政庁となった。さらに明治4年（1871年）の廃藩置県によって、仙台城が明治政府の管轄下に移り、二の丸には東北鎮台が置かれ、同15年（1882年）の火災による焼失に至るのである。この版籍奉還以降の当地点の変遷については、明確ではないが、廃藩置県以降、軍隊が利用するようになってからは、土地利用が大きく変わったものと推定される。

(3) 調査方法と経過

附属図書館の新館を増築することになり、まず1985年度に試掘調査を実施することとなった。調査は、既存の附属図書館の建物の西側に合わせて基準線を設定し、4mのグリッドを組んで行った。以後、4次にわたる調査は、すべてこのグリッドに基づいて調査を行っている。グリッド設定の際の基準点の国土座標値は下記のとおりで、基準線は北から $18^{\circ} 10'50''$ 西偏している（図4）。

原点NM5-① X=-193 612.285 原点NM5-② X=-193 610.729

Y= 1876.546

Y= 1881.283

当初の建物計画は、既存の図書館の西側全面に予定されていたため、1985年度の1次調査では、予定地にあわせて1～7区の調査区を設定した。その結果、1・2・5・7区で仙台城に関わる遺構・遺物が確認された。1区では二の丸に伴う東西方向の溝、石組列、礎石などが検出され、東西方向溝は、5区に続いていた。2区では、1区から連続する面が遺存していることが確認された。7区では、礎石建物跡と推定される礎石の一部が検出された。残る3・4・6区では、後に誤認と判明するのだが、攪乱によって江戸時代の遺構は破壊されているものと判断した。

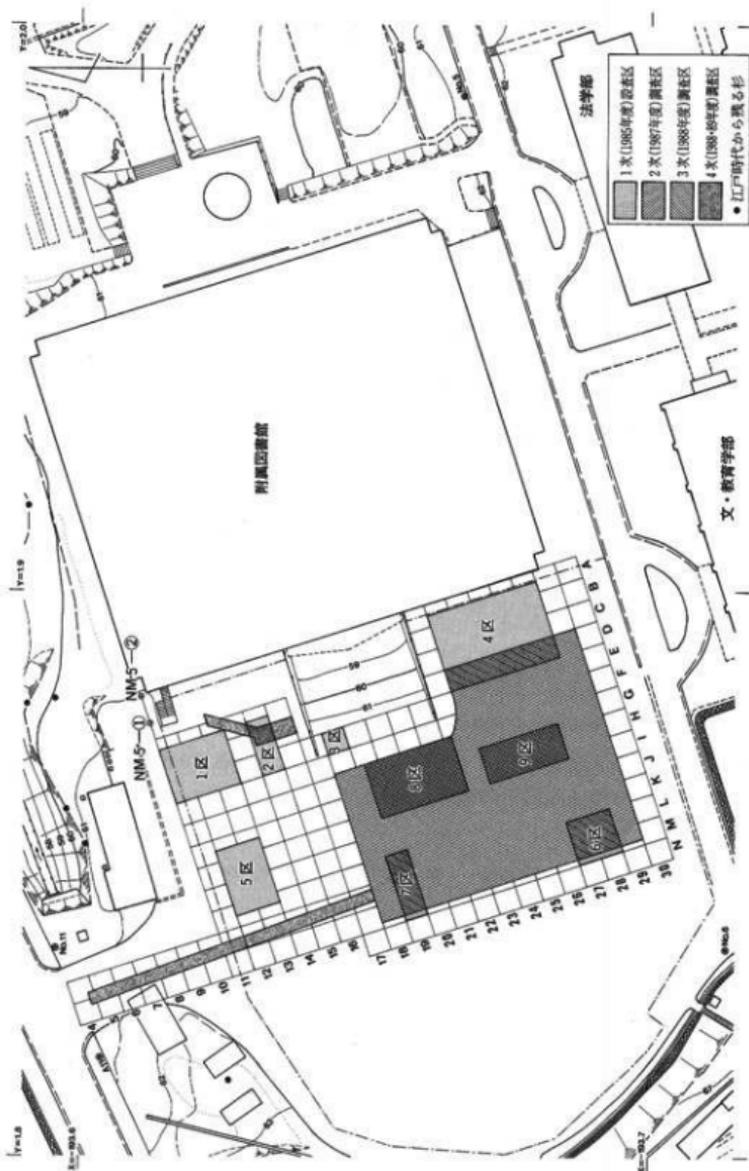


図4 二の丸跡第5次調査地点調査区的位置

Fig.5 Location of NMS

NM 5 i. e. Location 5 of *Ninomaru* (Secondary Citadel)

この1次調査の結果を受けて、建物は既存図書館西側の南よりの位置に建設されることになり、1987年度にこの区域の調査を実施することとなった。この1987年度の2次調査では、1次調査の所見を受けて、予定地の南側（23列以南）は部分的な調査とし、北側（22列以北）は全面的に調査を行うこととした。ただし、調査区内の西側をガス管・高圧ケーブル等の埋設管が南北に走っていたため、これらの迂回工事が済んでから西側地区を調査することとしたため、調査を実施した区域はさらに限定されたものとなってしまった。ところが、調査が進行するに当たって、南側は破壊を受けていないことが明らかになり、また、建物位置が当初計画より西側に移動したことから、調査計画は全面的に見直さざるを得なくなってしまった。そのため12月に、工事区域全面を対象として、大学と米軍によると考えられる盛土を重機によって排除し、調査計画をたて直すこととした。この重機による盛土排除の際にも、調査区南東部分で、二の丸期の整地層を近年の整地と誤認し、排除してしまうこととなった。

重機による盛土排除の結果、既存図書館に附属するサンク・ガーデン部分を除いた建設予定地のほぼ全域で調査が必要となった。そのため1988年度に再度本調査を行うこととなり、3月14日より3次調査を開始した。3次調査は年度前半を調査期間として開始したが、二の丸中奥に関連する遺構の密集度がきわめて高かったことなどから調査は難航し、大幅な期間延長が必要となってしまった。さらに、下層からも良好に保存された遺構の検出が相次ぎ、建築費の予算執行上の期限との関連で、調査期間の確保が不可能な事態にたち至った。そのため、下層遺構に関しては、北側では柱の基礎によって破壊される部分のみを調査することとし、建物基礎の掘削深度より深く破壊を免れる部分については、調査を断念せざるを得なくなった。調査は、翌1989年2月13日に終了した。

調査の進展に伴い、二の丸中奥に相当する建物群の遺存が明らかになり、さらに下層から二の丸丸柱強以前の五郎八姫の西屋敷の遺構が存在することが明らかになった。いずれも、これまでの二の丸跡の調査で検出された遺構としては、保存も良好な重要な遺構であり、特に西屋敷の遺構群は、絵図もなくまったく不明であったものが初めて明らかになった点で、特に重要な発見であった。そのため、10月3日と11月26日には、宮城県教育庁文化財保護課および仙台市教育委員会文化財課の担当係員が来跡し、保存対策についての協議がもたれた。これらの検討を踏まえて、建物建設時には、門跡などの重要遺構を保存するために建物位置を北へ1.2m、西に1.0m移動させる措置をとったほか、掘削深度より深く破壊を免れる部分については、山砂を40cmの厚さで敷き、遺構面を保護することとした。

整理作業は翌年度から開始したが、それ以前の調査に関わる作業が多く残っておりそちらを優先せざるを得なかったこと、発掘調査のため整理作業がたびたび中断を余儀なくされたことから、充分な期間が確保できなかった。このため、1990年度までは水洗・注記などの基礎的な

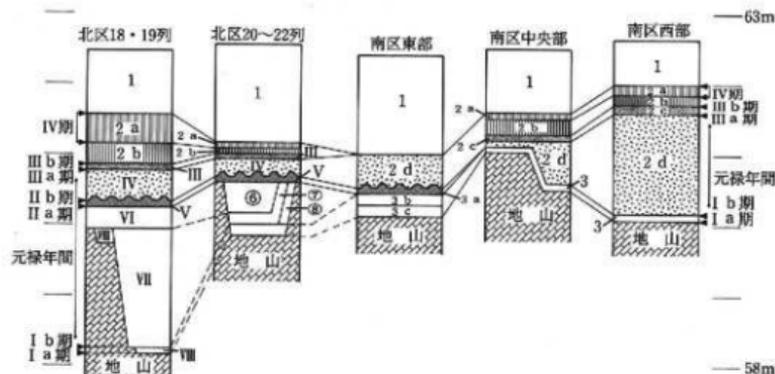
作業を終えたに留まり、本格的な整理作業は1991年度からであった。この間に、調査員の移動があり、本格的な作業を開始した時点では、調査を担当した調査員は退任した後で、調査に携わっていない者で整理作業・原稿執筆を担当しなければならなかった。しかも、調査の際に期間が限定されたこともあり、図面・写真による記録が必ずしも充分でない部分がある。暗渠や石組の溝について、平面図に掘り方が記載していないものは、この記録が残されていないからである。また、遺構が複雑であったこともあり、調査記録に混乱・不整合が多く、整理作業は難航を極めた。遺構の変遷については、総合的に理解できるように整理に努めたが、確定しきれない部分を多く残している。このような状況に加えて、遺物の保管場所が何度も移動したことも重なり、出土場所が不明となってしまったもの、混入と考えざるを得ない遺物が多く出る結果となってしまった。

今回の調査では、東北大学埋蔵文化財調査委員会が実施した調査では初めて、大量の木製品が出土した。その内の木簡については、真空凍結乾燥法による保存処理を、1991年度に東北歴史資料館において実施していただいた。そのほかの木製品については、本学理学部の工場において製作していただいた恒温水槽を利用して、PEG含浸法による保存処理を、1992年度から開始しており、今後、順次処理を進めていく予定である。

2. 層序と時期区分

今回の調査区は、22列から23列にかけて米軍による共同溝によって南北に分断されている。おおむねこれを境にして、基本層序の様相が変化することもあり、1987年度の2次調査以来、後述する2b層より下層では、別個に層名を付けている。したがって、この共同溝を境に22列以北を北区、23列以南を南区と大別して記述を進めることとする。さらに、元禄年間の二の丸拡張に伴う整地層より下層では、それ以前の西暦数時代の地表面の様相の違いに対応して、各所で層序が異なっている。下層遺構については、北区では柱の基礎が入る部分のみを調査したこと、南区でも下層遺構にまでおよぶ攪乱が多く存在したことから、これらの層序に関しては、厳密には対比できていない。そこで、北区では18・19列と20～22列にさらに分けて記述する。南区では、H列からK列にかけての地山の標高の高い部分を南区中央部とし、それより東を南区東部、西を南区西部として区分して記述することとする。

調査区の北区・南区ともに、遺構の様相とそれらの分布を検討すると、大きく下層遺構群と上層遺構群、それらにはさまれる整地層とに区分することができる。この整地層には、北区のIV・V・VI・VII・⑥・⑦層、南区の2d・3a層が認められ、場所によっては多量の廃棄物を含んでいる。その内、北区18・19列のVII層とVI層からは、元禄年間の年号の書かれた木簡が出土しており、これらの層が、文献に記録のある元禄年間の二の丸拡張に伴う整地層であると考え



＝北区・南区共通＝

1層 米軍・大学による盛土。

2 a層 10YR3/2黒褐色シルト。場所により礫の多い部分や粘土質シルトの部分がある。炭化物多く含む。黄褐色シルトなどが不均質に混ざる部分があり、細分される。

2 b層 10YR4/6に黄褐色砂。10YR5/2灰黄褐色シルトが縞状に入る。

地山 7.5YR5/1緑灰色シルト質粘土。一部砂礫が混ざる部分有り。

＝北区＝

III層 10YR5/1褐灰色シルト砂。上面に鉄分沈着、炭化物多く含む。

IV層 10YR5/3に黄褐色砂。2.5YR5/2暗灰黄色粘土質シルト・2.5YR5/3黄褐色シルトが不均質に混じる。小礫含む（下部に多い）。炭化物含む。

V層 7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト。上面に鉄分沈着。炭化物多く含む。褐灰色・黒褐色を呈する部分があり細分される。

＝北区18・19列＝

VI層 10YR7/6明黄褐色シルト・5GY6/1オリーブ灰色シルト・10YR6/4に黄褐色粘土質シルトが不均質に混じる。上面に鉄分沈着。小礫を多く含む。

VII層 細かく細分されるが、7.5GY4/1暗緑灰色粘土質シルトを主体とし黒褐色粘土質シルトが不均質に混ざる層と、有機物層が互層になる。人頭大の礫が多く含まれる部分や、黄褐色シルトを含む部分もある。

VIII層 10GY6/1緑灰色シルト質粘土と5GY4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土が不均質に混じる。

＝北区20～22列＝

⑥層 細かく細分される。図12参照。炭化物・礫・瓦・木片を多量に含む。

⑦層 細かく細分される。図12参照。礫・炭化物などを含む。

⑧層 細かく細分される。図12参照。部分的に植物の堆積層が入る。

＝南区＝

2 c層 10YR4/3に黄褐色シルト 炭化物・小礫多く混じる。

2 d層 大規模な盛土層。

＝南区東部＝

3 a層 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物・小礫少量混じる。

3 b層 10YR3/2黒褐色シルト 2.5YR4/3オリーブ褐色土ブロックが不均質に混じる。炭化物少量含む。上面には廃棄物層が堆積。

3 c層 7.5YR3/1黒褐色シルト 比較的均質な層。小礫少量含む。

＝南区中央部・西部＝

3層 10YR2/2黒褐色粘土質シルト 植物の腐食土層。池の底部ではグライ化している。

図5 基本層序模式図

Fig. 5 Schematic profiles of NM 5

えられる。その上に堆積する北区のV層の上面では、畑跡と考えられる畝状の遺構が検出されている。南区では、同様の遺構が、東部にのみ分布する3a層の上面で確認されており、この3a層が、北区V層に対応すると考えられる。この畑跡と考えられる遺構は、二の丸拡張以後の土地利用のあり方とは考え難いため、これも二の丸拡張以前の時期と推定した。さらに、この畑跡を覆う北区のIV層と南区の2d層は、特に2d層が大規模な整地層であるため、これらについても、元禄年間の二の丸拡張に伴うものとする他ない。二の丸の大改造は、元禄元年(1688年)から元禄13年(1700年)にかけて行われており、このごく短い間に次々と整地がなされていったものと考えられ、これらをまとめてII期とした。このII期では、北区IV層上面で溝が検出されており、これをIIa期とした。また先述のように、北区V層上面と南区東部3a層上面では畑跡が検出されており、これをIIb期とした。

この元禄年間と推定されるII期の整地層以前の遺構群は、二の丸拡張以前にこの場所に置かれていた西屋敷の遺構と考えられる。下層遺構群は、北区の調査に限られた範囲であったため、相互の対比は行えなくなっている。そのため場所によっては不明確な部分を残してはいるものの、大きく捉えると、全体に新古の2段階に区分することが可能である。直接的な対比ではないものの、この各区部の新古の2段階が、それぞれ対応する可能性が強いものと考え、Ia期、Ib期と細分した。

II期の整地層以後の遺構群は、二の丸がこの場所まで拡張された後の遺構群と考えられる。その内、北区IV層・南区2d層上面と、北区III層・南区2c層上面の遺構が、遺構の配置や出土遺物などから二の丸期の遺構であると考えられ、それぞれIIIa期とIIIb期と細分した。2b層・2a層は、さらに細分されるが、出土遺物からこれらの層は、明治以降の第二師団による盛土層と考えられることから、2b・2a層上面の遺構は、明治以降のものとして一括してIV期とした。遺構の掘り込み面が不明なもので、出土遺物から明治以降と考えられるものは、この時期に含めてある。

以上の点から、調査区の各区部での層序の対応関係は、確実ではない部分を残しているが、図5に示したように整理することができる。

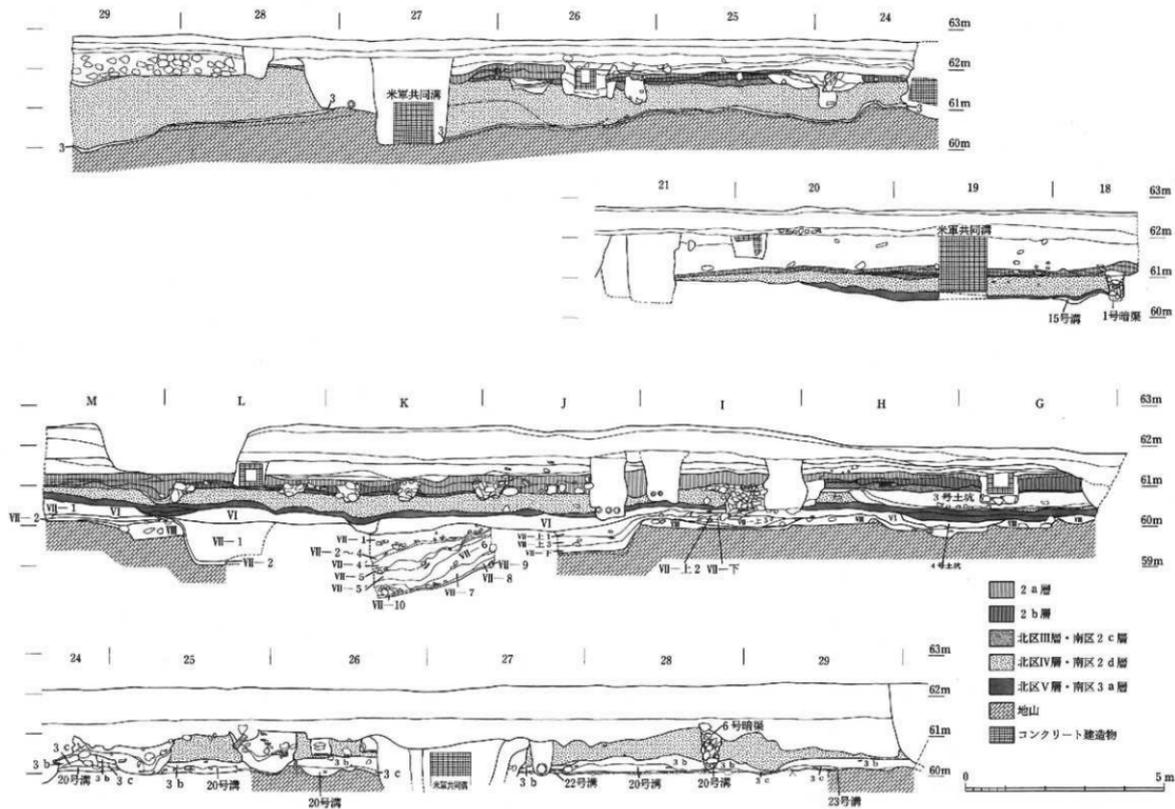


図6 調査区外周壁断面図
Fig. 6 Cross sections of excavation at NM5

3. 検出遺構

(1) Ⅰ期（西屋敷）の遺構

元禄年間の二の丸拡張以前に存在した西屋敷の時期の遺構で、Ⅰa期とⅠb期に細分される。向期を通じて、北区と南区西部には池と溝などからなる庭園が展開する。南区中央部は標高が他より高く、建物跡が分布する。南区東部は、中央部より一段低くなっており、ここにも建物跡が存在する。Ⅰ期は先述のように、各区部の相互の関係が直接とらえられず、それぞれの区部での検討で、大きく2段階の変遷が捉えられたので、この新古の2段階を対応させたものである。したがって、各区部ごとに、Ⅰa・Ⅰb期をまとめて記述することとする。

① 北区18・19列

建物基礎の杭で破壊される部分のみの調査である。西から基礎8区・9区・10区・11区を調査しており、10区と11区は、間をつなげて調査している。この内9区では、Ⅷ層上面までしか調査を行っていない。また、調査区北壁に沿って、明治の1号暗渠の掘り方があり、その底面を一部掘り下げることによって、基礎8～11区で調査していない部分の状況も部分的に確認している。Ⅷ層をはきんで、地山上面とⅧ層上面の遺構の、2時期に細分されたため、それぞれをⅠa期・Ⅰb期に対応させた。

A. Ⅰa期（地山上面）

地山を直接掘り込んで造られた遺構である。構築にあたって、整地・盛土などは確認されていない。

【7・8号池】(図9)

G-18区からI-18区にかけて検出された不整形な浅い落込みで、いずれも北側が調査区外に延び、南側は攪乱によって壊されている。9号池などとともに庭園を構成する、一連の池跡と考えられる。深さは7号池が深いところで50cm、8号池は20cm前後と浅い。8号池は南側が溝状になっており、7号池も南側の幅が狭くなっている。Ⅷ層によって埋められている。

【9号池】(図9)

J-18区からM-18区にかけては、Ⅰb期の4号池によって掘り直されて、残っていない部分も多いが、基礎9区では、Ⅷ層の下にⅧ層が分布している。そのため基礎9区では1.6m以上の深さがあったことになり、J-18区より西側が大きな池となっていたものと考えられる。基礎8区では、深さは50cm程となり、北壁断面の観察では、基礎8区の西側で浅くなって立ち上がっていくようである。20列以南とのつながりは確実ではないが、20列の池跡の深さが50cm以上あることと、その位置関係から、一連につながる同じ池跡と考えられる。部分的にⅧ層によって埋められた後、掘り直されてⅠb期の4号池が造られている。

これらⅠa期の池跡を埋めるⅧ層から出土した遺物は、きわめて少ないが、1640～50年頃の

肥前産磁器皿(図46-453)が出土している。

B. I b期(VII層上面)

VII層上面から掘り込まれた遺構である。G~I-18区では、I a期の池を埋め、池以外の部分にも20cm程の厚さでVII層が盛土されている。

【1~3号池】(図9、図版7)

G-18区からI-18区にかけて並んでいる、不整形な浅い落込みである。いずれも北側が調査区外に延び、1号池・3号池は南側も攪乱によって壊されている。4号池などとともに庭園を構成する、一連の池跡と考えられる。深さは1号池と3号池が20cm、2号池が40cm程度と、いずれも浅い。2号池の南端から南西方向に、深さ20cm程の溝状の落込みが延びており、3号池につながる溝かと思われるが、攪乱により接続部分がほとんど残っておらず、詳しいことは不明である。わずかに埋土が堆積した後、VII層とVI層によって埋められている。池の埋土からは、遺物はほとんど出土していない。

【4号池】(図9、図版7)

I a期の9号池の一部がVII層によって埋められた後、部分的に掘り直して造られた池跡である。I-18区の西端付近から80cmほど急に落込み、基礎9区の西端では深さ1.9mと、もっとも深くなる。基礎8区では1.1m前後の深さで、その西側で急に立ち上がる。

I b期の1~4号池跡は、VII層とVI層によって埋められるが、これらの層には大量の遺物が含まれている。木製品・木羽などは、今回の調査で出土したものの大多数をこれらの層で占めている。木簡もほとんどが、このVII層とVI層から出土している。木簡には元禄年間の年号を記したのも含まれている。また、陶磁器はさほど多くないのに対して、土師質土器が皿を中心に大量に含まれている。瓦も比較的多いが、20~22列の池を埋める層が、瓦を主体とし、陶磁器・土師質土器・木製品をあまり含まないのに対して対照的である。特に基礎9区では、木製品・木羽・加工木などを中心とした有機物層と、土師質土器を多量に含む層が、互層になって堆積しており、繰り返し廃棄が行われたものと推定される。土師質土器の皿は、灯明皿に転用されたものも若干含まれるが、大量にまとまって出土していること、それとともに白木の着が大量に出土し、長さ約8寸のものが主体をしめることから、宴会で使われた道具が捨てられたものである可能性が考えられる。

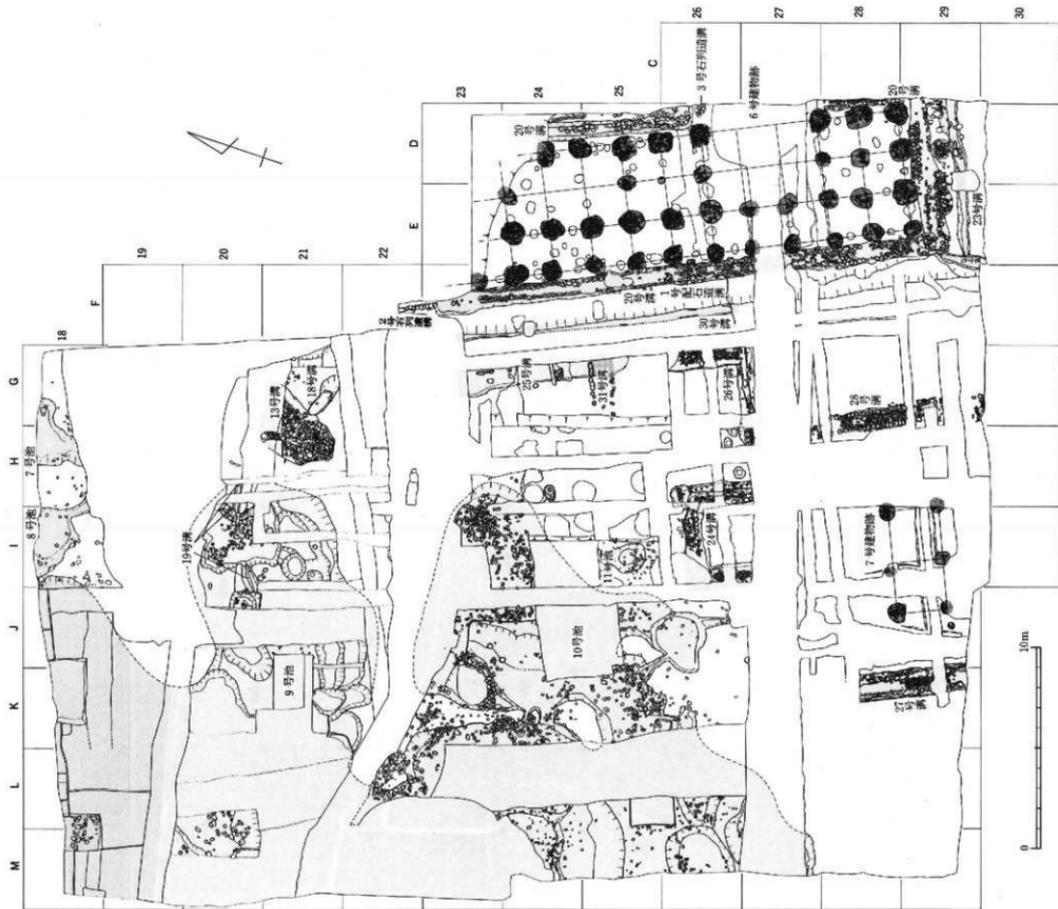


图 7 1 a 期遗址配置图

Fig. 7 Distribution of features at NM5(phase 1 a)



図8 I b期遺構配置図

Fig. 8 Distribution of features at NM5(phase 1b)

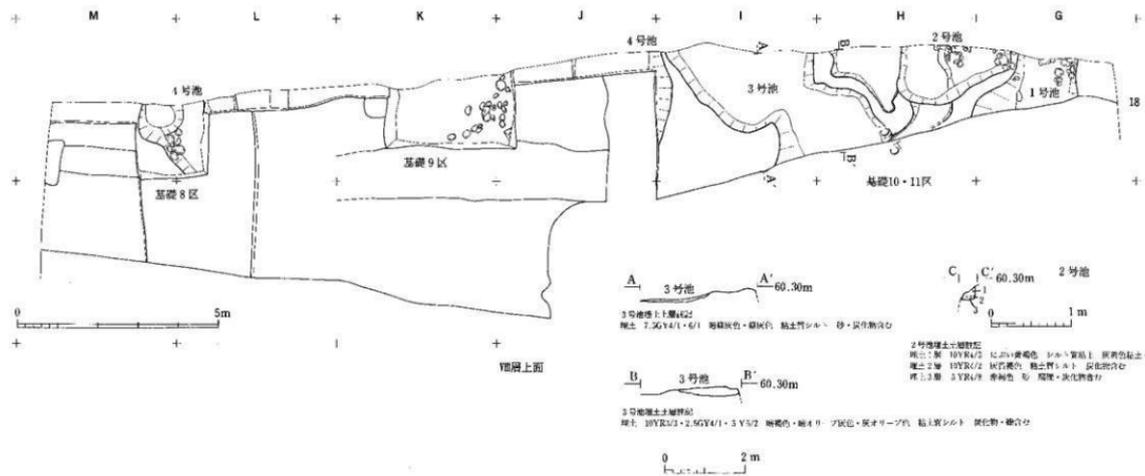


図9 I期18・19別検出遺構
Fig. 9 Features of phase I at NMS

② 北区20～23列

ここも建物基礎の杭によって破壊される部分だけの調査である。基礎1～7区を調査しているが、基礎1区と5区、2区と6区、3区と7区は、それぞれ南北につなげて調査を行っている。⑧層をはさんで、地山上面の遺構と⑧層上面の遺構の、2時期に細分されたため、それぞれを1a期・1b期に対応させた。

A. 1a期(地山上面)

地山を直接掘り込んで造られた遺構である。構築にあたって、整地・盛土などは確認されていない。

【9号池】(図10・12、図版4)

基礎1・5区、基礎2・6区、基礎4区で検出された池跡である。攪乱や調査しなかった部分によって分断され、全体の形状を推定することは難しいが、1期の他の小規模な池跡と比べると深いため、一連につながる大きな池跡になるものと考えられる。位置関係と深さから、J～M-18区で検出された池跡につながるものと考えられる。米軍共同溝による攪乱をはさんで隣接する、南区のK・L-22・23区で検出された10号池の岸の形状から、この9号池と10号池が、一連の池でつながる可能性もある。底面には複雑な凹凸が見られるが、深さは基礎1・5区で1.1m、基礎2・6区では70cm程である。⑧層によって埋められている。

【13号溝】(図10、図版4)

G・H 21区で検出されたもので、溝としたが、その形態と構造から、9号池などととも到庭園を形成する池の可能性がある。その場合、この13号溝に伴う18号溝は、池に取り付く溝と考えられる。方向はN-21'-Eである。北側が12号溝によって切られているが、断面図を見ると12号溝の底面より深いため、その下に残存しているはずであるが、この部分は一部しか調査しなかったのか、記録がなく判らない。堆積土断面での観察では、一度造り直されている可能性があるが、明確にはとらえられていない。幅2～3m、深さはもっとも深い部分で1.5m程で、内部は一面に河原石が敷き詰められている。遺物は少なく、陶磁器では、唐津産の大鉢1点(図54・256)と土師質土器の皿1点が出土しているだけである。瓦が若干出土しているほか、寛永通宝が出土している。

【18号溝】(図10)

G-21区で検出された小規模な溝で、南側は攪乱によって壊され、北側は13号溝に取り付いており、長さ2.4m分を検出した。方向はW-21'-Nで、13号溝に直交している。上幅70～90cm、下幅50cm、深さ30cm。遺物は出土していない。

【19号溝】(図10・12、図版4)

基礎6区の9号池の底面で確認された溝で、9号池の深い部分で分断されているが、方向が

ら一連の溝跡と考えられる。9号池の底面に設けられ、その深い部分をつなぐ形で造られたものであろう。基礎6区より東側にさらに続くものと考えられ、9号池からの排水の役割をもっていたことが想定されるが、12号溝によって壊されているのか、この部分の記録がなく不明である。上幅40～50cm、下幅20cm、深さ20cmで、わずかに埋土が堆積した後、9号池とともに⑧層によって埋められている。埋土からは遺物はほとんど出土していない。

9号池と19号溝を埋めている⑧層からは、土師質土器の皿が若干出土している他には、陶磁器はごくわずかしこ出土しておらず、木製品もあまり多くない。それに対して、瓦は大量に出土している。

B. I b期 (⑧層上面)

I a期の9号池が⑧層によってある程度埋められた後の遺構である。また、12号溝については、調査時に充分確認できず、このI b期の図面にあわせて記録されていたため、図11に掲載したが、II a期に属する可能性が高いため、遺構の記述は、II a期のところで行う。

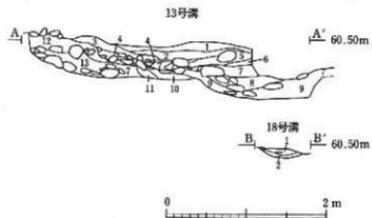
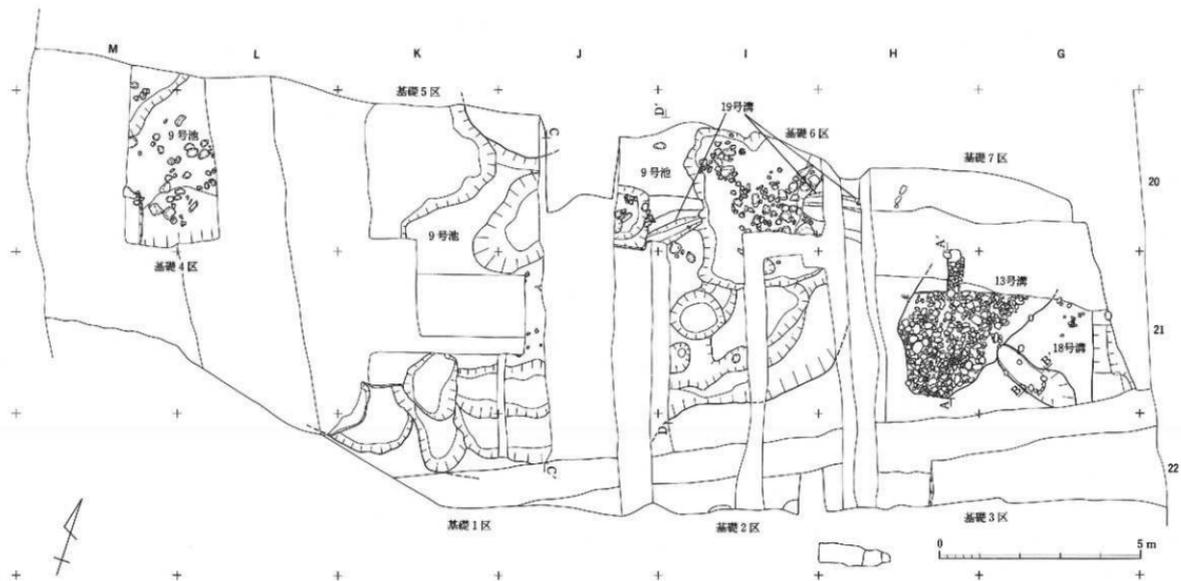
【4号池】(図11・12、図版7)

基礎1・5区、基礎2・6区、基礎4区で検出された池跡で、I a期の9号池が⑧層によってある程度埋められ浅くなったものを、部分的に直して作られている。基礎1・5区と基礎2・4区では、池の輪郭は9号池とほとんど変わらない。基礎4区では、南側から埋められたため、南岸がこの区の中程にくる。I a期と同様に、18列から一連につながる池跡であると推定される。南区の池跡は、I b期になって位置が南にずれるため、つながっていない可能性が高い。深さは基礎1・5区で90cm、基礎2・6区で60cmで、⑦層によって埋められている。

【14号溝】(図11・12、図版4)

基礎6区の4号池の底面で検出された溝で、I a期の19号溝と同様に、基礎6区よりさらに東側に続き、4号池の排水の役割をもっていたと推定されるが、これも12号溝によって壊されているのか、この部分の記録がなく不明である。上幅40～50cm、下幅20cm、深さ25cmであるが、西側では最大幅1.5mと広がっている。わずかに埋土が堆積した後、4号池とともに⑦層によって埋められている。

4号池と14号溝を埋めている⑦層からは、土師質土器の皿が若干出土している他は、陶磁器はごくわずかで、木製品もあまり多くない。それに対して、瓦は大量に出土しており、⑧層における遺物の出土傾向と同じである。この20～22列の⑦層と⑧層から出土した遺物の内容に対して、18・19列のVII層・VI層では、土師質土器の皿が圧倒的多数を占め、木製品も多いというように、対照的である。このことから、捨てられる物の種類によって、捨て場所がある程度決められていたと考えられる。なお、この大量に廃棄物を含む北区VII層・VI層・⑦層に対応すると考えられるのが、南区東部の3 b層上面に捨てられていた廃棄物層である。



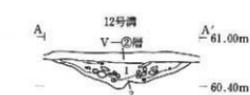
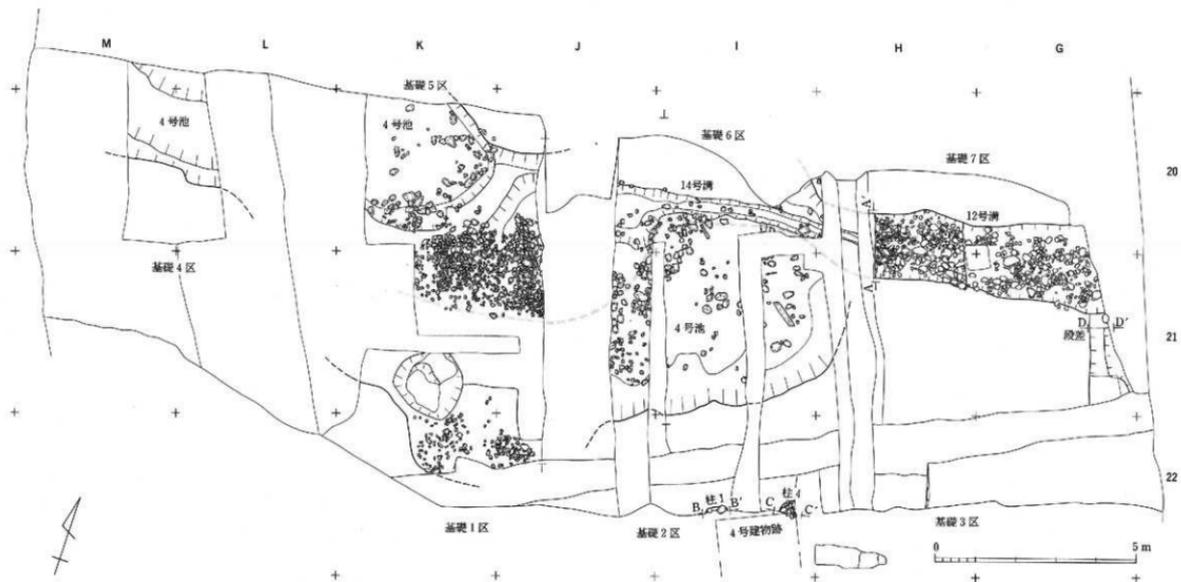
13号深溝土層詳記

- 層上1層 7.5YR6/2 灰褐色 シルト 炭化物・小礫含む
- 層上2層 7.5YR2/1 暗褐色 粘土質シルト 炭化物・小礫含む
- 層上3層 10YR7.5/4 黄褐色 砂質シルト 礫含む
- 層上4層 7.5YR7/1 暗褐色 粘土質シルト
- 層上5層 5YR2/2 暗褐色 砂質シルト 礫・礫含む
- 層上6層 10YR4.5/5 灰褐色 粘土質シルト
- 層上7層 10R6/1 暗褐色 粘土質シルト
- 層上8層 5R2/1 暗褐色 粘土質シルト
- 層上9層 10GY/1 暗緑褐色 シルト 礫・礫含む
- 層上10層 7.5GY/5/1 暗緑褐色 シルト 礫・礫含む
- 層上11層 5R2/1 暗褐色 粘土質シルト
- 層上12層 7.5YR7.5/3 灰褐色 シルト
- 層上13層 7.5GY/1 暗緑褐色 粘土質シルト 小礫含む

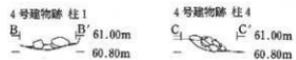
18号深溝土層詳記

- 層上1層 10YR2/3 暗褐色 シルト 小礫・炭化物・炭化礫含む
- 層上2層 5Y6/3 オリーブ褐色 粘土質シルト 小礫・礫・暗褐色粘土質シルト・ブロック含む

図10 I a 期20~22層検出遺構
Fig.10 Features of phase I a at NMS

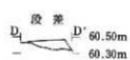


12号溝埋土層柱型
 1. 埋土1層 7.197R/3 磁器片 シルト 炭化物 黄褐色シルト・プロシヤ石
 2. 埋土2層 107R/3 紅土・黄褐色 粗土質シルト 小礫・磁器・焼砂を含む



4号建物跡柱1埋土層柱型
 埋土 107R/3 黄褐色 シルト 粗土・砂を含む 地山埋塞

4号建物跡柱4埋土層柱型
 埋土 107R/3 黄褐色 砂質シルト 地山埋塞



段差埋土層柱型
 埋土 107R/2 灰黄褐色 第三層シルト 焼砂を含む

図11 1 b期20~22列検出遺構

Fig. 11 Features of phase Ib at NM5

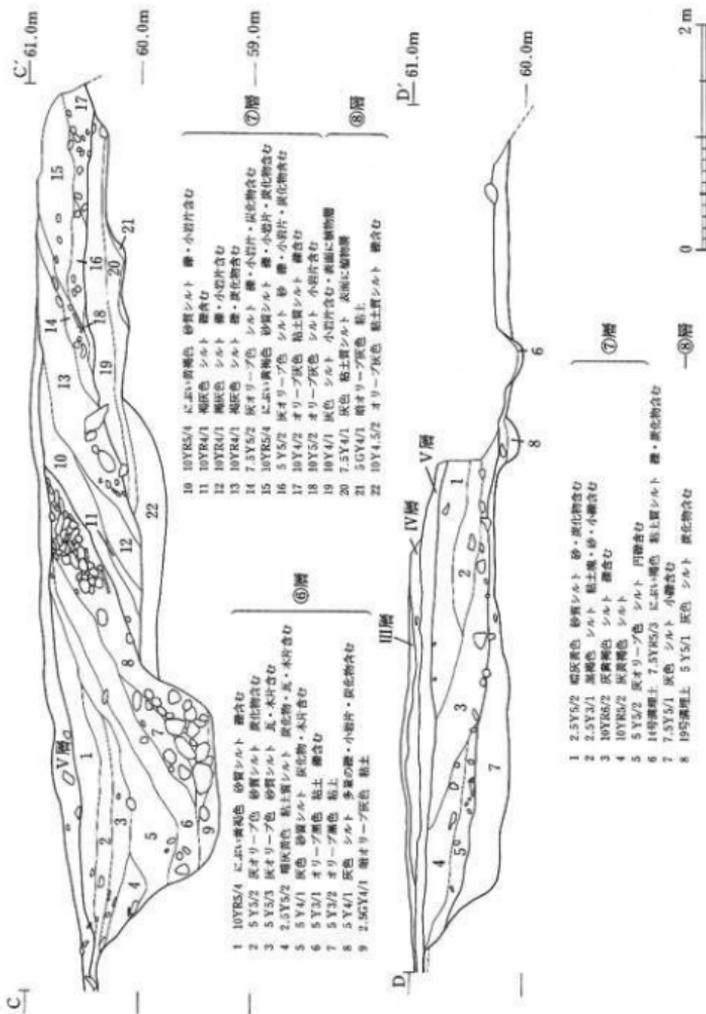


図12 I期20~22断面図

Fig. 12 Cross sections of phase I at NM 5

③ 南区

南区の地形は、東西が低く、中央のG～I列が高い。2d層は、南区のほぼ全域に広がっており、I期の遺構を覆っている。2d層以下の層の分布は、F列付近の段差を境として、東西で大きく異なる。F列より東側では、地山の上が3a・3b・3cの3枚の層に分かれるのに対して、西側では3層直下が地山である。3a層の上面はII期に畑として利用されている。東西で異なる層を直接対比することは困難であるが、それぞれの場所で遺構の変遷に関して新旧2時期が確認されたため、それぞれをIa期とIb期に対応させた。

東部(D～F列)では、3c層下の地山上面と、3b層上面の遺構に細分されたため、それぞれをIa期・Ib期に対応させた。ただし、掘り込み面が確認できていないため、切り合い関係などから、Ib期に相当すると判断したものもある。

中央部(G～I列)では、3層をはきんで、地山上面の遺構と、3層上面の遺構の2時期に細分されたため、それぞれをIa期・Ib期とした。

西部(J～M列)には、Ia期・Ib期を通じて、池からなる庭園が存在し、調査時には一時期の所産と理解されていたが、遺構の実測図をもとに、池の構築面、埋没状況を検討した結果、3種類のケースが確認でき(図13)、2時期の変遷を想定するに到った。Ia期の池は、3層(3a-1層)が堆積する以前にほぼ完全に埋まりきっており、3層は水平に堆積している。Ib期の池は、3層の上に構築されている。なお、Ia期に池として利用されていたところに、間層を挟まずに3層が堆積し、上面が池状に窪むケースについては、Ia・Ibの両時期にわ

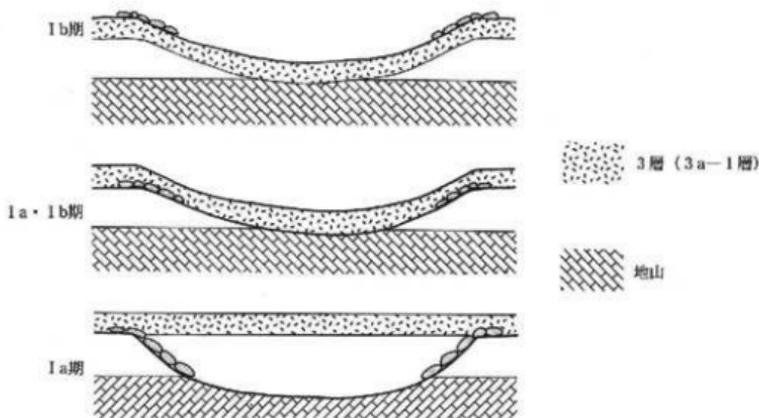


図13 南区池跡堆積状況模式図

Fig. 13 Restored illustrations about cross section of ponds(phase I)

たり、池が存在していたと理解した（10号池→6号池）。

A. Ia期

中央部と、一段低い東部に雨落溝を伴う礎石建物跡が存在する。西部は庭園として利用されており、北区から続く中島を伴った大規模な池が広がっていたと推定された。

【6号建物跡】（図14、図版5）

南区東部において3c層の下から検出された。明治期の井戸跡により東辺の一部が失われている。N-25°-Wの方向をとる南北棟で、南北11間以上、東西3間分が確認されている。

礎石は全て抜き取られており、内部に礎石を据えるための根固め石が詰まった柱穴が並ぶ。柱穴は、上幅約1.3m、底幅約0.5m、深さ約0.6mで、隅丸正方形を呈する。柱間は約200cmを測る。

20号溝は、本建物の雨落溝と推定される。この溝は、本建物跡の北辺から6間目で東に屈曲しており、この部分からさらに東側へ建物が展開する可能性がある。このことから、本遺構は、いくつかの建物が廊下でつながる分棟型建物の一部と考えられる。

本建物跡の柱穴からは、17世紀後半に比定される肥前産色絵中型丸碗（図44-414）や、瓦質土器（図66-97）が出土している。

【7号建物跡】（図16、図版4）

南区中央部の米軍共同溝南側で検出された。周辺を後世の擾乱で大きく破壊されており、建物の中央部と考えられる部分に、東西に3基並ぶ礎石跡が2列残されているだけである。27・28号溝は、本建物の東西の雨落溝と考えられ、その位置関係から、本来は東西3間の建物であったと考えられる。建物の方向は、N-24°-Wである。

礎石は全て抜き取られており、内部に礎石を据えるための根固め石が詰まった柱穴が並ぶ。柱穴は、隅丸方形で、柱間は約252cmと広い。北側に位置する24号溝を、本建物に伴う雨落溝の一部と仮定すると、本建物跡は、池に面する北側に1間四方の張り出しを持っていたことになる。その場合、本建物は、張り出し部分を除き、南北に4間以上の南北棟になる。

本建物は、池に面して建てられており、柱間隔が通常以上に広い点と考えあわせ、H常的な住空間というよりもむしろハレの空間であったと想定される。

【20号溝跡】（図14、図版5）

南区東部において地山面で検出された。ピット387と切り合っているが、両者の新旧関係は捉えられていない。北端は削平されている。

本溝は石組溝であり、上幅約1.0m、底幅約0.6m、深さ約0.5mの掘り方の中に、幅が40cm程度になるように、径20から30cm程度の自然石を組んでいる。溝の深さは20cm前後で、底面には比較的小さな石が敷かれている。

溝は、6号建物跡の周囲を取り囲むように配置されており、構造の点でも、6号建物の雨落溝であった可能性が高い。本溝の南西隅に接続する29号溝は、20号溝に溜る水の排水を目的とした施設と考えられる。なお、20号溝の南辺は、石組の一部に重複が認められる。

溝の埋土からは、肥前磁器の壺蓋（図49・493）、京・信楽系の灰釉丸碗（図52-227）、銅緑釉を施した肥前産の陶器小皿（図53-243・244）が出土している。これらの遺物が、17世紀後半から18世紀前葉に位置づけられることから、本溝は、それ以前の段階に機能していたと考えられる。なお、本溝と切り合いのあるピット387からは、黒漆塗りの櫛（図94-069）、柄に炭手形の列点文をもつ銅匙（図106-76）、筆の部品と考えられる管状金属製品（図106-77・78）、ヘラ状金属製品（図106-79）が出土している（図版5）。金属製品はいずれも銅製で、全てに鍍金が認められる。匙やヘラ状金属製品は故意に曲げられた状態で出土しており、何かの機会に化粧道具の一部を一括して廃棄された可能性が高い。

【23号溝跡】（図14）

調査区の南東隅で検出された素掘りの東西溝である。溝の方向は、6号建物の雨落溝である20号溝の南辺に平行する。幅は、上面で約0.6m、底面では20～30cmである。本溝は、西端で29号溝に接続しており、6号建物に伴う一連の排水施設と考えることができる。

【24号溝跡】（図15、図版6）

南区中央部にあり、南側を米軍の共同溝により、北西部をI b期の5号池により破壊されている。溝は南に向かって開く「コ」字形を呈している。東端部が26号溝とつながり、一連の溝になる可能性が高い。

本溝は石組溝であり、上幅1.1～1.2m、底幅0.9～1.0mの掘り方の中に、幅が0.4m程度になるように、径20から30cm程度の自然石を組んでいる。溝の底面には比較的小さな石が敷かれている。溝の構造は20号溝に類似しており、本溝も雨落溝と考えられる。溝の北側には11号池が隣接していることから、本溝は、溝の南側にある7号建物の雨落溝であった可能性が高い。

【25号溝跡】（図15）

南区の中央部東側に位置する南北溝である。北端および東側を削平されており、東側の立ち上がりが捉えられていない。本来は石組の雨落溝であったと考えられるが、底面に敷かれた礫の一部が残存するだけで、石組はほとんど失われている。

南端に緩やかな立ち上がりが確認されているが、南に位置する26号溝の東辺の延長線上にあり、一連の雨落溝となる可能性もある。また、本溝に切られる形で、直行する31号溝が確認されている。建物は溝の西側に存在していたと考えられ、10号池の位置からみて、南北棟の可能性が高い。

【26号溝跡】（図15、図版6）

南区中央部の南東寄りに位置するL字形の石組溝である。東、南の両辺とも、片側半分を失っており、溝の幅は確認できない。東辺は北側で25号溝と、南辺は西側で24号溝に接続する可能性がある。本溝は、石組の側石を失っているが、本来は石組を伴った雨落溝であったと考えられる。溝の北西側にあるビットが組み合い、この部分に掘立柱建物が存在していたと推定される。

【27号溝跡】(図16、図版6)

南区中央部の西寄りの地点で検出された。溝の南端は調査区の外壁にかかる。攪乱のため、北への延びは確認できない。側石の多くは既に抜かれており、側石の痕跡と底面の石敷きが残されていた。溝の掘り方は、上面で幅約1.4m、底面では幅約1.3mを測る。石組の幅は、約0.5mある。方向は、N-25°-Wである。本溝は、その構造と位置から、7号建物西側の雨落溝と考えられる。

【28号溝跡】(図16、図版6)

南区中央部の東寄りの地点で検出された。溝の南端は調査区の外壁にかかる。攪乱のため、北への延びは確認できない。石組溝であり、側石、底面の敷石ともに比較的良好な状態で原位置を保っていた。調査時に溝の掘り方が確認されていないため、その規模は不明である。石組の側石と側石との間は、約0.5mある。溝の方向はN-25°-Wであり、27号溝に平行する。本溝は、その構造と位置から、7号建物東側の雨落溝と考えられる。

【29号溝跡】(図14)

南区東部において、調査区の南壁にかかる形で検出された。素掘りの南北溝で、上幅約0.7m、底幅約0.5mである。北端は6号建物の雨落溝である20号溝につながっており、溝の途中には、23号溝が接続している。本溝は、20号溝や23号溝に溜る雨水を、より南へ流すための排水施設と考えられる。

【30号溝跡】(図14)

南区の中央部と東部を区切る段差の西側隙にあり、段差に平行する。上幅0.5~0.6m、底幅0.3~0.4m、深さ30cm程度の素掘りの溝で、残存状況は良くない。

溝の東側、一段低い部分には6号建物跡が存在しており、本溝は6号建物の南北軸に平行する。本溝は、屋敷地内部の空間利用に関わる、何らかの区画溝と考えられる。

【31号溝跡】(図15)

南区中央部東寄りの地点で検出された。東西方向に側石の痕跡が2列確認されており、本来は石組の雨落溝であったと考えられる。側石の痕跡列の間隔は、約0.8mある。調査時に、25号溝に切られているとの所見が得られており、この所見に従えば、I a期が細分される可能性もある。しかし、31号溝は、25号溝の南端付近に近く、両者が直行することから、これらを一連

の雨落溝と捉え、両者の切り合いは単に作業工程上の手順を示すに過ぎないと考えることもできよう。

【2号石列遺構】(図14)

南区東部の北端で検出された。人頭大の自然石が南北方向に並ぶ。周辺が削平されており、これが本来的な姿なのかどうか判らない。本石列遺構は、20号溝西辺の西側倒石列の延長線上にある。20号溝の西辺自体は、2号石列遺構の南側で東に折れており、本石列には直接つながらない。

【3号石列遺構】(図14)

南区東部の東端で検出された。人頭大の自然石を積み重ねている。調査区の東壁にかかっており、遺構の全体像が捉えられていない。位置的には、6号建物とその東に存在したであろう建物との接続部にあたる。

【1号配石遺構】(図14、図版5)

南区東部において、6号建物跡とその雨落溝である20号溝との間の狭い空間に位置しており、両者と深く結び付いた施設であったと考えられる。残存状況は良好である。掘り準大の河原石が、長辺約40cm、短辺約20cmの南北に長い長方形に組まれている。河原石は偏平なものが選ばれ、平らな面が側面にくるように地面に突き刺している。本遺構には、17世紀後半に位置づけられる染付小皿(図46-463)や、内外面黒地の漆碗(図102-058)が伴う。

【10号池】(図15・16、図版4)

南区西部北側から中央部西寄りの部分に広がる。北西部で北区の9号池とつながっていると考えられる。9号池との間には、東側から半島状に陸部分がのび、途中から南に向かって張り出すと考えられる。南にのびた洲浜の突端には、飛鳥状の高まりが認められる。池は地山の一部を削って造られており、その際にでた土を用いて半島状の高まりが造成されている。池の東岸や洲浜周辺には河原石が多く配置されており、この部分に石浜が造られていたと考えられる。さらに半島東の淵の部分には、半島に接続する形で半円状に石が積まれている。

埋土の2層中から、煙管の雁首が1点出土している(図105-72)。

【11号池】(図15)

南区中央部の西よりの地点で検出された、長軸1.7m、短軸1.3mの小さな窪みである。池は3c層を掘り込んでおり、3a-1層に覆われている。

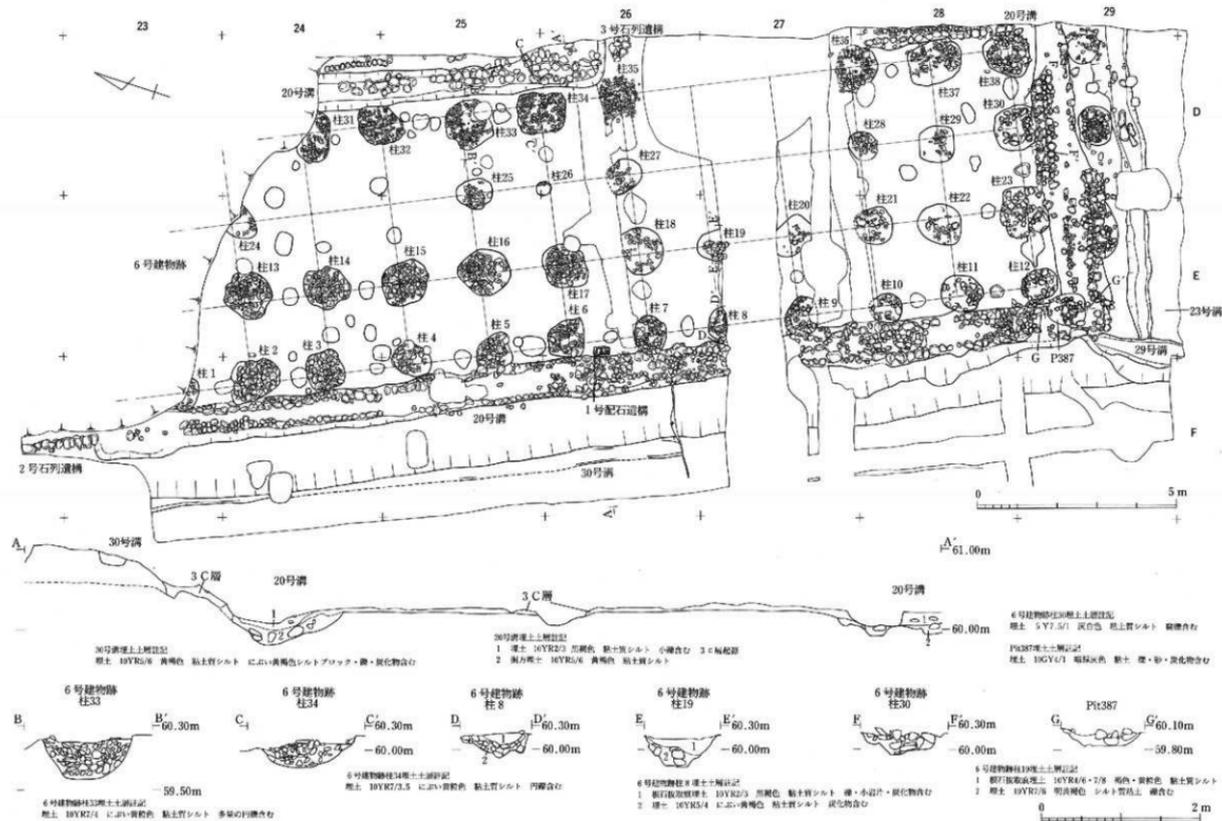
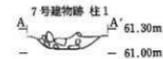
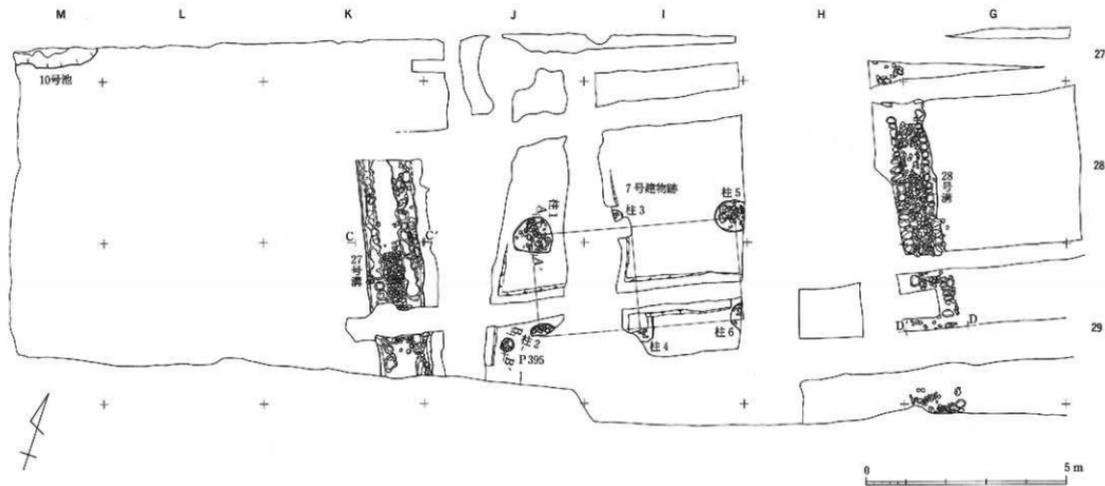


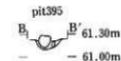
図14 南区I a期検出遺構(1)
Fig. 14 Features of phase I a at NMS(1)



図15 南区Ia期検出遺構②
 Fig.15 Features of phase I a at NM5(2)



7号建物跡 柱1
 7号建物跡1 層上土層記
 層上: 10YR5/4 灰白・黄褐色 黏土質シルト 漆黒・暗緑・砂を含む



pit395
 pit395埋土土層記
 層上: 10YR5/4 灰白・黄褐色 黏土質シルト・シルト 小礫を含む



27号埋土土層記
 1 礫石混じり硬質土1層 10YR5/6-5/7 黄褐色・灰白・黄褐色 シルト 漆・砂を含む
 2 礫石混じり硬質土2層 10YR2/4 暗褐色 シルト 砂を含む
 3 礫石混じり硬質土3層 2.5YR/3 黄褐色 シルト
 4 硬土1層 10YR2/6 明黄褐色 砂 小礫を含む
 5 硬土2層 10YR2/6-6/6 明黄褐色 砂・シルト互層 シルト層に炭化物を含む
 6 礫石混じり硬質土1層 10YR2/4 暗褐色 シルト 漆・灰色砂・砂を含む
 7 礫石混じり硬質土2層 10YR5/4 灰白・黄褐色 砂質シルト



28号埋土土層記
 埋土1層 10YR2/3 黄褐色 シルト 小礫・暗褐色砂
 埋土2層 10YR4/4 褐色 シルト 小礫を含む
 埋土3層 10YR5/6 黄褐色 黏土質シルト 小礫・同層を含む



図16 南区I a 期検出遺構3)
 Fig.16 Features of phase I a at NM5(3)

B. I b期

基本的な土地利用は、I a期を踏襲する。西部の池は、やや南西にずれる。池の東岸には石浜を築き、井戸を配置する。中央部では、I a期に存在した西側の池の一部を埋め立て、南北に長い礎石立ちの建物が造られる。この建物の南側は塀によって区画されている。塀跡の南側では、東西方向の石列遺構が検出されているのみで、この部分の利用状況はよく判らない。東部と中央部の間には引続き段差が存在しており、この段差に沿った形で塀が存在していたと考えられる。東部にはI a期と同様、ほぼ同じ位置で南北に長い建物が存在している。

なお、南区中央部の南東隅で南北方向の平行する小溝が4条検出された(1~4号小溝)。これらの小溝は調査時の所見から本期に含めたが、位置的にも、方向の点でもII b期の畝状遺構の一部と理解したほうがよいと考えられる。

【4号建物跡】(図11・18、図版8)

南区中央部と北区の南端で、礎石を据えた痕跡が8箇所検出された。いずれも3層を掘り込んでおり、直径1.2m程度の掘り方の内部には根固め石が残されていた。並びから、梁間2間以上、桁行5間以上の南北棟であったと推定される。建物の方向は、N-24°-Wである。本建物は、桁間約273cm、梁間約200cmであり、梁行と桁行で柱間を変えている。北側は、4号池の位置からみて、柱1と柱4を結ぶ柱筋が本建物の北辺と考えられる。また、5号池の位置からみて、柱3と柱7を結ぶ柱筋に建物の西辺がくる可能性が高い。

【5号建物跡】(図15)

南区東部で検出された掘立柱建物跡である。21号溝、22号溝と切り合っているが、新旧関係は捉えられていない。柱穴は、径0.6~0.8m程度の不整形である。本建物を覆っている3a層の上面は畑として利用されており、畑の耕作が深く及んだ結果、多くの柱穴が失われてしまっている。本建物は、I a期の6号建物の位置をほぼ踏襲しており、桁行9間以上、梁間2間以上の南北棟であったと考えられる。柱間は、約200cm、方向は、N-25°-Wである。

【16号柱列】(図18)

南区の中央部南端にあり、米軍の共同溝により大きく破壊されている。東西方向の礎石柱列で、4間分が残されていた。礎石には人頭大の河原石が選ばれ、径0.5m程度の不整形の掘り方の中に据えている。柱間は、約94cmと狭い。方向はN-25°-Wである。本柱列は柱間が狭く、礎石も小さいことから、建物というよりは塀のような施設であった可能性が高い。

【17号柱列】(図17、図版8)

南区中央部の南東隅で検出された。南北方向の布塀のなかに柱穴が6基並ぶ。南は調査区南壁にかかっており、北は米軍の共同溝で破壊されているため、両端とも確認できていない。溝は上幅約0.5m、底幅約0.4m、深さ約1.0mであり、埋土の最下層を埋め戻した後、柱を据えて

いる。方向は、N-25° -Wである。中央部と東部の境にある段差に沿って造られており、区画のための塀状の施設と考えられる。

【21号溝跡】(図17)

南区東部で検出された、N-25° -W方向の索掘りの溝である。5号建物跡と切り合っているが、新旧関係は捉えられていない。溝は、上幅約0.7m、底幅約0.3mを測る。

本溝を切っているピット354の埋土からは、環状石製品(図107-S3)、寛永通寶(図104-30)、雁首(図105-73)が出土している。

【22号溝跡】(図17、図版8)

南区東部で検出された、21号溝に平行する東西溝である。5号建物跡と切り合っているが、新旧関係は捉えられていない。東側には一部、溝の側面に沿って石組が残っており、本米、石組溝であった可能性がある。西側では、I a期の20号溝が埋まりきらずに窪みとして残っており、本溝は、その窪みにつながる。溝は、上幅約0.7m、底幅約0.3mを測る。

【5号池】(図18、図版8)

南区中央部において、4号建物跡の南西で検出された楕円状の窪地である。西側は高圧管の埋設などで破壊されている。窪地は、長軸1.7m、端軸1.2m、深さ50cm以上を測る。底面には人頭大以下の石が敷かれ、石の間には3a-1層起源の土が入る。

【6号池】(図18・19、図版9)

南区の南西部の広い範囲に及ぶ。池は、所々に深い部分を造り、その間を水路状の溝でつなぐ形態をとる。池の南東部には半島状に張り出した岸を有し、この部分を中心に大量の石が敷かれている。半島部分には2号井戸が設けられている。

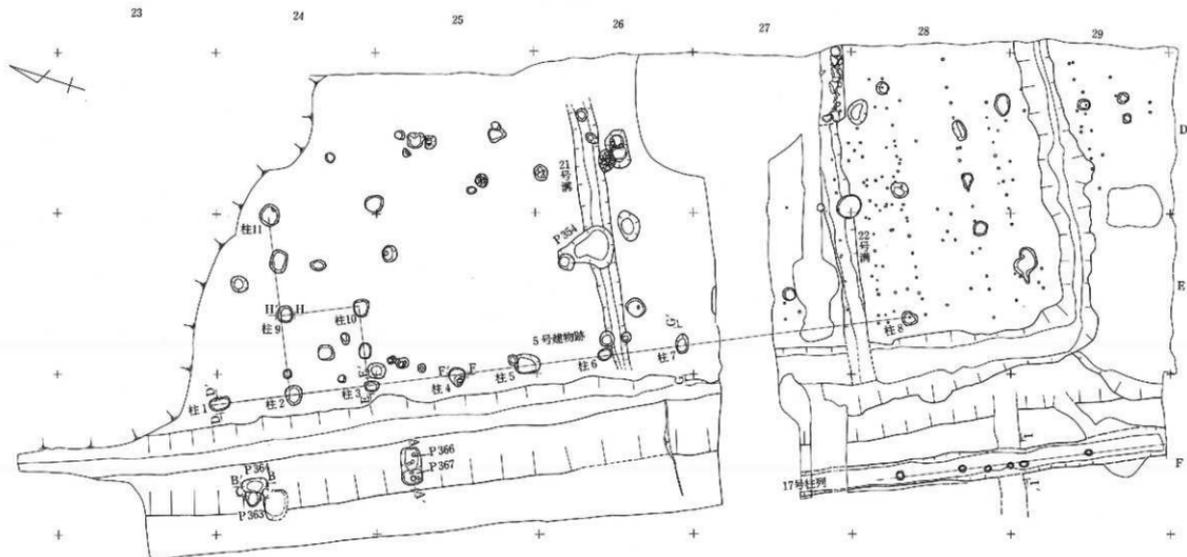
池の底面から内外面に朱で鳥文を描いた黒地漆碗(図102-68)が、埋土からは火打金(図106-89)が、それぞれ出土している。

【2号井戸】(図19、図版9)

南区南西部の6号池に面する岸に位置している。井戸の周辺には石が敷かれている。井戸は径約1.3mで、深さは2.2mを超す。調査時には、井戸の底面を確認できていない。

【1号石列遺構】(図19)

南区中央部の南端に近い地点に位置する。北側を破壊されており、南北に幅0.5m、東西に長さ約4.5mにわたって、溝状の掘り方の中に人頭大の河原石を3段積んでいる。



A Pit 367 A' 60.80m

Pit 366 60.80m

Pit 367 60.80m

Pit 368 60.70m

Pit 369 60.70m

Pit 370 60.70m

Pit 371 60.70m

Pit 372 60.70m

Pit 373 60.70m

Pit 374 60.70m

Pit 375 60.70m

Pit 376 60.70m

Pit 377 60.70m

Pit 378 60.70m

Pit 379 60.70m

Pit 380 60.70m

5号建物跡 柱 1

D₁ D₂ 60.30m

60.10m

5号建物跡柱1 礎土土層詳細
礎土: 7.5Y3/2 オリーブ褐色 粘土質シルト 隙・炭化物含む

5号建物跡 柱 3

E₁ E₂ 60.30m

60.20m

5号建物跡柱3 礎土土層詳細
礎土: 2.5Y3/1 黄褐色 シルト質粘土 小隙・炭化物含む

5号建物跡 柱 4 B

F₁ F₂ 60.20m

60.15m

5号建物跡柱4 礎土土層詳細
礎土: 10YR5/2・5YR1/6 に近い黄褐色・赤褐色シルト 大小の隙含む

5号建物跡 柱 5

G₁ G₂ 60.20m

60.00m

5号建物跡柱5 礎土土層詳細
礎土: 10YR2/2 黄褐色 粘土 隙・砂・炭化物を含む

5号建物跡 柱 9

H₁ H₂ 60.20m

60.00m

5号建物跡柱9 礎土土層詳細
礎土: 2.5Y3/2 黄褐色 シルト 灰黄色・青灰色の粘土ブロック・大小の隙含む

17号柱列



0 1m

図17 南区I b 期検出遺構(1)

Fig.17 Features of phase 1b at NM5(I)

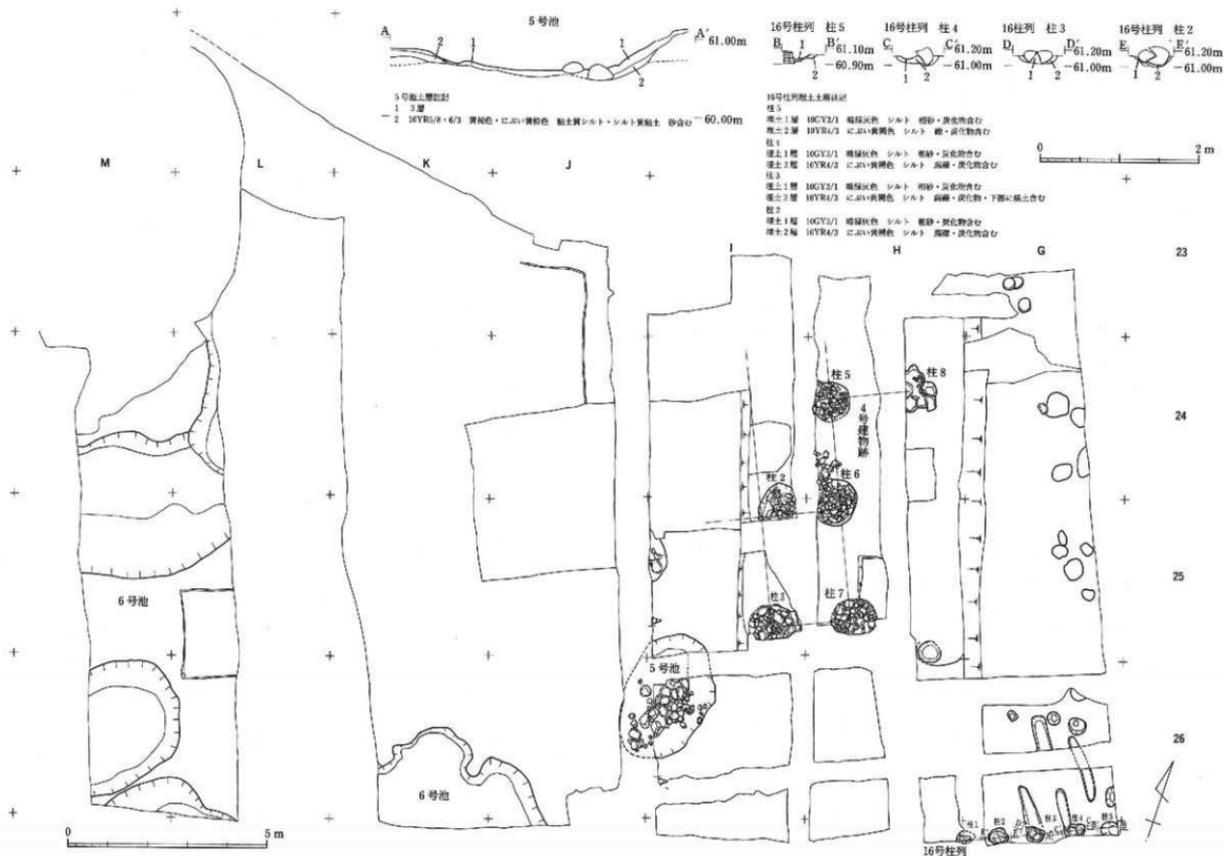
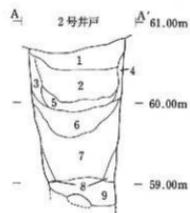
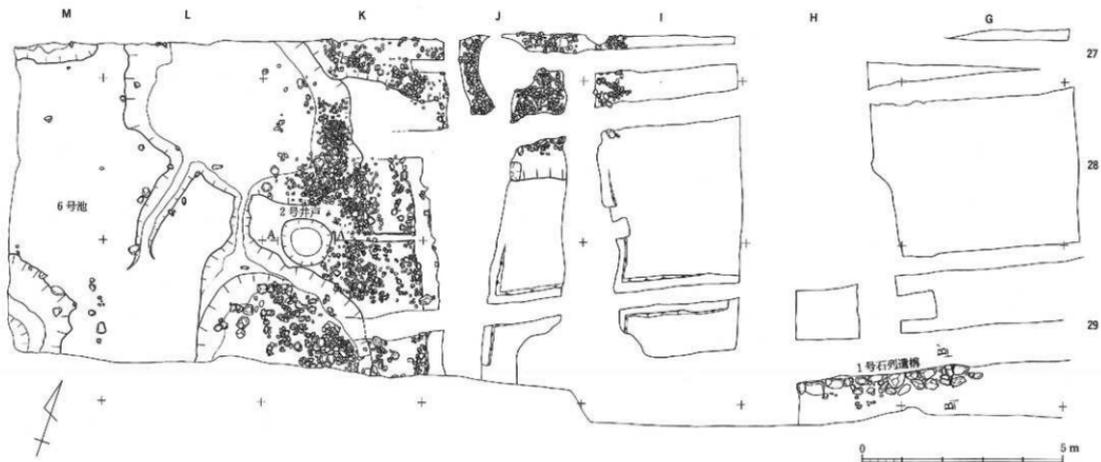


図18 南区1b期検出遺構②
 Fig. 18 Features of phase 1b at NM5(2)



1号石列遺構埋土層位記

- 1 埋土層上 10YR2/1・2 5G/1/1 緑灰色・黒オリーブ灰色 シルト・粘土質シルト 炭化物小礫含む
- 2 埋土1層 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 炭化物含む
- 3 埋土2層 10YR2/1 黒褐色 シルト・砂・小礫・炭化物含む

2号井戸埋土層位記

- 埋土1層 10YR2/6 黒褐色 砂質シルト・黒褐色シルトブロック含む
- 埋土2層 5G/1 緑灰色 シルト 炭含む
- 埋土3層 5YR2/1 黒褐色 シルト質粘土
- 埋土4層 5YR2/1 黒褐色 シルト質粘土
- 埋土5層 10YR2/1 黒褐色 シルト
- 埋土6層 5G/1・7.5YR2/1 緑灰色・黒褐色 砂質シルト・シルト質粘土 小礫含む
- 埋土7層 5G/1 緑灰色 砂・木片含む
- 埋土8層 7.5YR2/1 褐色 シルト質粘土 傘木の櫛・木片含む
- 埋土9層 10G/1・10YR2/1 緑灰色・黒褐色 砂質シルト・砂質シルト 小礫・傘木の櫛木片・黄褐色砂質シルトブロック含む



図19 南区1b期検出遺構③

Fig.19 Features of phase 1b at NMS(3)

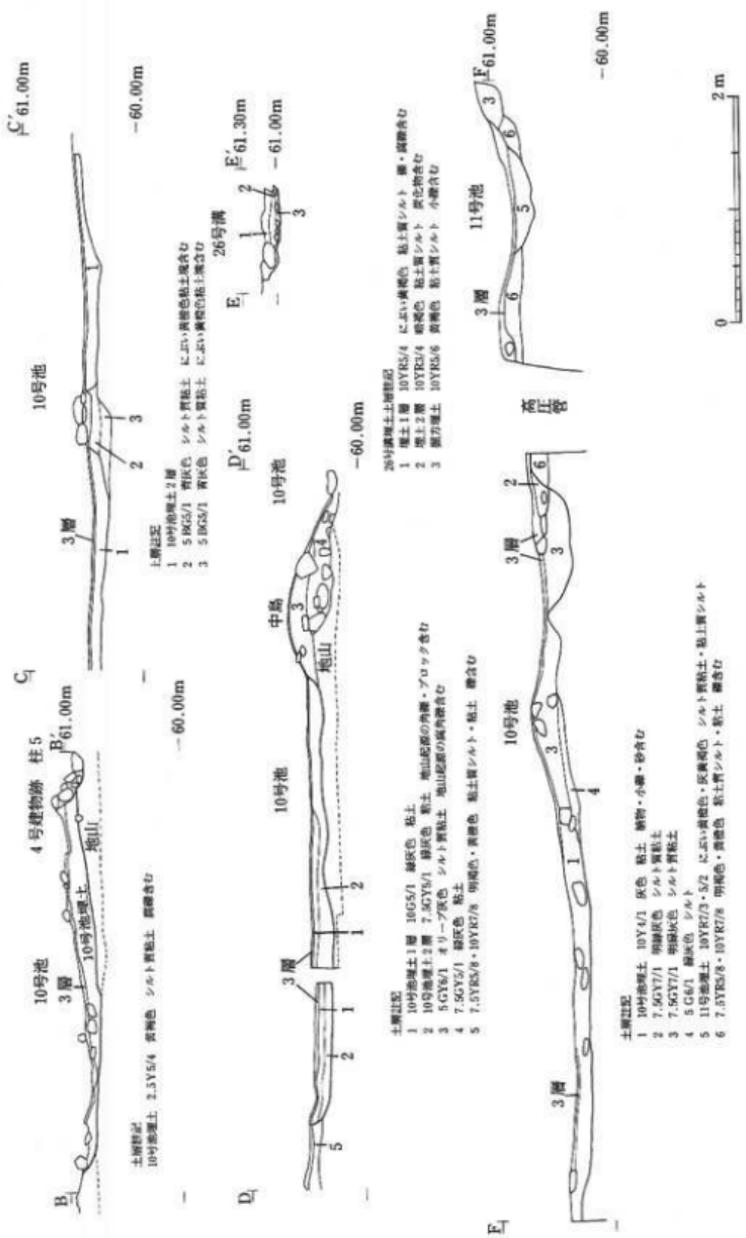


図20 南区I期断面図
Fig. 20 Cross sections of phase I

(2) II期(西屋敷廃絶後・二の丸以前)の遺構

II期は、元禄年間の二の丸拡張に伴う整地が行われた時期と考えられるものである。2時期の遺構面が確認され、II a期、II b期と細分される。

① II a期(北区VI層上面)

北区は、この段階で、池などはほとんど埋め立てられ、平坦な面が形成され、若干の遺構が確認される。この時期の遺構としては、溝跡1条、土坑1基、ピット1基があるほか、先述の12号溝が該当する可能性が高い。この内、K-18区で検出されたピット317からは、白木の箸が50本ほどまとまって出土しており、廃棄坑の可能性もある。南区には遺構は確認できず、南区の西部では、池がそのままの状態で残されている。

【12号溝】(図11、図版7)

G-20・21区からK-20・21区にかけて検出されたもので、調査時に12号溝として認識していたのは基礎7区の部分のみである。基礎5区・6区の断面図の検討によって、12号溝の続きが、より西側に延び、基礎5区では、深い落込みになっていることが判明した。この基礎5区・6区では、調査時にこの12号溝の遺構は確認できておらず、基礎5区において、溝の南側の壁面近くに敷かれた礫のみが図化されていた。図11において、基礎7区の12号溝から西に破線で示したのが、断面図と礫の分布から推定した遺構のラインである。東側が攪乱で破壊され、西側は推定にとどまるが、17.5m分を確認している。この12号溝は、基礎5区・6区では調査時に認識できず、I b期の4号池と同じ図面に記録されている。そのため、図面はI b期の図面に載せざるを得なかったが、次の理由からII a期に属する可能性が高いと考えられる。

12号溝は、I b期の4号池を⑦層で埋め、一部を掘り直して造られていることから、4号池より新しい遺構である。東側が攪乱で破壊されているが、東端でわずかに段差にかかっている。この段差と12号溝の切りあい関係は、確実な記録が残されていないが、12号溝が段差の埋土を切っている可能性が高い。この段差は、南区の中央部と東部を区切る段差につながるものと考えられ、これがある程度埋められた後に12号溝が造られた可能性が高い。また、17世紀末葉以降のものと考えられる、肥前産の蛇ノ目軸ハギの靱製の磁器皿(図48-483)が出土している。これらの点から、12号溝はI b期より後の時期のものであることは確実であり、18・19列で確認されているII a期との間にさらにもう1時期を想定するよりも、18・19列で確認されている15号溝と同様に、I b期の庭園の池が埋められていく過程で、排水の目的で造られた溝と考えた方が理解しやすいことから、II a期に属する可能性が高いと判断した。

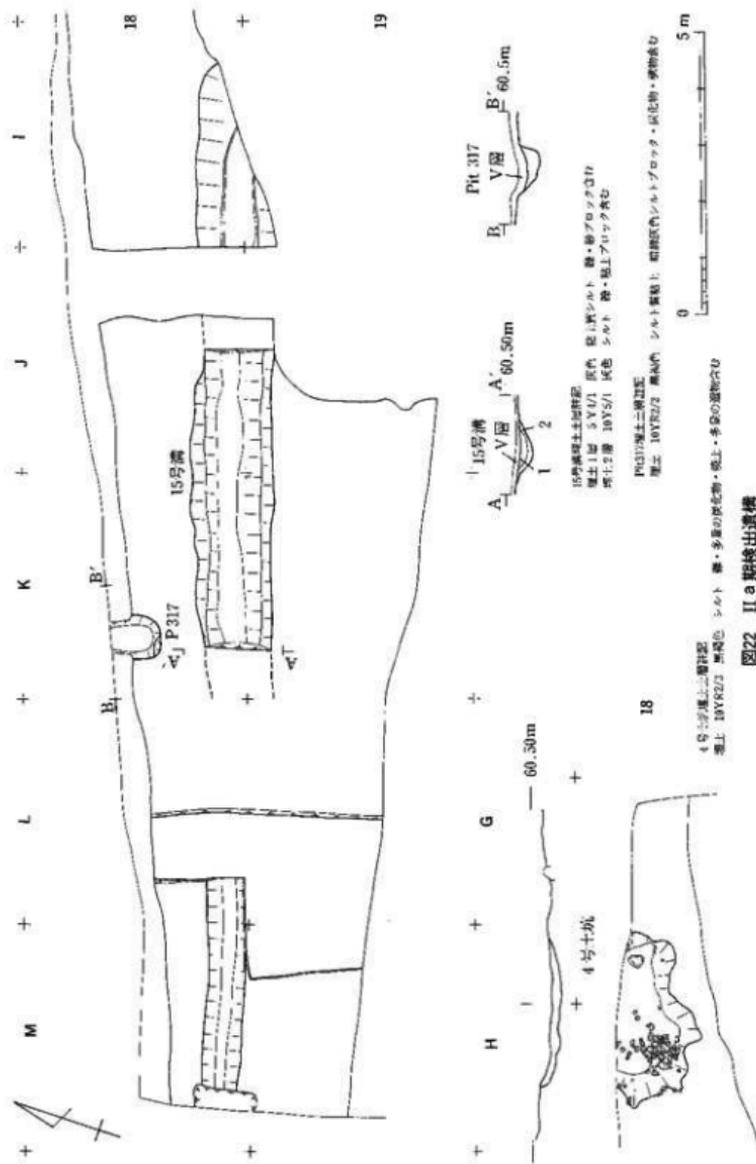
基礎7区では、上幅1.6m～2.0m、下幅40cm前後、深さ30cm程である。基礎5区の東端では、上幅4.2m、下幅1.3m、深さ1.6mである。基礎7区での方向は、E-12°-Nである。

埋土は2層に分けられるが、2層中には河原石が多量に含まれており、溝中に敷かれている



圖21 II a 期遺構配置圖

Fig. 21 Distribution of features at NM5(phase IIa)



15号溝出土層群記
 層上1層 3V/U 灰色 硬土質シルト 礫・砂・礫アロソク3層
 層上2層 10Y5/1 灰色 シルト 礫・硬土アロソク含む

18
 4号土溝出土層群記
 層上 10Y6/2.3 黒褐色 シルト 礫・多量の腐化礫・硬土・砂の混在あり

19
 Pit 317
 層上 10Y7/2.3 黒褐色 シルト 礫・多量の硬土質シルト・アロソク・腐化礫・礫物を含む

図22 II a 階段遺構

Fig. 22 Features of phase II a at NMS

ような状態を呈している。基礎5区の落込みの部分でも、南側の壁沿いの埋土最下層には河原石が多量に含まれ、壁の斜面に積み重ねるように敷かれており、一連の敷石の可能性がある。基礎7区の部分の埋土(12号埋土)からは、陶磁器・瓦が少量出土している。基礎5区・6区の部分の埋土は⑥層が相当し、瓦が大量に出土しており、木製品も比較的多いが、陶磁器は含まれず、土器も少ない。

【15号溝】(図22、図版10)

I-18・19区からM-18区にかけて検出された、東西方向の素掘の溝である。東側は攪乱で破壊されており、また建物基礎によって破壊されない部分は掘り上げていないが、18m分を検出した。方向はE-16-Nで、東端付近で南に曲がるかと思われるが、攪乱のため確実ではない。残りのよい部分で、上幅1.2~1.5m、下幅40~50cm、深さ20~30cmである。底面のレベルは、J・K列の部分が最も低くなっているが、全体的には東側がわずかに低くなっている。埋土からは、陶磁器・瓦が出土しているほか、加工木・木羽が比較的多く出土している。

【4号土坑】(図22、図版10)

G・H-18区で検出されたもので、北側は調査区外にのびる。東西3.0m、南北1.6m以上、深さ30cm前後の不整形な土坑である。埋土は1層で、炭・炭化物・焼土を多量に含み、人為的に埋められたものと考えられる。遺物も土師質土器の皿など、多量に含まれており、まとめて廃棄されたものと考えられる。

③ II b期(北区V層上面・南区3 a層上面)

【烟跡】(図24・25・26、図版10)

北区ではV層がほぼ全面に分布し、そのほとんどの部分で、畝状の遺構が確認された。南区では、東部のみに3 a層が分布し、その上面で畝状の遺構が確認されている。南区の中央部では、3 a層、あるいはそれに対比できる層は分布していないが、I b期の面において、G-26区でほぼ平行する1~4号小溝状遺構が検出されており、耕作土は残存していないが、烟跡の痕跡の可能性がある。南区の西部では、II a期と同様に、I期の池跡が残っている。

北区の内、G~J列では畝状遺構は南北方向で、やや不整形な部分もあるが、50~60cm間隔で並んでいる。K~M列では東西方向に畝状遺構が並んでおり、その間隔は80~100cmとやや広くなっている。畝状遺構の高さは、残りの良い部分でも5cm程度である。攪乱や調査しなかった部分で分断され、遺存状況も良くない部分も多く、烟跡の一区画全体の大きさが判明する部分はない。K-20・21区に畝状遺構と直交する南北方向の溝が存在し、これに相対する調査区の西端にも南北方向の溝があり、畑を区画する溝と考えられる。この溝が畑一区画の東西の端であるとするならば、東西の幅は、溝の中心で測って8.5mである。

南区東部では、I a期の6号建物跡、I b期の5号建物跡が存在した高まりの部分に畝状の



图23 II b期遗址配置图

Fig. 23 Distribution of features at NMS(phase IIb)

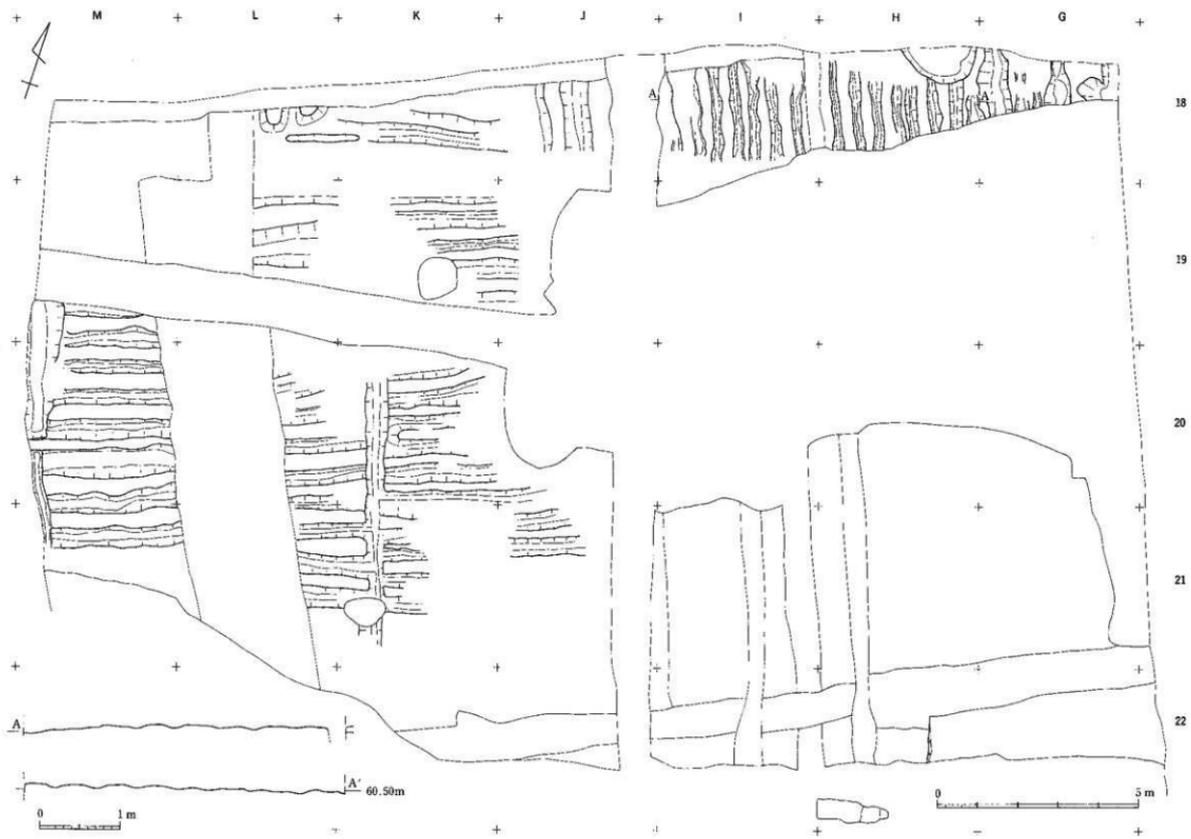


圖24 II b期出土遺構(1)
Fig. 24 Features of phase IIb at NM3(1)

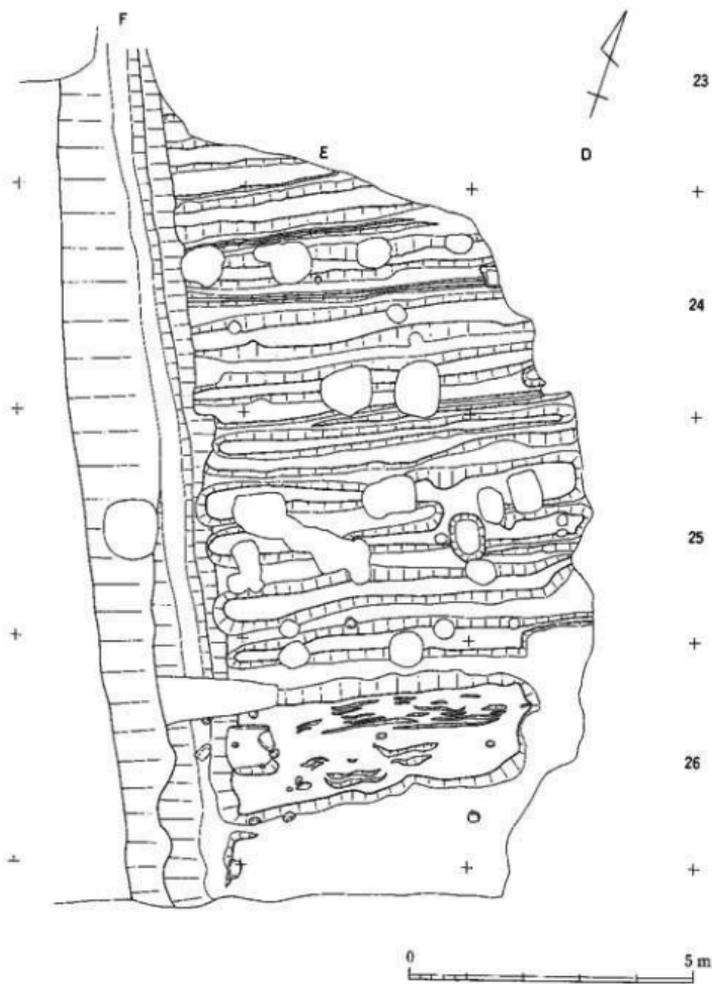


图25 II b期檢出遺構(2)
Fig. 25 Features of phase II b at NM5(2)

遺構が分布している。これらの建物跡の周囲にめぐっていた溝の部分が、そのまま畑跡を区画する溝状の落込みとなっている。畝状の高まりは、東西方向に並ぶが、南側の26～29列では、あまり明確ではない。北側の23～25列も、小規模な段差が複雑に入り、畝状の高まりの並びが明確ではない部分も多いが、ほぼ1.0m前後の間隔で畝状の高まりが並んでいる。

これらII b期の遺構は、北区IV層・南区2 d層に覆われ、南区西部の池跡も、2 d層によって一挙に埋め立てられる。そのため2 d層は、池跡を埋めた最も厚い所では、1.6mを測る。このIV層・2 d層の整地によって、全体に平坦面が形成され、その上にIII期の二の丸中奥の段階の遺構群が形成されるようになる。

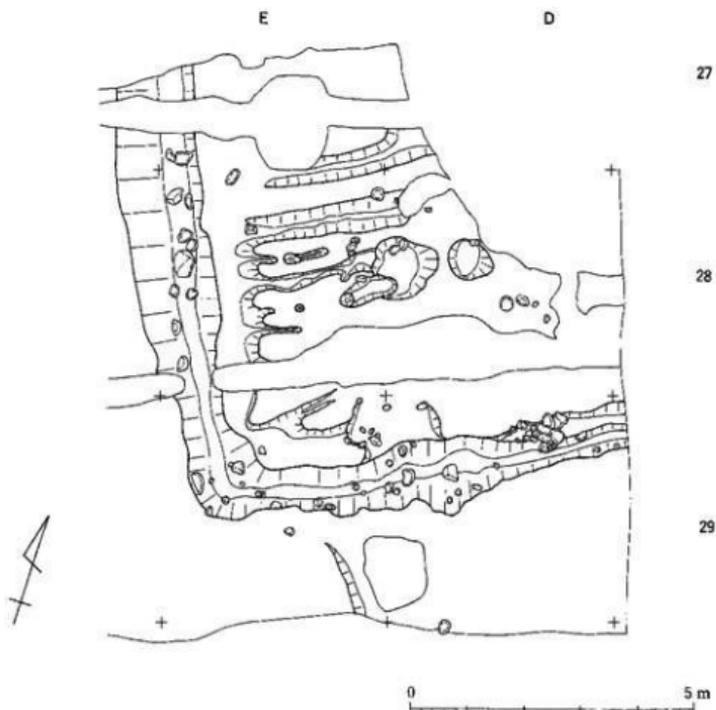


図26 II b期検出遺構(3)

Fig. 26 Features of phase II b at NM5(3)

(3) III期(二の丸中奥)の遺構

III期は、二の丸中奥として使われた時期と考えられ、III a期とIII b期に細分される。III a期・III b期ともに、土地利用のあり方は共通し、21・22列に溝が東西に延び、それより北側には遺構はほとんど分布しない。また24列にも東西に溝がのび、それより南側に遺構が多く分布する。特にD-24~26区からH-24~26区の間には、多くの建物跡・柱列・ピットが集中する。27列より南側、I列より西側では、遺構の密度は低くなる。

① III a期(北区IV層上面・南区2 d層上面)

南区では北東側でIII a期の遺構が確認されている。それ以外の場所は、III b期以降の建造物や近代の攪乱が著しく、確実に本期と考えられる遺構は確認されていない。

III b期には、23列と24列の境付近に東西方向の区画溝があり、この溝を挟んで北側は多量の円礫を含む盛土により平らに整地され(整地層⑨)、南側には各種の建造物が造られる。区画溝は、ほぼ同じ位置で新旧2段階の変遷が追える。区画溝の作り替えに伴い、溝の北側部分は再度整地し直している(整地層⑦)。溝の北側の整地層の上面は、平坦で全く遺構が存在しないことから、この部分はIII期を通じて東西の道路として利用されていたと推定される。道路状遺構の南北幅は2.5m以上である。

区画溝の南側では多数のピットが確認されているが、この部分の遺構は明治期のものを含め、同じ面(2 d層上面)で検出された例が多く、調査時に層位に基づき、面毎に各期の遺構を分離できていない。従って、出土遺物などから明らかに明治期(IV期)と判断される遺構を除いた後、柱穴と考えられるピットについて柱筋、柱間を基準に建物、柱列を抜き出し、それらの切り合い、並びから大きく新旧2段階の変遷を想定した。建物や柱列の柱穴として組み合わせることなく単独で存在するピットの大部分に関しては、III a期とIII b期の区別ができていない。

上記の検討の結果、南区におけるIII a期の遺構としては、区画溝の南側に接する形で東西方向の柱列が6列、さらにその南に建物跡が1棟抽出された。6本の柱列の内、10~12号柱列、13・14・18号柱列は各々切り合っている。従って区画溝の南側には、溝に伴う形で3回の変遷を持つ柱列が2列存在することになる。別跡と考えられる2列の柱列は、造り替えの回数が一致することから同時存在の可能性もあるが、その場合、平行する二つの塀が近接して存在する形になり、機能の面で理解しがたい。

一方、北区では、21・22列に東西方向の9号溝があり、その付近に小規模な溝(暗渠)やピットが存在する。これらより北側では、遺構密度は低く、調査区北東端付近に3号土坑が存在するだけである。なお、9号溝のすぐ北側で、部分的ではあるが、石を取り去った跡のような、小規模な凹凸が検出されている。

【3号建物跡】(図29・30・31、図版11)

Ⅲ期の遺構が最も集中するE～G24・25区で、柱穴と考えられるピットを選び、柱筋、柱間を基準に検討を重ねた結果、本建物の存在を確認した。この周辺は遺構の重複が著しく、本建物に関しても、東西5間分、南北1間分の柱の並びが確認されているに過ぎない。柱穴は、直径0.5m程度の不整形円形をしており、深さは約50cmある。柱穴の中には中央に柱痕跡が認められるものもある。建物の方向はE-25°-Nで、柱間は約188cmである。

【10号柱列】(図29・30・31、図版11)

E～G24区において、ほぼ同じ地点に10～12号柱列が重複して存在する。これらの柱列は、通常の建物と考えるには柱間が広すぎる。また、柱列に接する形で北側には東西方向の区画溝がある。従って、これらは、塀とそれに伴う側溝であったと考えられる。

10号柱列はこれの中で最も新しく、E-25°-Nの方向に柱穴が9基並ぶ。柱間は約236cmである。柱穴の大きさは、3つの柱列の中で最も規模が小さく、直径60～70cm程度である。柱穴の中には、柱痕跡が残されている。

【11号柱列】(図29・30・31、図版11)

12号柱列より新しく、10号柱列より古い。柱間は約297cmで、E-25°-Nの方向に6基の柱穴が並ぶ。柱穴は直径80cm程度で10号柱列のものよりは若干大きい。

【12号柱列】(図29・30・31、図版11)

10～12号柱列の中で最も古く、柱穴の規模も最も大きい。柱間は約276cmで、E-25°-Nの方向に5基の柱穴が並ぶ。10・11号柱穴との重複が著しく、柱穴の構造は不明である。柱穴5の底面から、18世紀代に比定される磁器徳利(図50-506)が出土している。

【13号柱列】(図29・30・31、図版11)

10～12号柱列と平行して南側に、13・14・18号柱列が存在する。これらの柱列は、ほぼ同じ場所に重複しており、建て替えられたものと考えられる。

13号柱列はこれの中で最も新しく、E-25°-Nの方向に柱穴が6基並ぶ。柱間は約340cmである。柱穴の大きさは、3つの柱列の中で最も規模が小さい。柱穴の中には、柱痕跡が残されている。

【14号柱列】(図29・30・31、図版11)

18号柱列より新しく、13号柱列より古い。柱間は約370cmで、E-25°-Nの方向に6基の柱穴が並ぶ。柱穴の位置は、13号より若干西側に寄っている。柱穴の中には柱痕跡が確認されるものもある。

【15号柱列】(図29・30・31、図版11)

E～G-24区にあり、3号建物跡に切られている。E-25°-Nの方向に、約320cmの間隔で、5基の柱穴が並ぶ。



图27 III期遺構配置図

Fig.27 Distribution of features at NM(phase IIIa)

【18号柱列】(図29・30・31、図版11)

13・14・18号柱列の中で最も古く、柱穴の位置は一番西側に寄っている。柱間は14号柱列と同じで、E-25'-Nの方向に5基の柱穴が並ぶ。柱穴は、3つの柱列の中で最も大きい。

【4号溝】(図29、図版11)

10～12号柱列の北側、E～H-24区に重複する東西溝が2本存在する。古いほうの4号溝は、6号溝の底面に痕跡が残されているに過ぎず、幅や深さは不明である。溝の方向は、E-25'-Nである。

【6号溝】(図29、図版11・12)

4号溝のうえに造られた東西溝で、4号溝と同じ方向を向く。本溝は、幅約1.0mの掘り方の中に側石を据え石組溝としているが、底面の石敷きは確認されていない。石組溝の幅は約0.4m、深さは20cm程度である。

【9号溝】(図28、図版11)

F-21・22区からK-22区にかけて検出された東西方向の溝で、方向はE-25'-Nである。西側は米軍共同溝で破壊され、東側は調査区外に伸びるが、20m分を検出した。17号溝を切っている。上幅200～220cm、下幅60cm、南側での深さ70cmであるが、この溝をはきんで、北側の地表面の高さが40cm程低くなっているため、北側の深さは30cmである。溝の底面には、45～65cm間隔で、角杭を打ち込み、この杭に北側は半裁した竹を交差させてからめ、南側は板を杭に付けて溝の壁としている。打ち込まれた杭は、4～8cm角で、断ち割りを行った部分では、長さ120cmであった。H-21区に1ヶ所、I-21区に2ヶ所、溝に直交して、北岸に板材が残っており、この溝に流れ込む、木組の溝か暗渠と考えられる。北岸には、径6cm前後の丸杭および、その痕跡が多数検出されており、護岸設備か、あるいは槽があった可能性がある。埋土は、自然堆積で20cmほど埋まった時点で、3層の整地によって埋められ、ほぼ同じ位置に、III b期の8号溝が構築されている。

【16号溝】(図28・31、図版11)

G-22区で検出されたもので、方向は他の遺構とは異なりE-34'-Nである。東側を17号溝に切られており、残存する長さは1.7mである。40cm程の幅の溝の上半部に、側石として石を長手に置き、板状の石で蓋をした暗渠である。ただし、西端では石が残っていない。溝底は西から東に向けて深くなり、東端で25cmほどの深さとなっている。内部には砂質の土が流れ込んでおり、自然堆積である。遺物はきわめて少なく、年代などの判るものはない。

【17号溝】(図28・31、図版11)

F・G-22区で検出された。方向は他の遺構とは大きく異なりE-13.5'-Sである。北側を9号溝に切られ、16号溝を切っている。東側と南側は攪乱によって壊されている。検出レベル

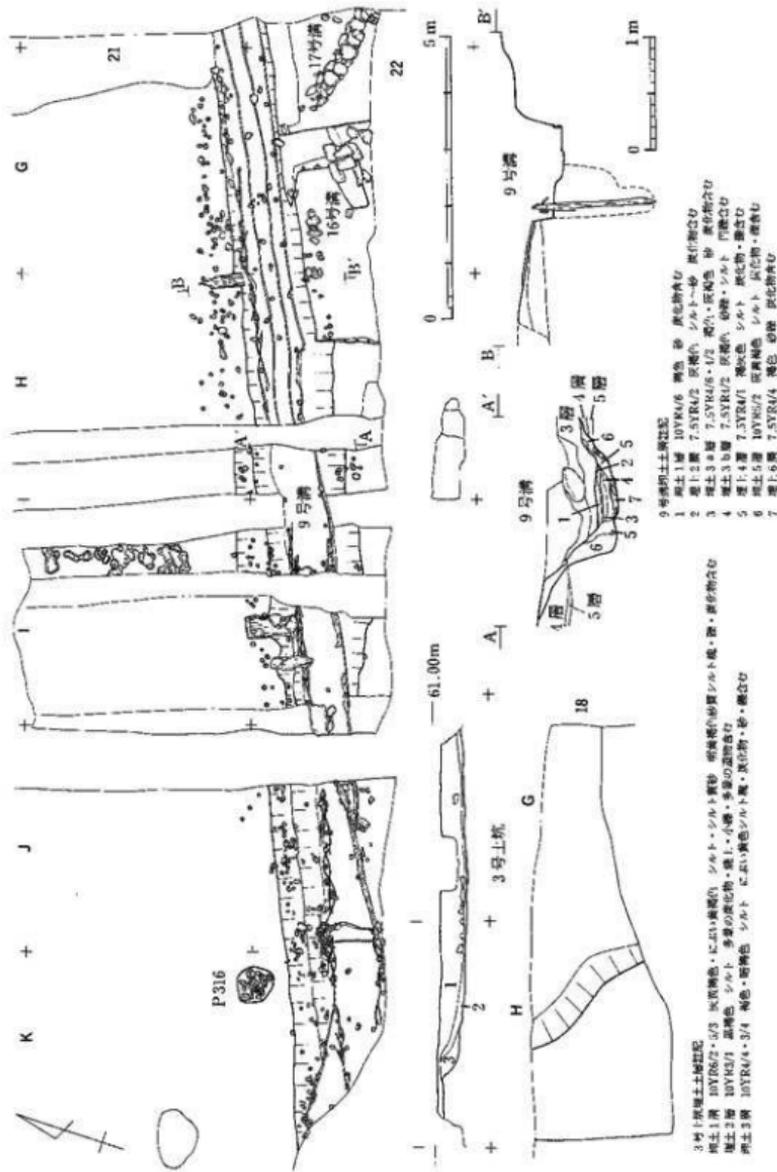


図28 IIIa 期検出遺構(1)
 Fig. 28 Features of phase IIIa at NME5(I)

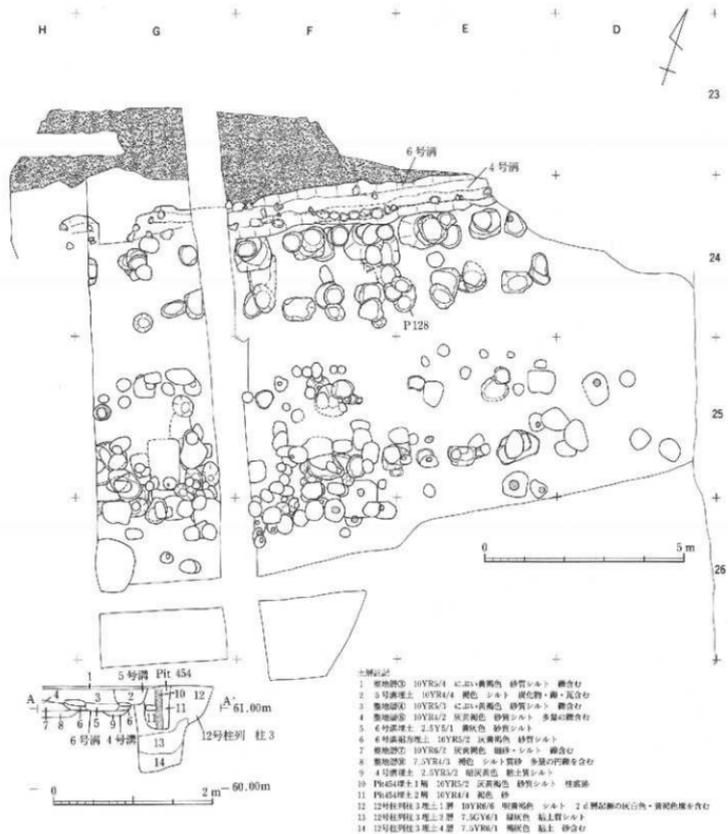


図29 III a期検出遺構②

Fig. 29 Features of phase IIIa at NM5(2)

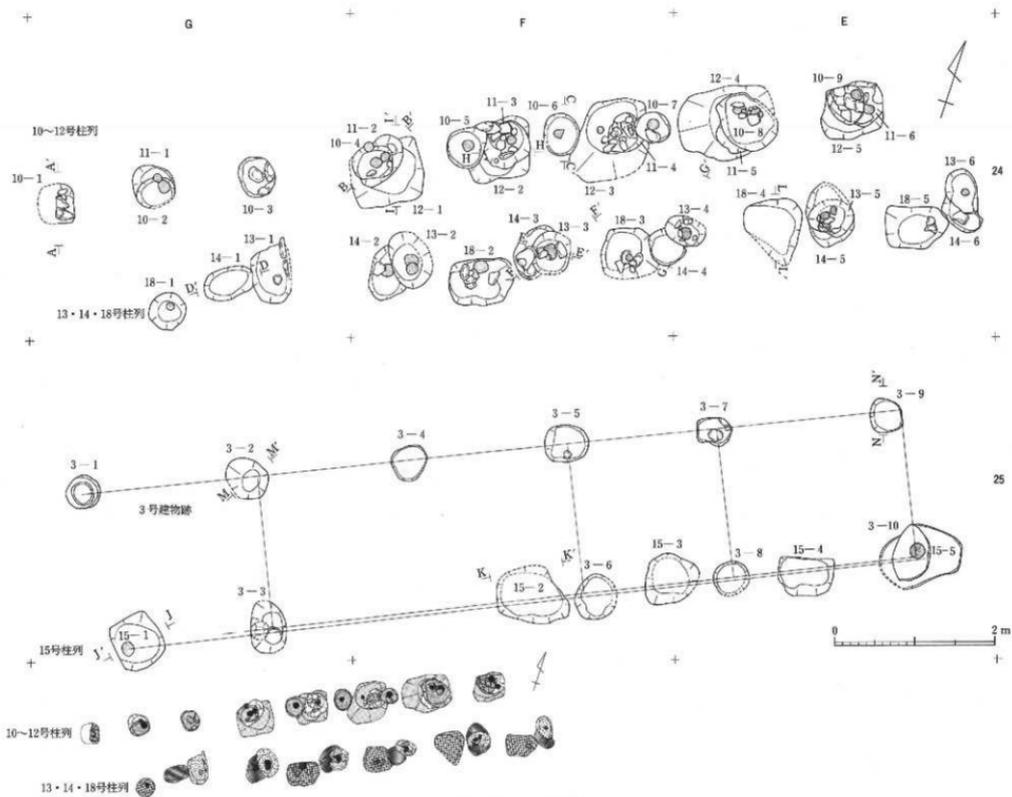


图30 III a期核出叠构③

Fig. 30 Features of phase IIIa at NM5(3)

とその位置から、建物の基礎によって破壊されないと判断されたため、検出のみで、掘り上げていない。側石の上に偏平な河原石で蓋をした暗渠である。石の残っていた部分の長さ2.3m、側石の外側での幅40cmである。掘り方と見られる部分の範囲が石組に比べて非常に大きい、掘り上げていないため、石組との関係がどのようになっていたのかは不明である。

【3号土坑】(図28、図版12)

G・H-18区で検出された。南側を攪乱によって破壊され、東・北側は調査区外に伸びる。東西5.8m以上、南北2.0m以上、深さ40~60cmの広い落込みである。埋土は3層に分けられ、いずれにも礫・炭化物が含まれ、人為的に埋められたものと考えられる。埋土2層(遺物取り上げは埋土3層)には、陶磁器・土器など比較的多くの遺物が含まれており、まとめて廃棄されたものと考えられる。その他の埋土1層・埋土3層には、遺物はほとんど含まれていない。

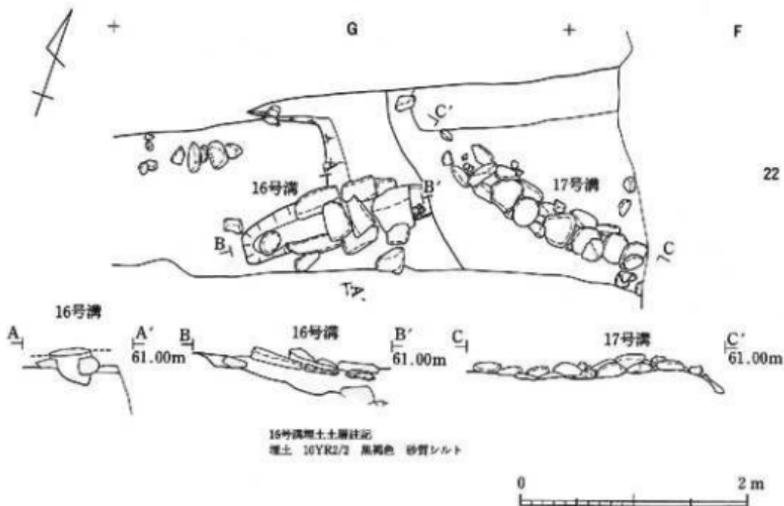


図31 III a 期検出遺構(4)
Fig. 31 Features of phase IIIa at NM5(4)

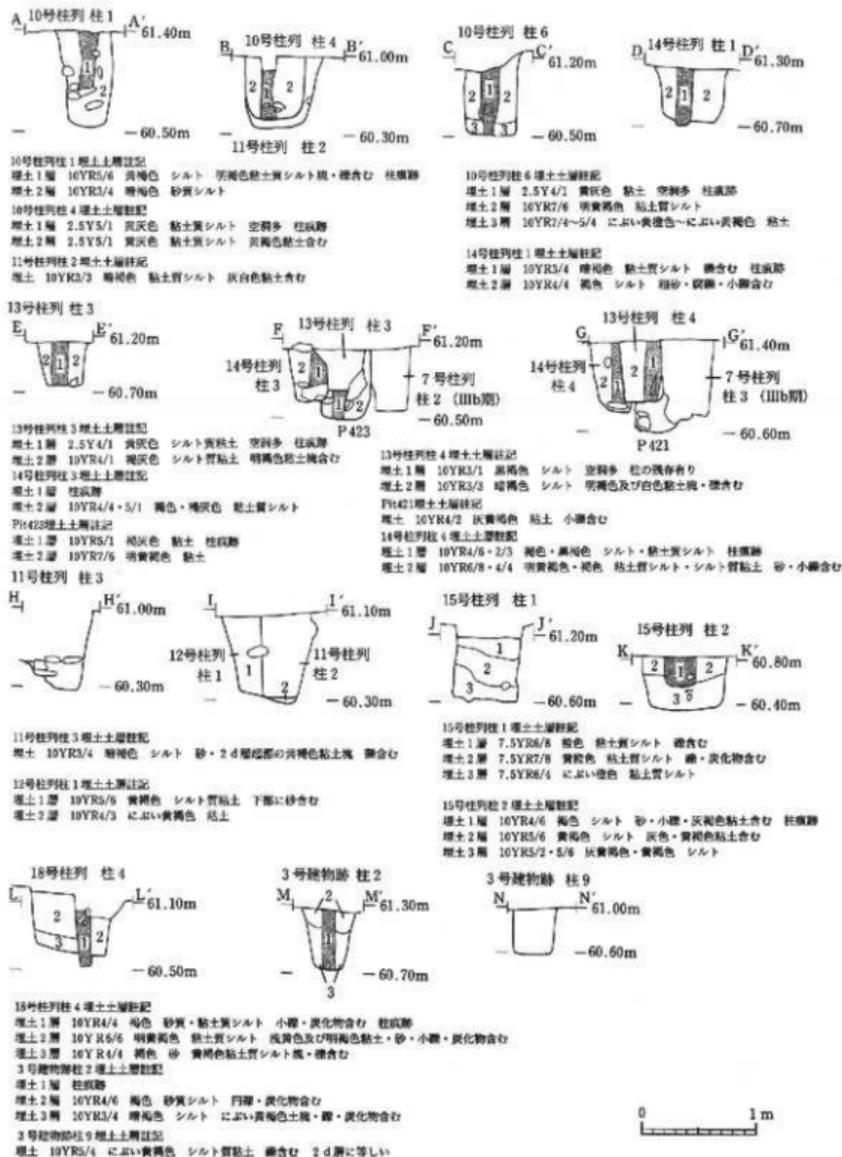


図32 III a期検出遺構断面図

Fig. 32 Cross sections of features at NM5(phase IIIa)

② III b 期 (北区 III 層上面・南区 2 c 層上面)

南区では、北寄りの24・25列に遺構が集中している(図35)。この部分にはIII a 期にも建造物が存在していたが、本期には、その上を盛土により整地し(整地層③・④)、建物が構築されている。北に開く門が存在し、この門を起点として、西側に南北の、東側に東西方向の区画が認められる。建物群は門跡の南東方向に存在していたと考えられ、その部分で非常に多くの柱穴が検出されている。門跡は、同じ位置で新旧2段階の変遷が追え、新しい段階の門は、より簡素な構造に作り替えられている。

門に接続する東西の区画施設としては、5号溝と2号溝があり、これらの溝の南側には7号柱列と8号柱列が伴っている。これら溝と塀からなる2組の区画施設は直接の切り合いを持っていない。しかし5号溝がIII a 期の区画溝の位置をほぼ踏襲しているのに対して、2号溝の位置は南に大きくずれることから、5号溝から2号溝への変遷が推定できる。門跡同様、区画溝も簡素化されたと仮定した場合、緑石を伴う5号溝から素掘りの2号溝への変化は、この仮定に合致する。また、5号溝に伴う7号柱列は6号柱列に接続し、さらに西側では門跡2の東側の控柱につながる事が推定される。門につながる東西の区画施設の北側には部分的に多量の円礫を含んだ整地層(整地層⑥)が認められることから、この部分はIII a 期同様、道路として利用されていたと考えられる。これらをまとめると、III b 期の遺構変遷は、門跡2(古段階)→門跡1(新段階)、5号溝(古段階)→2号溝(新段階)、7号柱列(古段階)→8号柱列(新段階)となる。

【門跡1】(図35・37、図版13)

地中に埋められた梁の両端にほぞ穴をあけ、そこに本柱を据えた簡素な構造の門である。地中の梁は、長方形の掘り方の両端に礎板の代わりに据えられた角材の上に渡されている。西側の本柱に当たる部分を攪乱により破壊されているが、東側の本柱は門跡2の東側本柱とほぼ同じ位置にあり、その位置は踏襲されていた可能性が高い。門の長軸方向はE-25°-Nである。

【門跡2】(図35・37、図版13)

門跡1の下から検出された。本柱の外側に支柱を置き、さらに支柱の内側に控柱を配置した北に開く門である。断面方形の柱が一部残存しており、本柱の間隔は約315cm、本柱と支柱の間隔は約105cm、支柱と控柱の間隔は約150cmである。両方の支柱に同じ位置で重複が認められることから、門は部分的な修復を受けたことがわかる(門跡2B→門跡2A)。柱は全て上面平坦な地中礎石の上に据えられている。本柱の掘り方の底面には礎石を取り囲んで根固め石が隙間なく詰められている。門跡2Aの支柱掘り方は、細かな砂と粘土質シルトを交互に突き固めて埋め戻されており、埋め土には多量の木片、かんな屑が含まれている。柱の掘り方からは多量の瓦が出土しており、門やそれに続く塀に瓦が用いられていたと考えられる。

本柱の左右に支柱を持ち支柱の背後に控柱を配置する点は、18世紀前葉の創建と考えられている仙台市茂ヶ崎の大年寺惣門と共通する。大年寺の惣門は修復工事の際に仙台市教育委員会により調査され、柱穴の配置、構造などが明らかにされている（結城・渡辺1986）。門跡2と大年寺惣門は、控柱や支柱の形態・規模などに共通点が多く、上屋の構造も類似する可能性がある。

【4号柱列】（図35・36）

K-25～29区で、約256cm間隔でN-25°-Wの方向に並ぶ6基の柱穴が検出された。柱の掘り込みは浅く、塀などの施設と考えられる。柱1の北側ではこれに続く柱穴は検出されていないが、本柱列の西側ではⅢb期の遺構が検出されていないことから、本来は柱1の北で東に折れて門に接続する区画施設であった可能性が高い。

【5号柱列】（図35・36）

4号柱列の東側に隣接し、平行する柱列である。柱穴は3基確認されており約216cm間隔で並ぶ。本柱列は位置的にみて4号柱列同様、中奥建物群の西側を区画する南北塀であったと考えられ、4号柱列とは新旧関係にあったと推測される。

【6号柱列】（図35・36、図版11）

門跡の東側、H-24・25区に比較的大きな四角い掘り方のピットが3基南北に並ぶ。柱の痕跡は柱3で検出されただけであるが、形態や規模が類似していることから柱列と判断した。柱の間隔は約216cmであり、方向はN-25°-Wである。北端の柱1は門跡2の控柱を結んだ延長線上にあり、東側の控柱2からは約320cm離れている。規格性から判断して本柱列は門跡2と同時期に存在していた可能性が高いが、その性格は不明である。なお柱1の埋土からは19世紀代に入る鉄軸耨鉢（図56-285）が出土している。

【7号柱列】（図35・36、図版11）

門跡の東側、2号溝と5号溝の間で検出された東西柱列である。約168cm間隔で並ぶ5基の柱穴は、直径約30cm、検出面からの深さ約40cmでほぼ一定している。柱列の方向はE-25°-Nで、本柱列の延長線上には門跡2の控柱や、6号柱列の柱1が存在する。本柱列は門の東側に続く東西の塀と考えられる。北側に平行する5号溝は、本柱列に伴う区画溝であろう。

【8号柱列】（図35・36、図版11）

2号溝の南側に接して柱穴が4基東西に並ぶ。柱間は約120cmで、方向はE-25°-Nである。柱は1辺約50cmの角柱で長方形の掘り方のなかに残存しており、底面付近には根固め石が認められた。本柱列は、掘り方の規模も大きく、太い柱が比較的密に並ぶことから相当重量のある上屋建物であった可能性が高い。

【9号柱列】（図35・36、図版11）



图33 III b期遺構配置圖

Fig.33 Distribution of features at NMS(phase IIIb)

門と堀・溝で区画された内部、F・G-25区に比較的大きな掘り方のピットが、4基東西に並ぶ。柱の痕跡は確認されていないが、約216cm間隔で、E-25' -Nの方向に同様のピットが並ぶことから柱列として扱った。

【2号溝】(図35・36、図版12)

E~G-24区で検出された。北側の立ち上がりの一部が7号柱列に切られている。溝は素掘りで2段に掘り込まれており、検出面で上幅は平均約1.0m、底面は幅約20cmであった。

【5号溝】(図29・35、図版12)

7号柱列の北側で検出された東西の石組溝である。溝は、道路跡と考えられる整地層⑥の南端と7号柱列のほぼ中間に位置している。本溝は明治期の溝と重複しているため、石組みが部分的に残存するだけで、溝自体は痕跡程度である。

【8号溝】(図34、図版12)

F-21・22区からK-22区にかけて検出された、東西方向に伸びる溝で、方向はE-25' -Nである。III a期の9号溝が埋められた上に、ほぼ同じ場所に造られている。西側は米軍の共同溝で破壊され、東側は調査区外に伸びるが、約20mを検出した。上幅70cm、下幅35cm、深さは南岸で40~50cmを測るが、岸の高さは、南側が北側より約30cm高くなっている。この溝をはさんで北側は、地表面の標高が一段低くなっている。北側にのみ、長軸30cm前後の河原石を、小口を向けて並べており、南側は素掘りのままである。幅120~130cmの掘り方に、大きな石の下に小さな石を入れて構築している。掘り方は、西へ行くほど、やや北側に広がっている。自然堆積で10cm程埋まった時点で、2b層の整地によって完全に埋められている。

【11号溝】(図版35・36、図版12)

門跡の北西で検出されたN-25' -W方向の南北溝である。溝の断面に木樋の痕跡が確認され、木樋の内部に堆積したと考えられる砂が残されていた。

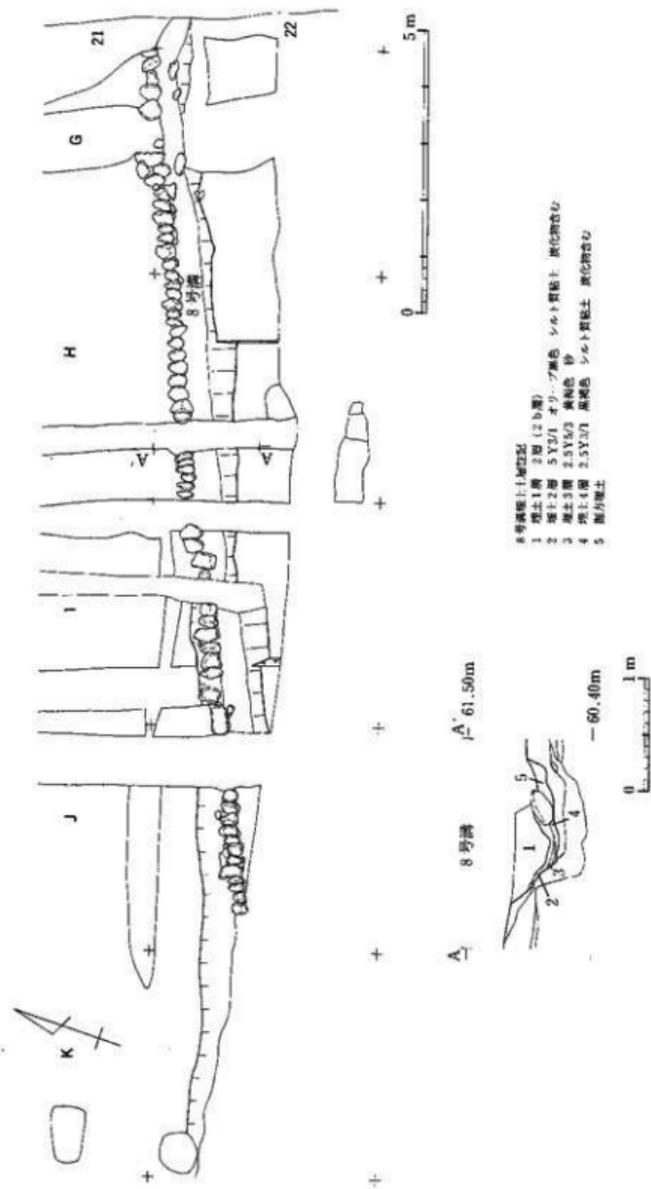


図34 IIIb期検出遺構(1)
 Fig. 34 Features of phase IIIb at NM5(1)

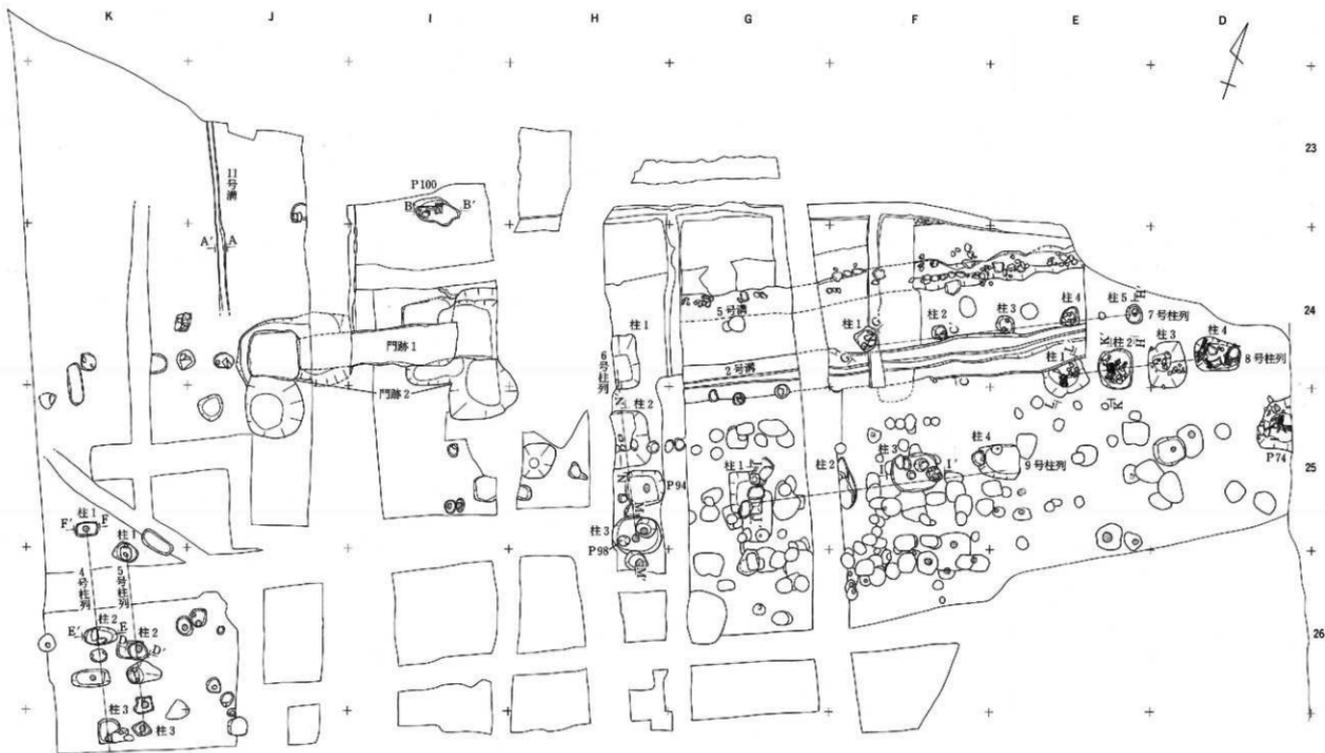


图35 III b期検出遺構(2)
Fig. 35 Features of phase IIIb at NM5(2)

0 5 m

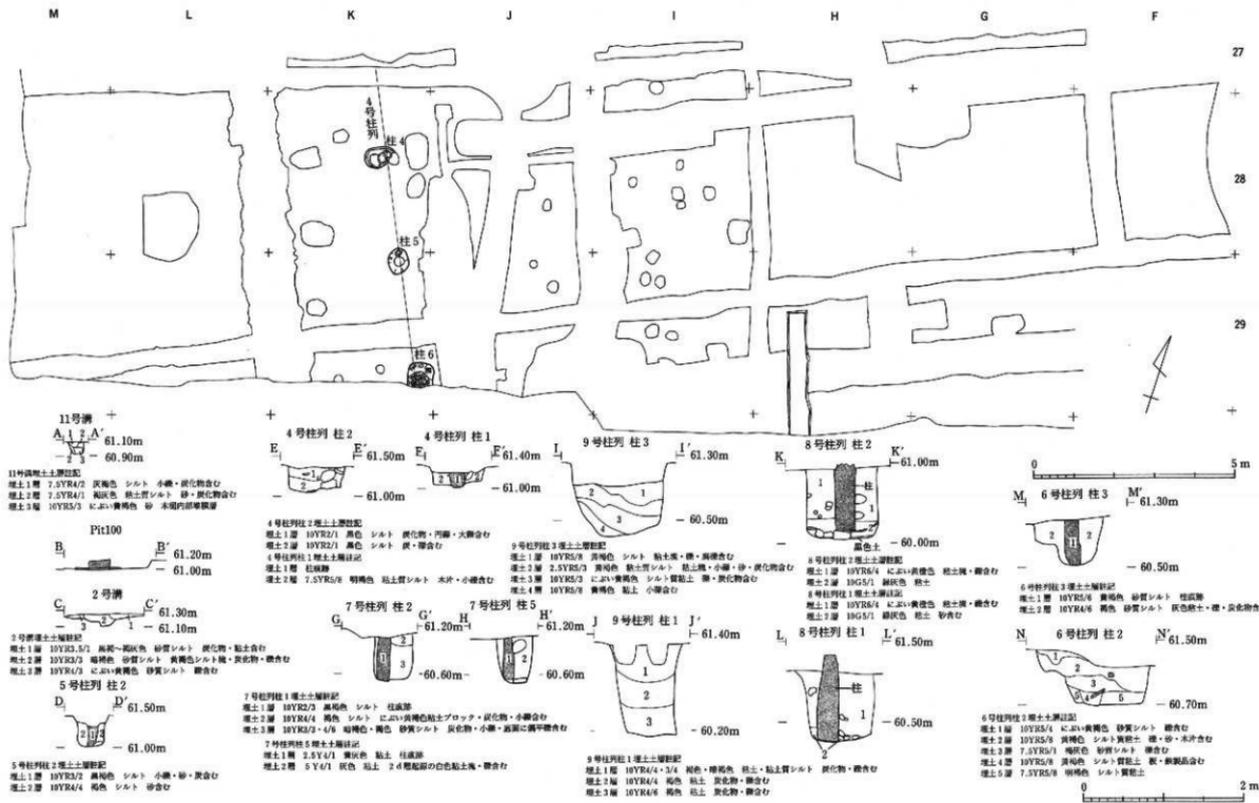


図36 III b期検出遺構(3)
Fig. 36 Features of phase IIIb at NM5(3)

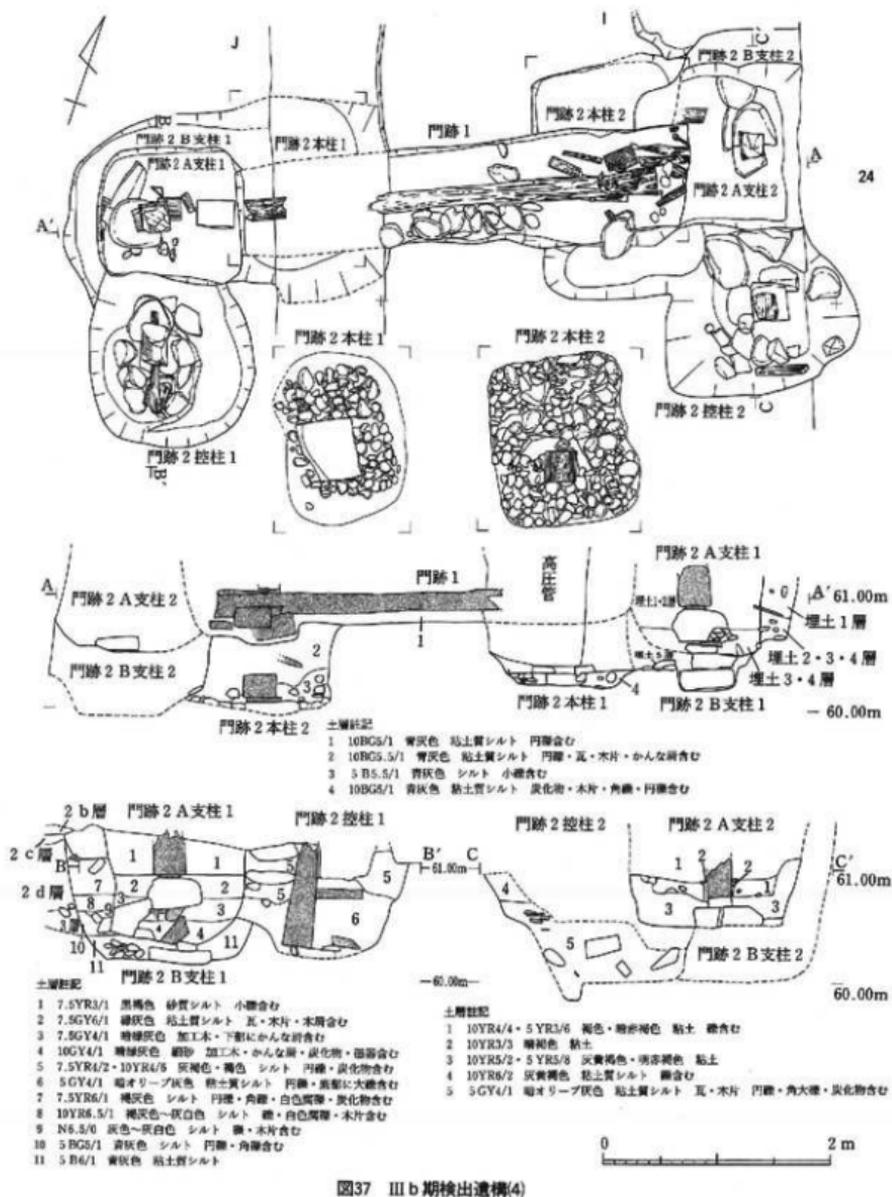


図37 III b期検出遺構(4)

Fig. 37 Features of phase IIIb at NM5(4)

(4) IV期(第二師団)の遺構(2b層・2a層上面)

明治以降の第二師団の時期と考えられるもので、遺構の配置は、III期とは大きく変化する。何段階かの変遷があるが、一括してIV期とした。また、以下では個々に記述しないが、調査区各所に丸杭の杭列があり、それらの方向は、他の遺構とほぼ同じである。

IV期の遺構の内、7本の暗渠が切り合いから、IV期のなかで最も新しく位置づけられる。暗渠は2カ所で木箱埋設遺構を伴っている。木箱は便槽と考えられ、それに接続する暗渠は下水施設であろう。これらの暗渠が構築される以前は、南北にはする7号溝とそれに伴う1号柱列により、基本的な東西の区画がなされている。この区画の西側には便所と考えられる小規模な建物跡と、それにとりまなす跡が確認できる。東側では、調査区の北側で礎石建物跡が柱列の脇に存在する。東側の、中央からやや北よりの部分には、コの字型の1号溝が検出された。1号溝の東側では、ゴミ穴と考えられる土坑や井戸跡が検出されている。1号溝で区画された内側には、柱穴と考えられるピットが数基存在するだけで、この部分の利用状況は判然としない。

【1号建物跡】(図39、図版16)

K-18・19区からL-18・19区にかけて検出された礎石建物跡で、方向はN-25°-Wである。礎石は残存せず、一辺70cm程の、ほぼ隅丸方形の掘り方に、河原石を入れて根固めとしている。南北1間分が検出されているが、北壁セクションに、この建物の続きの可能性がある柱穴が見られることから、南北はさらにのびていたのが、1号暗渠に壊されている可能性がある。南北の柱間は、約1.8mである。東西も1間であるが、柱間が約3.6mであり、柱2と柱4の間に、別の柱が存在した可能性が考えられるが、この部分は試掘調査の際に掘られており、確実ではない。柱3が、同様の柱穴を壊しており、またややずれた位置にピット455が存在すること、北壁セクションに1号建物跡とずれる柱穴が見られることから、この場所で立て替えが行われている可能性が考えられる。柱穴1・2が、1号柱列の柱1・2と、ほぼ対応する位置にあることから、同時に存在した可能性があり、両者の間隔は、ほぼ1.8mである。

【2号建物跡】(図40、図版16)

M・L-25区で検出された掘立柱建物跡である。南北2間分、東西1間分が確認できる。柱穴は直径70cm程度の円形を呈し、柱1～3は布掘り状の溝のなかで見つかっている。柱1～3の方向はN-24°-Wである。柱間は約121cmであり、他の通常の建物に比べ極端に短い。位置からいって便槽状の構造を持った1号木箱埋設遺構を伴う可能性が高いことから、本建物跡は便所の覆屋と考えられる。柱1と柱3の埋土から寛永通宝(図104-36・37)が各1点出土している。

【1号柱列】(図39・40・41、図版14・16)

L-18区からK-29区にかけて検出された、7号溝の東側に平行して並ぶ掘立柱列である。

南北とも調査区外にのびるものと推定される。また、調査区内で最も北側の柱は、1号暗渠に破壊されているものと考えられる。柱穴19個を検出したが、攪乱で途中壊されている部分もあるので、23間以上になり、42m分を確認したことになる。7号溝と同様に、22～24区で若干東にふくらむが、全体の方向はN-24°-Wである。柱間は182cmで、交互に大小の柱穴が並ぶ。大きい柱穴には本柱の他に控柱が作り、小さいものには本柱1本のみが入る。平均的な柱穴の大きさは、大きいものが、東西60cm前後、南北40～60cm、深さ100cm前後で、長方形のものは東西に長くなっている。小さいものは、東西30～40cm、南北50cm前後、深さ100cm前後で、長方形のものは南北に長くなっている。ほとんどに柱根が残り、全て角柱で、太さは一辺20cm前後である。本柱は、柱穴の中程の深さの所で、柱列の方向に沿って、溝状のほぞを切り、そこに細い角材をはめこんでいる。7号溝からの距離は、溝の東側の縁から計って、本柱が70cm、控柱で100cmである。7号溝に伴い、東西に区切る跡跡であると考えられる。

【2号柱列】(図40)

2号建物跡の南側、M・L-25・26区で検出された東西の柱列である。東側は塀を伴う7号溝に直交すると思われる。柱間は約192cm、方向はE-24°-Nである。柱穴の断面には柱の痕跡はなく内部に根石が詰まっていることから、本来は礎石を伴っていた可能性がある。便所建物と考えられる2号建物の南側を囲む目隠し塀的な性格を想定できる。

【3号柱列】(図40)

1号柱列の東側、K-26区で検出された東西の孤立柱列である。柱穴は長方形を呈し内部には角柱が残存していた。柱間は約180cm、方向はE-24°-Nである。西端にあたる柱1は1号柱列の柱14と柱15の真ん中に位置している。このことから、3号柱列は当初から1号柱列に間尺を合わせ、それと直交する形で作られたと推定され、1号柱列同様、跡跡と考えられる。

【1号溝】(図40・41、図版15)

F-1-24～27区で検出された南側に開くコの字型の溝である。北辺は約13mあり、南北の長さが東西幅よりも長い。東辺の溝では、両側に石組の一部が残っており、本来石組溝であったと考えられる。北辺と西辺では、溝の外側に石敷が伴っている。北辺には溝の内側に沿って数基のピットが存在しており、この部分に塀のような施設が伴っていた可能性もある。

【3号溝】(図41、図版14)

J-28・29区で検出された南北の石組溝である。石組のなかには部分的に木樋が残存している。木樋自体は石組よりさらに北側に張り出している。木樋の北端部には樹状の木箱が確認されている。北側に張り出した木樋部分には同じく木樋を埋設した10号溝が直交している。石組と木樋は一連の施設ではなく、時期差があると考えられ、元來石組溝であったものを木樋に改修した可能性が高い。本溝の埋土2層から19世紀前葉～中葉に位置づけられる瀬戸産の色絵陶

心円文小碗(図49-492)が出土している。

【7号溝】(図39・40・41、図版14)

L・M-18区からK・L-29区にかけて検出された南北方向の石組溝で、1・6号暗渠に切られる。東側に1号柱列が平行して並ぶ。方向はN-24'-Wであるが、23・24列では若干東に膨らむ。南北とも調査区外に伸び、途中攪乱で破壊されている部分があるが、46mを検出した。内幅50cm、深さ50~60cm、底面レベルは北側が低い。幅1.5mほどの掘り方に、石を2~3段積んで構築しているが、21列以北は西側の石が取り去られている。2b層途中から掘り込まれている。埋土は、下半が堆積後、2b層上部、2a層が入り埋められている。埋土からは、多量の板材、ガラス瓶、釘などが出土しており、瓦も比較的多い。廃材などが捨てられたものであろう。陶磁器・土器類も比較的多く出土しているが、他の遺物ほどではなく、各時期のものが混在している。

【10号溝】(図41)

I・J-28区で検出された東西の木樋を配した溝である。掘り込みは浅く、東側は失われてしまっている。西端は3号溝の木樋に直交し、それと接続している。

【1~6号暗渠】(図39・40・41、図版15)

この1~6号暗渠と次の7号暗渠は、IV期の遺構群の中で、最も新しいもので、他の遺構を切って構築されている。掘り込み面が確認できる3号暗渠は、2b層上面から掘り込まれており、2a層に覆われている。7号暗渠のみが、他と様相が異なるが、1~6号暗渠は、規模・構造が共通し、方向も2号がN-23'-Wで、他がE-24'-Nとほぼ同じである。攪乱によって破壊されたり、調査区外に伸びるものもあり、全体の様相が判るものはないが、3号暗渠は西端で南に折れている。5号暗渠は、西端が検出されている。1号暗渠と2号暗渠が接する部分は、攪乱によって破壊されており、両者の関係は不明である。また、3号暗渠には、中ほどで3号木箱埋設遺構が取り付け、伴うものと考えられる。いずれも上幅40~70cm、下幅30~60cm、深さ80cm~1.0mの溝中に、河原石などの礫を詰めている。

【7号暗渠】(図41、図版15)

G・H-29区で検出された、溝に礫を詰めた東西方向の暗渠で、方向はE-22'-Nである。東西とも攪乱で破壊されている。途中で北側に分岐して伸びるが、6号暗渠との前後関係はとらえられていない。この分岐する所の北東側に4号木箱埋設遺構があり、伴うものと考えられる。上幅2.0m、下幅1.9m、深さ1.0mで、他の暗渠と比べて幅広で、中に入れられている礫も大きい。

【1号土坑】(図40、図版16)

E・F-25区で検出された。2号土坑に切られているため全体の形状は不明である。埋土中



图38 IV期遗物配置图

Fig.38 Distribution of features at NMs(phase IV)



图39 IV期檢出遺構(1)

Fig. 39 Features of phase IV at NM5(1)

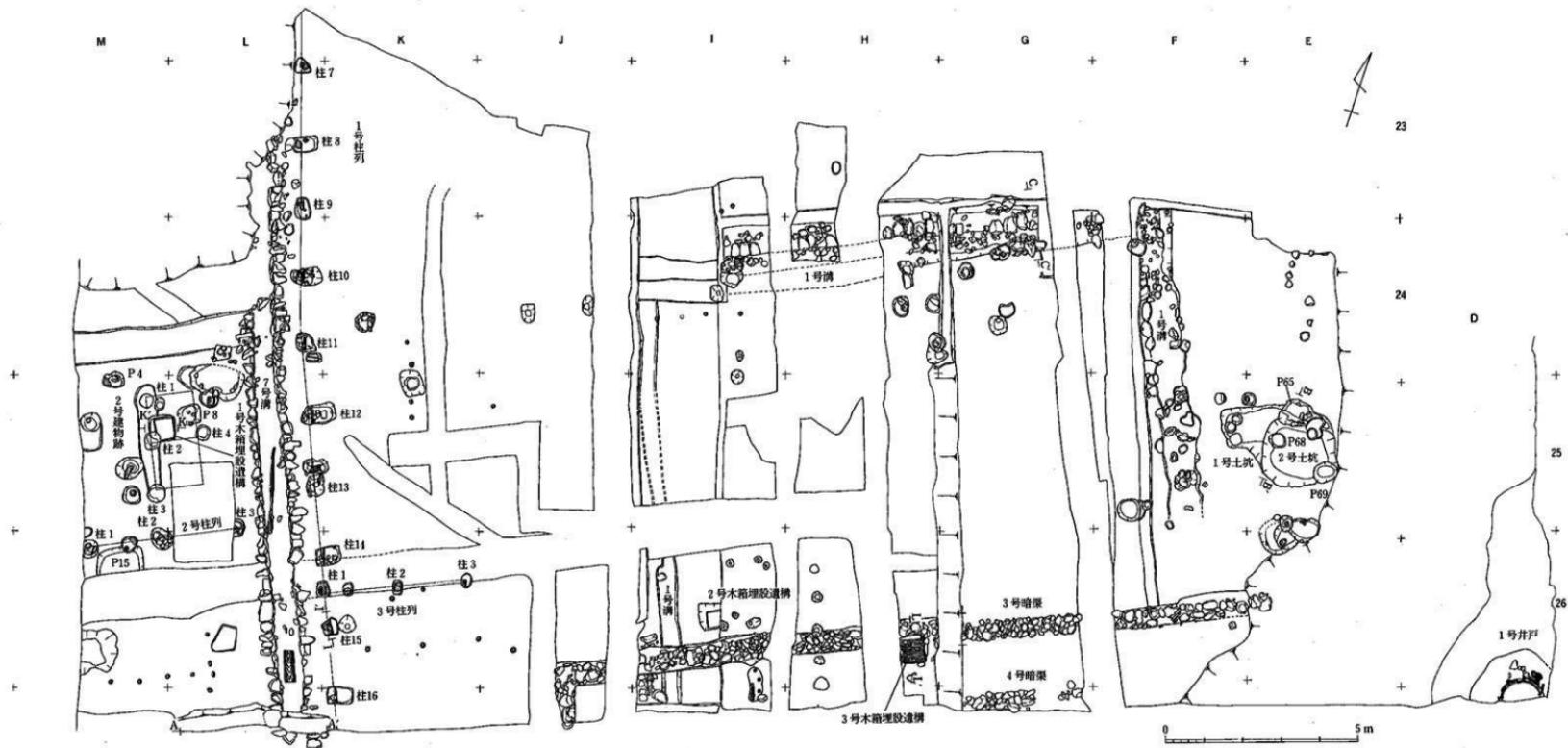


图40 IV期出土遗物(2)
Fig.40 Features of phase IV at NM5 (2)

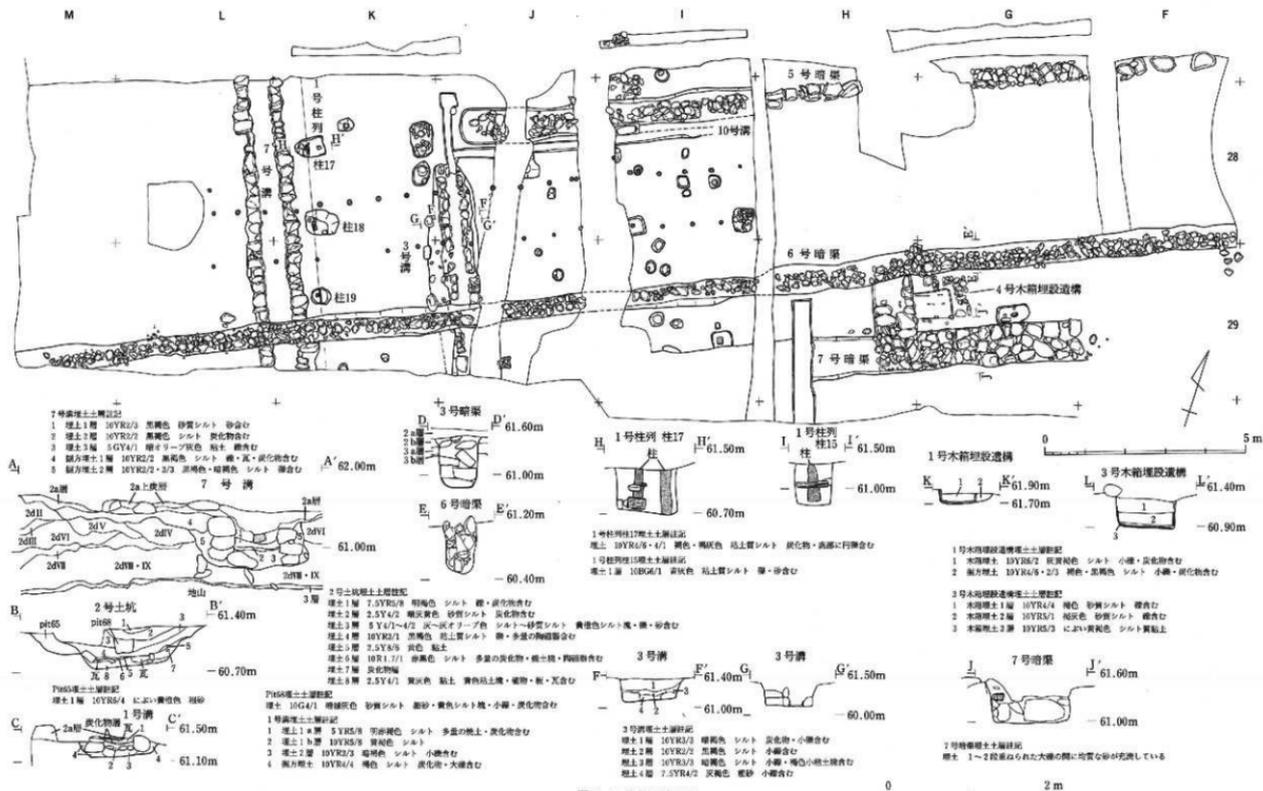


図41 IV期検出遺構③
Fig.41 Features of phase IV at NM53

から19世紀前葉～中葉に位置づけられる磁器の中型丸碗(図45-445)が出土している。また埋土下部には丸瓦(図76-13・14)や板瓦(図78-24～26)が多数認められ、ゴミ穴として利用されたと考えられる。

【2号土坑】(図40・41)

1号土坑を切って掘られている。平面は隅丸の正方形に近く、一辺はおよそ1.8mである。埋土は8層に細分される。埋土の途中(3層上面)からピットが掘り込まれており、完全に埋没するまでかなりの時間を要したと考えられる。埋土6層には瓦が多く、3～4層では陶磁器が多量に出土した。1号土坑同様、ゴミ穴と考えられる。陶磁器には瀬戸産の磁器(図45-439-440)や大堀相馬産の陶器土瓶(図58-314-315、図59)が多い。出土遺物の多くは19世紀前葉～中葉に位置づけられる。

【1号井戸】(図40)

D-26区に位置し、南半部を米軍共同溝により失っている。井戸の外枠は、レンガを円形に組んでおり、レンガの内側には板材が残存していた。埋土からは、19世紀中葉に位置づけられる大堀相馬産の鉄絵土瓶の蓋(図60-309)や洋釘、葉莢などが出土している。

【1～4号木箱埋設遺構】(図40・41、図版16)

1号木箱埋設遺構は、M・L-25区で検出された。約0.7m四方の正方形の掘り方の中に、東側に寄せて木箱を埋設している。木箱は一辺約50cmの正方形で、現存高はおよそ15cmある。位置的にみて、2号建物は本遺構の覆屋であった可能性が高い。

2号木箱埋設遺構は、1号溝に囲まれたI-26区で検出された。規模、構造は1号木箱埋設遺構に類似する。本遺構の周辺にも柱穴と考えられるピットが存在しており、覆屋を伴っていた可能性がある。

3号木箱埋設遺構は、3号暗渠の南側、H-26区で検出された。本遺構は、3号暗渠の南側に張り出す形で構築されており、木箱の内部に溜まった内容物は、暗渠を通じて排出される構造であったと考えられる。木箱は、一辺約75cmの正方形で、現存高はおよそ30cmある。木箱とその掘り方の間には、ほとんど隙間がない。木箱の東側に接して石を並べた痕跡が認められることから、本来は暗渠のある北側を除いて、木箱周辺に石が敷かれていたと考えられる。

4号木箱埋設遺構は、6号と7号暗渠に挟まれたG-29区で検出された。木箱は、一辺約50cmの正方形の掘り方の中に埋設されている。本遺構は、西側で7号暗渠と接しており、向者は一連の施設であったと考えられる。また、7号暗渠のある西側を除いて、6号暗渠と7号暗渠に挟まれた木箱周辺には石が敷かれている。

4. 出土遺物

第5地点の調査では、これまでの仙台城二の丸跡の調査の中では、最多量の遺物が出土した。その種類も多岐に渡っており、これまでに出土していなかったものも多い。そのため、江戸時代の遺物については、可能な限り資料提示に努めたが、明治時代以降の遺物については、基本的に省略することとした。また、陶磁器・土器・瓦については、共存遺物や層序関係から、年代が限定できる重要な一括資料があり、詳細に検討を加える必要がある。しかし、紙幅の関係もあり、翌年度に実施した付帯施設区域の調査（4次調査）を含め、第5地点に関する全ての報告が終了した段階で、翌年度の年報（年報7）において、改めて検討を加えることとした。そのため、これらの遺物については、資料提示を旨とし、概要を指摘するにとどめることとする。

(1) 陶磁器・土器・土製品

【陶磁器】(図42～61、図版17～33、表14～18)

接合、同一個体の認定作業後の総破片数は、磁器3313点、陶器4280点を数える。時期的には、17世紀前半から現代のものまで様々な時代の資料が含まれる。量的には19世紀前半から中葉の資料が最も多く、18世紀代の資料がこれに次ぐ。仙台城二の丸跡のこれまでの調査は大部分が19世紀代の遺構に集中しており、17～18世紀代に関しては断片的な資料しか得られていなかった。そのため今回第5地点の調査報告では、17～18世紀の陶磁器資料に関しては全体の様相を呈示できるようにだけ図化につとめた。19世紀の陶磁器に関しては、同じ類型の資料が複数ある場合、代表例を呈示するにとどめている。以下、時期毎の概要を述べる。

17世紀前半の資料には、鉄軸で唐草文を描いた志野の小皿(図53-242)や、吹埜技法を用いた肥前産の染付小皿(図48-480)などが見られる。出土量はごく僅かであり、新しい時代の堆積層や遺構に混入して出土する例がほとんどである。

17世紀中葉の資料は、草花文などを描いた肥前産の染付磁器小皿類が若干見られる程度で、依然として量的に限られる。舶載品では、北区VII-10層から明末清初と考えられる色絵磁器が出土している(図46-454)。この資料はいわゆる「呉須赤絵」に属し、近年遺跡からの出土が注目され始めた福建省平和県漳州窯系製品に類似する。

17世紀後半には、肥前産の染付丸碗が一定量存在する。色絵の磁器人形(図50-513・514)も見られる。陶器では唐津産の壺や大鉢がある。この時期の資料は、南区の3層や北区のVII層から出土する。遺構では、II a期の4号土坑からこの時期の資料が出土している。

17世紀末から18世紀初頭に到り陶磁器の出土量は急増する。北区のVII-VI層、南区の3 a、2 d層など、西原敷廃絶後に使われなくなった池の埋土や元禄年間の二の丸拡張に伴うと考え

られる整地層から当該期の遺物が出土する。肥前磁器では、いわゆる「くらわんか手」の碗類（図42-407・409）や染付の小皿類（図46-456）、波佐見産と考えられる青磁小皿（図46-455）が多く見られるようになる。磁器には、複雑な文様を刻んだ比較的丁寧な作りのコンニャク印版が用いられる（図44-437、図46-459）。肥前産の陶器では、京焼写しを含む灰釉丸碗類（図51-201~205・211・213）や刷毛目文碗（図51-208、図52-239）、見込部分を蛇ノ目に釉割ぎした銅緑釉の小皿類（図53-243・244）が認められる。前代に引続き、煎、大鉢、櫛鉢などの大型製品は、唐津産が主体であったと考えられる（図54-252~256、図55-262）。この段階に、肥前製品に比べれば僅かな量ながら、大堀相馬系と考えられる灰釉丸碗（図51-206・212）が出現する。大堀相馬の創業年代に関しては、今日まで窯跡の調査が進んでいないため確定できていない。本道跡の資料は、共存する記年銘木簡や肥前産磁器から、17世紀末から18世紀初頭（元禄年間）に大堀相馬が操業していた可能性を示すものとして重要である。

18世紀前半では、Ⅲa期、中奥古段階の3号土坑に一括資料が存在する。肥前磁器では、染付の碗皿類（図44-433~435）、猪口（図45-448・449）、糸切り技法による変形小皿（図48-484）などが認められる。陶器では、肥前製品と大堀相馬製品とで量的比率が逆転し、後者が多数を占めるようになる。大堀相馬製品は多様化し、鉄釉流し掛けの皿（図53-245）、腰部に刻線を有する腰筒（掛け分け）碗（図52-238）、灰釉の仏飯器（図61-333）などが新たに加わる。大堀相馬製品以外では京・信楽系と考えられる灰釉筆筒（図57-345）が見られる。

18世紀後半の良好な遺構一括資料はないが、北区のⅢ層や、南区の2c層・2b層に、この時期の資料が比較的多く見られる。陶器ではさらに大堀相馬製品の比率が高まり、器種も一層多様化する。それまで量的に限られていた瀬戸製品も石皿（図53-247・248）などの器種が一定量見られるようになる。

19世紀前半から中葉では、Ⅳ期の1号溝、1・2号土坑から比較的多くの資料が出土している。磁器では器種によって産地に違いが認められる。すなわち、皿類では引続き肥前製品が主体を占めているが、碗類は瀬戸が中心となり肥前製品は減少する。瀬戸産の磁器は、中型の端反碗（図45-440）や小型丸碗（図45-438・439）を主体に、小坏（図43-420）や合子（図50-500）といった器種が認められる。量的には少ないが、切込焼の碗（図45-443）や平清水焼の皿（図49-490）といった東北の地方窯の製品も存在している。陶器は、若干の瀬戸製品が見られる以外は、圧倒的に大堀相馬製品によって占められる。大堀相馬製品の多様化は前代にも増して進み、各種の碗皿類に加え、火入れ（図57-291）、片口鉢（図54-258・259）、土鍋（図61-325~327）、行平鍋（図61）、水注（図57-331）、乗燗（図61-334・335）、土瓶（図58、図59-328~330、図60-309~312・318・323・324）といった口用製品が数多く認められる。内側に「天保十四口」の墨書のある土瓶の蓋（図60-304）は、大堀相馬製品の編年を考えていく上

で重要である。地元の製品では、埴焼の可能性が高い大皿や大鉢、乗燗(図61-336,337)が出土している。

【土器】(図62~66、図版34~37、表19~21)

接合作業後の総破片数は、土師質土器10,259点、瓦質土器227点、軟質施釉土器323点で、土師質土器が、陶磁器も含めて最も数が多い。ただし、土師質土器はほとんどが皿であり、数が多い上に形態・技法の差が少ないため、特殊なものを除いては、遺構・層を越えての接合は行っていない。

仙台城二の丸跡のこれまでの調査では、幕末を中心とした19世紀代の資料が多く、土器類については良好な資料に欠け、第2地点・第3地点で若干の資料が報告されていただけであった(年報1)。二の丸跡では、今回の調査出土の資料が、まとまった初めての資料となる。そのため、ある程度特徴の判明する資料については、可能な限り提示するように努めた。

土師質土器には、皿、耳皿、焼塩壺、火消壺の蓋、鉢類などが認められる。元禄年間の整地層と考えられる北区18・19列V層・VI層・VII層と南区東部3b層上面、同じく元禄年間のIIa期4号土坑、二の丸期のIIIa期3号土坑において、まとまって出土している。元禄年間以前の層では、北区18・19列VIII層、南区3層などからも出土しているが、量はあまり多くない。

土師質土器の圧倒的多数を占める皿は、ロクロ整形で、外面をミガキあげたもの以外は、全てロクロ整形・回転糸切りによるもので、手づくねのものは見られない。形態でも大きな違いが認められないため、残存状況を基準に資料化する遺物を抽出した。口縁端部から底部まで残存しており、かつ全体のほぼ半分以上が残っているものを資料化している。この基準を満たさなくとも、形態の特殊なものや、墨書や穿孔のあるものは、全て図化した。図63-66は、外面全体に「御目付」「永」などの字を習書したものである。土師質土器皿の中で、IIIa期の4号土坑出土のもの(図64-41~50)だけは、器高が低く、浅いものが主体を占める点で、他の資料とは異なる。

瓦質土器は火鉢と考えられる鉢類がほとんどで、特に集中して出土しているところはない。残存状況が良くないものが多く、資料化し得たのは6点だけである。

軟質施釉土器としたのは、透明釉をかけたもので、蓋が1点(図65-102)ある以外は、確実なものは全て焙烙である。いずれも19世紀代以降と考えられるので、代表的なものを資料化した(図65-103・104)。それ以前の層・遺構からも出土しているが混入であろう。焙烙は、これに類似したものが、戦後まで埴において作られている。

【土製品】(図65、図版65、表43)

8点と出土量は少ない。細片以外のものは図化した。99は基石であると考えられるが、他は用途不明である。101は瓦質である。

(2) 瓦

① 分布

基本層では、調査区全域に分布する2 a層から最も多くの瓦が出土している。また、元禄年間二の丸拡張に伴う整地層と考えられる北区V層、⑥、⑦層や南区2 d層にも多量の瓦が含まれていた。特に北区20～22列では、窪地を南から北側に向けて盛土による整地を行っており、一連の厚い整地層に多くの瓦が含まれている。遺構では、IV期の1号柱列、1号土坑、7号溝、III b期の門跡2、8号溝、III a期の9号溝、3号土坑、I b期の12号溝、I a期の20号溝でまとまった量の瓦が出土している。

② 分析方法

一般に、近世の城館には様々な建物が存在し、それに応じた多種多様な瓦が出土する。また地点によっては、同じ種類の瓦が多量に廃棄されている場合もある。近世遺跡から出土する瓦については、遺跡の種類によって他の遺物に比べ出土量が大きく異なることもあり、その取扱いは、資料の採集から資料化の方法まで、報告者の間で違いが大きい。本地点の調査時には、仙台城二の丸における瓦の種類について限られた知見しか得られていなかったため、はじめから現場で資料の選択を行うことなく、できる限り全ての瓦を採集するように努めた。そのため、限られた時間の中で本地点の瓦の特徴や傾向性を報告書に記載するには、種類の同定が困難な細片を含む多量の瓦をどう数値的に処理するか、どの様な瓦を資料化をすれば良いかが重要な課題となった。

出土した瓦の大別およびその基準は、基本的に第7地点の報告に依拠している(年報4)。この基準では、緩やかに弯曲するものを「平瓦類」とし、全く平らなものは「その他の瓦」に分類した。「平瓦類」には、平瓦、瓦当部分を欠いた軒平瓦、棧部分を失った棧瓦類や棟瓦(伏間瓦)が含まれる。全く平らな瓦の大部分は、板塀瓦と製斗瓦で占められると考えられる。第7地点の場合、板塀瓦は確認されておらず余り問題にはならないが、本地点では相当数の板塀瓦が出土している。全く平らな瓦を「その他の瓦」に含めてしまったことで、板塀瓦の存在から塀の位置、規模、構造などを考えていくことが難しくなってしまう、資料操作上の問題が残った。「その他の瓦」のうち主な瓦としては、板塀瓦以外に、棟瓦、製斗瓦、鬼瓦、仮称「T字瓦」などがあり、種類は不明なものに明らかに大別名称を挙げた瓦以外と判断された資料も含んでいる。「不明」としたものは細片であり、種類の同定が不可能な資料である。

本地点では、表土や攪乱の中からも多量の瓦が出土しているが、これらは層別的な検討が困難なことから集計を行わないこととし、1層以外の基本層や遺構出土の資料とは別に次のような基準を設けて資料の抽出を行った。抽出資料は全て図化し、併せて諸属性の観察を行った。

平瓦・棧瓦・製斗瓦：幅および長さが計測可能な資料

丸瓦：玉縁の部分を含む長さが計測可能な資料

軒平瓦・軒丸瓦：瓦当が半分以上残っている資料

その他の瓦については、上記の基準に準じて適宜抽出した。例外として刻印、ヘラ描きなどの認められる瓦は種類や残存の度合に関係なく全て資料化した。

1層以外の基本層や遺構から出土した瓦については、数量的分析を目的として層位毎、遺構毎の集計を行った。資料の抽出は次のような基準で行い、諸属性を観察した。

平瓦・丸瓦・棧瓦・輪違い・面戸瓦・棟瓦・製斗瓦：幅、長さのどちらかが計測可能な資料

軒平瓦・軒丸瓦：瓦当の一部が残っている資料

その他の瓦のうち鬼瓦などの特殊なものは全て抽出した。資料の図化は、表土、視乱出土の資料と同じ基準で行った。

③ 各種類の特徴

【軒丸瓦類】(図67～70、図版39、表22)

軒丸瓦以外に鳥伏間(図69-80)や、大きさから菊丸と考えられる資料(図70-88・89、143)を含む。軒丸瓦の瓦当には、三引兩文、九曜文、連珠巴文、巴文が認められる。形態的には、九曜文、連珠巴文、巴文の瓦は、三引兩文を施文する瓦に比べ瓦当の直径で約1～2cm程度大きい。内区の直径には顕著な違いは認められず、この大きさの違いは、三引兩文の瓦の周縁幅の狭さに起因している。仙台城三の丸勝の調査では、軒丸瓦の文様が巴文から九曜文に変化するとの指摘がなされている(結城1985)、今回の調査地点では、そのような傾向を確認できなかった。

【軒平瓦類】(図70・71、図版40、表23)

軒平瓦以外に、小巴部を失った軒棧瓦の垂れ部を含む。全て瓦当部に文様を持つ。

瓦当部の中央には、三枚笹文、雪持笹文、梅文、桔梗文、四弁花文が確認できる。雪持笹文は、笹の葉に太いものと細いものとが見られる。桔梗文には、花卉の先端が剣先形のもの(剣形桔梗文)、花卉が細いもの(細桔梗文)、唐草文との間に三日月状の付加的な要素が加わるもの(特殊桔梗文)がある。

唐草文は、形態により大別5類型、細別8類型が確認された。唐草文は、中央部の文様と対応関係を有しており、両者の組合せから10種類の瓦当文様が抽出できた。

A 三枚笹文+唐草1類(図70 91・105)

B 雪持笹文+唐草2類

B1 雪持笹文(細葉)+唐草2類(図70-99・100)

B2 雪持笹文(太葉)+唐草2類(図70-97・107・111)

C 梅文+唐草3a類(図71-96・103)

D 桔梗文+唐草3類

D1 剣形桔梗文+唐草3b類 (図71-98・106)

D2 細桔梗文+唐草3b類 (図71-93・101・108:101と108は同范)

D3 特殊桔梗文+唐草3c類 (図71-102・104)

E 四弁花+唐草3d類 (図71-90・110)

F ?+唐草4類 (図70-94・95)

G ?+唐草5類 (図72-109)

A類は、19世紀代の堆積層や遺構の埋土からのみ出土しており、文様の構成が軒棧瓦 (図72-158)と共通することから、小巴を失った軒棧瓦の垂れ部と考えられる。A類以外では、本来的な帰属層が特定できないE類を除き、大部分が二の丸の拡張に伴うと考えられる一連の大規模な盛土層やそれらを掘り込むIIIa期の遺構から出土している。宮城県松山町の上野館跡からは、「明和四年」(1767年)の刻印を有するB類が出土している (佐久間・佐藤ほか1993)

【軒棧瓦】(図72、図版40・41、表24)

瓦当に文様を持つものと無文のもの(万十)とが存在する。小巴には連珠巴文と巴文が、垂れには唐草1類が確認できる。出土層位から、いずれも19世紀代以降の所産と考えられる。

【平瓦類】(図73・74、図版41・42、表25)

長さは最小148mm、最大385mmを測る。平均値は256mmである。予め谷の部分に溝状の筋目を入れておき、焼成後に筋目に沿って二分割して用いたと考えられる資料(図73-4・5・7)が存在する。北区の2層とIII層から、凹面全体と側面、凸面の一部に鉄軸を施した資料が1点ずつ出土している(図73-1・2)。

【丸瓦類】(図74~77、図版42・43、表26)

胴部長は210mmから320mmまで分布し、平均は274mmと、平瓦の平均的な長さよりも大きい。元禄期と考えられる盛土から出土したものの大部分は26~28cm台に集中し、ある程度大きさにまとまりが見いだせるのに対して、上層には様々な大きさのものが存在している。図77の136・137は、凸面に焼成後、クギ状工具で彫られた紀年銘を有している。137は「政五」という文字が確認でき、寛政五年(1793年)、文政五年(1822年)、安政五年(1858年)の可能性が考えられる。図77の10は、焼成後、凸面にクギ状工具で蓮華状の文様が彫られている。

【板塀瓦】(図78・79・85、図版45、表28)

表土から2点、2a層から3点、1号土坑から4点出土している。層位的にみて、全て幕末から明治の可能性が高い。1点を除き、他は全て左棧である。棧と反対側の辺に沿ってV字状の小溝が切られており、この溝は、瓦を固定するための穴が開いている側、すなわち瓦を葺いた場合に上辺となる側が浅く、下側が深くなるように切り込まれている。溝は、使用時には棧

の下に隠れており、雨水がこの部分に溜るのを防ぐ意味があったと考えられる。穴の開いている上辺部分を厚くしたもの(図78-1・2)は、瓦を固定した際に力加わり破損しやすい穴の周辺を補強した改良型と考えられる。椽となる粘土板を接着させる際には、接着面に切込みを入れ、接合面から椽が剥がれるのを防いでいる。

【製斗瓦】(図80、図版44・46、表29)

全て耳の付く紐製斗瓦であり、いずれも攪乱から出土している。明治以降、近代のものである。上面に、波形の櫛目を施す例も見られる。

【椽瓦】(図80・81、図版44、表27)

層位の明確なものでは2a層が多い。形態的には、片側に袖の付くタイプ(袖瓦)や、裏面に三角形の引っ掛けを2個有するものも見られる。裏面に平行する櫛目を施したり、「宮」の字と漢数字2文字を組合せた刻印を押す場合がある(図81-30、図89-30~32・41~45)。「宮」刻印には、数字の組合せにより、「宮一五」、「宮二九」、「宮三?」、「宮四六」、「宮四七」、「宮五六」、「宮五七」の7種類が確認できた。「宮」刻印に関しては、これまでの仙台城二の丸跡の調査で、第3地点から「宮四九」が(年報1)、第6地点からは「宮五六」が出土している(年報3)。

【輪遣い】(図82、図版47、表30)

北区のVII層や、III期の遺構から多く出土している。長さは最大156mm、最小117mmで、13cm程度のもが多い。

【面戸瓦】(図83・84、図版47・48、表31)

正確には用途が特定できていないが、隙間を埋めるのに用いたと考えたことから、これまで面戸瓦に分類してきており、今回も同じ名称を用いた。層位的には、南区の3b、3c層、北区のVIII層を除き、ほぼ全ての層から出土している。遺構では、IIIa期の9号溝やピット316からまとまった量が出土している。幅は平均121mm、長さは平均93mmを測る。内面に型から離す際に付いたと推定される縄紐の圧痕を残す資料がある。

【その他の瓦】(図85~89、図版46・49~51、表32)

棟瓦(図85-145・146)

角椽伏間瓦と角椽冠瓦がある。層位の判明する資料は、全てIV期の遺構から出土している。仮称「T字瓦」(図86-148~150)

幅が80~100mm程度の細長い瓦で、中央部に突起を持ち、断面が凸形になる。突起は一方の端にも付いており、突起部はT字状を呈する。もう片方の端は、斜めに切り落とされている。中央の突起部には2筋以上、瓦を固定するための穴が、突起とは反対の平らな面から穿けられている。仙台城三の丸跡では、このタイプの瓦を「T字瓦」と呼称し、棟の部分に用いる道具

瓦の一種と報告している(結城1985)。仙台城二の丸跡のこれまでの調査では、第6地点において、18世紀前葉以前に埋没したと考えられる溝の埋土から1点出土している(年報3)。第5地点では、全体で40点が出土している。基本層では、南区の2d層・2c層から比較的多く出土している。遺構に伴う例としては、IIIa期の3号土坑、13号柱列、IIIb期の門跡2、5号柱列、IV期の1・2号土坑から出土している。機能としては、穴と溝を有する偏平な瓦(図88-153)と組み合わせ、交互に配置することで、塀に用いた可能性が考えられる。即ち、穴の開いている辺を棟側にして偏平な瓦を据え、隣に突起を下に向けた「T字瓦」を置く。「T字瓦」の突起は両側から偏平な瓦に挟まれ、2種類の瓦はブロック状に噛み合う形となる。この時「T字瓦」は斜めに切り落とされた辺が棟側にくる。この2種類の瓦の関係は、ちょうど丸瓦と平瓦の関係と同じで、丸瓦と平瓦が組み合うことで棧瓦が生まれたように、「T字瓦」と穴と溝を有する偏平な瓦が組み合うことで板塀瓦が生み出されたと考えられる。第5地点の場合、板塀瓦はIV期のものしか確認されておらず、III期以前の段階に、「T字瓦」と偏平な瓦が塀に用いられていた可能性は高い。

刻印のある瓦(図88・図89)

先に棧瓦の項で述べた「宮刻印」以外の刻印は、「紋様型」と「文字型」に大別できる。「紋様型」は、円や円の内部に四角、三角、丸などの図形を配置する。「文字型」には、漢字もしくは片仮名の1文字が使われる。文字の周囲を円や四角で囲うものと、文字だけのものがある。細片が多く、類型毎の出土点数も少ないことから、瓦の種類によって、刻印に違いがみられるのかなどの検討は難しい。刻印の押される部位との関係では、「紋様型」がいろいろな部位に見られるのに対して、「文字型」は側面に多い。出土層位からみて、「紋様型」が「文字型」より古く位置づけられる可能性が高い。

偏平な瓦(図87・図88-153)

偏平で、特に突起などを持たない板状の瓦である。溝と穴を有するもの、穴だけを有するもの、溝も穴も持たないものが存在する。溝と穴を有する偏平な瓦に関しては、先に、その大きさと形状から、仮称「T字瓦」と共に塀に用いられる可能性を指摘した。溝も穴も持たないタイプの瓦は、「海風瓦」と報告される瓦(東京大学遺跡調査室1990a)に類似している。

瓦加工品(図89-159)

偏平な瓦を長さ43mm、幅32mm、厚さ16mmの立方体に加工している。側面は丁寧に擦って仕上げられているが、表裏面はもとの瓦の表面のままである。一面に篆書で文字を刻んでいる。

(3) 木製品

整理作業の便宜上、木製品として一括したが、塗装製品や竹製品、植物繊維で編まれたものも含んでいる。箸・杭・加工木・木羽以外のなんらかの製品、もしくはその部材と考えられるものについては、保存処理の関係もあり、全て登録番号を付してある。観察表には資料化したもののみを記載しており、番号が抜けるものが多いのは、このためである。

杭・加工木・木羽は集計のみで、図示したものはない。杭は、角杭と丸杭に分けて、点数を集計した。加工木は、板材・角材・丸材・細片に分類して集計した。横断面の短辺と長辺の比率が、おおむね1:2より大きいものを板材、それより小さいものを角材とした。北区18・19列のVII層、7号溝、15号溝などで多量に出土している。木羽は重量を計測して、集計した。北区18・19列のVII層において、大量に出土している。

【木簡】(図90～94、図版52～54、表34)

23点出土している。1点だけ竹に線刻で字を刻んだものがあるが、これもここに含めている。他に、墨痕のある削り屑と考えられるものが3点出土している。1がIV期の2号柱列の柱穴2から、23がK-20区の⑥層から出土している以外は、全てK-18・19区(基礎9区)のVII層とVI層からの出土である。

形態と記載内容から、ほとんどが荷札として使われたと考えられるものである。このうち、年代のわかるものが4点ある。2が元禄4年(1691年)、9は「未ノ閏八月」とあることから同じく元禄4年である。18も元禄年間と考えられる。1は享保11年(1726年)であるが、出土遺構は明治期のものである。

【櫛】(図94、図版56、表35)

5点出土しており、いずれも元禄年間かそれ以前の層・遺構からの出土である。92・98・134が白木の櫛で、69は全面黒漆塗り、135にも黒漆が痕跡的に残っている。観察表の法量は、aが横の幅、bが縦の長さ、cが縦の長さの内、歯の部分を除いた長さである。()内は残存値である。

【箸状木製品】(図95、図版55、表36)

第5地点から出土した箸状木製品は、両端の残る完形資料が215点、一方の端のみ残存する資料が485点ある。この算定基準に従えば、箸の個体数は最小で458本、最大で700本となる。他の木製品同様、北区18・19列のVII層に集中しており、449点が出土している。それ以外にも南区の3層、3b層、3b層上面ゴミ層などでの出土が目立ち、大部分が二の丸が拡張される18世紀初頭以前に位置づけられる資料である。

出土した箸状木製品の個体数を算出しそれらの特徴を抽出する目的で、両端もしくは一方の端が残っている資料700点を対象に属性の観察を行った。観察の項目は、長さ(完形品のみ)、

最大径、先端の形状、整形の度合、被熱・炭化の有無などである。

先端は、特に加工を加えず切断面を残すもの(A類)、先細りに作り出すが切断面が残るもの(B類)、先端を尖らし切断面を残さないもの(C類)、ヘラ状に作り出すもの(D類)の4類型が認められた。完形品の観察の結果、両端形状の組合せは8類型が確認された。その内訳は、AA類181点、AB類11点、AC類7点、BB類6点、BC類1点、BD類6点、CC類1点、CD類2点で、AA類が圧倒的に多い。一方の端のみ残存している資料でも、A類413点、B類54点、C類18点、D類0点となりA類の比率が極めて高い。文献に残された箸の名称との対比では、AA類、AB類、BB類、BD類が寸胴箸に、AC類、BC類、CD類が片口箸に、CC類が両口箸にそれぞれ相当し、寸胴箸204点、片口箸10点、両口箸1点となる。

長さとの関係では、AA類が平均235mm、同じくAB類250mm、AC類160mm、B類258mm、BC類240mm、BD類236mm、CC類108mm、CD類236mmとなる。名称別の分類に従えば、平均長はそれぞれ寸胴箸237mm、片口箸183mm、両口箸108mmとなる。

本遺跡では、長さ約8寸で、断面略円形の、整形痕を残した寸胴箸が最も一般的であると見える。本田総一郎によれば、儀式や祭礼など非日常的なハレの席では長さ8寸以上の中太両細の箸を用い、日常的なケの食事には男性7寸半、女性7寸の片太片細の箸が用いられたという(本田1978)。また本遺跡出土の箸状木製品にみられる傾向は、東京大学本郷構内医学部附属病院地点の池跡から出土した箸(萩尾1990)ともよく符合している。萩尾によって池跡出土の箸は寛永6年(1629年)の将軍家光御成の際の宴会で用いられた可能性が指摘されている。第5地点出土の箸状木製品の大部分を占める17世紀末・18世紀初頭の資料についても、南側に隣接する二の丸で執り行われた宴会で使われ、西屋敷廃絶後荒地となっていた庭園の窪地に廃棄されたと考えられる。

【下駄】(図96~98、図版56・57、表33)

15点出土しており、全てを資料化した。33がI期あるいはII期の時期であるほかは、全てII期の元禄年間の層位から出土している。そのうち北区VII層出土のものが半数以上を占める。一木から台と歯を切り出した連歯下駄、別材で作った台と歯を組み合わせた差歯下駄、歯をもたない無歯下駄に大別できる。差歯下駄はいずれも、台の表に歯のほぞが露出する露卯差歯下駄である。無歯下駄は、中程で前後に分かれる無歯中折り下駄である。それぞれ、台の形態で、角型、丸型、長円型に分けた。

【その他の木製品】(図99~101、図版58~60、表37)

上記以外のものを、その他の木製品としたが、これも元禄年間の北区18・19列のVII層からの出土が大半である。これら以外のものも、元禄年間かそれ以前の層・遺構から出土したものがほとんどである。

図99に示したのは、桶や曲物の部材と考えられるものである。103・194・105は桶の側板の取っ手の部分、84は桶の蓋であろう。その他のものは、曲物の底板、もしくは蓋と思われるものであるが、厚さや大きさは様々である。薄いものには、提灯の底板の可能性もある。82には、黒色の樹脂状の付着物が残っており、部分的に側板が残っている。127にも黒色顔料の痕跡が残っており、横にえぐり込みがみられ、これに直角の方向に小孔が開けられている。91・108・110には、中心に小孔が開けられ、91は端近くにも小孔がある。108・110には、端近くにも小孔が開けられ、樹皮が通されている。

図100に示したのは、ある程度用途の推定されるものである。85・100・101・102は杓と考えられるもので、112は戸車であろうか。88・93はへらで、113・114・123は、大きさは大小あるが、いずれも一方の端を薄くしたクサビ状のものである。95は小刀などの把木と思われるもので、目釘孔が把縁近くにある。また、把縁付近に黒色顔料の痕跡が残る。94はピット453から出土した白木の椀で、保存状態が悪く凶化しなかったが、同様のものがもう1点同じピットから出土している。89は刷毛で、柄の片面に焼印が押されている。

これら以外の用途不明のものを図101にまとめた。115・124は、先端を尖らせた杖状のものであるが、下端近くに竹製もしくは木製の釘が刺さる。78・129は竹を加工したものである。脆弱で土ごと取り上げているため凶化はできなかったが、写真図版60の80は竹を編んだもの、81は草履のようなものである。

【漆塗製品】(図102・103、図版60・61、表38)

第5地点から出土した漆塗製品には、椀(身・蓋)22点、盥足1点、櫛2点、不明17点がある。このうち櫛については別項で白木の櫛とともに触れている。漆塗製品も他の木製品と同様、北区VII層に多い。

漆椀には、A類：浅めで高台の低いもの(図102-50・57・58、図103-54・71)、B類：深めで腰が張り高台の高いもの(図102-53・68、図103-43・47・59・66)、C類：深めで高台から直線的に立ち上がるもの(図103-42)の3種類が認められる。B類は全て高台内の削りが浅く、高台内を半球状に深く削るものは存在しない。B類には口縁部が直立気味のもの、外反するもの、体部に稜線が1条めぐるのが見られる。装飾との関係では、A類、B類どちらにも内面朱・外面黒、内外面黒、内外朱の3タイプがあり、A類では内外朱、B類では内外黒が多い。内外黒漆塗のB類には朱漆で花菱、葛、烏などの文様が見られる。椀の文様は全て黒地に朱もしくは金で描かれ、朱地に描かれる例は認められない。C類は1点だけであり内外ともに黒漆である。高台内に人名と考えられる文字を有する資料も比較的多い。これらの漆椀は、中興新段階の遺構から出土した資料(図103-54)を除き二の丸拡張の元禄年間以前に位置づけられ、大部分は17世紀末から18世紀初頭の資料である。器形の組合せや形態等の全体的な様相は、増

上寺子院群遺跡や旧芝離宮庭園遺跡等の江戸遺跡における当該期の資料と共通する。

躰足(図103-055)は北区VII層から出土しており、17世紀末から18世紀初頭の資料である。外面に朱、内面に黒の漆が塗布されている。

(4) 金属製品

金属製品は、鉄製品が多くを占める。鉄製品の内、釘以外のほとんどは、用途の判明しない部材である。鉄製の釘は、和釘と洋釘に分けて集計した。明治期の2 a層から比較的多く出土しているが、それ以外で、特に集中して出土している場所はない。

【古銭】(図104、図版62、表39)

雁首銭1点を含めて、43点出土しており、全てを資料化した。その内36点と、ほとんどが寛永通宝である。

【煙管】(図105、図版63、表40・41)

吸口11点、雁首21点の、計32点が出土している。雁首の保存状態が悪いもの1点を除く、31点を図化した。分類は、古泉弘氏の編年研究(都立一橋高校内遺跡調査団1985)を参考に、江戸遺跡から出土している資料をも考慮して行った。なお部分名称については、たばこ塩の博物館編集の「させる」(同博物館編1983)に依拠した。

雁首は、全体の形状から4類型を設定した。I類としたものは、首部に肩がつく形式(肩つき)である。本類は脂返しの形状により、脂返しがいったん下方へ大きく弯曲するもの(IA類)と下方へは弯曲しないもの(IB類)に細分される。いずれも首部は上方には大きく弯曲する「河骨形」である。II類としたものは、首部が1本の管で製作されており、肩の接合されない形式である。本類も脂返しの形状により、脂返しが上方に大きく弯曲し河骨形になるもの(II B類)と、脂返しが大きく弯曲せず首部が火皿から比較的急に取り付くもの(II C類)に細分される。出土点数は、IB類1点、II B類13点、II C類2点、II B、II Cの区別不明なもの1点、形式不明4点で、IA類は出土していない。全体形状とは別に、火皿に関しても形状分類を行い4類型を設定した。I類としたものは、火皿の深さが口径の半分以上であり、火皿後方に小孔をもつ1 a類と小孔のない1 b類に細分される。2類としたものは、火皿の深さが口径の半以下であり、1類同様、火皿後方の小孔の有無により2 a類と2 b類に細分される。1 b類が最も多く、全体形状との関係では、全ての類型に1 b類が存在する。火皿の接合については、火皿と首部の接合部に補強帯をもつ(1類)、火皿と首部の接合部に補強帯をもたず接合面はほぼ水平になる(2類)、火皿と首部の接合部に補強帯をもたず接合面は水平でない(3類)の3類型が認められた。首部は銅板を管状に折り曲げて作られているが、板の合わせ目はラウ側からみて左側にくるものが多い。21点中、5点に鍍金が認められた。

吸口は、全体形状から5類型を設定した。I類は径の異なる2本の円筒から肩と狭義の吸口を別個に製作するもので、1本の管から作られるものをII類とした。I類は、肩と狭義の吸口を接合する際に円板をもって径の差を埋めるもの(I A類)、肩の後部をすぼめ比較的緩やかに狭義の吸口を接合するもの(I B類)、形態上接合部に段を有していないもの(I C類)の3類型に細分される。II類は、形態上は肩と狭義の吸口とが分離しているII A類と、形態上も製作上も肩をもたないII B類に細分される。出土点数は、I B類1点、II A類1点、II B類7点、形式不明2点で、I A類やI C類は出土していない。11点中、7点に鍍金が認められた。47は「水口煙管」と呼ばれるものである。全体にかなり形の崩れた桐の文様と筋が彫刻され、肩の部分には「水口」・「吉久」の文字が刻まれている。形態や退化した文様から判断して、本資料は「水口煙管」のなかでも新しい部類と考えられる。出土層位からは、17世紀後半以前の可能性が高い。

【その他の金属製品】(図106、図版64、表42)

その他の金属製品では、銅製品を中心に、ある程度特徴が判明するものを資料化した。76~79は、I a期のピット387からまとめて出土したもので、全て鍍金されている。76は折り曲げられているが匙で、両端に大小の皿部を有し、柄の表面に蕨手状の列点文が配されている。79も折り曲げられているが、のぼすと長さ180cmほどとなるへらである。両端とも薄くなっており、また幅も両端近くが中程よりやや広がっている。用途は明らかではないが、その形態は、肩作り道具の「しんさし」と呼ばれるものに似ている。77・78は薄板を曲げて筒にしたもので、77は一端が閉じられ、キャップ状となっている。その大きさや形態から、77が筆のようなもののキャップで、78が筆などの縁にまいた鍍金のようなものになる可能性が考えられる。81はかんざしなどの装飾品の部材であろう。87もかんざしの部材の可能性はある。89は火打ち金で、えぐり込まれた部分に木製の握りが付くと考えられる。96は2本まとめて出土した鉄製の箸で、火箸と思われる。また、小片のため図化しなかったが、背面に魚々子文様を打ち出した鏡も出土している。

(5) 石器・石製品

【石器】(図107、図版65、表43)

石鏃・ブレード・チップが合計9点出土している。石材は頁岩・鉄石英・メノウ・流紋岩がある。いずれも近世以降の遺構埋土・整地層からの出土である。これまでの二の丸跡での調査では、4次調査(年報5)で石器や縄文土器が出土しており、遺構が検出されたことは無いものの、縄文時代の遺跡が周辺に存在している可能性が考えられる。

【石製品】(図107、図版65、表43)

ほとんどが、硯もしくは温石の破片と考えられる、整形痕のある粘板岩などの板状の破片である。これら以外で、ある程度特徴が判明するものを資料化した。S 7 は水晶で、両端につぶれたような使用痕跡が認められるため、火打ち石であると判断した。S 4 は図化できなかったが、I b 期のビットからまとまって出土した雲母片で、明確ではないが、端部に、直線的に切断されたような状態を呈するものがある。香をたく時に火の上におく銀葉（香敷）の可能性はあるが、やや大きすぎるため、確実ではない。

(6) 骨角製品（図107、図版65、表43）

亀甲製の簪の可能性のあるもの、2点のみの出土である。B 1 は保存状態が悪く図化できなかったが、簪の頭の飾りの部分と考えられる。B 2 は棒状の破片である。

(7) ガラス製品

ほとんどが明治以降のものである。江戸時代の遺構・整地層から出土しているものも若干あるが、混入の可能性が強く、確実に江戸時代のものと判断できるような資料はない。瓶類と板ガラスに大別し、そのなかで瓶類はビール瓶とその他のものに、板ガラスは通常のものと火熱を受け溶融したものに分けて集計した。

(8) その他の遺物

その他の遺物としたものは、全て明治以降のものである。ボタンに江戸時代の遺構出土のものがあるが、混入であろう。革製品は、ほとんどが軍靴と考えられるもので、出土地点不明のものを除くと、全てIV期の7号溝からの出土である。

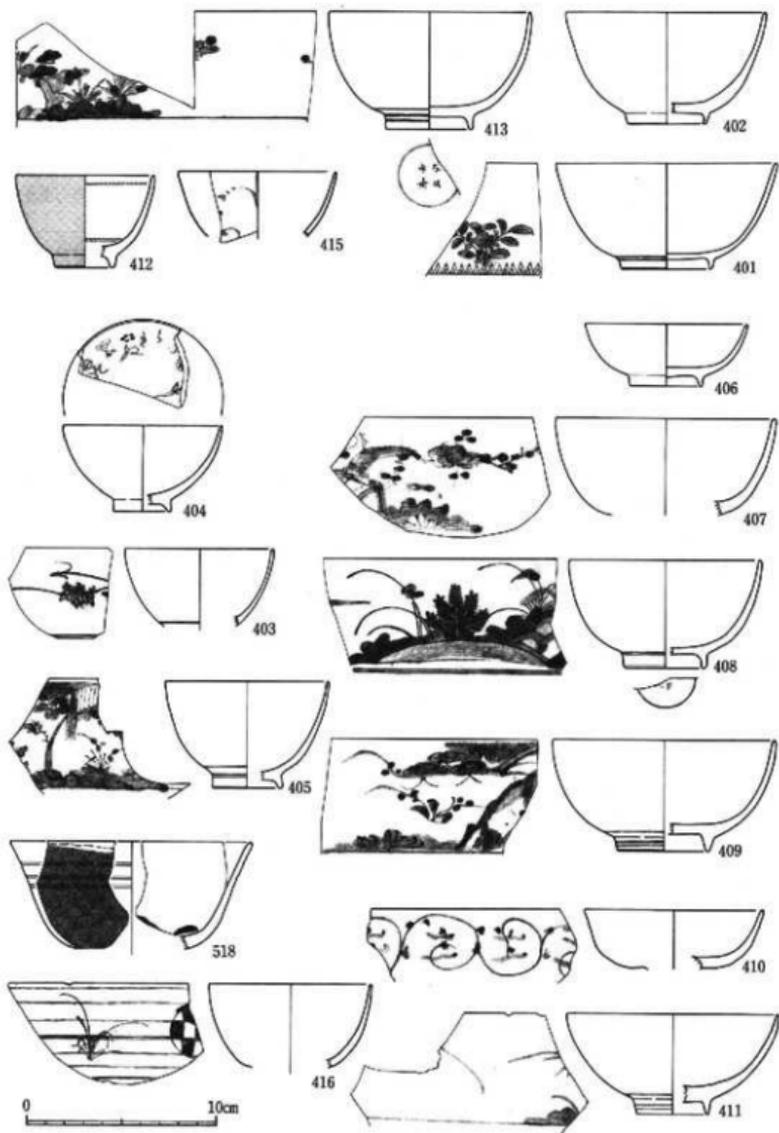


图42 第5地点出土磁器(1)
Fig. 42 Porcelains from NM5(1)

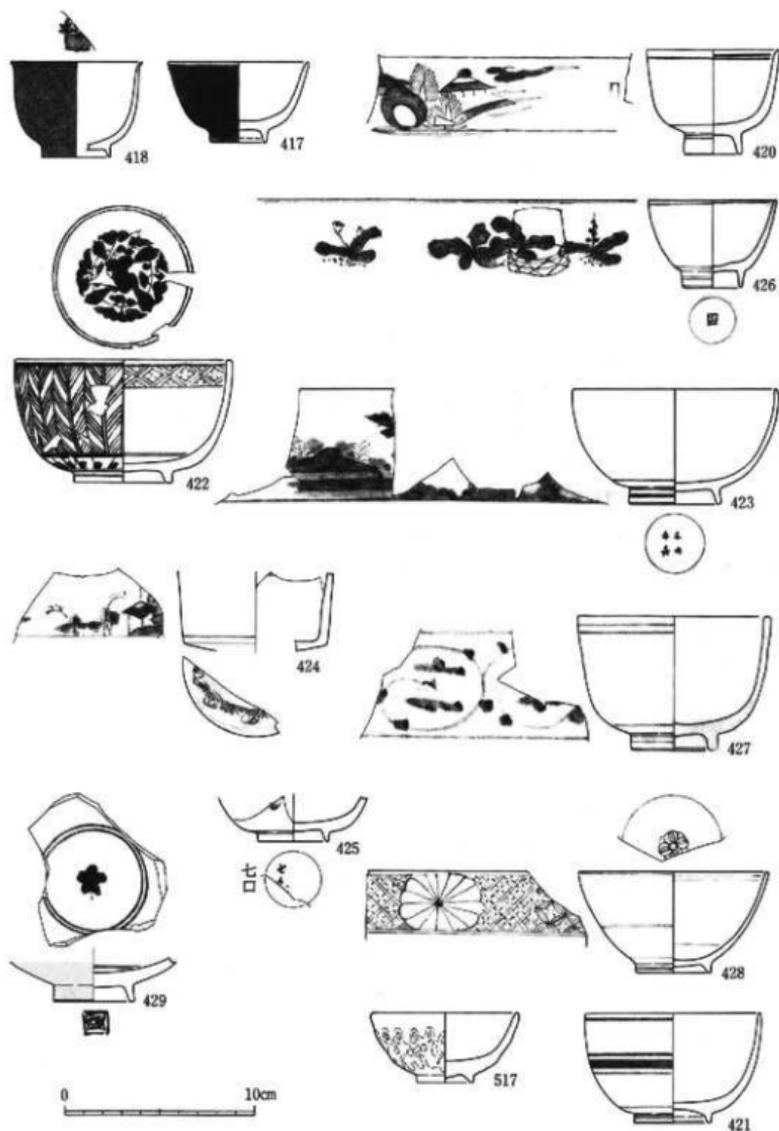


图43 第5地点出土磁器(2)
 Fig. 43 Porcelains from NM5(2)

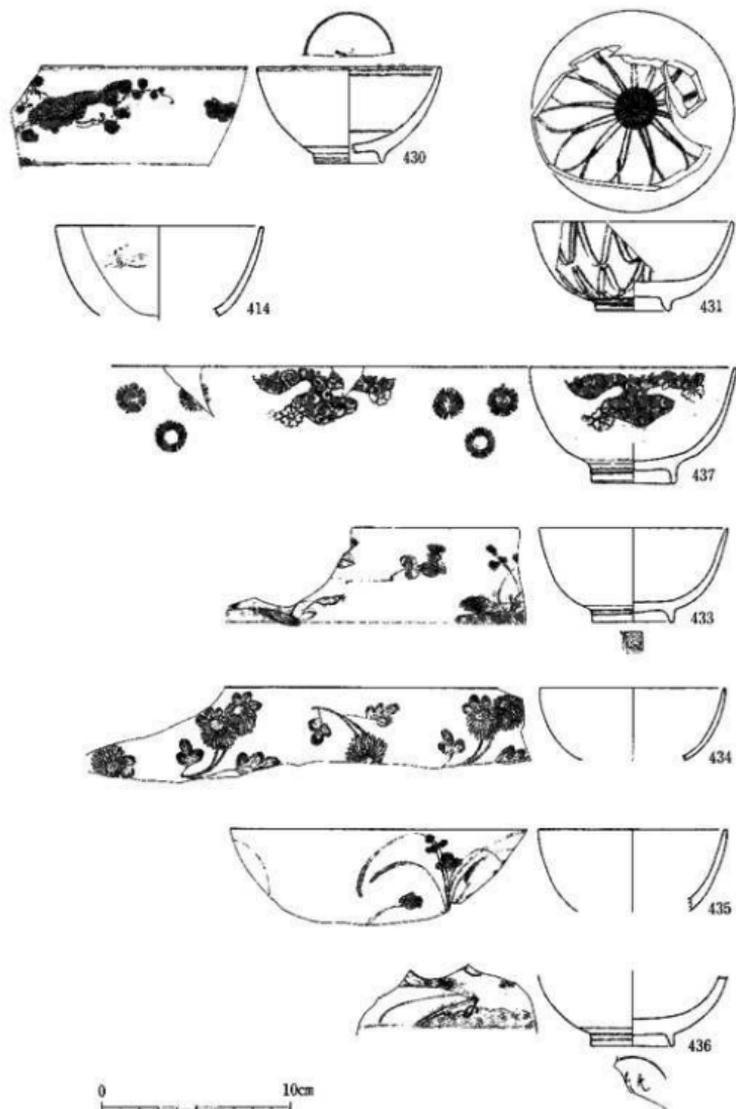


图44 第5地点出土磁器(3)
Fig. 44 Porcelains from NM5(3)

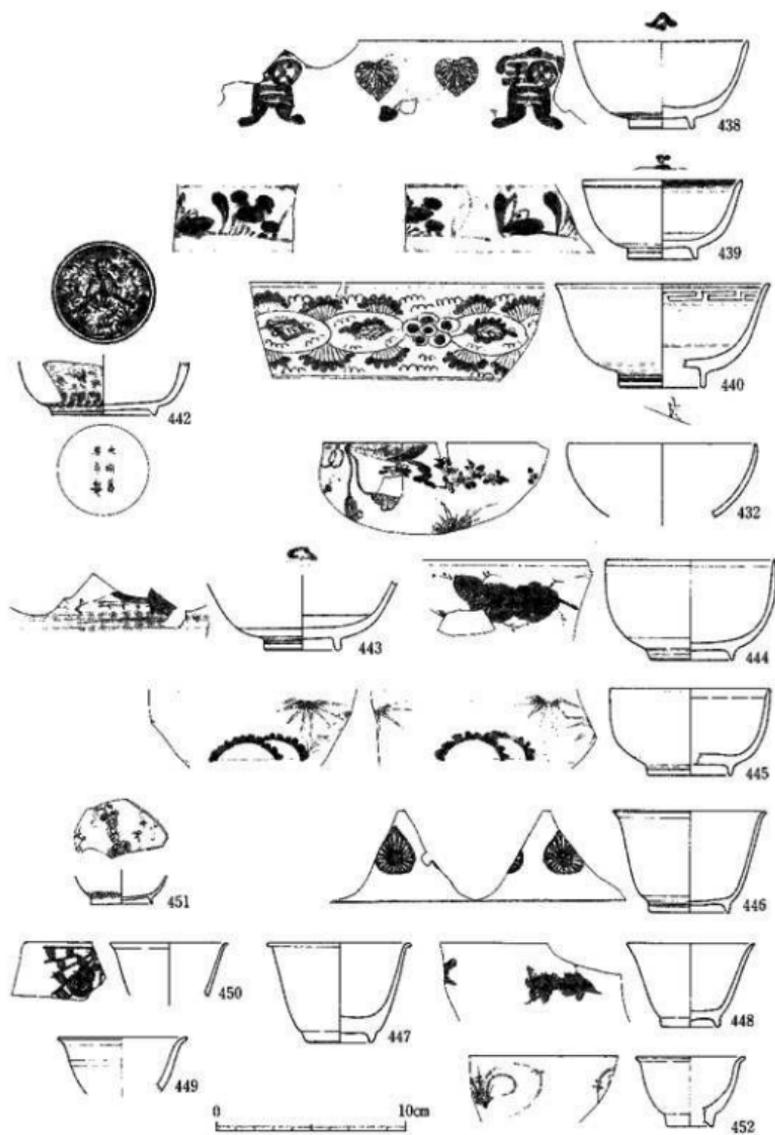


图45 第5地点出土磁器(4)
Fig. 45 Porcelains from NM5(4)

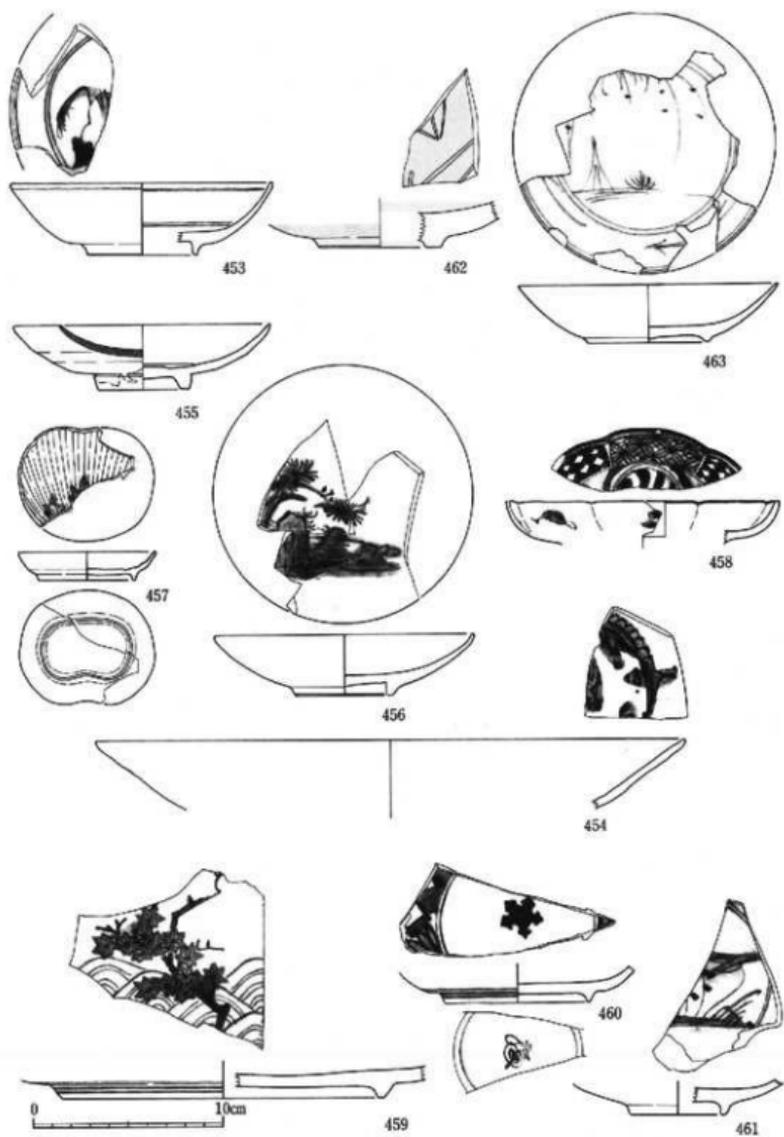


图46 第5地点出土磁器(5)
Fig. 46 Porcelains from NM5(5)

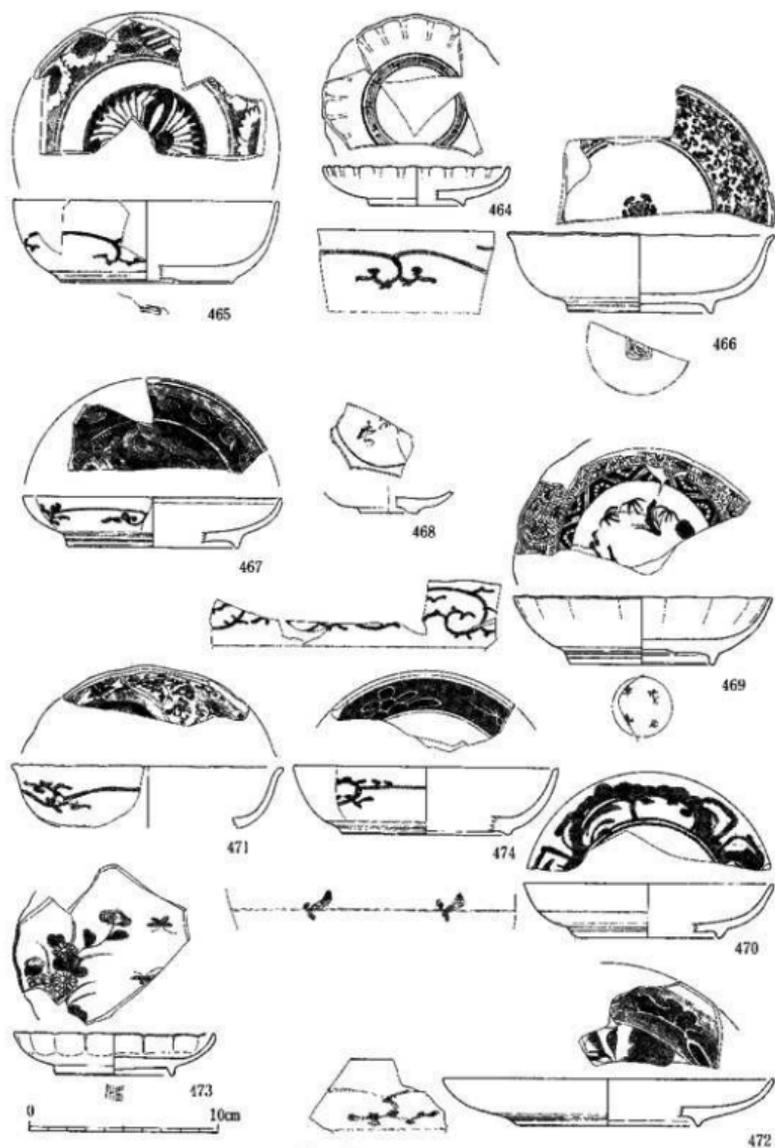


图47 第5地点出土磁器(6)
Fig. 47 Porcelains from NM5(6)

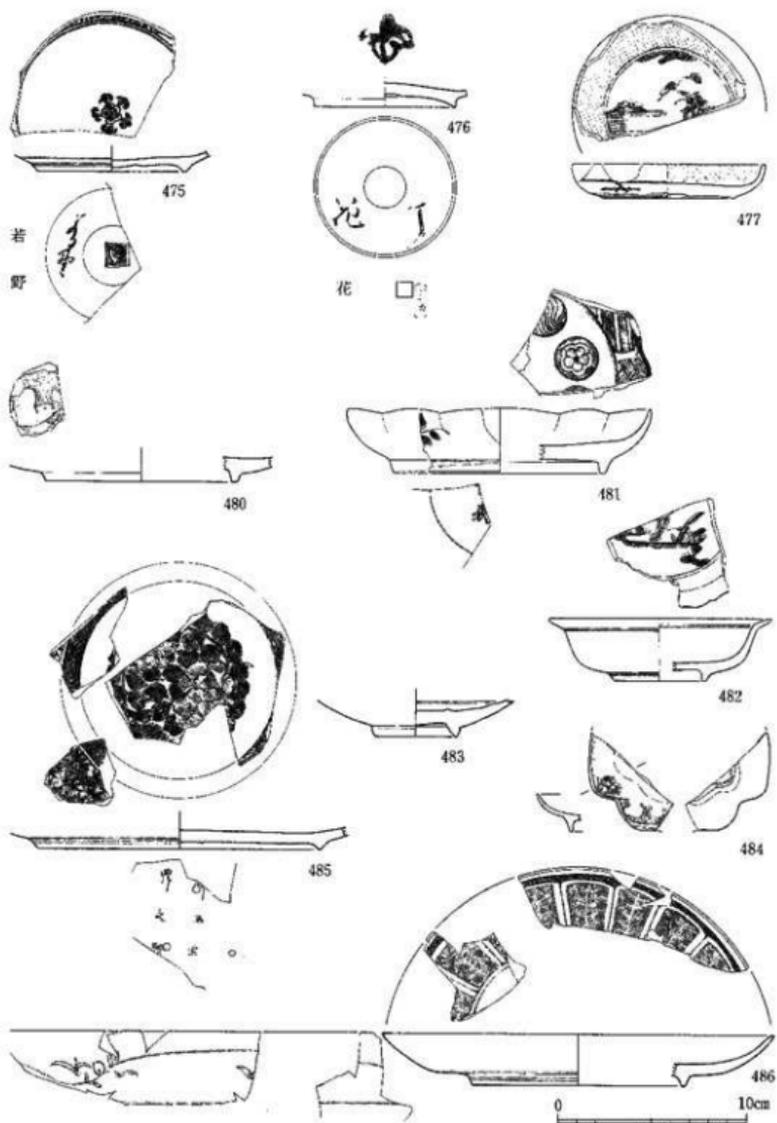


图48 第5地点出土磁器(7)
Fig. 48 Porcelains from NM5(7)

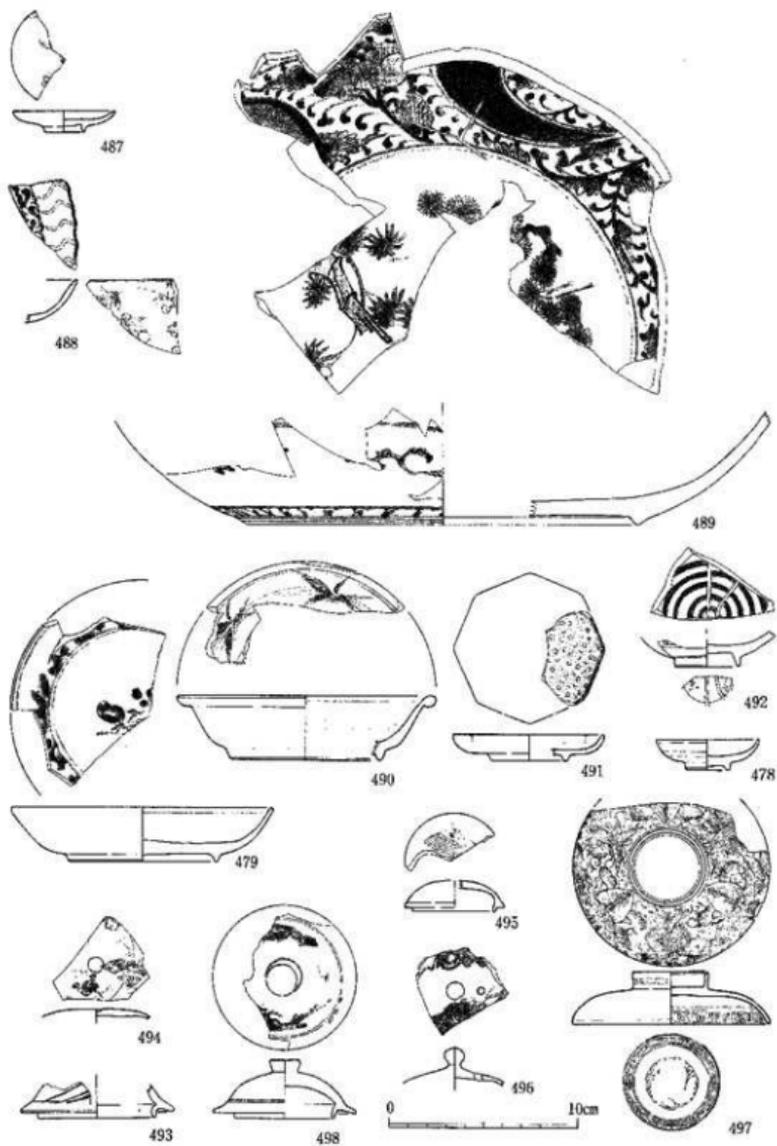


图49 第5地点出土磁器(8)

Fig. 49 Porcelains from NM5(8)

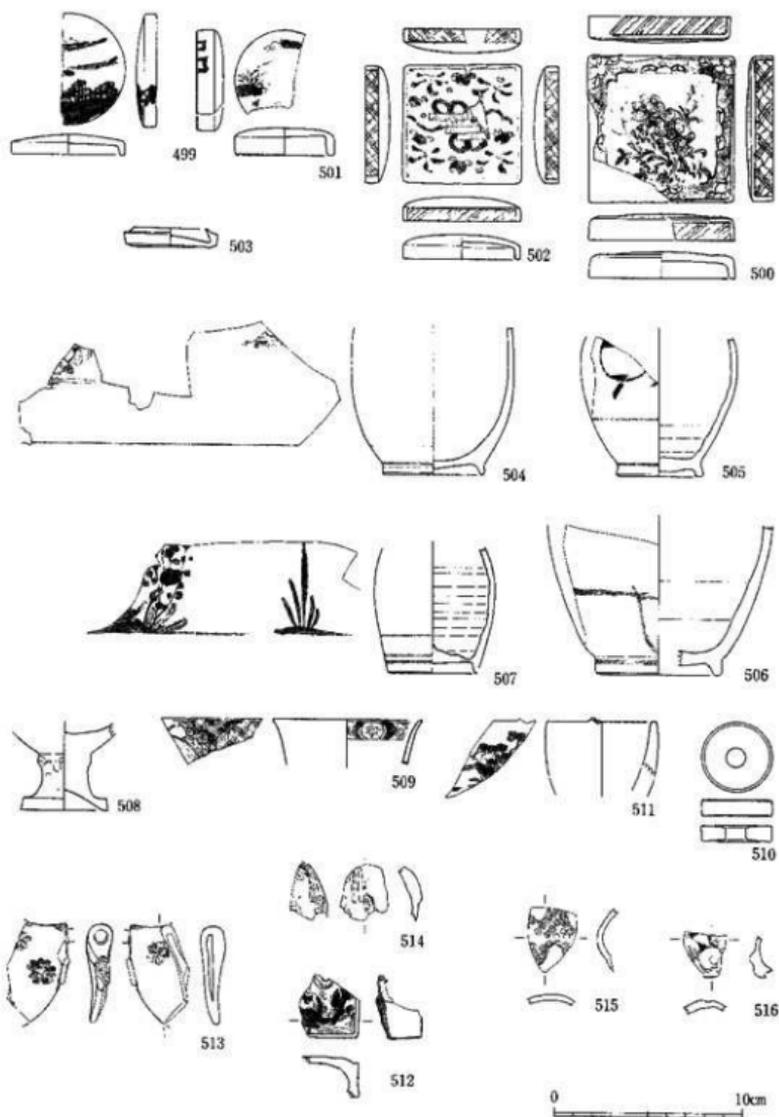


图50 第5地点出土磁器(9)
 Fig. 50 Porcelains from NM5(9)

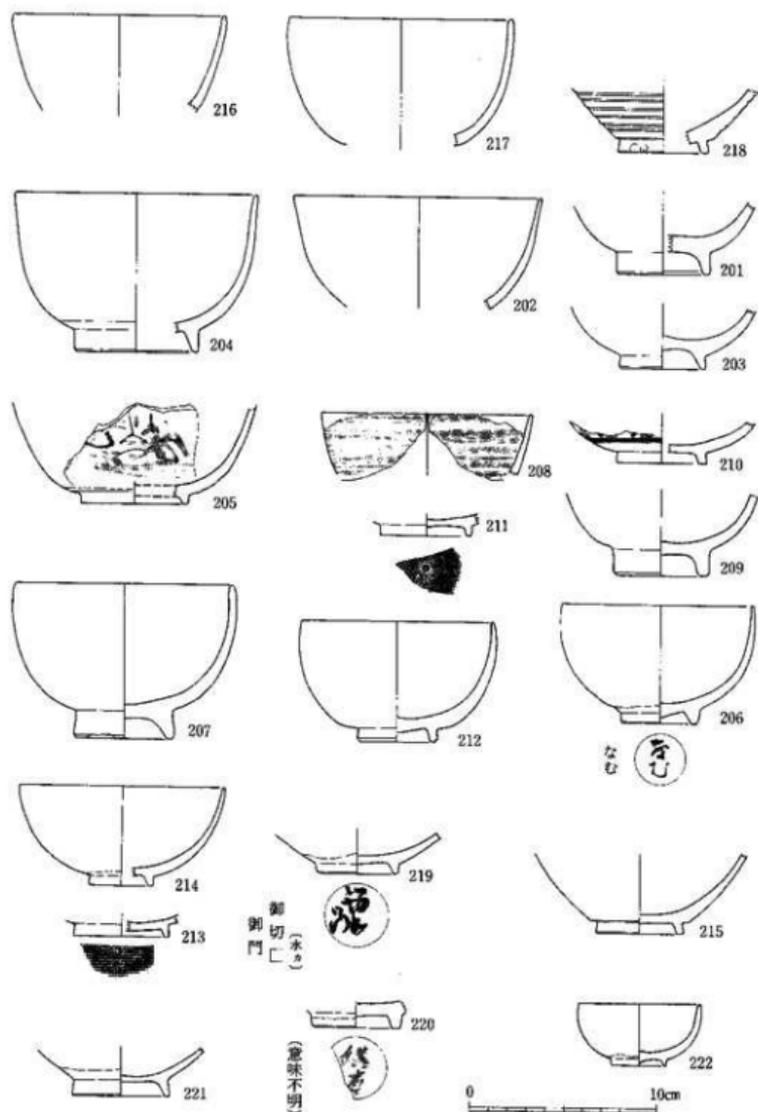


图51 第5地点出土陶器(1)
Fig. 51 Glazed ceramics from NM5(1)

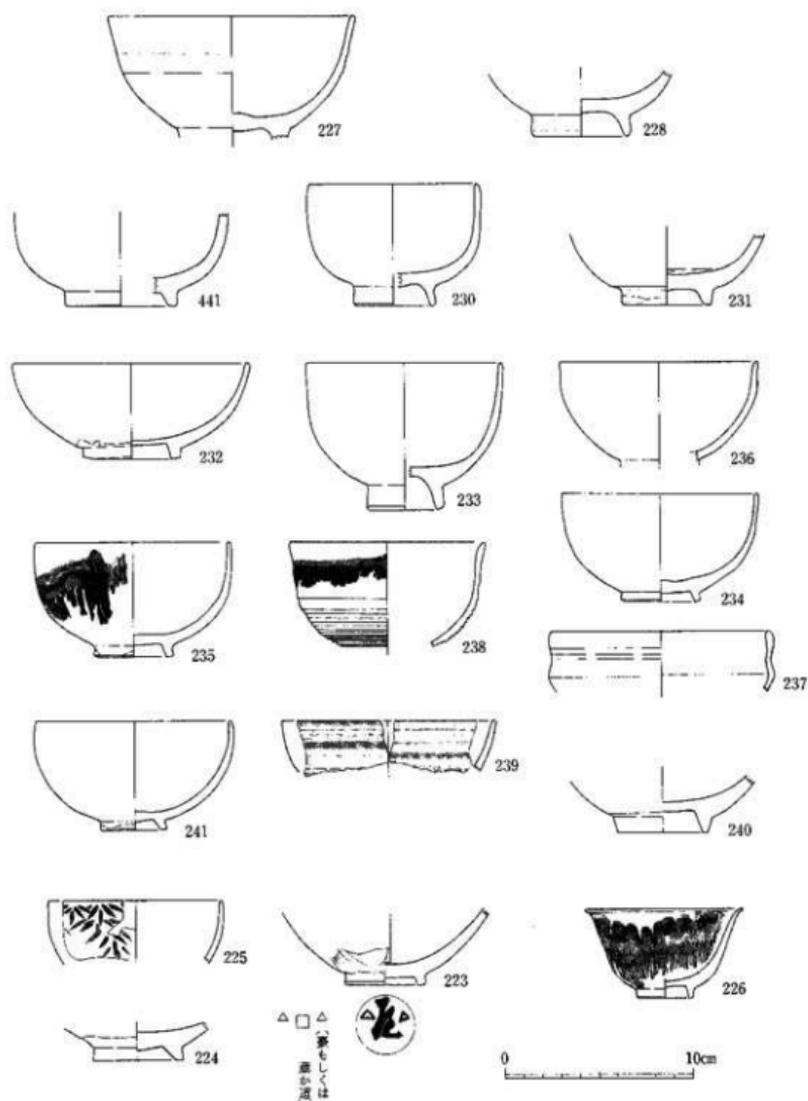


图52 第5地点出土陶器(2)
 Fig. 52 Glazed ceramics from NM5(2)

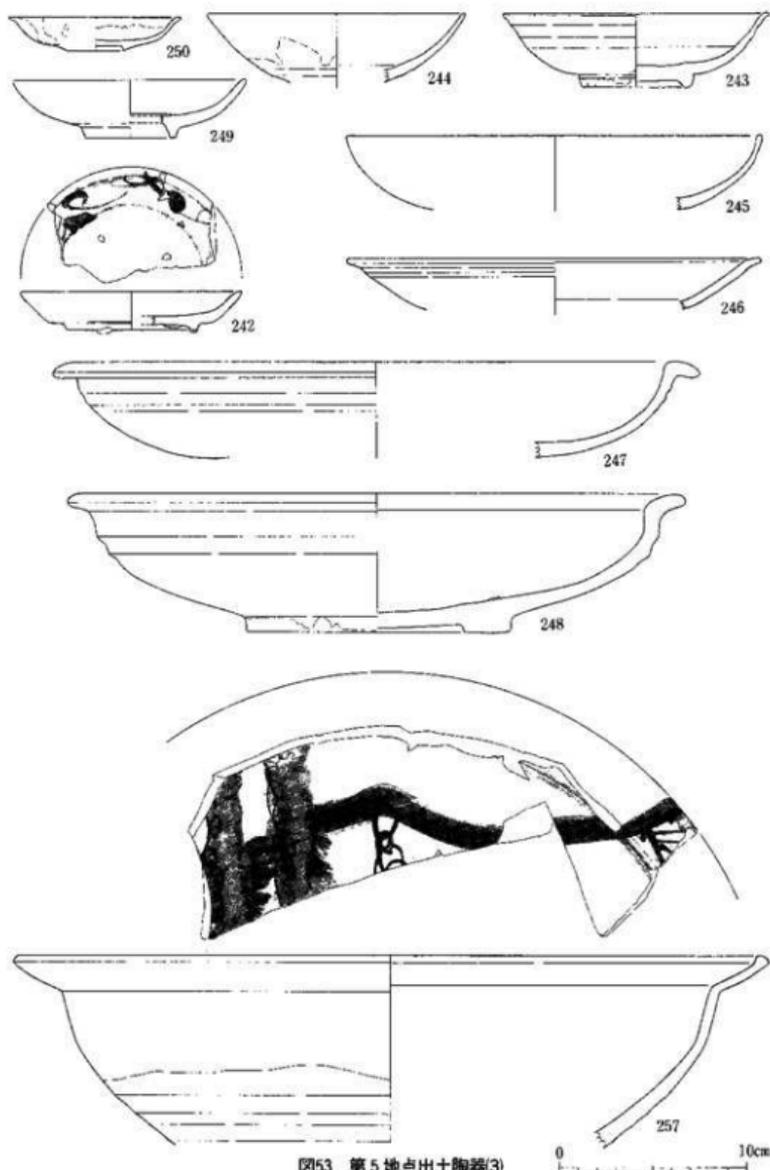


图53 第5地点出土陶器(3)
Fig. 53 Glazed ceramics from NM5(3)

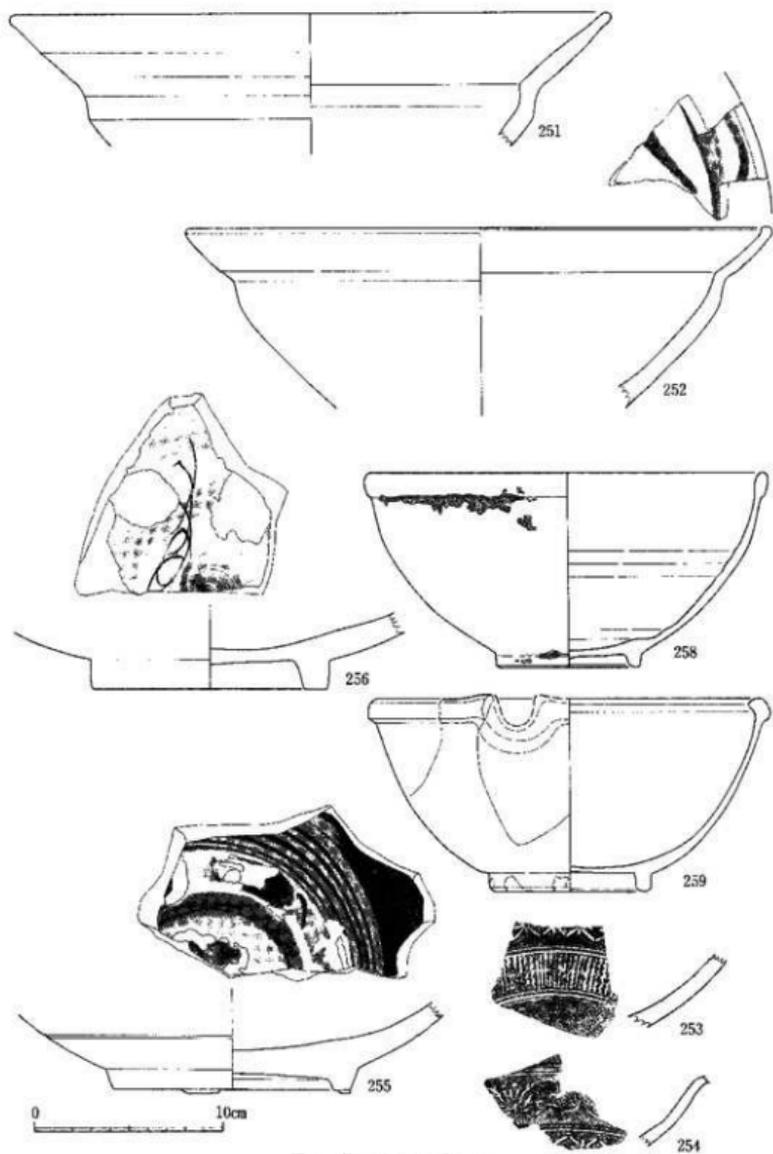


图54 第5地点出土陶器(4)

Fig. 54 Glazed ceramics from NM5(4)

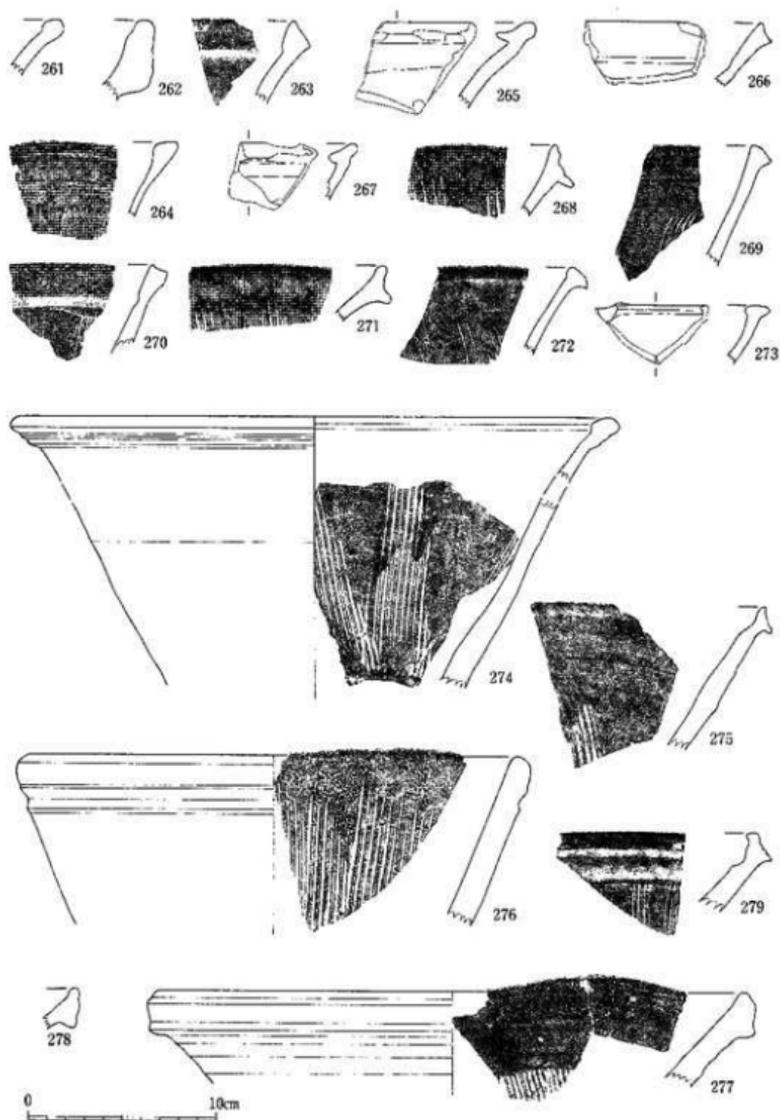


图55 第5地点出土陶器(5)
 Fig. 55 Glazed ceramics from NM5(5)

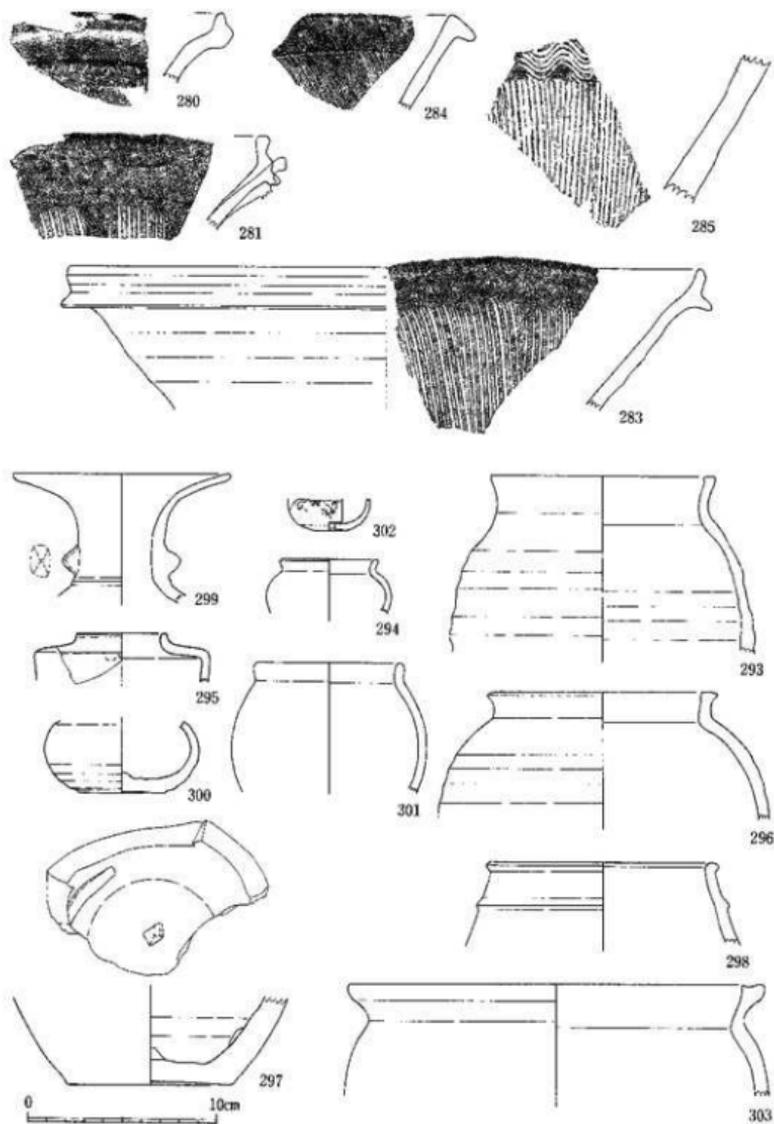


图56 第5地点出土陶器(6)
Fig. 56 Glazed ceramics from NM5(6)

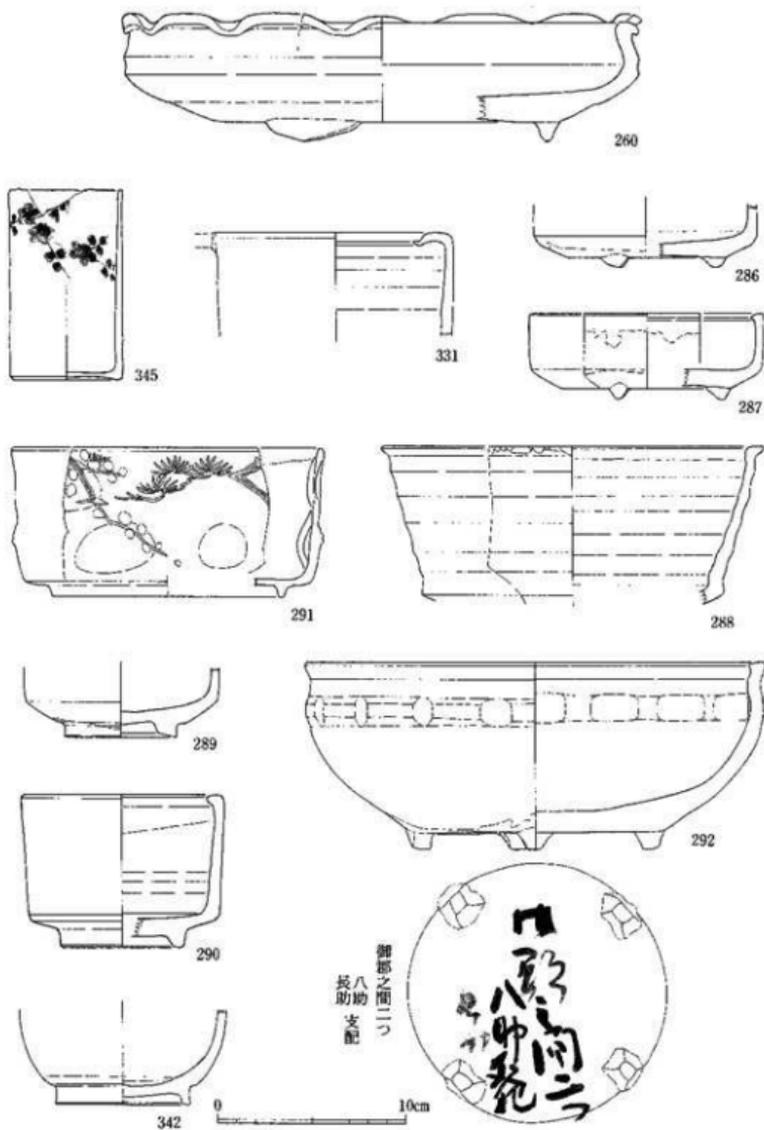


图57 第5地点出土陶器(7)
Fig. 57 Glazed ceramics from NM5(7)

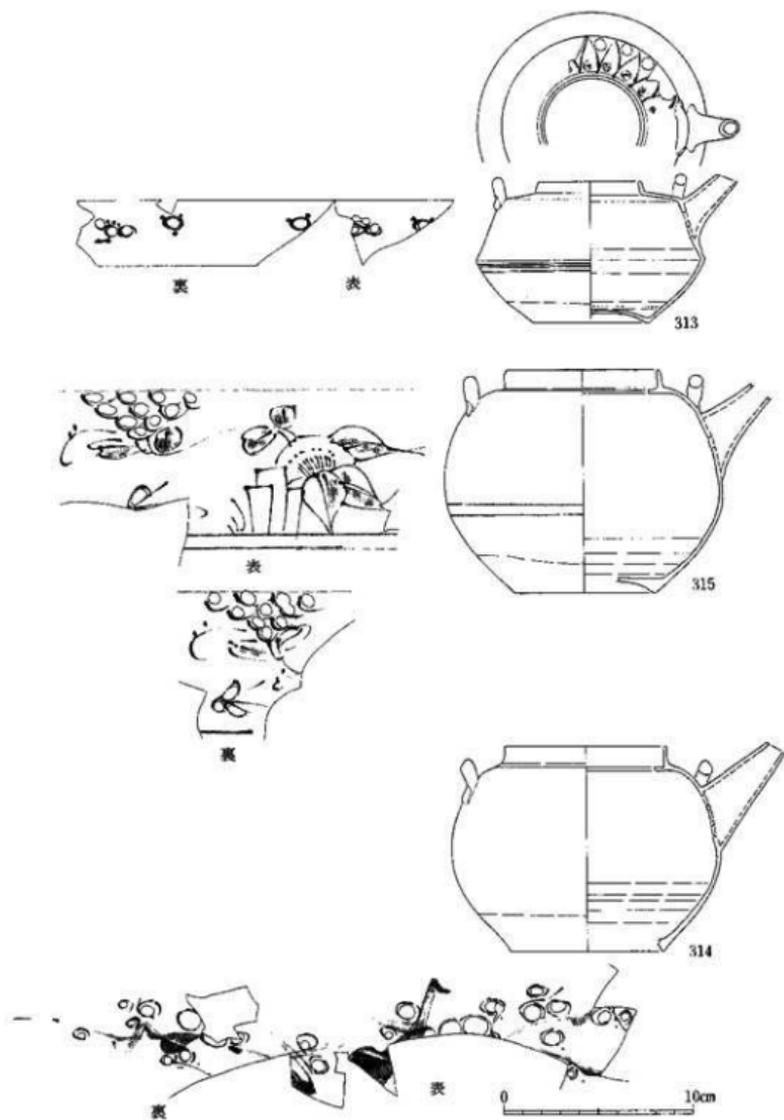


图58 第5地点出土陶器(8)

Fig. 58 Glazed ceramics from NM5(8)

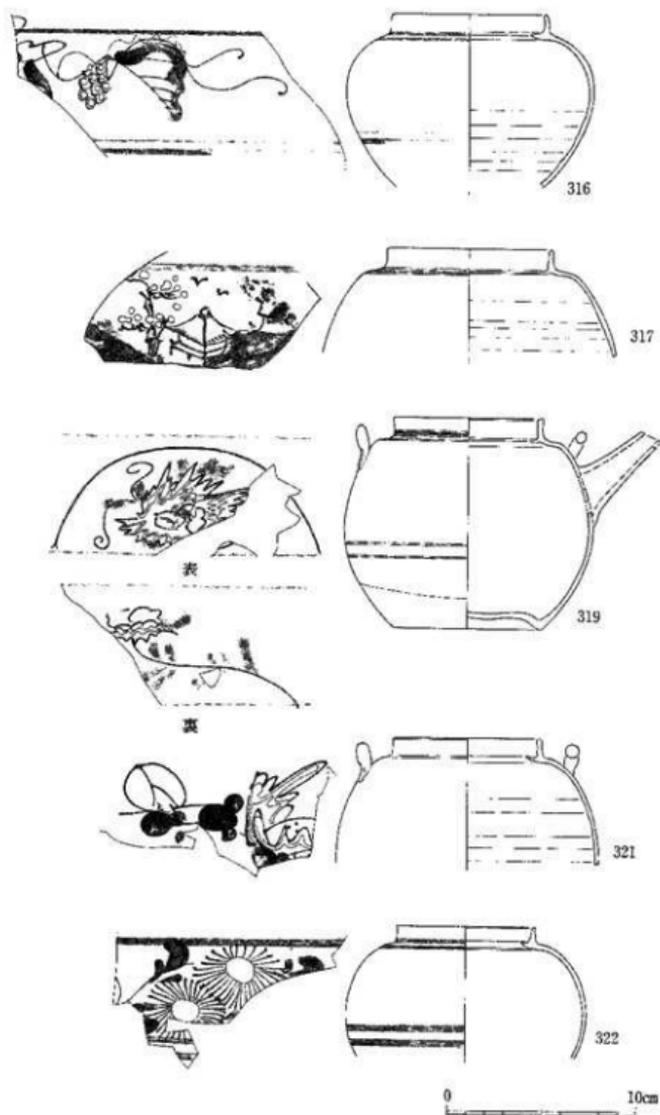


图59 第5地点出土陶器(9)
Fig. 59 Glazed ceramics from NM5(9)

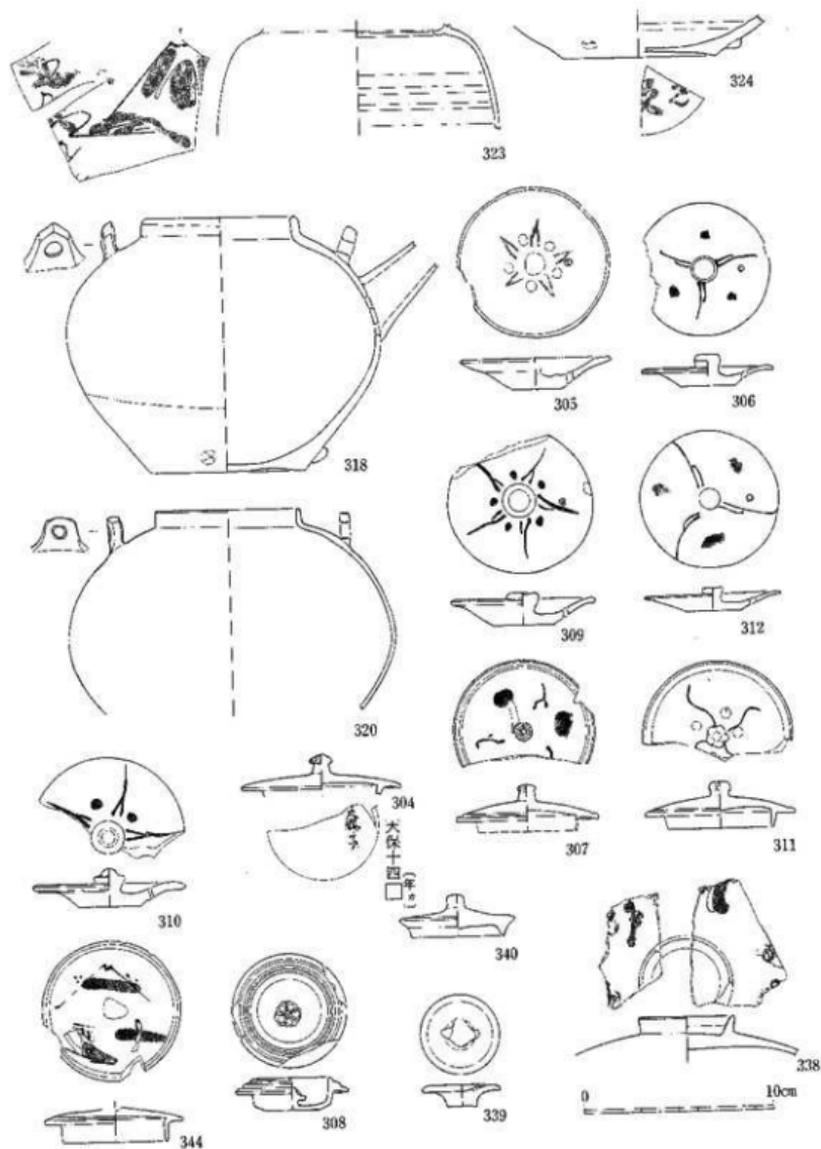


图60 第5地点出土陶器(10)
Fig. 60 Glazed ceramics from NM5(10)

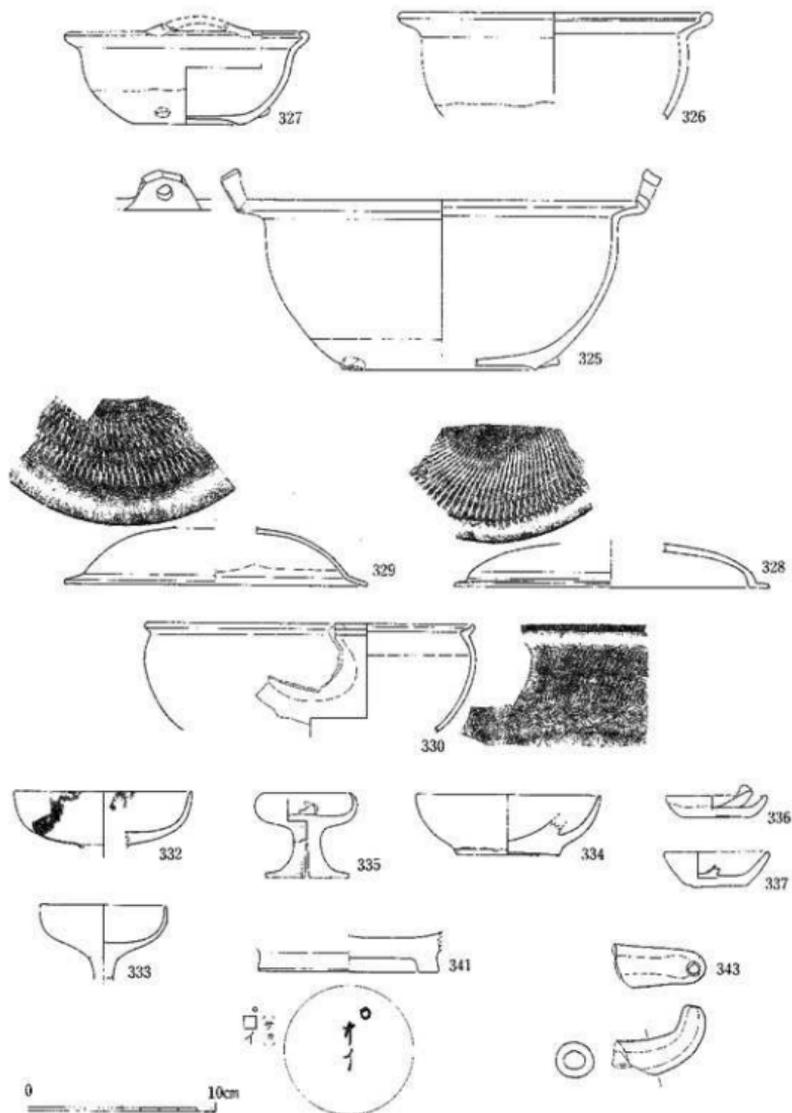


图61 第5地点出土陶器(11)
Fig. 61 Glazed ceramics from NM5(11)

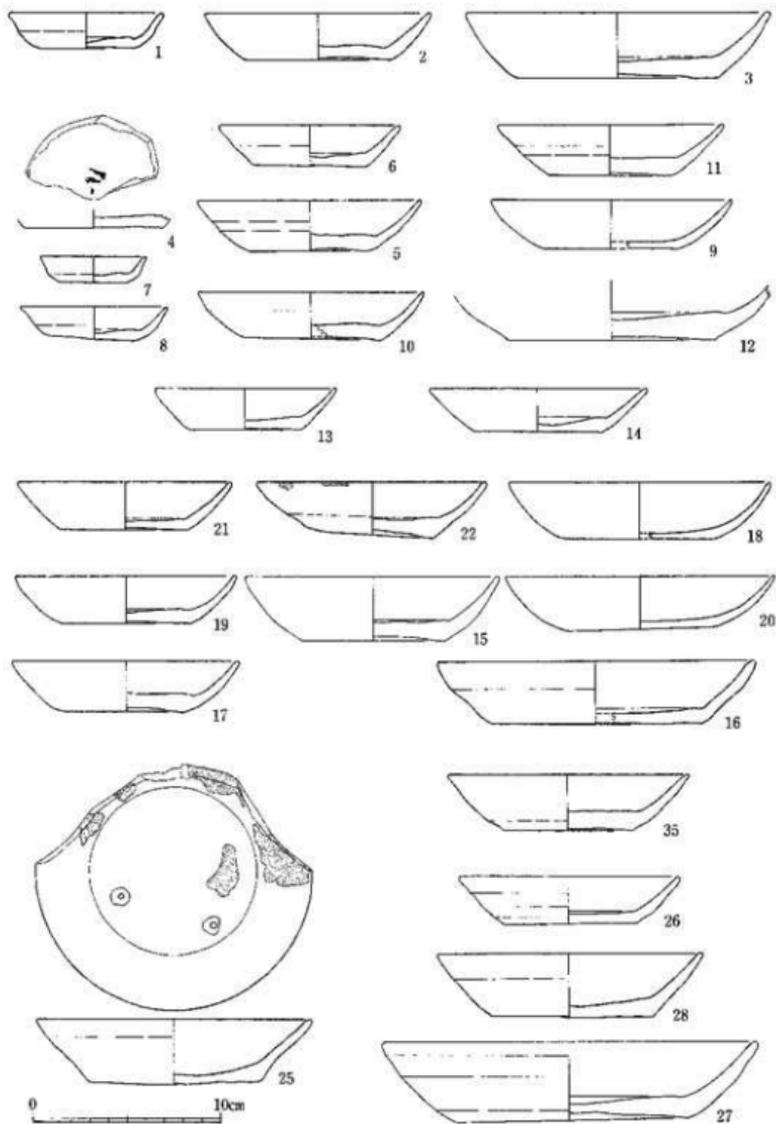


图62 第5地点出土土器(1)
Fig. 62 Ceramics from NM5(1)

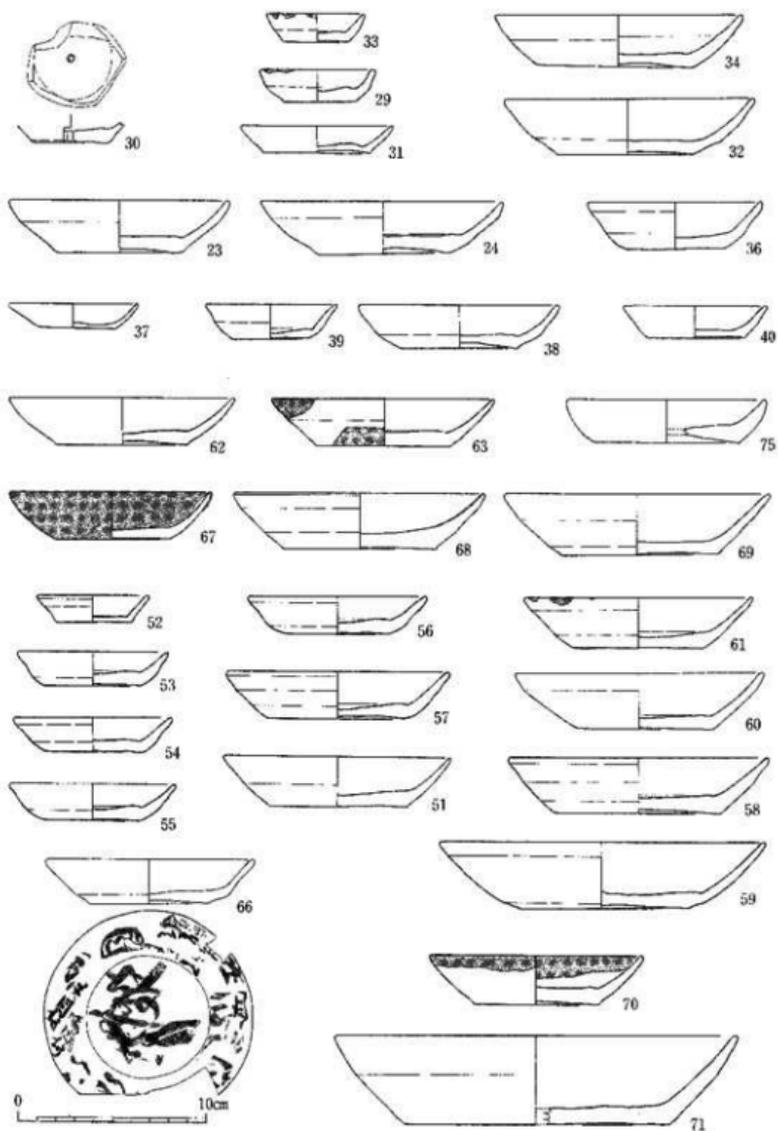


图63 第5地点出土土器(2)
Fig. 63 Ceramics from NM5(2)

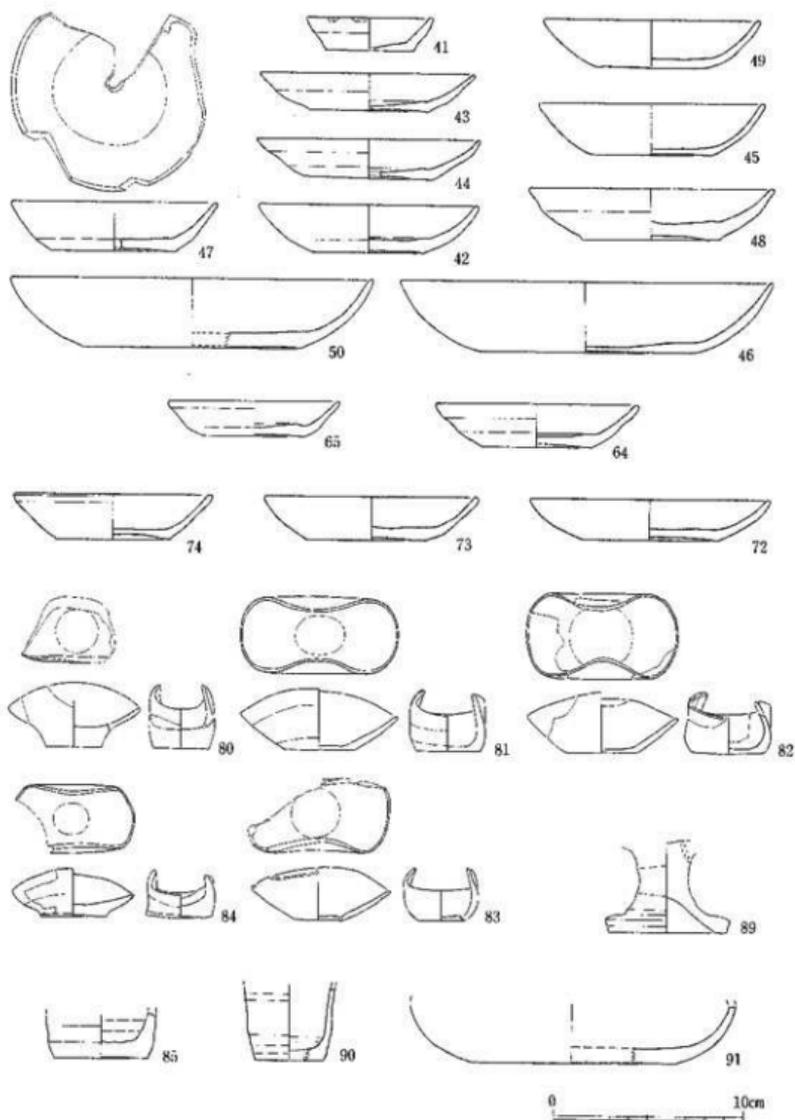


图64 第5地点出土土器(3)
Fig. 64 Ceramics from NM5(3)

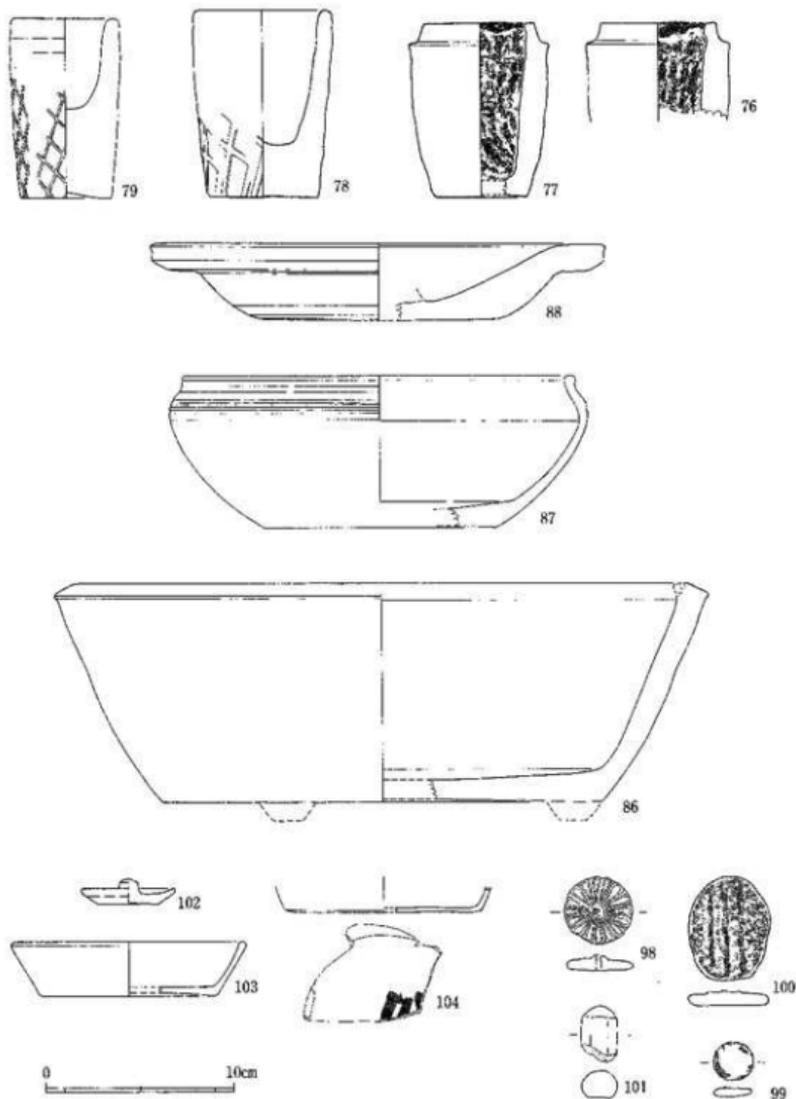


图65 第5地点出土土器(4)
Fig. 65 Ceramics from NM5(4)

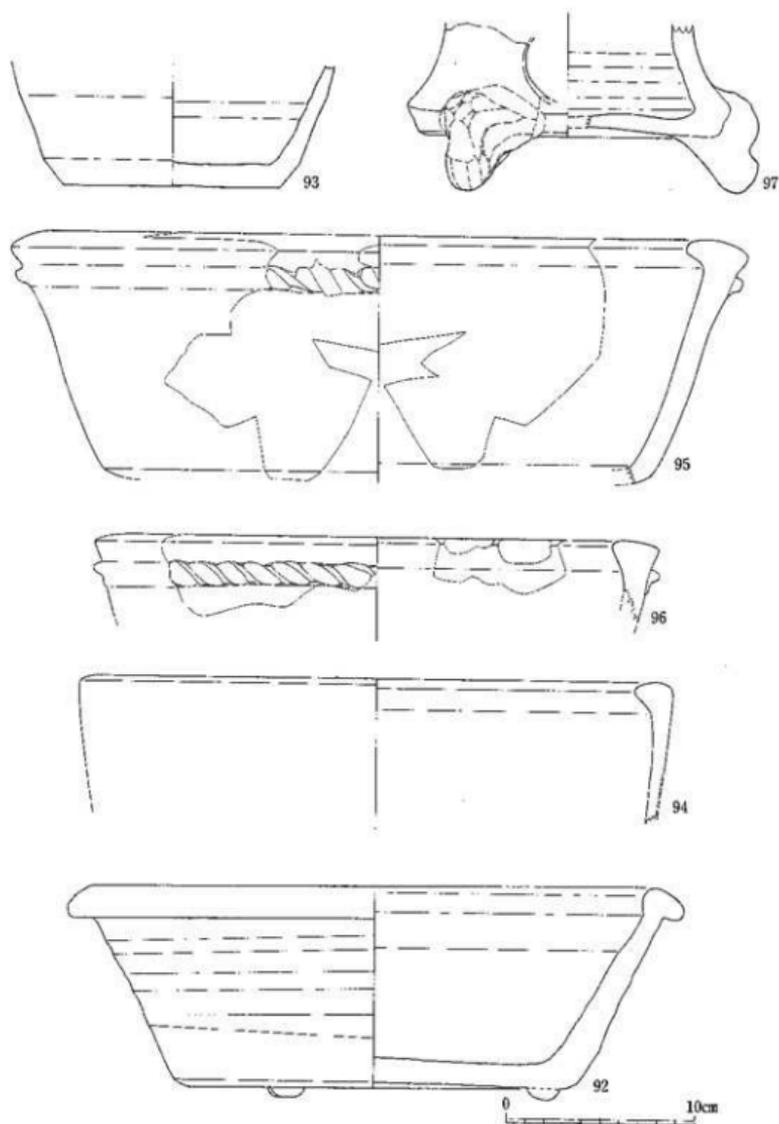


图66 第5地点出土土器(5)
Fig. 66 Ceramics from NM5(5)

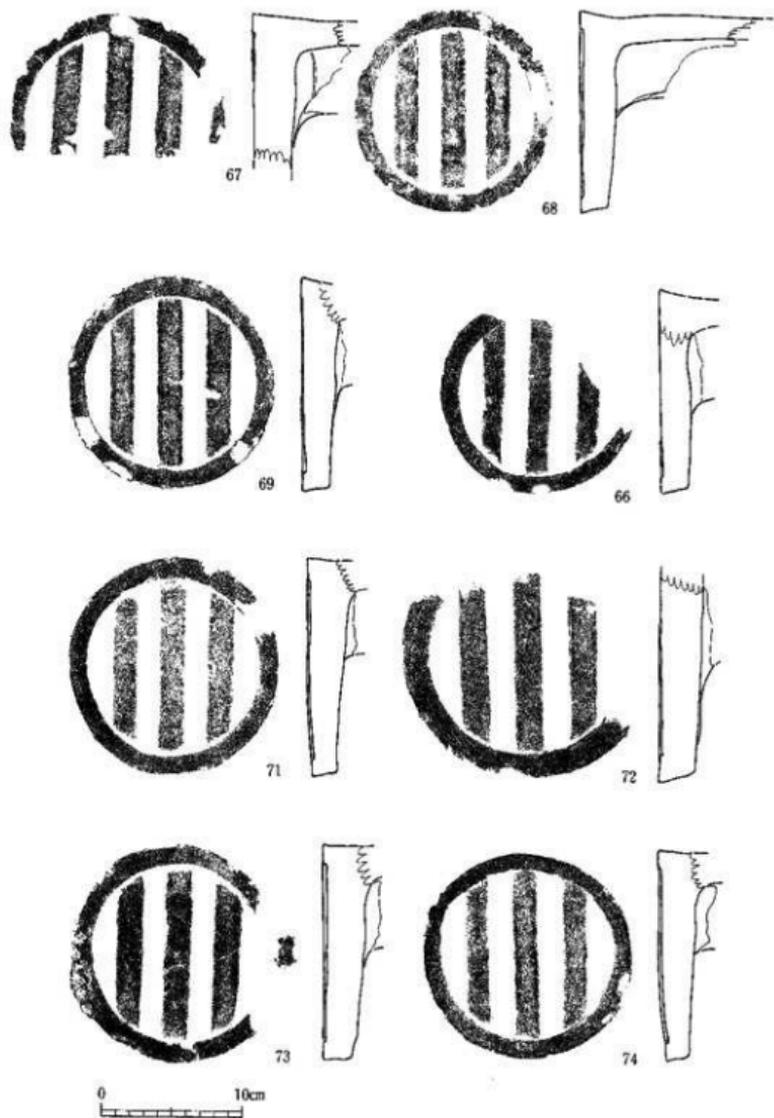


图67 第5地点出土野丸瓦(1)
 Fig. 67 Round eaves tiles from NM5(1)

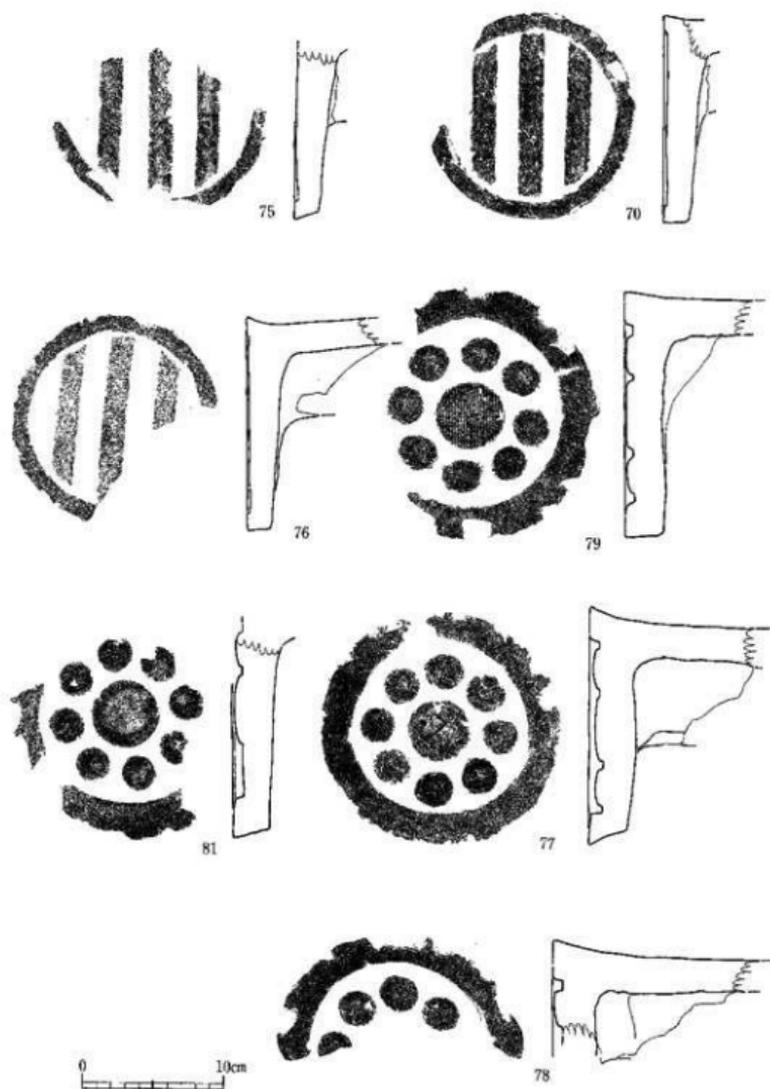


图68 第5地点出土轩瓦(2)
Fig. 68 Round cavity tiles from NM5(2)

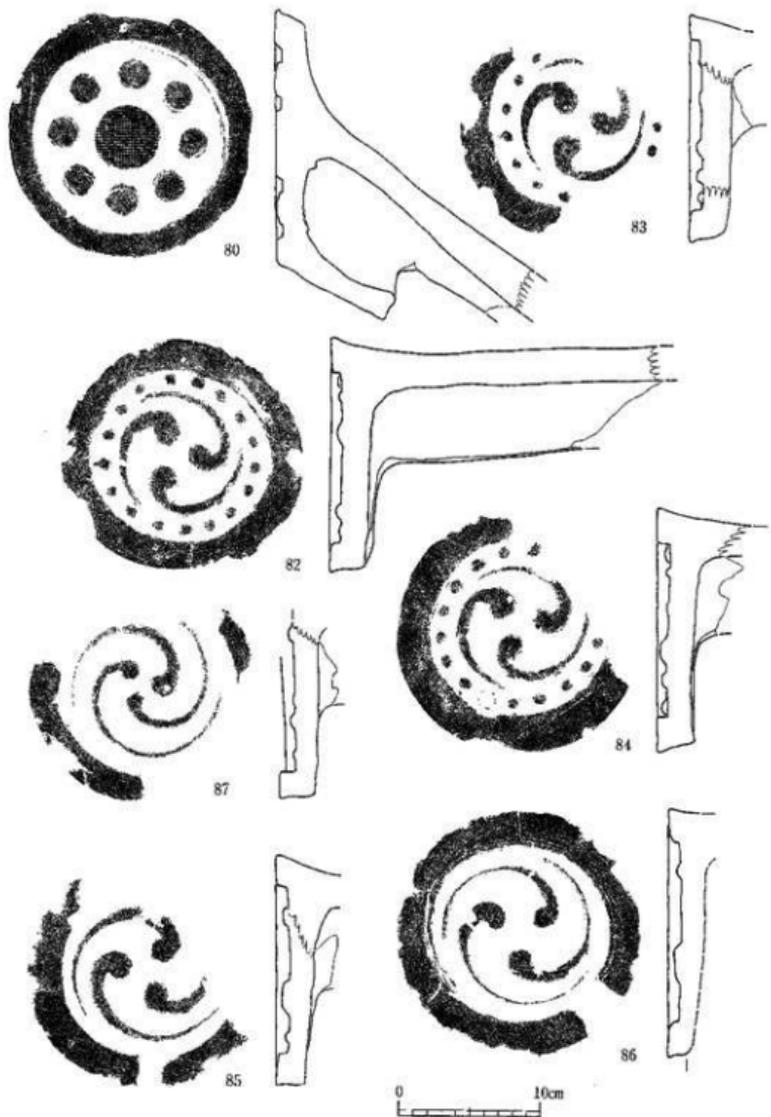


图69 第5地点出土轩瓦瓦类(3)
Fig. 69 Round eaves tiles from NM5(3)

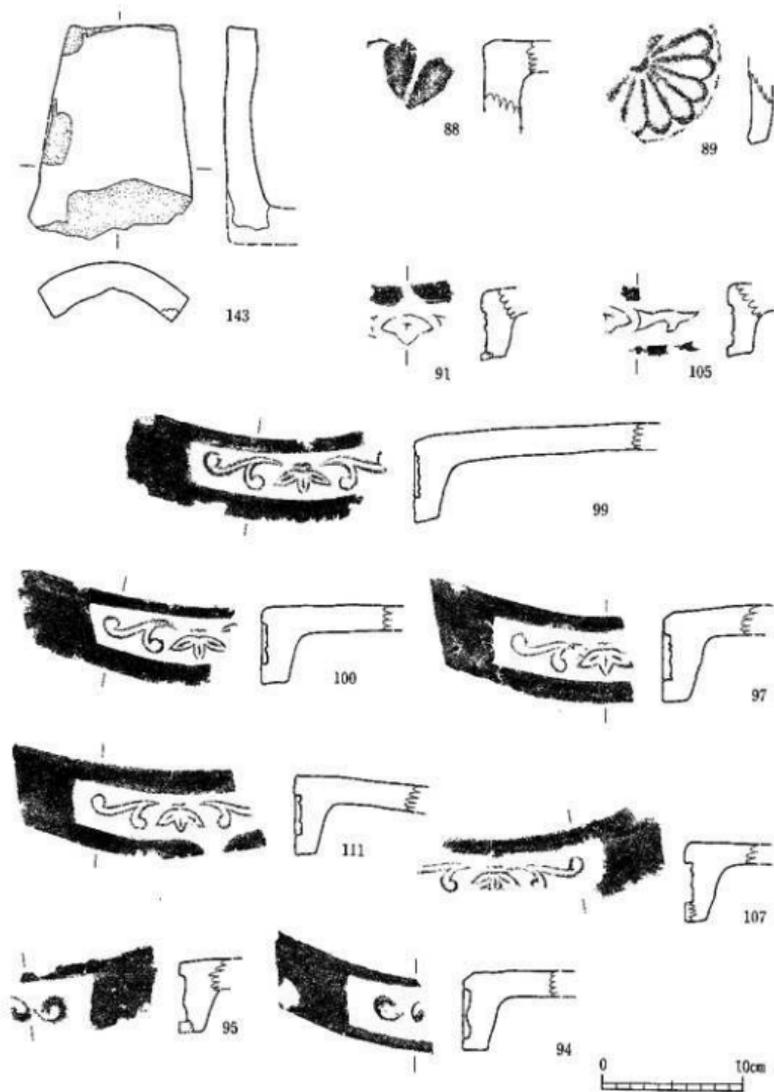


图70 第5地点出土轩瓦类(4)·轩平瓦(1)

Fig. 70 Round eaves tiles and flat eaves tiles from NM5

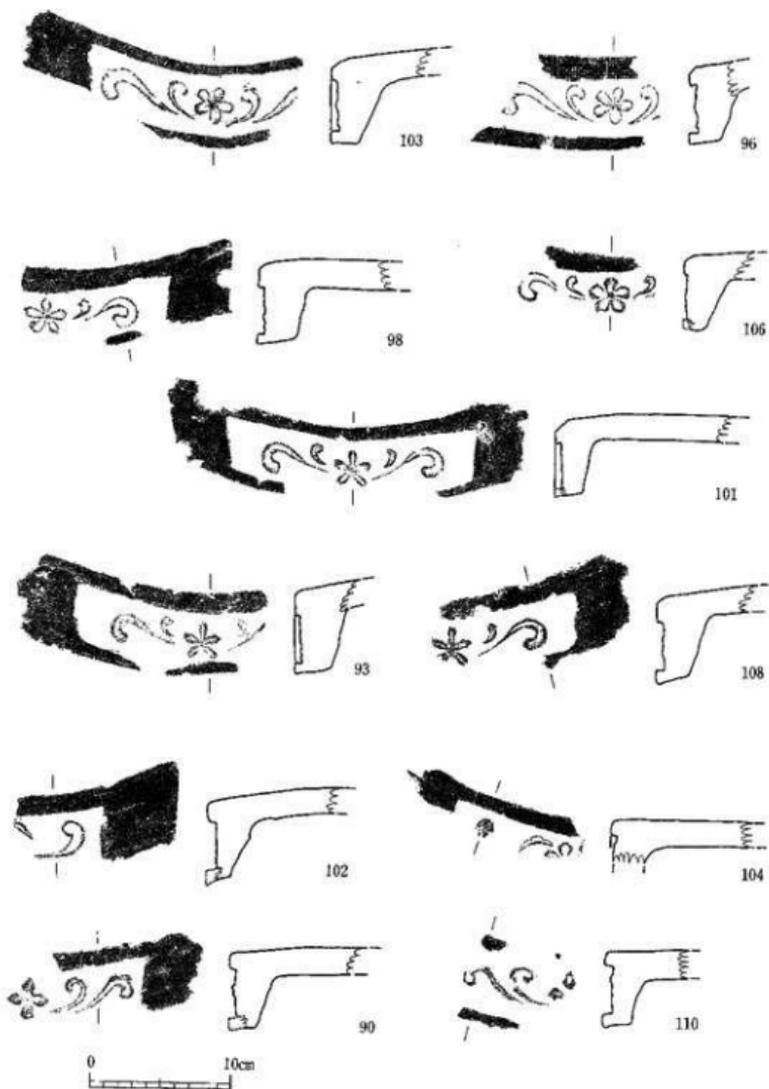


图71 第5地点出土平瓦(2)
Fig. 71 Flat eaves tiles from NM5(2)

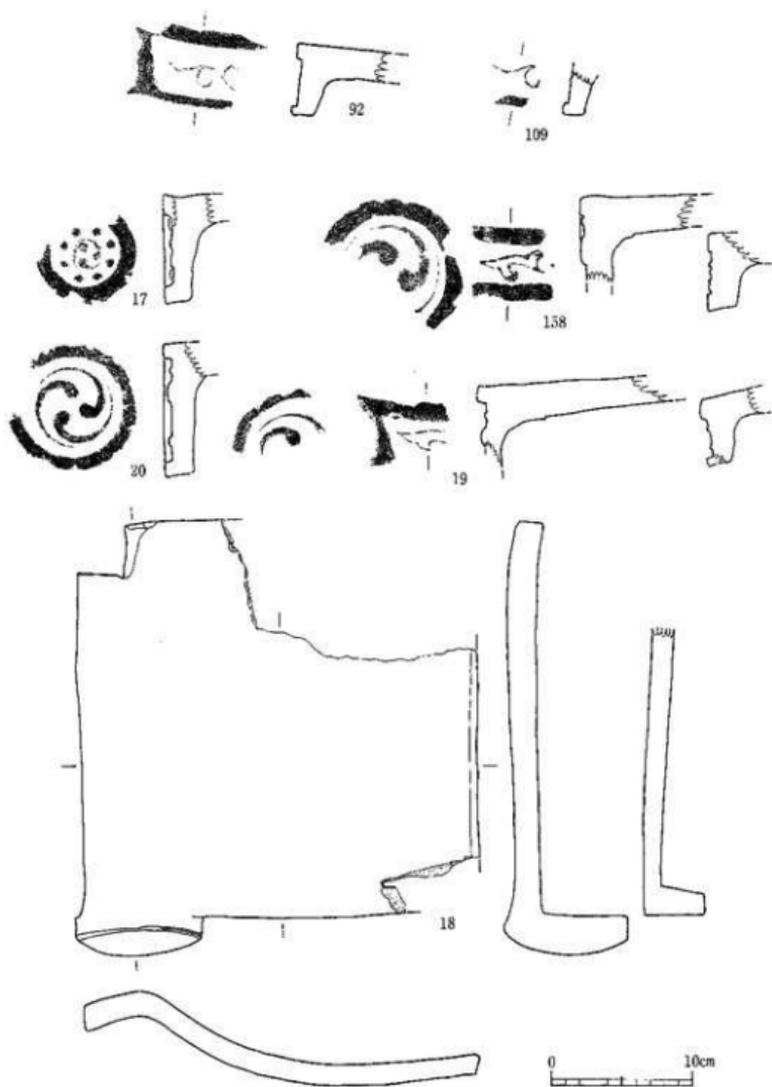


图72 第5地点出土軒椽瓦
Fig. 72 Eaves-pan tiles from NM5

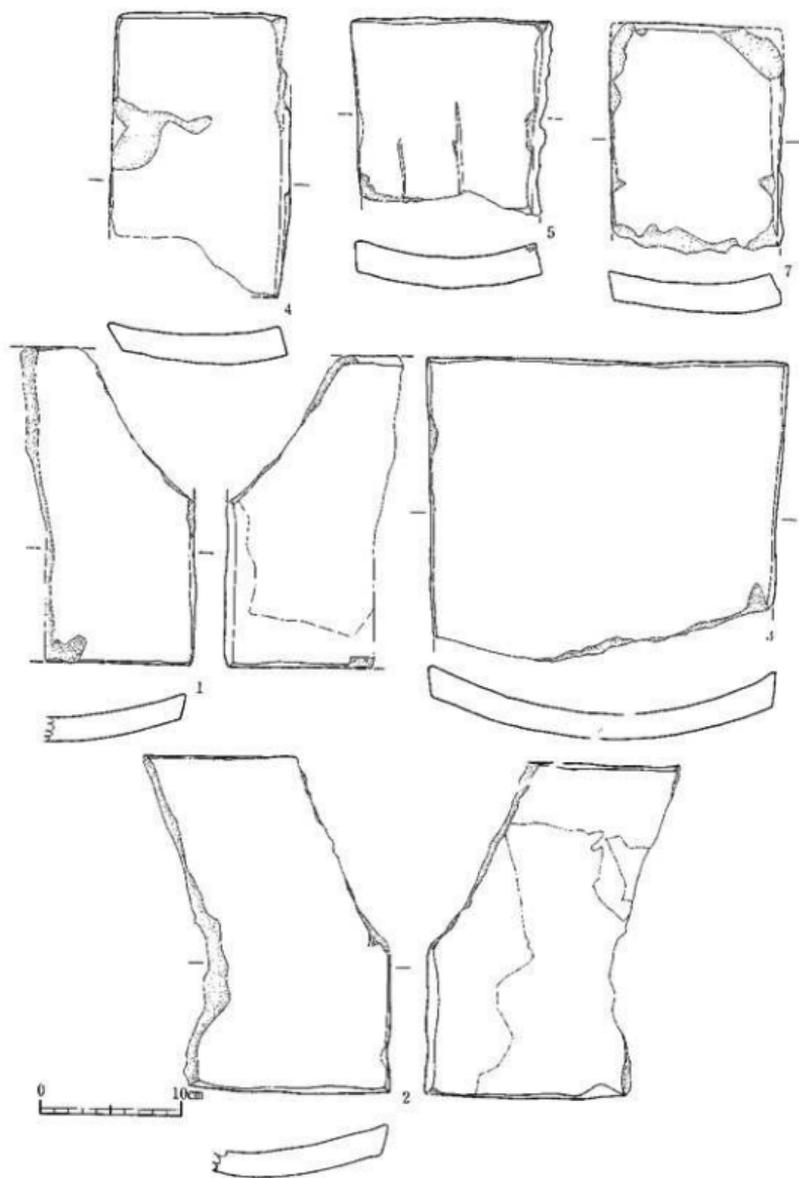


图73 第5地点出土平瓦(1)
 Fig. 73 Flat roof tiles from NM5(1)

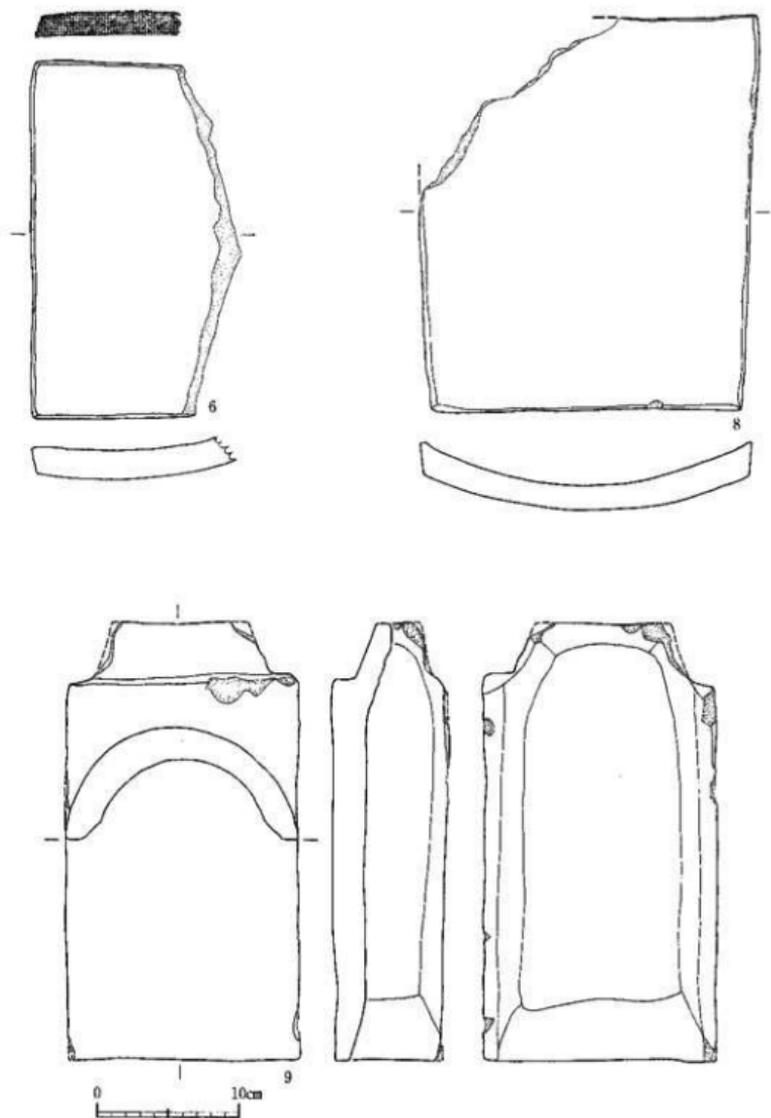


图74 第5地点出土平瓦(2)·丸瓦(1)

Fig. 74 Flat roof tiles and round roof tiles from NM5

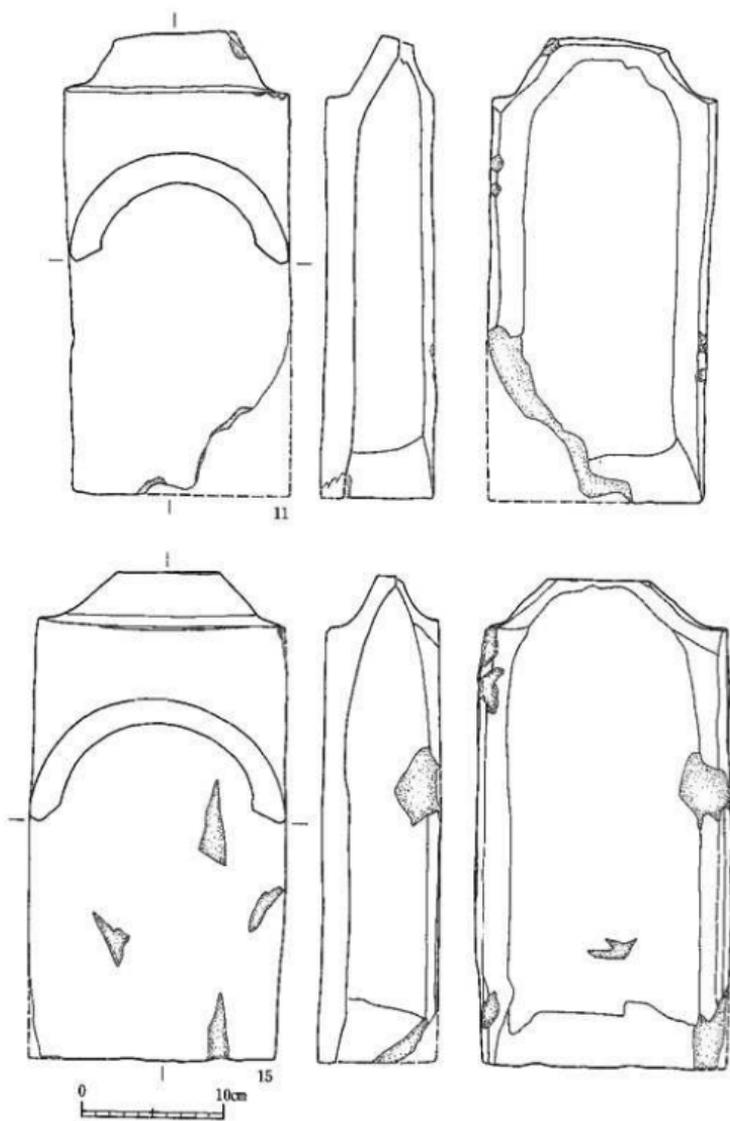


图75 第5地点出土瓦(2)
Fig. 75 Round roof tiles from NM5(2)

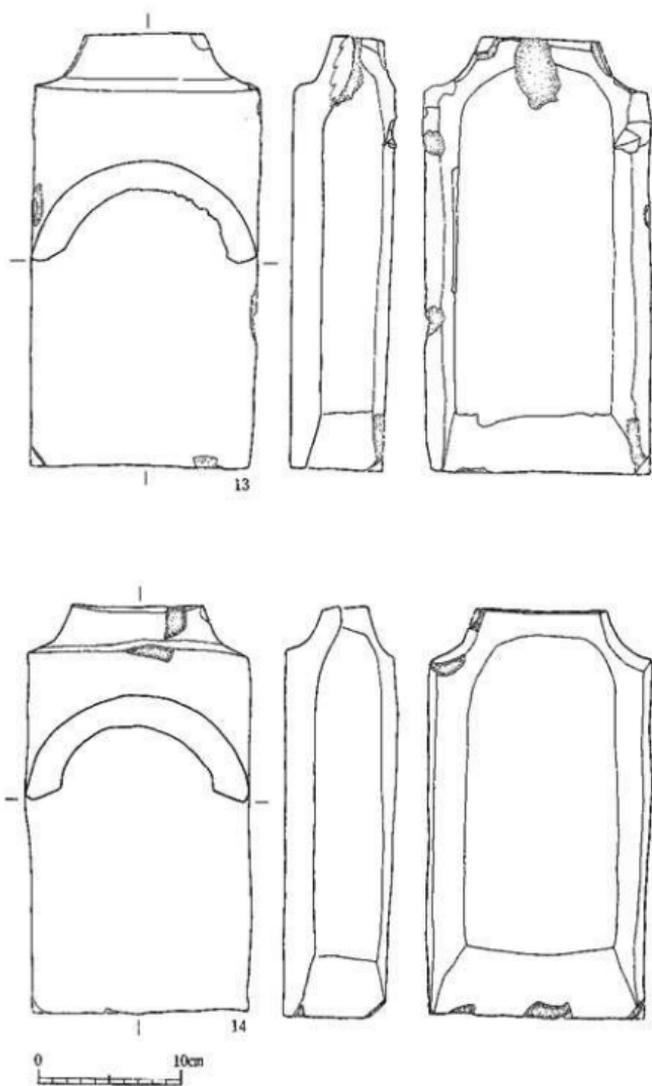


图76 第5地点出土瓦(3)
Fig. 76 Round roof tiles from NM5(3)

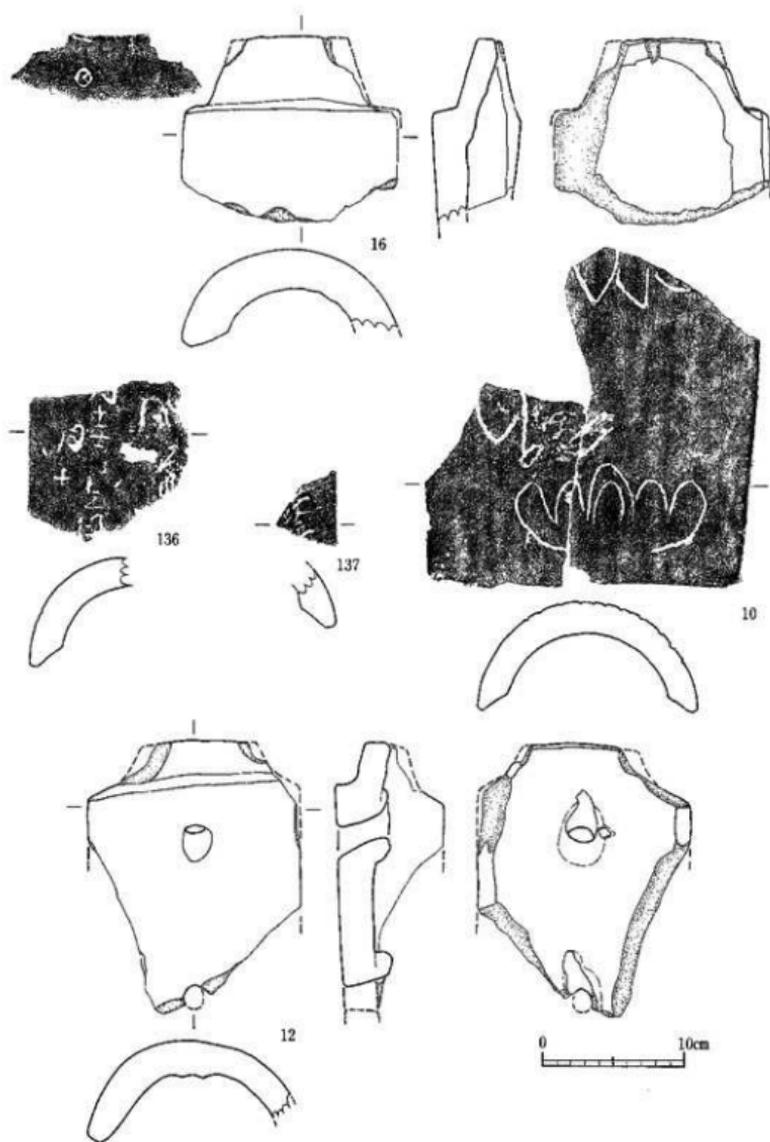


图77 第5地点出土瓦(4)
Fig. 77 Round roof tiles from NM5(4)

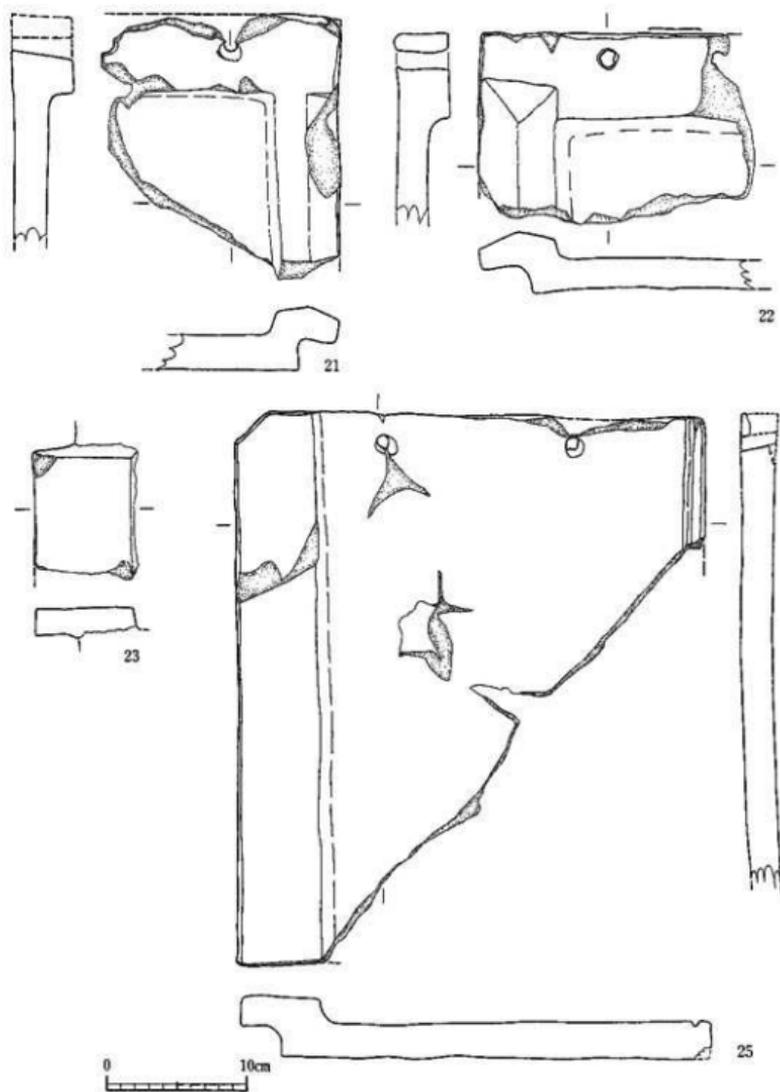


图78 第5地点出土板瓦(1)
Fig. 78 Pan tiles used for fence from NM5(1)

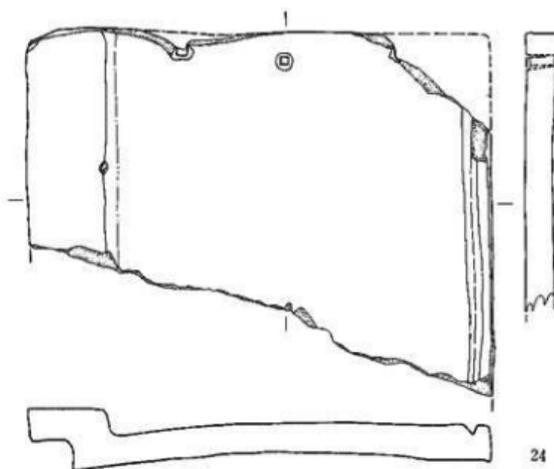
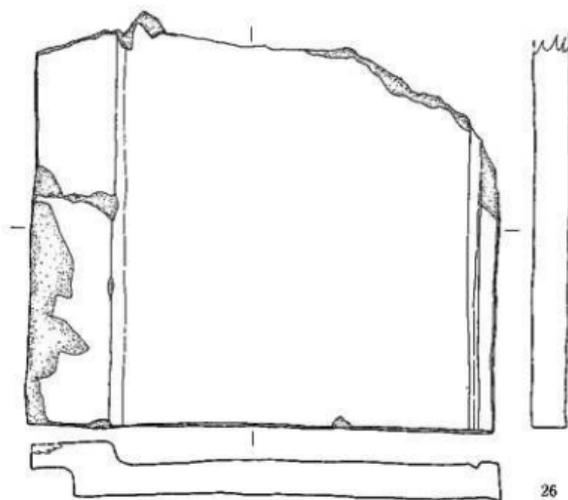


图79 第5地点出土板棚瓦(2)
Fig. 79 Pan tiles used for fence from NM5(2)

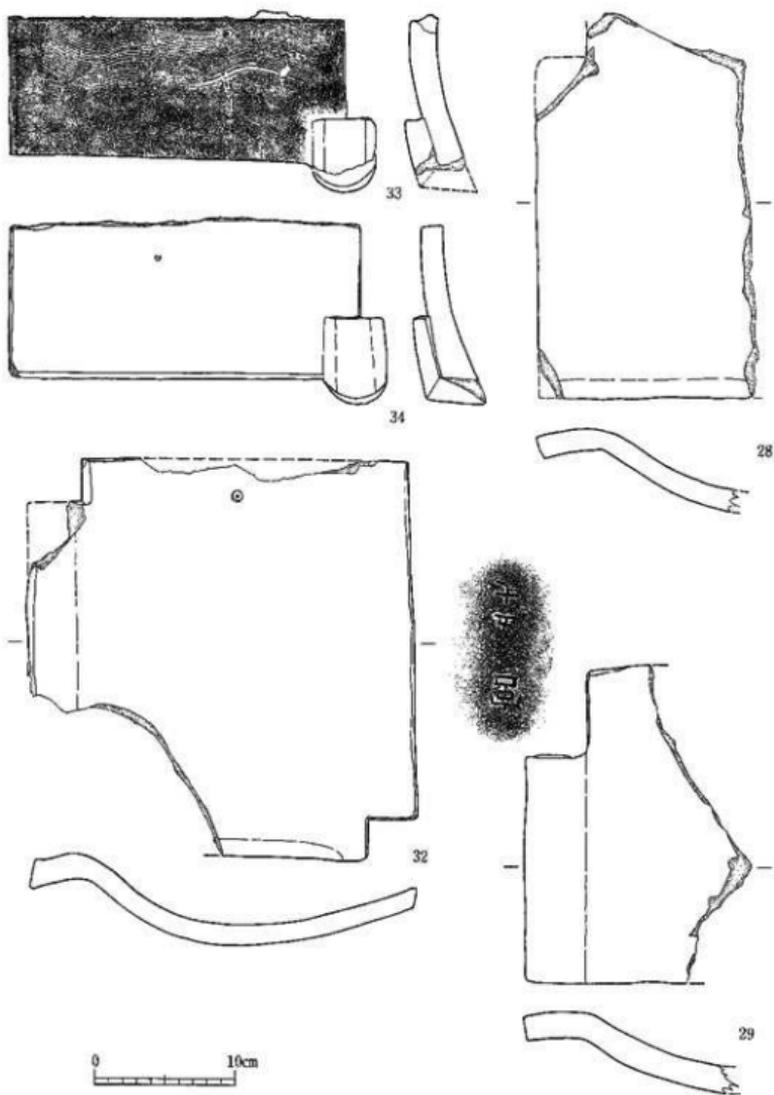


图80 第5地点出土鬃斗瓦·椽瓦(1)
Fig. 80 Ridge tiles and pan tiles from NM5

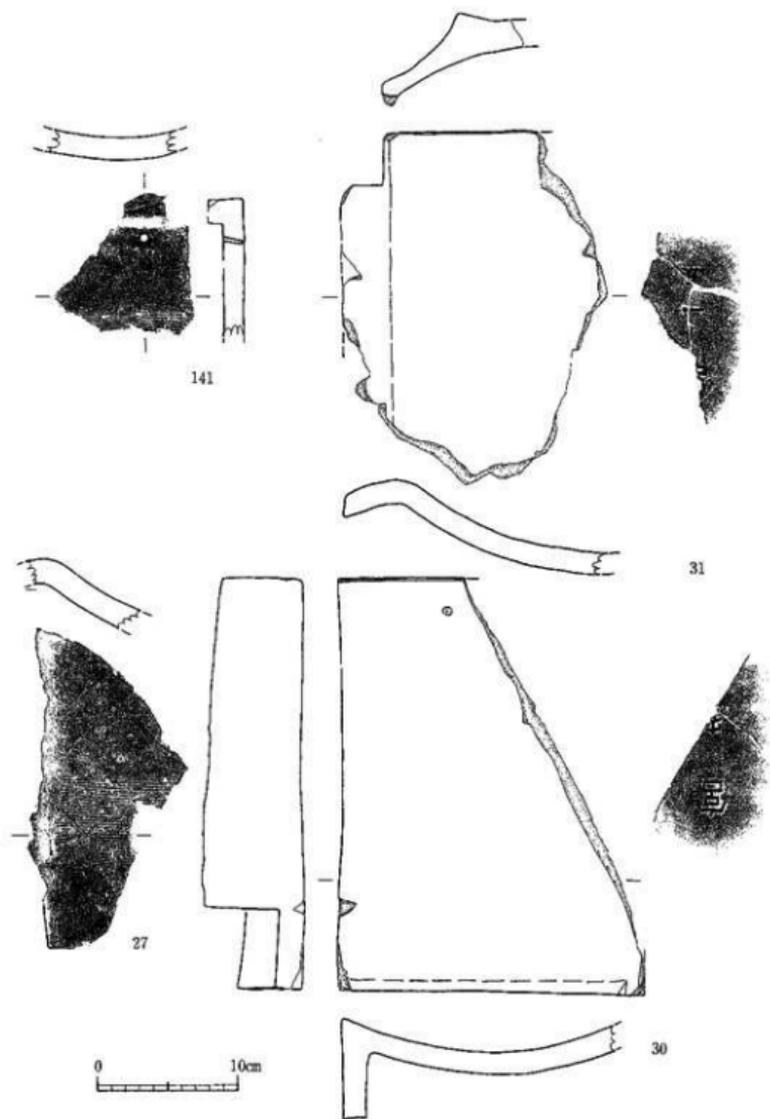


图81 第5地点出土椽瓦(2)
Fig. 81 Pan tiles from NM5(2)

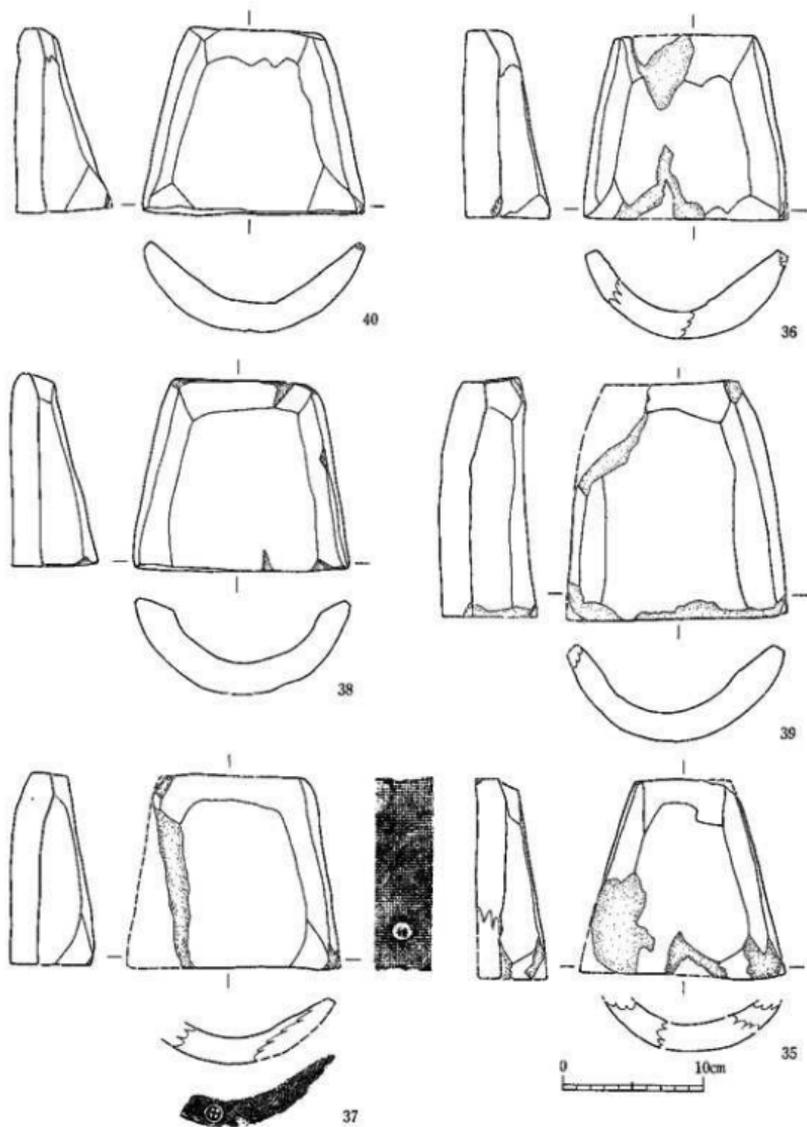


図82 第5地点出土輪造り
 Fig. 82 Ridge decoration tiles from NM5

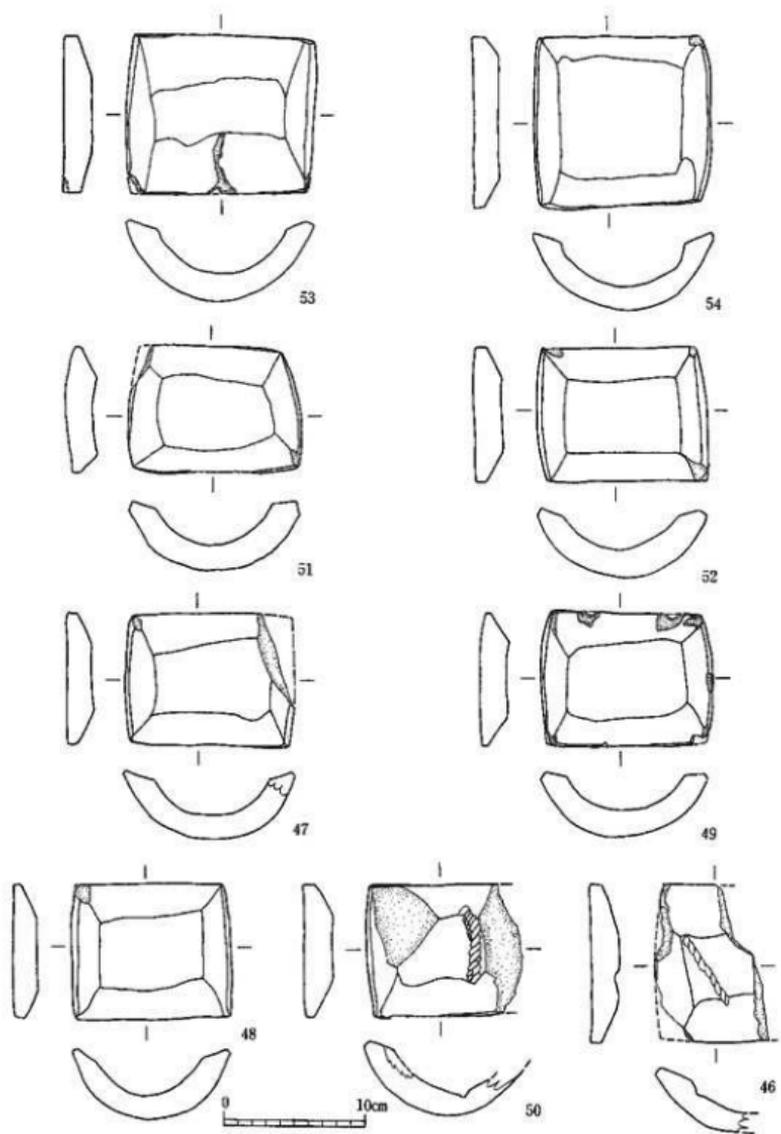


图83 第5地点出土面瓦(1)
Fig. 83 Filler tiles from NM5(1)

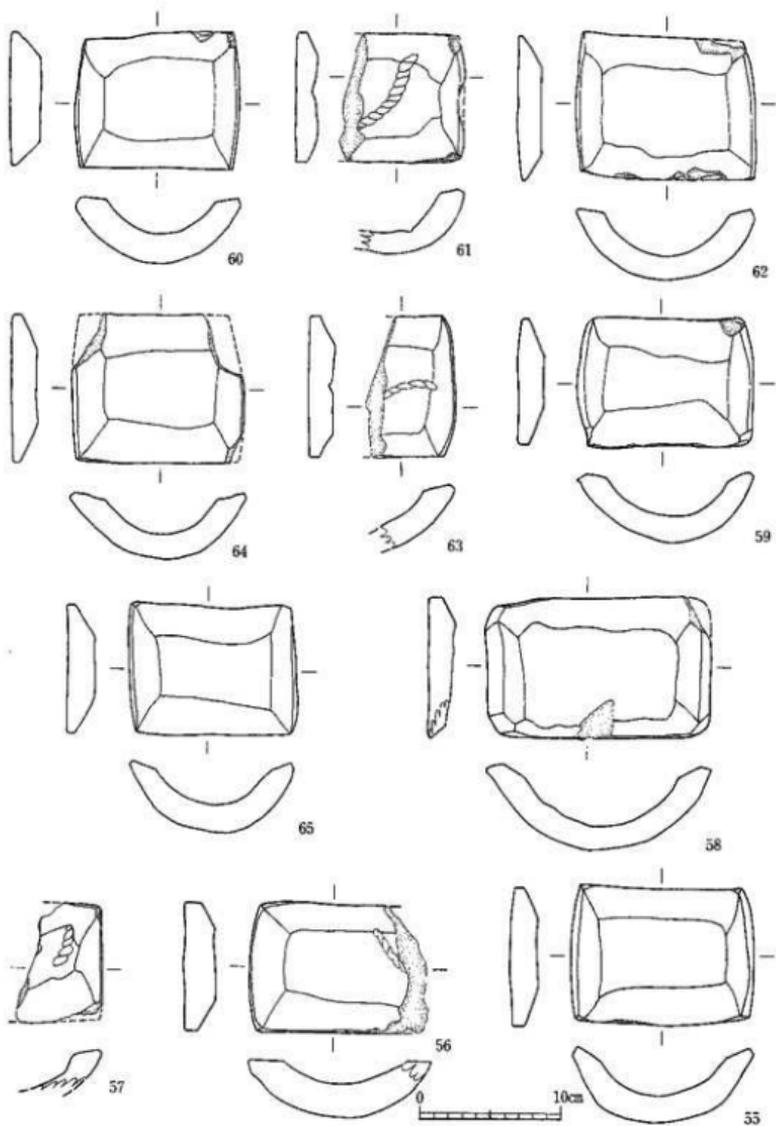


图84 第5地点出土面户瓦(2)
Fig. 84 Filler tiles from NM5(2)

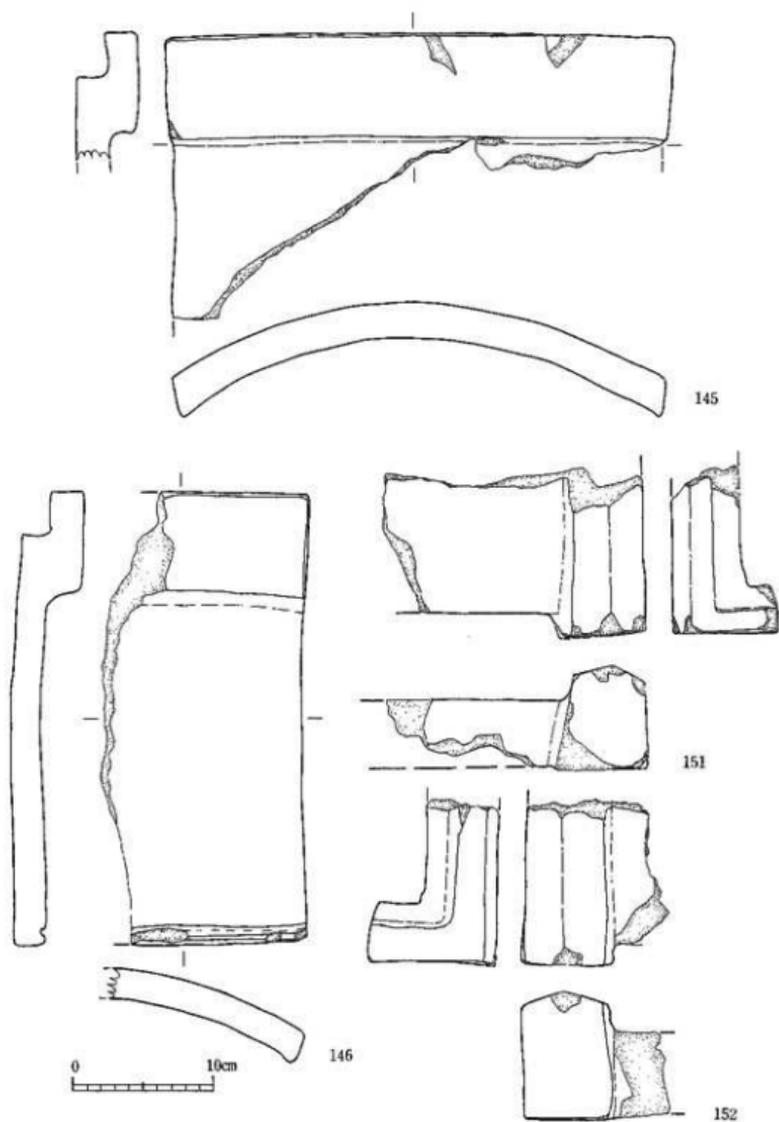


图85 第5地点出土椽瓦·板椽瓦

Fig. 85 Ridge cover tiles and pan tiles used for fence from NM5

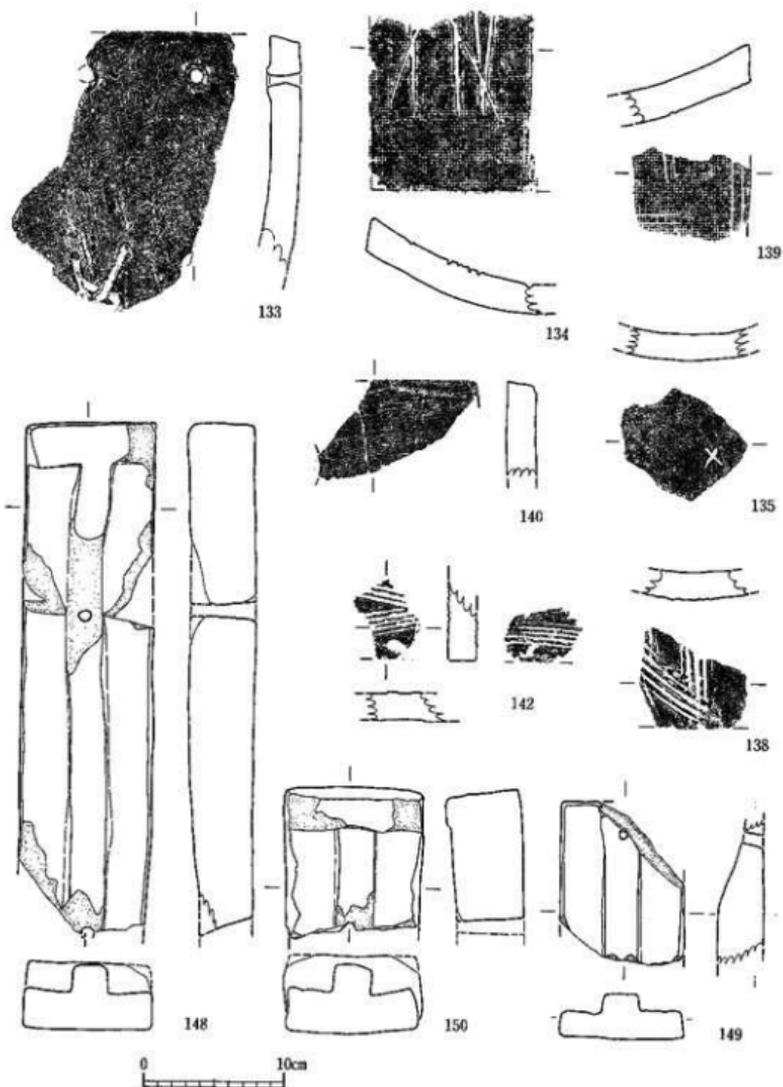


図86 第5地点出土その他の瓦(1)
 Fig. 86 Various roof tiles from NM5(1)

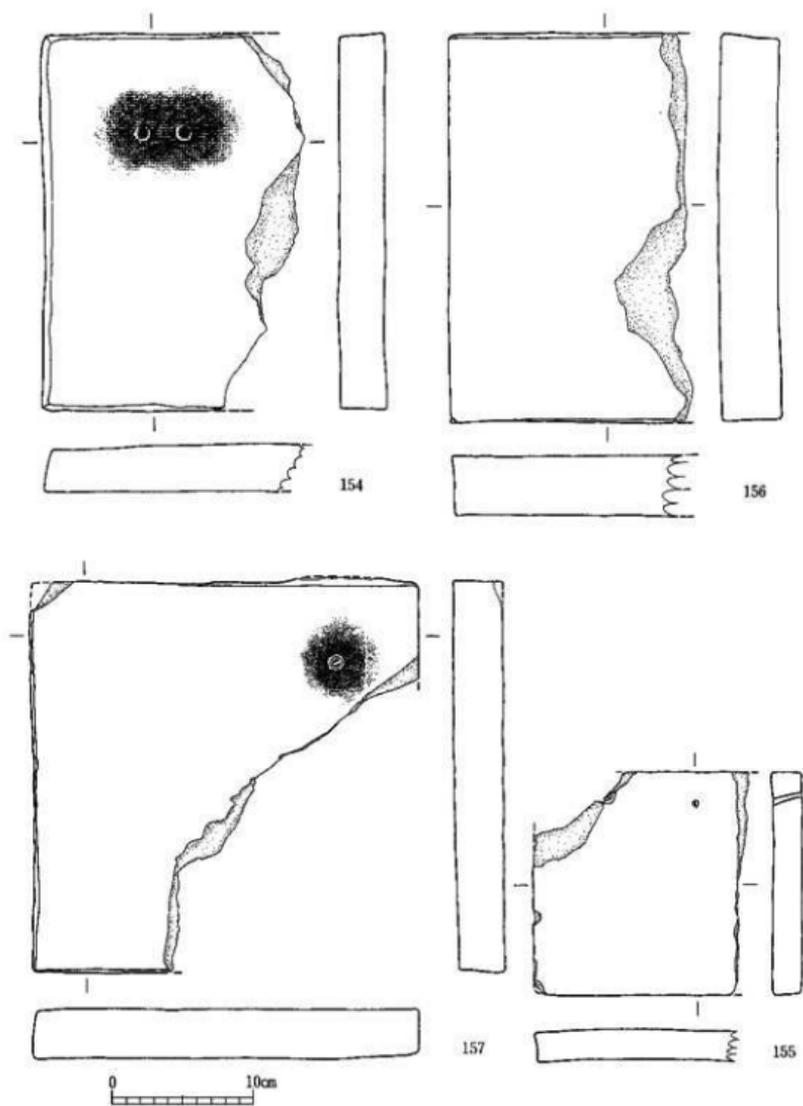


図87 第5地点出土その他の瓦(2)
 Fig. 87 Various roof tiles from NMS(2)

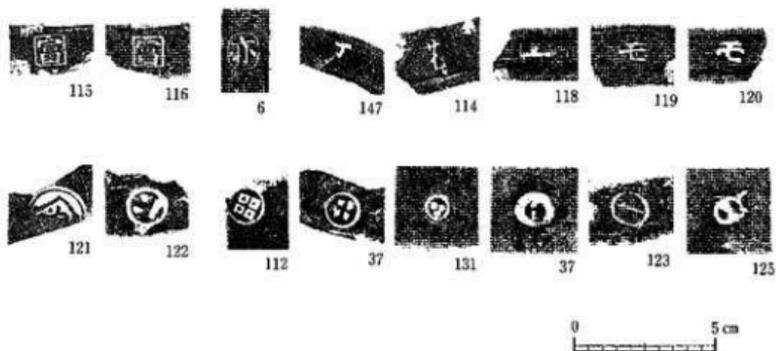
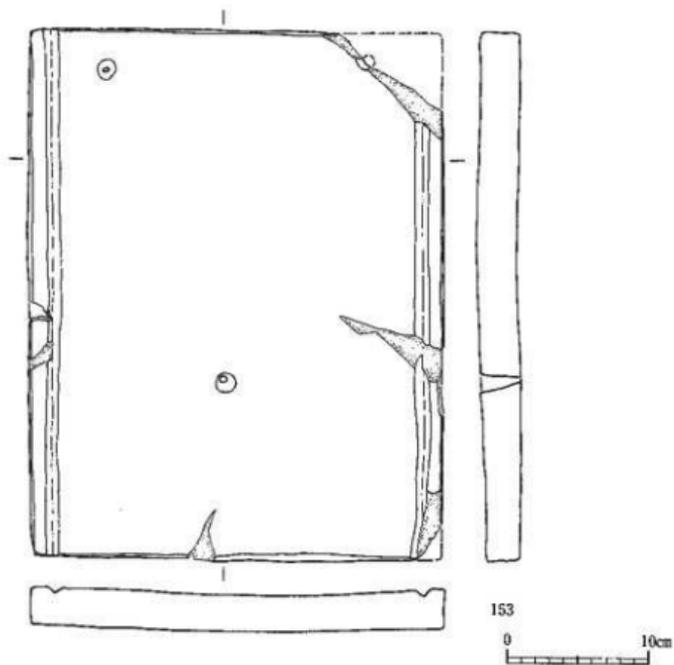


図88 第5地点出土その他の瓦(3)・刻印瓦(1)

Fig. 88 Various roof tiles and roof tiles with seal impression from NM5

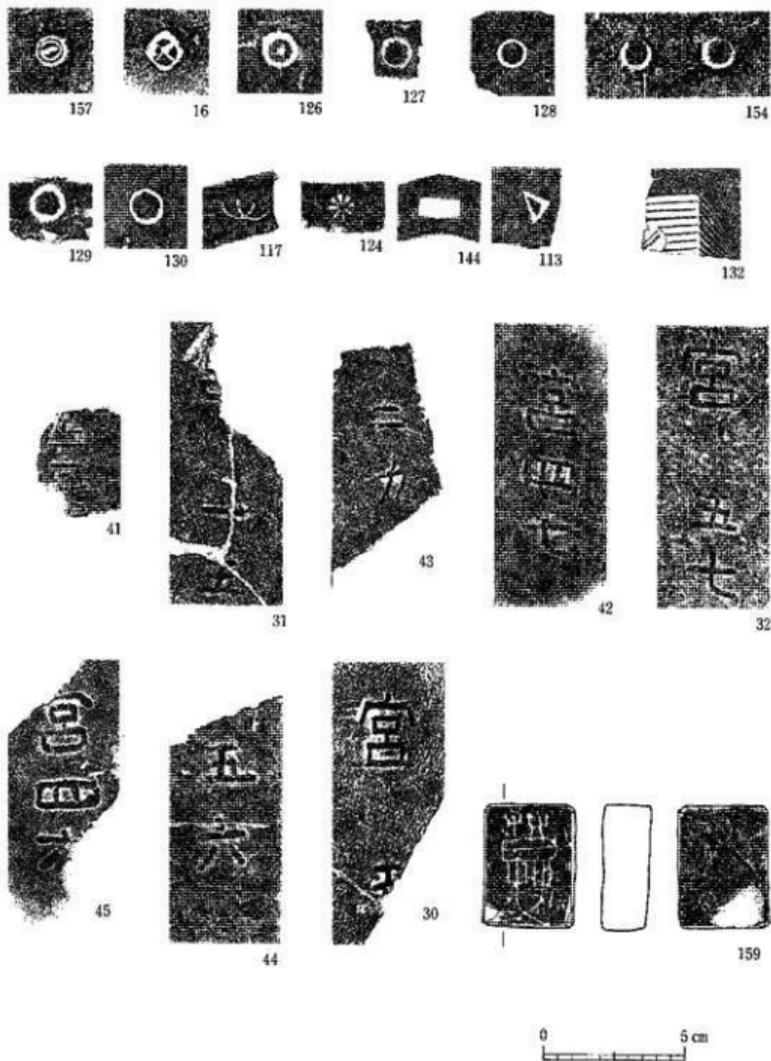


图89 第5地点出土刻印瓦(2)·瓦加工品

Fig. 89 Roof tiles with seal impression and converted roof tile from NM5

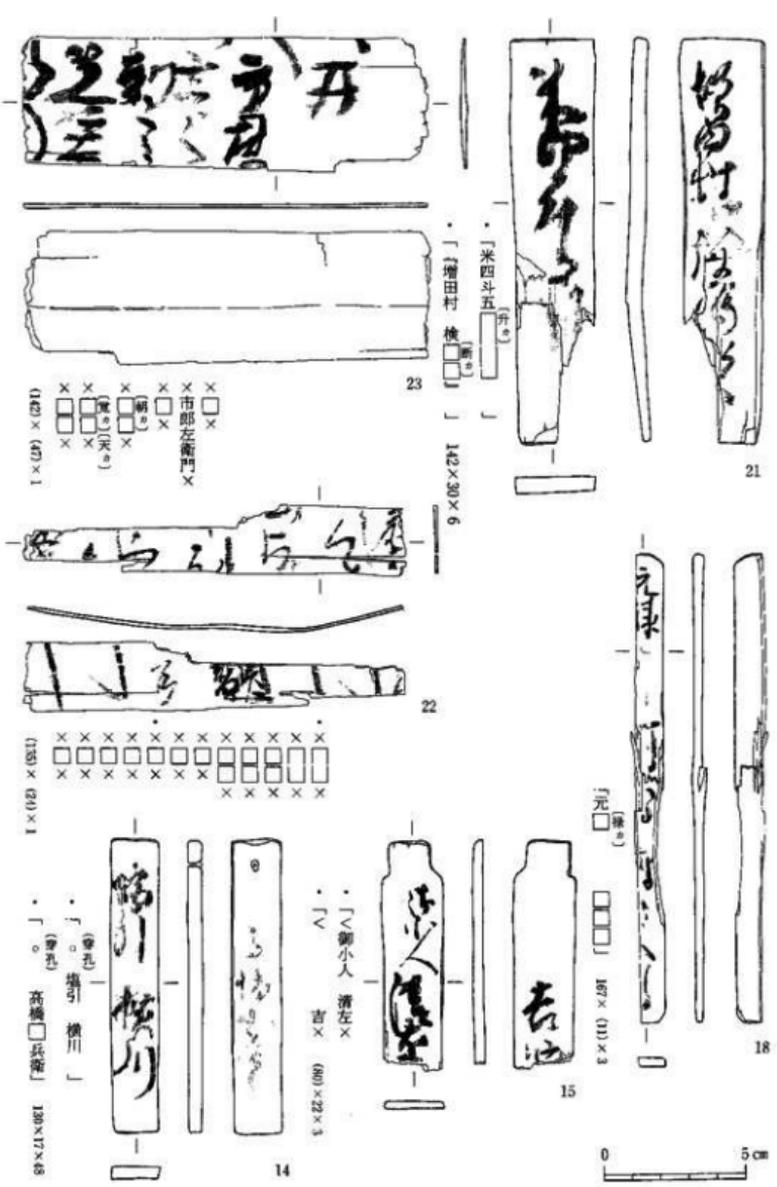


图90 第5地点出土木简(1)
Fig. 90 Wooden tablets from NM5(1)



图91 第5地点出土木簡(2)
Fig. 91 Wooden tablets from NMS(2)

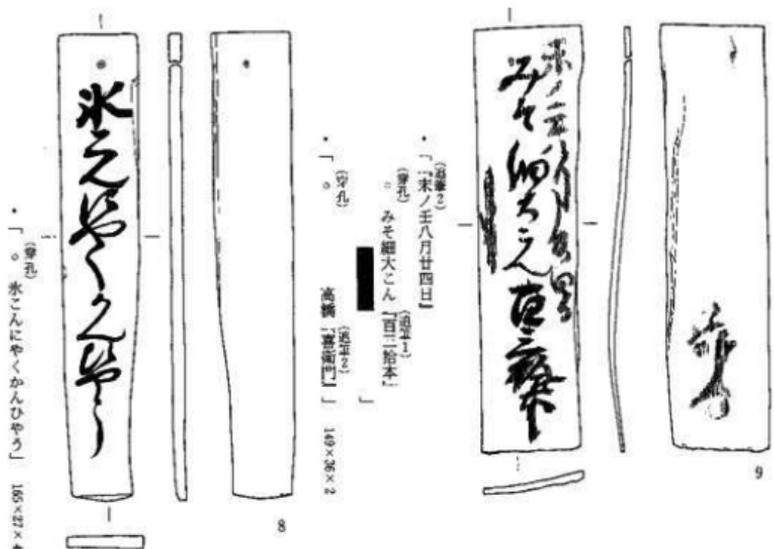


图92 第5地点出土木簡(3)
 Fig. 92 Wooden tablets from NM5(3)

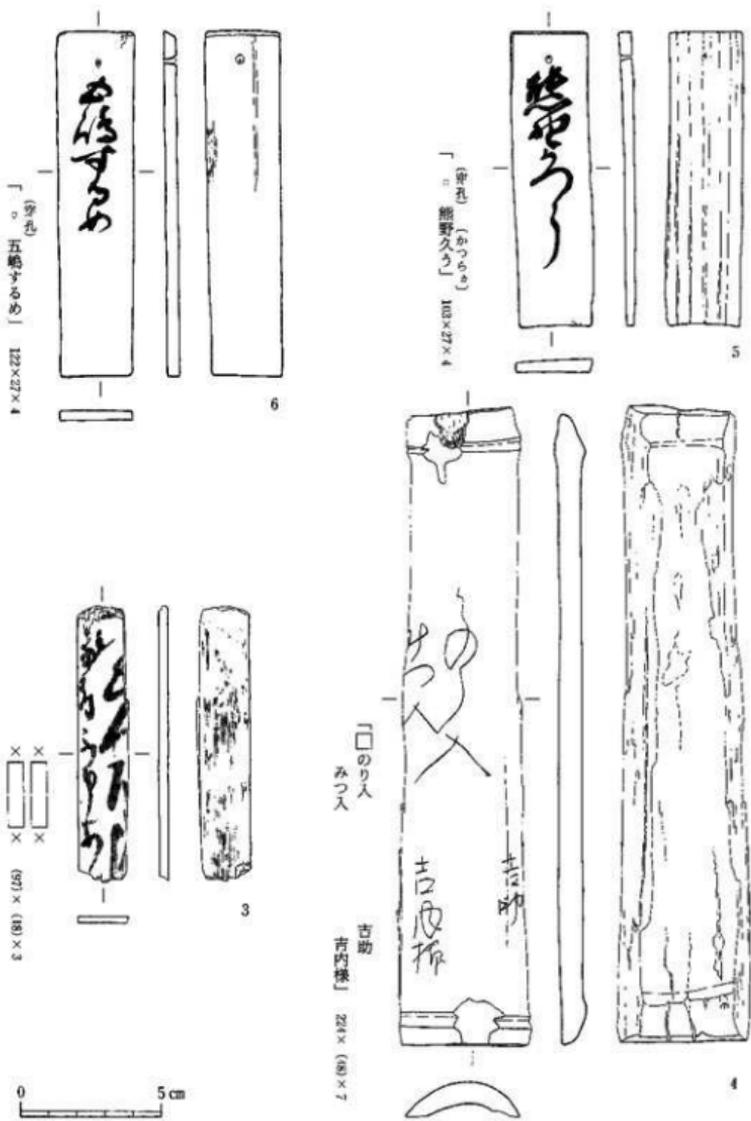


図93 第5地点出土木簡(4)
 Fig. 93 Wooden tablets from NM5(4)

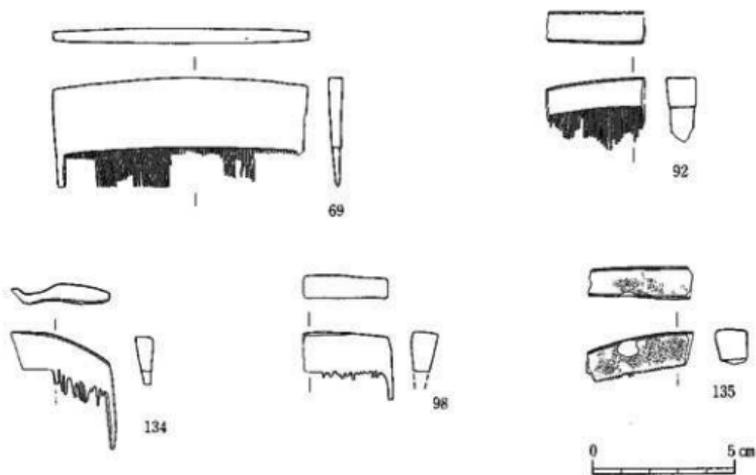
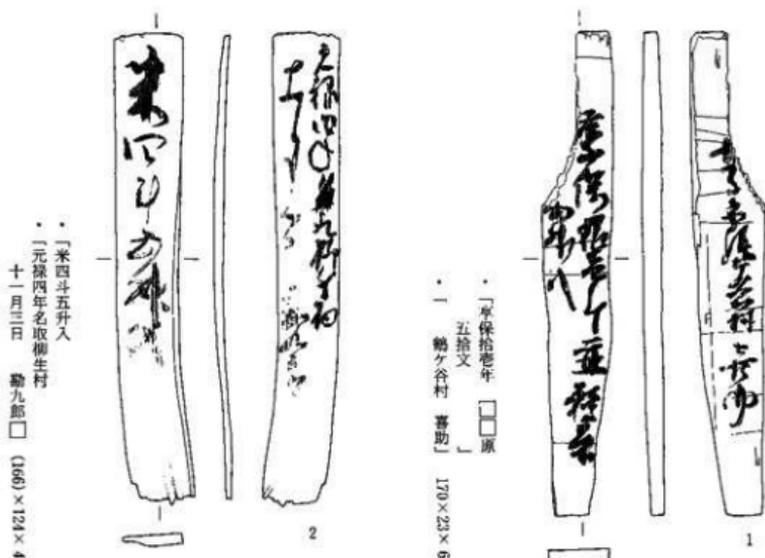


図94 第5地点出土木簡(5)・櫛
 Fig. 94 Wooden tablets and combs from NM5

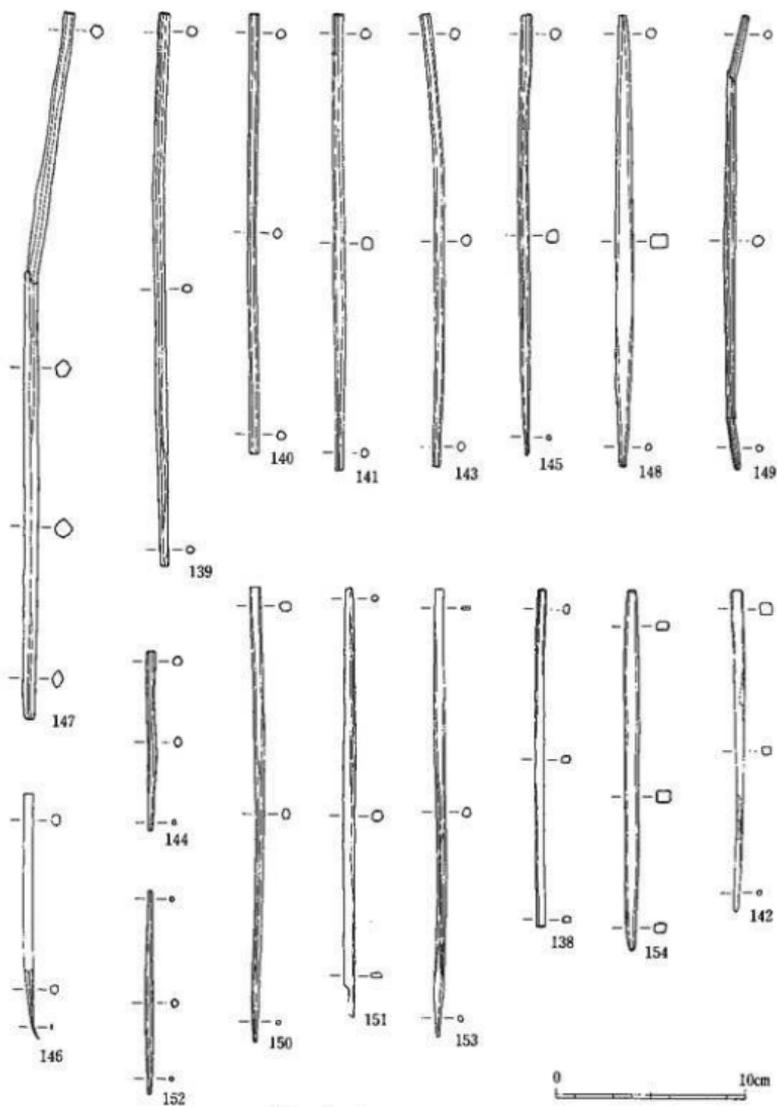


图95 第5地点出土箸状木製品
 Fig. 95 Wooden chopsticks from NM5

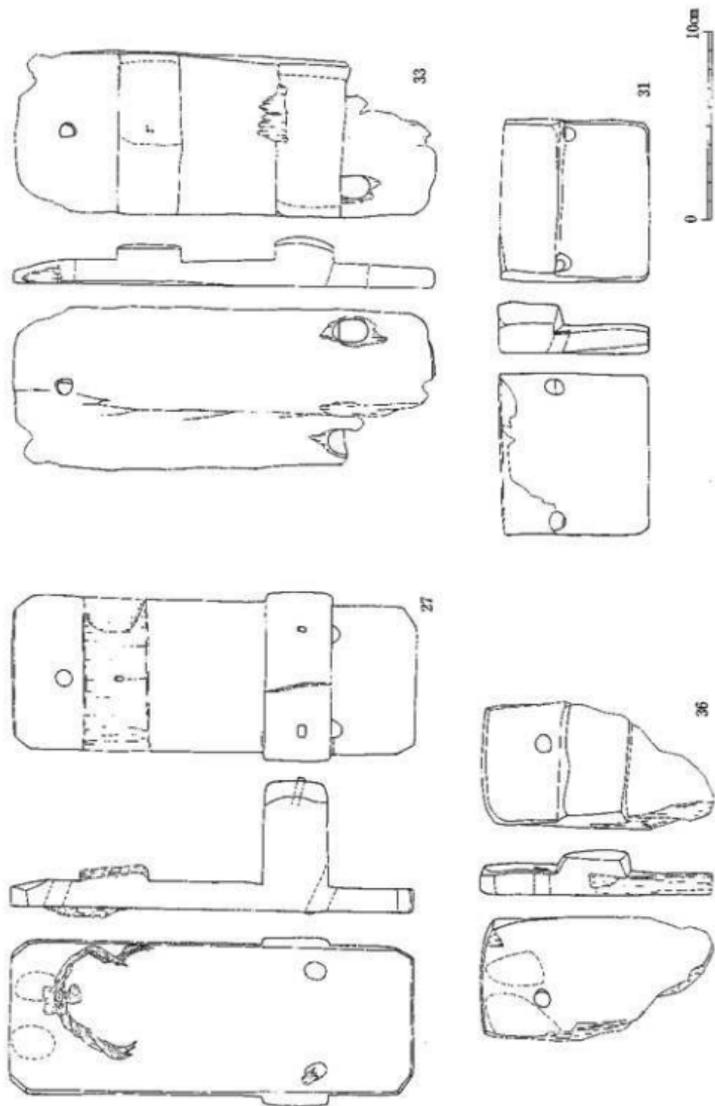


图96 第5地点出土下駄(1)
Fig. 96 Clogs from NM5(1)

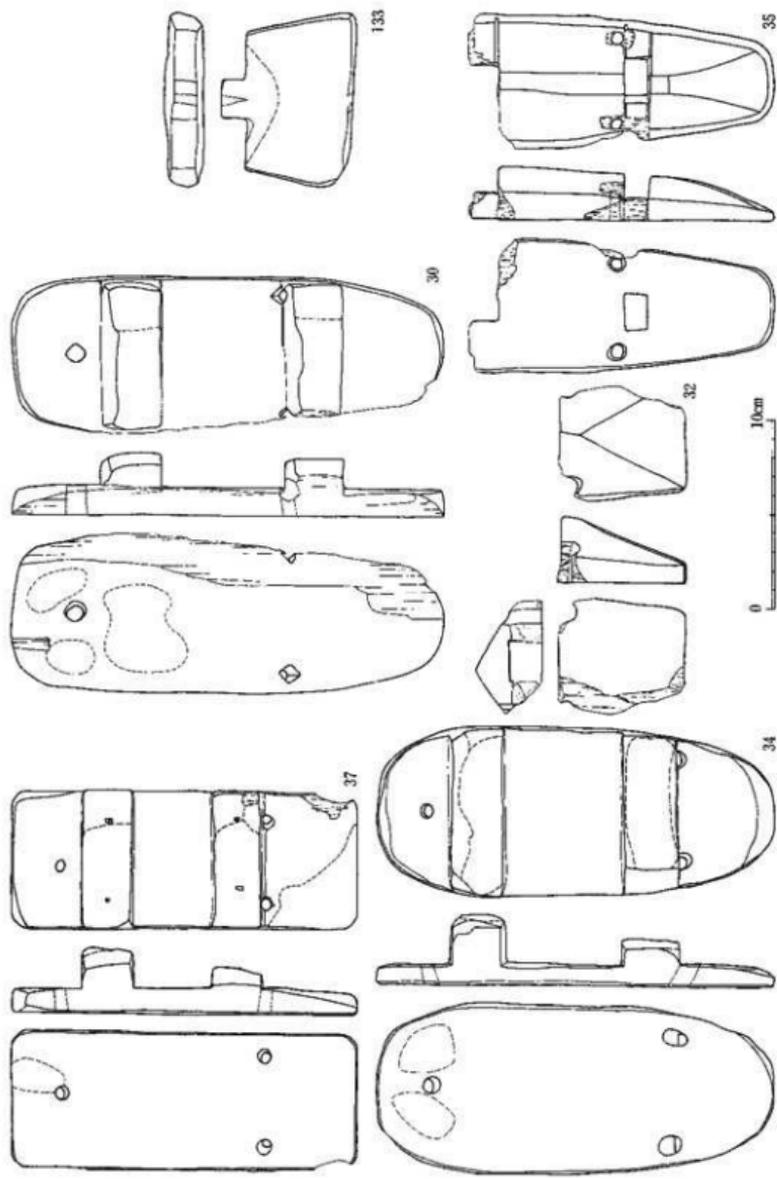


图97 第5地点出土下鞋(2)
Fig. 97 Clogs from NIMEI(2)

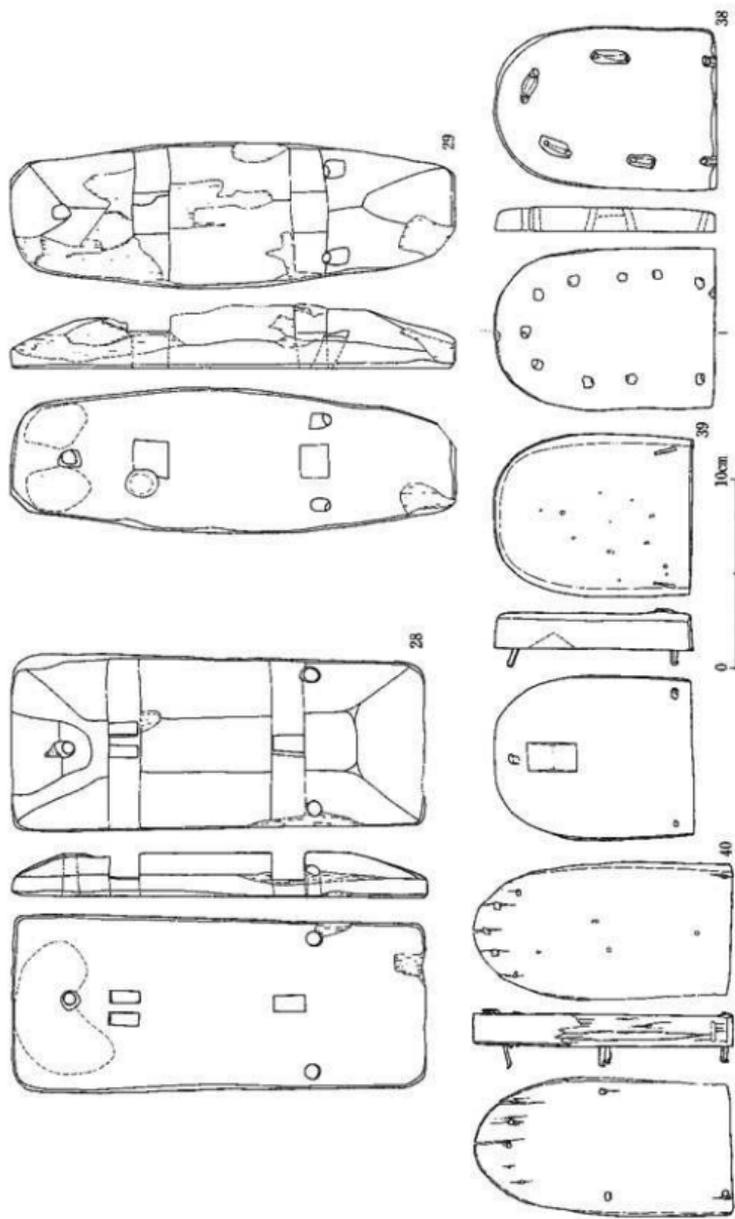


图98 第5地点出土鞋(3)

Fig. 98 Clogs from NM5(3)

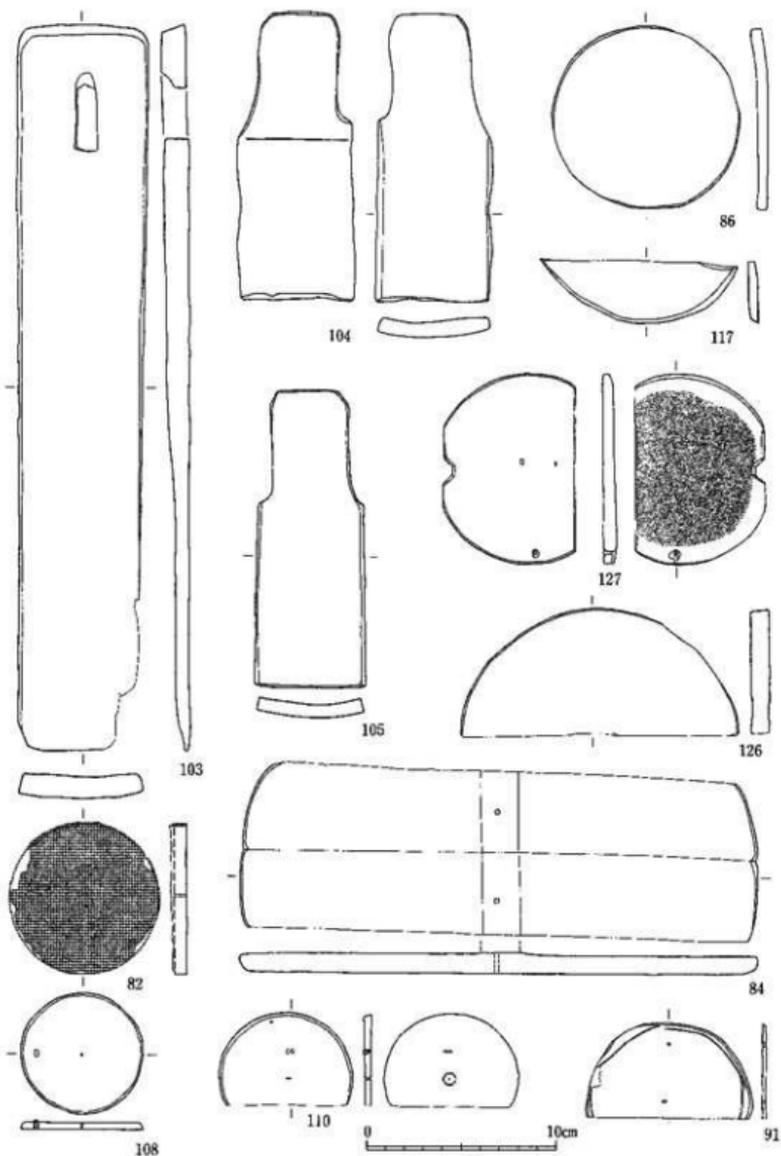


図99 第5地点出土その他の木製品(1)
 Fig. 99 Various wooden implements from NM5(1)

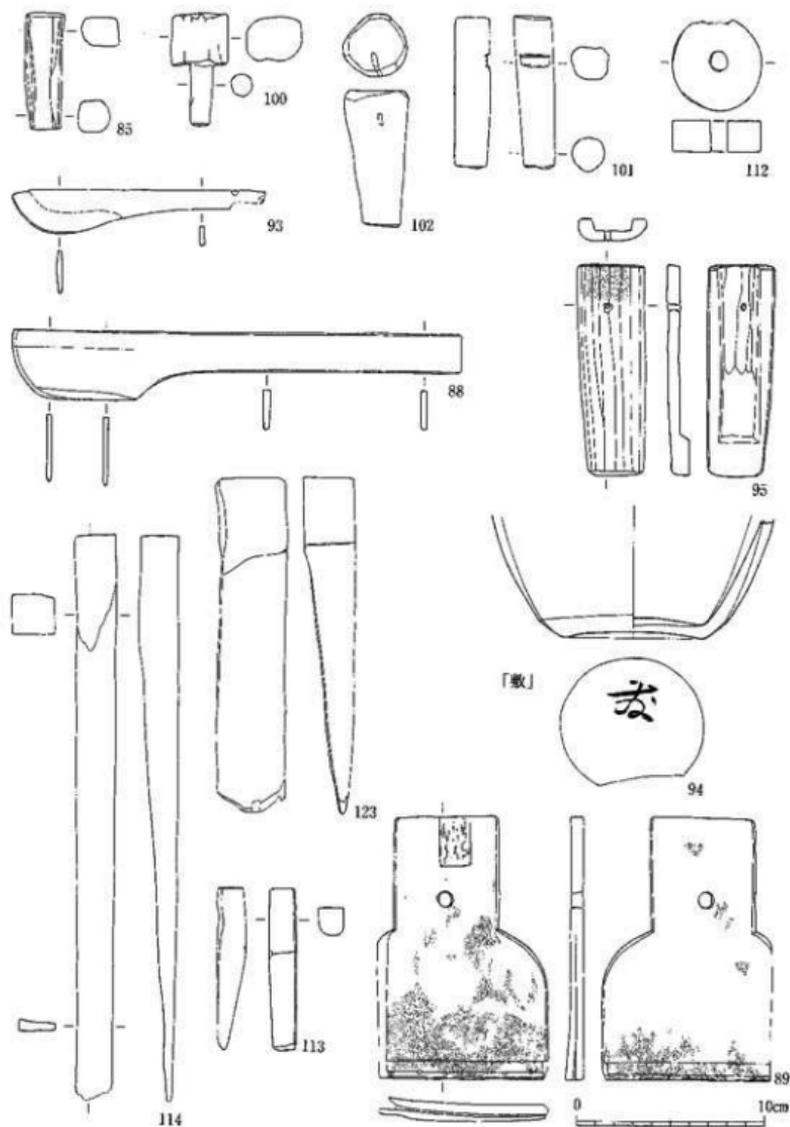


図100 第5地点出土その他の木製品(2)
Fig. 100 Various wooden implements from NM5(2)

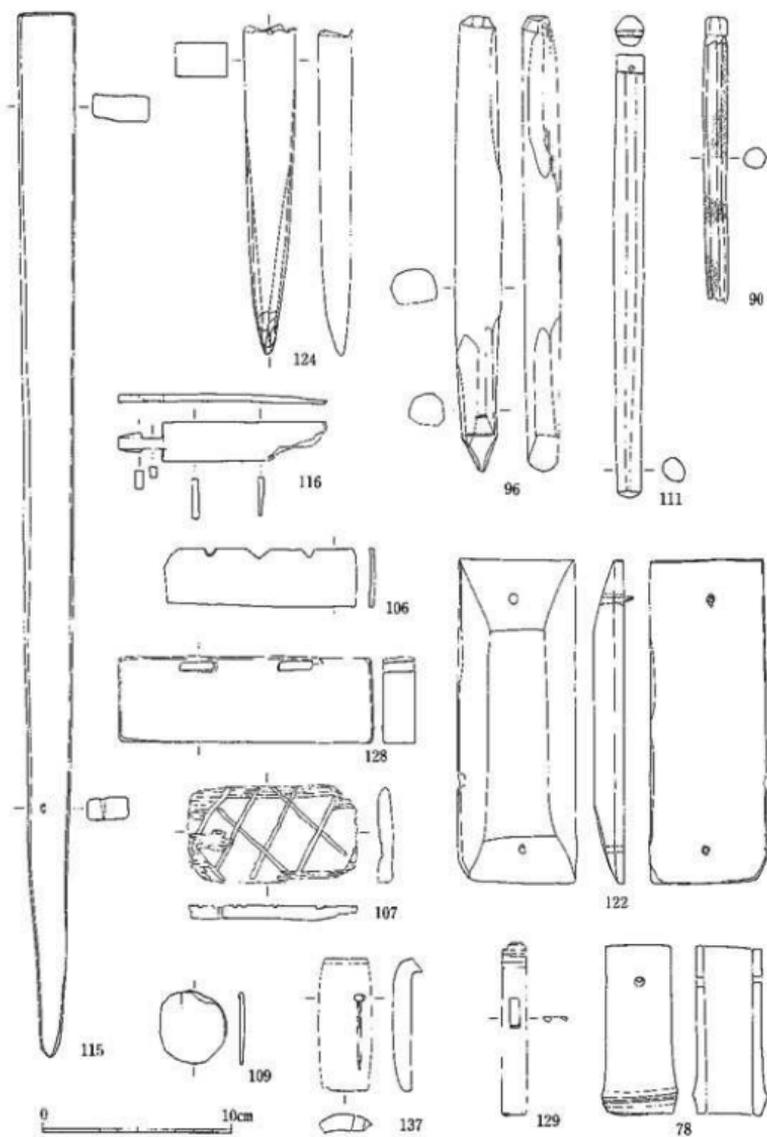


図101 第5地点出土その他の木製品(3)
 Fig. 101 Various wooden implements from NM5(3)

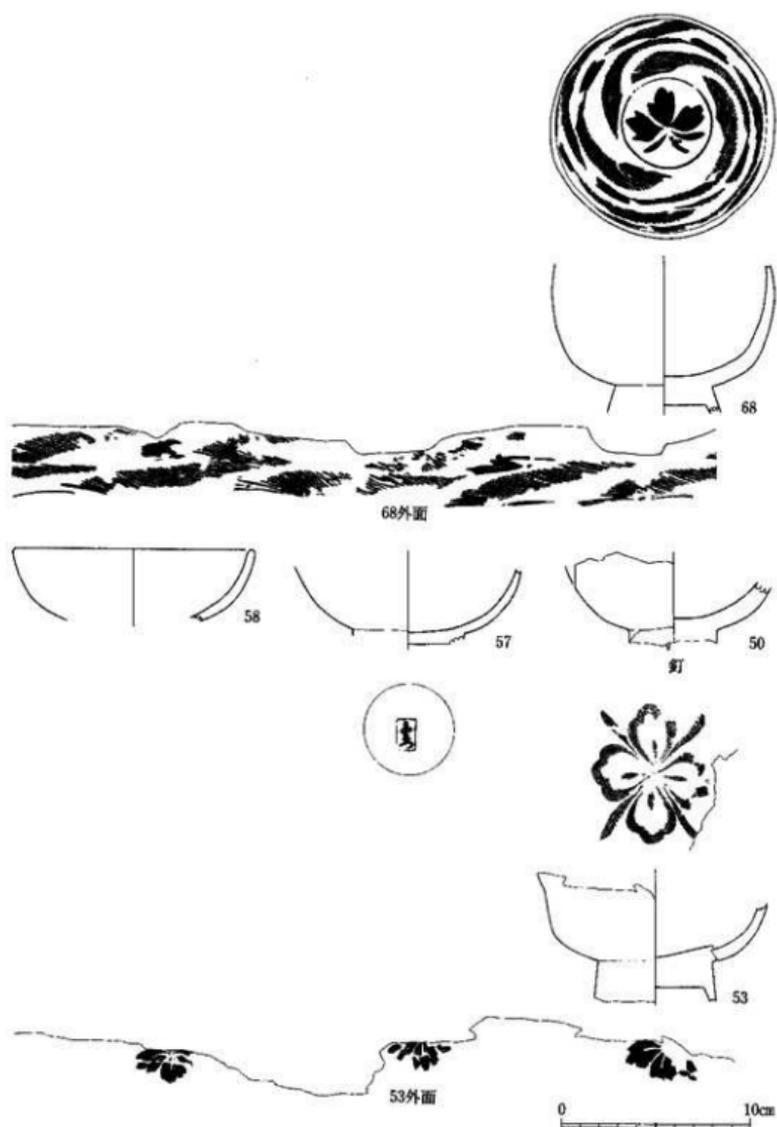


图102 第5地点出土漆塗製品(1)
Fig. 102 Lacquerwares from NM5(1)

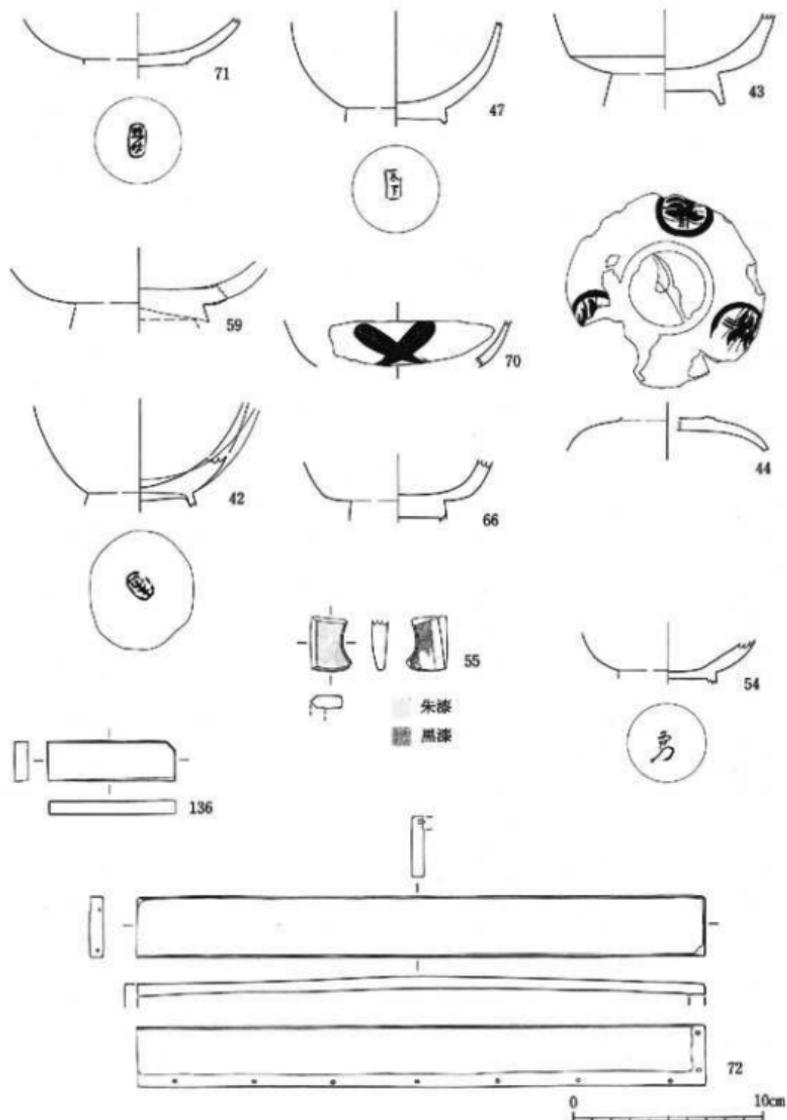


图103 第5地点出土漆塗製品(2)

Fig. 103 Lacquerwares from NM5(2)

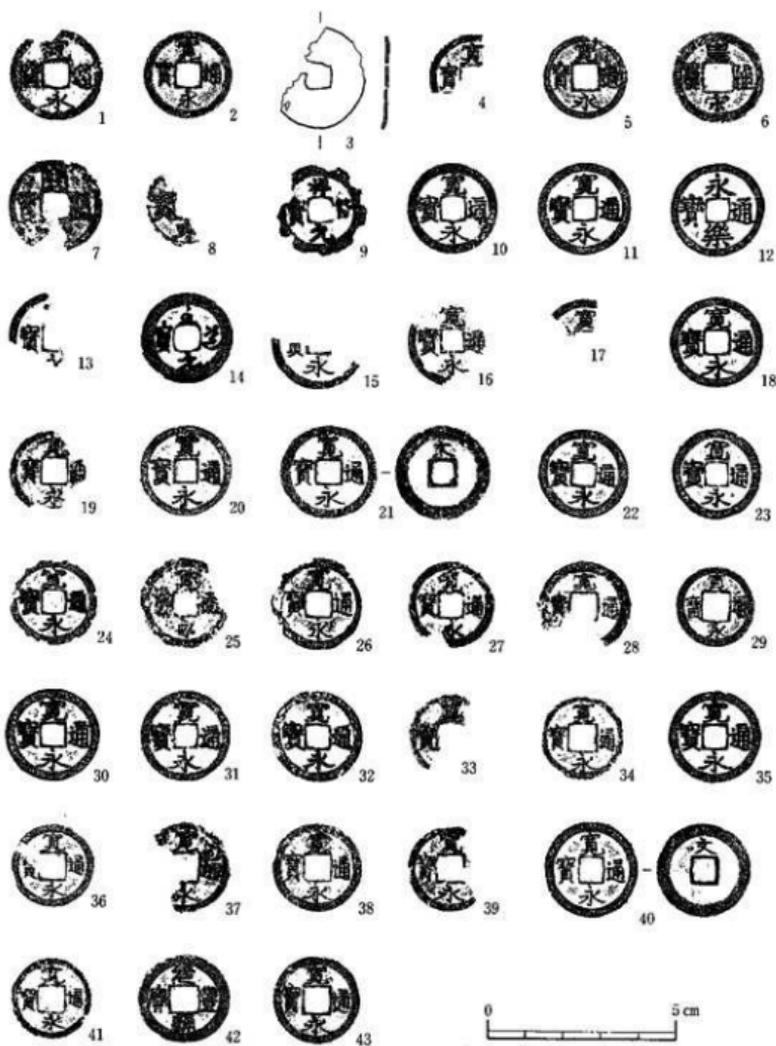


图104 第5地点出土古钱
Fig. 104 Coins from NM5

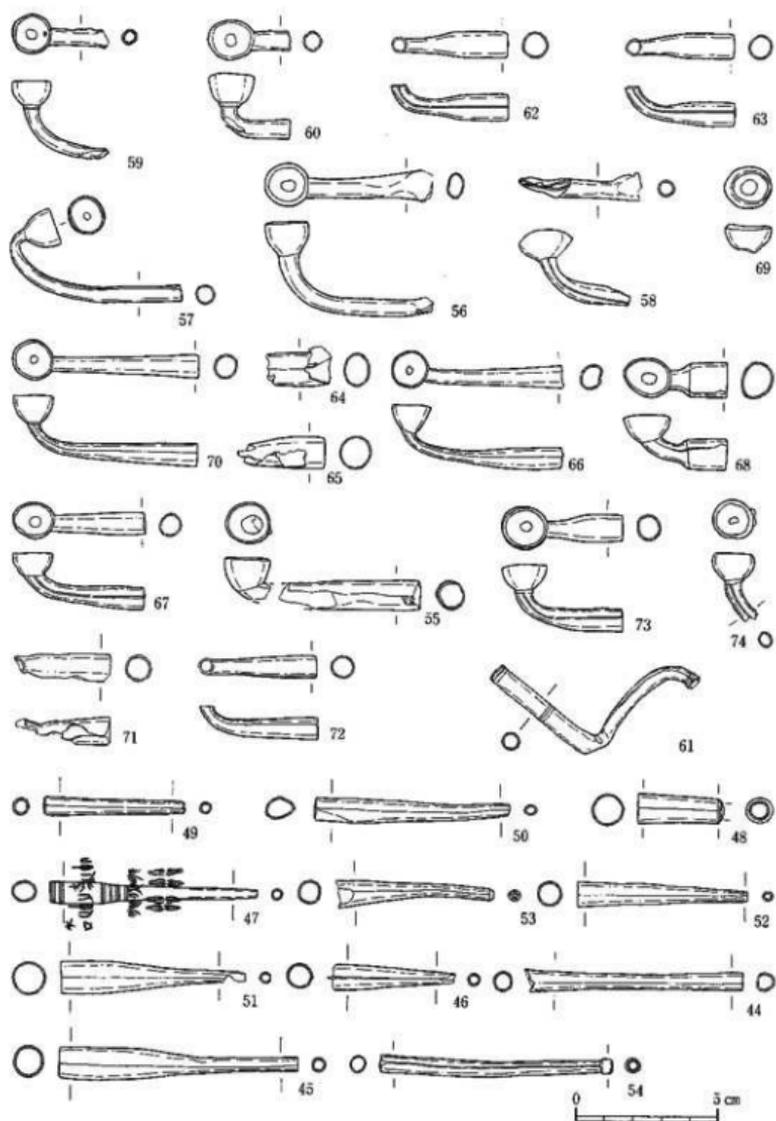


图105 第5地点出土烟管
Fig. 105 Pipes from NM5

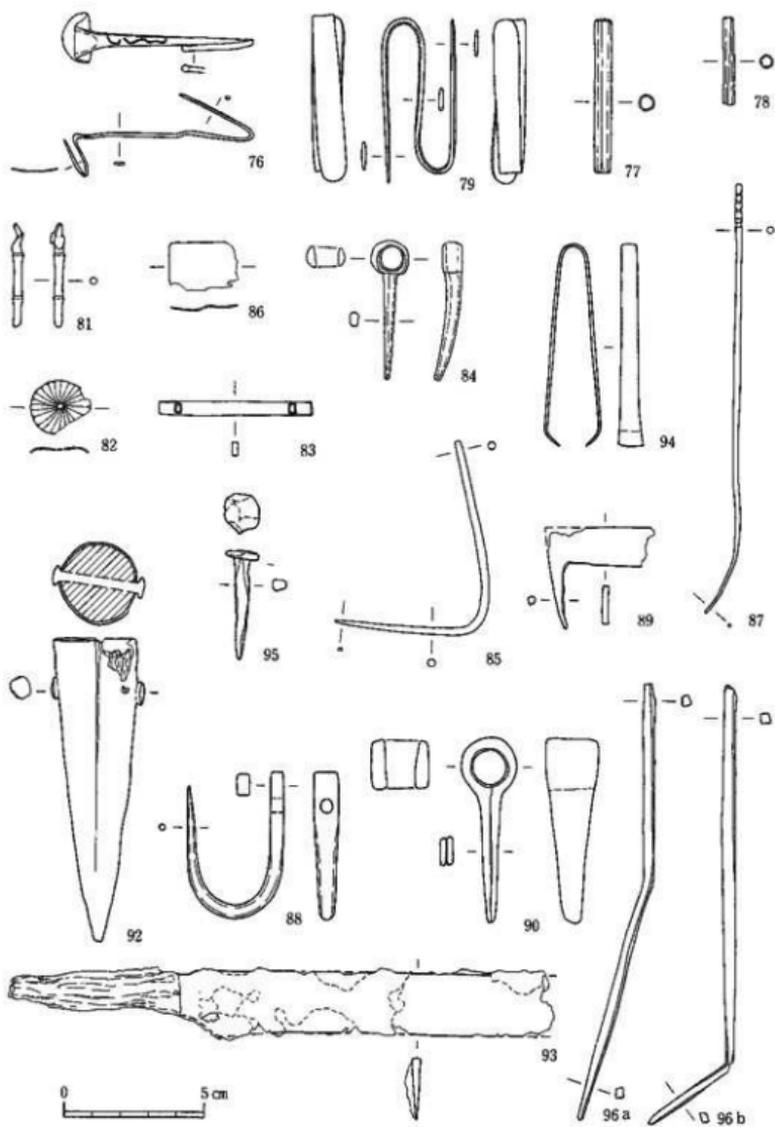


図106 第5地点出土その他の金属製品
 Fig. 106 Various metal implements from NM5

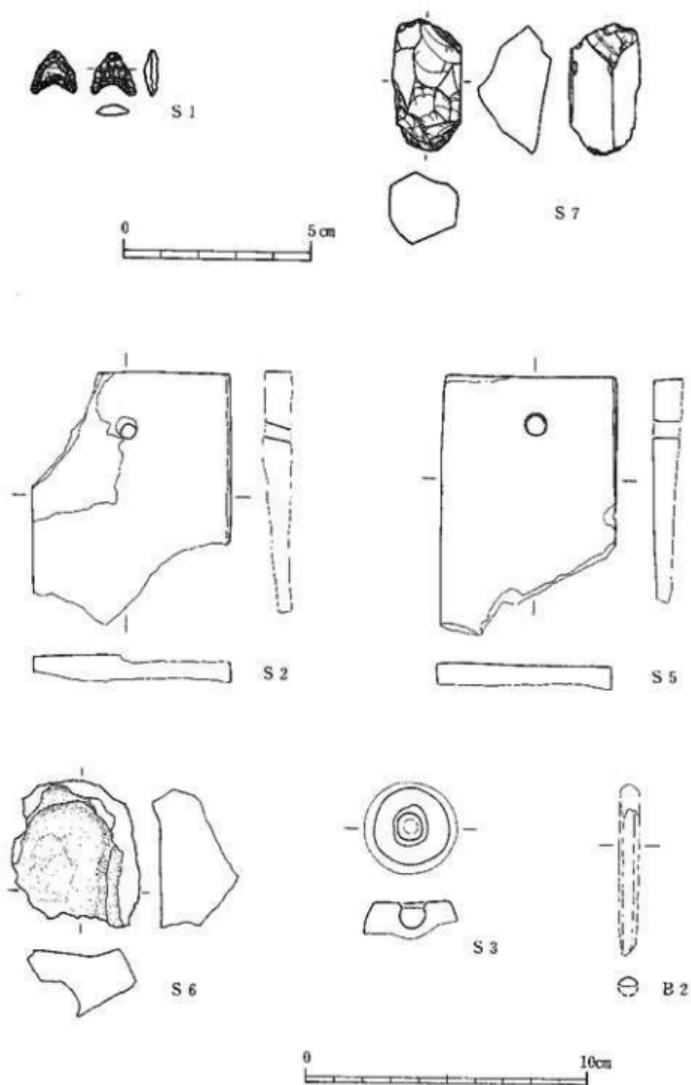


图107 第5地点出土石器·石製品·骨角製品
 Fig. 107 Various implements from NM5

表2 第5地点出土磁器集計表1
Tab.2 Distribution of porcelains at NM5(1)

曹・墓 録	大甕		中 甕				小 甕				餅		蓋		灰 土		保 物				高		不明													
	丸形	腰形	丸形	腰形	広底	丸形	腰形	底浅	広底	不明	丸形	腰形	丸形	腰形	水注	飯椀	その他	不明	高	その他																
1号	1	3			1	3	34	6	39	2	164	84	10	82																						
2号上層																																				
2層		2					9				8	15	3	9	1	17									1	15										
3号寄点上層		2					7	2	1	2	4	11		18											2	3	4	15								
2号層			10				1	48	2	42		111	1	66	3	69	3								1	14	12	27								
2号層			5				1	10		10		17	1	29	1	29	1									4	2	1	5	28						
南区2号墓			1					12		7		3		11		13										1				20						
南区2号墓			3					7		2		6		12		11										2		3	1	2	19					
南区3号墓上層																																				
南区3号墓												2		2		11															1					
南区3号墓上層下層											2		2		1																1					
南区3号墓			3					4		2		1	21	1	16											1	1	4		2	7					
南区3号墓											1	2		2																	1					
南区3号墓上層											1																				1					
南区3号墓			4					5		5		8		8		15										2		2		4	9					
北区田舎			5					11		2		3		7		9										2		1	2		3	22				
北区IV層			2					14		4		7		8		25										3		1	2		5	36				
北区V層			5			1	3	15		3		19		20		60															2	7	86			
北区18・19号V層			1					4		6				10		16																2				
北区18・19号VI層			4					2		9		9	1	16		10																4	21			
北区18・19号VII層												1																				2				
北区20～22号IX層																																				
北区20～22号X層								1					1		3																					
北区20～22号XI層																																				
溝流		3	41	3		2	5	20		2	46		86	2	81	5	82									2		9	2	8	11	14	53			
不明			6			1	1	26		3	24		33	6	39	6	37																			
1号磚物葺																																				
2号磚物葺																																				
1号柱列													2																							
2号柱列			1																																	
3号柱列																																				
1号溝								5		1		3		3		13																				
3号溝																																				
7号溝			1					11		16		5		10	3	38																				
10号溝								1						1		2																				
1号井戸								3					2	4		9																				
1号土坑												2		1		4																				
2号土坑								1		4		6		2		4																				
1号木造土間溝																																				
2号木造土間溝																																				
3号木造土間溝																																				
4号木造土間溝																																				
その他のIV期のピット			1					1		1		2		3		10																				
IV期の溝の小計			3			1		25		27		19		31		87																				
IV期1								2				1		1		2																				
IV期2																																				
4号柱列																																				
5号柱列																																				
6号柱列																																				
7号柱列																																				
8号柱列																																				
9号柱列																																				
10号溝																																				
11号溝																																				
その他のIV期のピット																																				
IV期の溝の小計								3		1		2		8		24																				

表3 第5地点出土磁器集計表(2)

Tab.3 Distribution of porcelains at NM5(2)

種・遺物	大		中		小		細		豆		類		変		不明	その他	不明				
	丸	扁	扁	扁	丸	扁	丸	扁	小	中	大	不明	本注	瓶				物			
3号罐形鉢																	1				
10号柱列						1											2				
11号柱列												1									
12号柱列								2				4	徳利 1				1				
13号柱列												1					1				
14号柱列																					
15号柱列																					
18号柱列																	1				
4号高																					
6号高																					
9号高						3	5	8		5	12					2	19				
16号高		1																			
17号高																					
3号土坑		3			7	1	2	1			6	徳利 1			2	唐II 2	3				
その他のIII期のピット																	1				
III期の遺物小計		1			3	6	10		5	18		1			2		26				
その他のIII期のピット										1	2						2				
15号高					1	1	5				1	4(瓶2)					4				
4号土坑		3			2	2	1				3					1	3				
その他のII期のピット																					
II期の遺物小計		6			10	2	8	1		10		5			2	1	12				
4号磁物鉢																					
5号磁物鉢																					
16号柱列																					
17号柱列																					
12号高									5	6											
14号高																					
21号高																					
22号高																					
1〜4号小高																					
1〜4号高							1	1	2								1				
5号池																					
6号池										1	1										
2号井戸																					
1号石所遺物																					
その他のI期のピット																					
I期の遺物小計						1	1	8	7								1				
6号磁物鉢																					
7号磁物鉢																					
13号高																					
18号高																					
19号高																					
20号高					1	1	1				1	仏花瓶 1					1				
23号高										1	1										
24号高																					
25号高																					
26号高																					
27号高																					
28号高										4							1				
29号高																					
30号高																					
31号高																					
7・8号池																					
9・10号池					1		1		1	1	2						3				
11号池																					
1号丸口										1	2										
2号石所遺物																					
3号石所遺物																					
その他のI期のピット													中瓶 1								
I期の遺物小計					2	1	2		4	6	5		2				5				
合計	1	107	3	6	14	274	15	253	5	542	15	498	33	677	13	96	6	82	66	122	985

表6 第5地点出土土器・土製品集計表(1)

Tab. 6 Distribution of ceramics and clay objects at NM5(1)

層・遺構	土器類							瓦質土器				軟質胎粘土器			土製品
	皿	高皿	鉢	鉢	その他	不明	小計	鉢類	その他	不明	小計	埴輪	その他	不明	小計
1層	323		33		1	66	422	28	十把(1組)		6	36	17		
2層上面	20					2	22								
2層	34		1		1	36	3				1	4	2		1
2層遺上層	85		23			7	115	4			5	9	3		1
2a層	772	1	16	小塚形?1	10	801	18	十把1		10	29	77			13
2b層	469		1		13	483	8	中環1		2	11	8		1	3
南區2c層	434		3		3	440	1			6	7	4			4
南區2d層	159		4			164	7	丸型1		1	9	1			1
南區3a層上面	1					1									
南區3a層	94	1				3	96	1			1	2			
南區3b層上面(31層)	46					35	81				1	1			
南區3b層	442		1			6	449			1	1				不明1
南區3c層	17					17									
南區3層上面	5				1	1	7								1
南區3層	384	1	1			5	311	4			3	7			
北區田層	273	1	1	7		1	283	1			2	3	4		4
北區IV層	225	3				6	234	2			2				3
北區V層	1479	3	4	10		24	1522	4		1	5	4	2(蓋?1)		1
北區18・19列VI層	94						94								
北區18・19列VII層	783	1	2	7		405	1198	12			12				
北區18・19列VIII層	35	1				1	37								
北區20～22列IX層	47		1	1			49	1			1	1			1
北區20～22列X層	11						11	1			1				
北區20～22列XI層	55					7	62	1			1				1
段瓦	277		22		1	16	316	11			4	15	18		17
不審	466		4			18	308	4			2	6	12		2
1号建物跡	2						2								
2号建物跡	6						6								
1号柱列	22						22								
2号柱列	5	1					6	1			1				
3号柱列															
1号溝	151					32	183	4			15	19	3		3
3号溝	2					2	4					1			1
7号溝	174		4			6	184	3	中環1		4	8	27		11
10号溝	9						9								
1号井戸	9						9				1	1	2		2
1号土坑	10		8		1	19						3			5
2号土坑	65		4			8	77	2			2	4	26		26
1号木箱埋設遺構															
2号木箱埋設遺構															
3号木箱埋設遺構	2						2								
4号木箱埋設遺構															
その他のIV期のピット	69					1	70	2			7	9	4		2
IV期の遺構小計	326	1	16			50	593	12		1	29	42	68		13
門跡1	4						4								
門跡2	3						3	2							
4号柱列	2						2	1				1			1
5号柱列	2						2								
6号柱列	4		1				5					1			1
7号柱列	10						10								
8号柱列	12						12								
9号柱列	6						6								
2号溝	246					8	254				1	1			
5号溝															
8号溝	165					11	116				2	2	8		1
11号溝															
その他の掘り期のピット	38						38				1	1	1		1
掘り期の遺構小計	432		1			19	432	3			4	7	10		2

表7 第5地点出土土器・土製品集計表(2)

Tab.7 Distribution of ceramics and clay objects at NM5(2)

村・遺構	土 師 質 土 器					互 質 土 器				軟 質 胎 輪 土 器			土 製品				
	皿	耳 瓶	壺 罎	鉢 碗	その他	不明	小計	鉢 碗	その他	小計	惣 瓶	その他		不明	小計		
3号建物跡	15						35			1	1						
10号柱列							13										
11号柱列	7						7										
12号地所	14						14										
13号柱列	3						3										
14号柱列																	
15号柱列	3						3			1	1						
18号柱列	3						3										
4号溝	9						9										
6号溝	1						1										
9号溝	131		1	1		1	134				6			6			
16号溝	3						3										
17号溝																	
3号土坑	639		4	1		5	654	5			5						
その他の11号期のピット	9						9										
11号期の遺構小計	850		5	2		6	868	3		2	7	6		6			
その他の11号期のピット	93			1			94			2	2						
15号溝	75						2	27									
4号土坑	172		1	2	4		5	184	1			1					
その他の11号期のピット	10						4	14									
11号期の遺構小計	257		1	2	6		11	275	1		1						
6号建物跡							1	1									
5号建物跡	11						11										
16号柱列																	
17号柱列																	
12号溝	20						1	21			1	1					
14号溝																	
21号溝	1							1									
22号溝	1							1									
1～4号小溝																	
1～4号柱	18							18									
5号溝																	
6号溝																	
2号井戸									1		1						
1号石列遺構																	
その他の11号期のピット	22							22									
11号期の遺構小計	73						2	75	1		1	2					
6号建物跡	7							7									
7号建物跡																	
13号溝	1							1									
18号溝																	
19号溝																	
20号溝	32						26	38		2	2	3		3			
23号溝	3							3									
21号溝																	
25号溝	13							13									
26号溝	30							30		2	2	1		1			
27号溝																	
28号溝																	
29号溝																	
30号溝																	
31号溝																	
7・8号溝																	
9・10号溝	22							22									
11号石																	
1号石列	6							6									
2号石列遺構																	
3号石列遺構																	
その他の11号期のピット																	
11号期の遺構小計	214						26	140		4	4	4		4			
合計	9,315	13	16	161		11	743	10,259	133	6	88	327	229	4	80	323	8

表8 第5地点出土瓦集計表(1)
Tab.8 Distribution of roof tiles at NM5(1)

種・遺物	平瓦型	丸瓦型	残瓦類	伊平瓦類	和瓦瓦類	前戸瓦	輪造瓦	その他瓦	不明瓦
1層									
2層上層									
2層	33(57.795)	31(11.22)	51(16.175)	2(0.195)		1(0.15)		1(0.43)	46(2.275)
2×平造上層	29(51.295)	55(11.195)	56(14.365)	1(0.135)		1(0.195)		4(1.34)	31(0.665)
2×平	17(1026.979)	327(2.45)	167(38.595)	6(0.735)	12(2.815)	4(1.085)	7(1.31)	32(9.775)	464(2.439)
2×平	69(58.825)	214(5.665)	32(4.96)	3(0.26)	3(2.42)	9(1.36)	3(1.43)	5(1.34)	197(5.165)
南×2×平	185(24.395)	36(6.33)	9(1.41)		2(0.04)	3(0.685)		5(2.319)	85(1.665)
南×2×平	228(178.398)	240(39.356)	34(9.585)	8(2.77)	4(7.48)	9(1.8)		6(3.295)	28(3.95)
南×3×平上層	3(0.34)	1(0.09)	3(0.665)						
南×3×平	24(2.12)	14(1.33)							28(0.445)
南×3×平上層ゾラ									
南×3×平	25(23.184)	79(7.245)	8(0.585)	1(0.23)	3(0.685)			1(0.09)	26(3.045)
南×3×平	6(0.525)	3(0.345)							5(0.11)
南×3層上層	6(6.87)	2(0.167)	1(0.249)						4(0.15)
南×3層	383(91.74)	177(25.452)	24(5.542)	5(1.505)	6(1.37)	3(0.37)		1(0.15)	157(5.264)
北東山層	29(38.315)	73(9.615)	5(2.636)	2(0.18)	4(0.493)	2(0.41)		3(0.425)	98(2.42)
北東山層	180(23.46)	72(9.975)	3(0.48)	1(0.09)	1(0.12)				7(12.115)
北東V層	40(52.235)	14(20.41)	6(0.386)	8(1.2)	6(2.325)	12(2.425)	1(0.645)		135(3.665)
北東18・19層	5(10.96)	4(8.456)		2(0.3)	4(1.368)			3(0.8)	1(0.109)
北東18・19層	394(120.4913)	73(47.234)	3(1.126)	7(1.35)	7(2.63)	6(1.615)	7(2.625)	2(0.97)	262(1.6675)
北東18・19層	16(1.21)	7(9.87)							6(9.97)
北東20～22層	877(57.388)	293(71.328)	2(0.202)	6(2.407)	15(5.499)	8(1.656)	2(0.725)	2(0.428)	52(1.746)
北東20～22層	574(103.295)	290(46.002)	11(6.505)	14(8.961)	12(6.51)	4(1.29)	2(0.43)	1(0.5)	23(0.63)
北東20～22層	654(109.6222)	285(47.392)		11(2.787)	13(7.456)	3(0.56)			32(0.3889)
板瓦	2(0.46)		1(0.685)						
平瓦	58(76.422)	143(40.296)	9(2.835)	11(2.315)	16(4.285)	28(6.8)	14(1.115)	5(1.321)	135(2.496)
1号建前縁	8(9.45)		1(0.65)						4(0.06)
2号建前縁	6(0.615)	3(0.93)	1(0.17)	1(0.2)	1(0.15)				2(0.03)
1号側門	94(29.394)	19(3.263)		1(0.365)	3(0.408)	1(0.125)			16(0.265)
2号側門	4(0.33)	1(0.455)							2(0.56)
3号側門	3(0.265)								3(0.62)
1号溝	18(24.24)	69(9.33)	27(7.326)		2(0.285)	1(0.125)			86(1.693)
2号溝	39(4.29)	8(1.543)			1(0.63)				8(0.165)
7号溝	254(33.61)	41(6.372)	29(8.586)	2(0.145)	1(0.465)	1(0.253)			139(2.78)
10号溝	6(9.99)	1(0.17)	1(0.13)						3(0.045)
1号用1	65(12.689)	14(4.46)	2(0.76)	1(0.44)				1(0.16)	2(0.33)
1号土坑	104(25.836)	27(31.856)	24(24.275)		1(0.81)			1(0.329)	154(1.053)
2号土坑	4(12.54)	3(0.62)	9(5.81)		1(2.5)			2(2.835)	8(0.12)
1号木桁架設遺構									
2号木桁架設遺構									5(0.84)
3号木桁架設遺構	5(0.645)								
4号木桁架設遺構									
その他のIV層のピット	102(2.626)	19(6.64)	9(4.076)		4(0.285)		1(0.329)	1(0.42)	35(0.549)
IV層の遺構小計	906(137.938)	198(47.928)	124(56.416)	6(1.17)	14(4.339)	3(0.565)	1(0.329)	5(3.74)	492(7.212)
門跡1									
門跡2	31(25.853)	84(9.546)	7(1.647)	1(0.419)	1(0.425)	2(0.24)		5(1.28)	93(1.274)
4号土坑	6(9.96)		3(1.3)						4(0.11)
5号土坑	2(0.165)							1(0.253)	
6号土坑	11(1.353)	3(0.173)					1(0.11)		8(0.123)
7号土坑	12(3.367)	4(0.329)							2(0.029)
8号土坑	21(3.965)	2(0.23)	3(0.755)						12(0.162)
9号土坑	16(1.015)	2(0.17)				1(0.193)			16(0.115)
2号溝	15(1.41)	6(0.625)	3(0.725)						3(0.42)
5号溝	1(0.14)	1(0.21)							1(0.062)
8号溝	96(14.35)	41(5.945)	23(4.82)		1(0.25)		1(0.365)	6(0.495)	83(9.794)
11号溝									
その他のIII層のピット	79(7.532)	20(2.286)	1(0.24)		1(0.55)				44(0.648)
III層の遺構小計	362(70.06)	562(19.424)	30(9.367)	1(0.079)	3(0.7)	3(0.476)	3(0.726)	7(2.82)	288(3.753)

表9 第5地点出土瓦集計表②
Tab.9 Distribution of roof tiles at NM5(2)

番号・遺物	平瓦数	丸瓦数	規瓦数	葺平瓦数	葺丸瓦数	戸口瓦	端瓦	キッコ内出土数	
								その他瓦	不明瓦
3号建物跡	6(0.30)								3(0.60)
10号柱列	30(3.542)	8(0.944)	1(0.120)	1(0.12)					7(0.138)
11号柱列	19(2.093)	3(0.367)	2(0.20)						2(0.099)
12号柱列	9(1.368)	7(0.6)				1(0.105)			8(0.191)
13号柱列	13(3.525)	3(0.33)					1(0.36)	2(1.07)	9(1.465)
14号柱列	9(1.31)		1(0.115)				1(0.235)		7(0.3)
15号柱列	14(1.095)	4(0.365)							6(0.123)
16号柱列	5(0.51)	3(0.453)						1(0.01)	
4号溝	1(0.11)	3(0.53)							4(0.68)
5号溝	1(0.065)	2(0.18)							4(0.4)
9号溝	150(28.38)	6(5.74)	84(125)	1(0.395)	6(1.51)	12(2.285)	2(0.695)	1(0.155)	67(7.385)
16号溝	11(1.46)	3(0.43)							3(0.2)
17号溝									
2号土瓦	81(18.82)	23(3.48)	2(0.783)		1(0.09)			1(0.596)	10(0.27)
その他の皿・蓋のビッド	24(25.368)	41(12.77)	1(0.696)	2(2.505)	2(0.41)			1(0.063)	29(0.45)
皿・蓋の遺構・葺	482(80.229)	165(26.391)	15(5.4)	4(1.07)	9(2.01)	13(2.4)	4(1.29)	6(1.606)	15(14.636)
その他の皿蓋のビッド	188(14.36)	25(4.409)	5(0.87)		1(0.153)			4(1.39)	3(0.378)
13号溝	69(9.665)	20(4.695)		1(0.06)					17(0.284)
4号土瓦	13(1.95)	15(7.43)			2(0.425)				1(0.34)
その他の皿・蓋のビッド									3(0.71)
皿・蓋の遺構・葺	81(11.605)	40(6.125)		1(0.06)	2(0.433)				2(0.334)
4号土瓦	8(1.595)	1(0.189)							2(0.32)
5号遺物		1(0.05)							3(0.61)
16号柱列	1(0.19)	2(0.28)							3(0.65)
17号柱列									
12号溝	104(12.775)	34(3.02)	1(0.07)	2(0.665)	2(0.173)	3(0.61)			23(0.385)
14号溝									
21号溝	7(0.66)	3(0.663)							6(0.56)
22号溝									
1~4号溝									
1~4号溝									
5号空	2(14.48)	8(1.2)							2(0.35)
6号空	11(2.345)	5(1.826)							1(0.6)
2号土瓦	1(0.145)	4(1.31)							1(0.42)
1号土瓦	2(0.16)								
その他の皿・蓋のビッド	13(7.306)	9(0.895)							7(0.13)
1号土瓦	171(12.568)	67(9.154)	2(0.57)	1(0.053)	2(0.175)	3(0.61)			48(1.06)
6号建物跡									
7号建物跡									
13号溝	97(5.465)	72(10.9)	2(0.2)		3(0.39)	2(0.81)	16(3.8)		26(0.46)
18号溝									
19号溝									
20号溝	122(14.297)	44(5.11)							
23号溝	6(0.88)	4(0.365)						1(0.065)	8(1.5)
24号溝									6(0.18)
25号溝		1(0.2)							
26号溝	1(0.05)	1(0.04)							
27号溝									
28号溝	16(2.6)	2(0.105)							
29号溝									
30号溝	2(0.12)								
31号溝									
7・8号溝									
9・10号溝	19(12.54)	4(7.3)	2(0.825)		1(0.345)			1(0.07)	3(0.365)
1号溝	5(0.45)	2(0.495)							
1号土瓦	25(0.4)	22(2.825)							2(0.075)
2号土瓦									
3号土瓦	3(0.32)	2(0.42)							1(0.02)
その他の皿・蓋のビッド	1(0.57)	3(0.2)							1(0.035)
1号土瓦	26(2.532)	192(27.993)	5(0.945)		4(0.68)	2(0.81)	26(3.8)	2(0.135)	157(2.635)
合計	1236(1836.723)	3390(609.76)	614(108.536)	101(24.877)	144(45.896)	117(24.513)	47(13.084)	89(23.332)	3390(74.164)

表10 第5地点出土木製品・漆塗製品集計表(1)

Tab.10 Distribution of wooden implements at NM5(1)

層・遺跡	木製品				漆塗製品		小槌	丸材	板材	加工			木羽(枚)		
	下駄	箸	その他	その他	漆	漆				丸材	木片	木			
1層								22(2)	9	1	30(15)	5			
2層上段											1				
2層								1	1		1				
2a層上層								3	1		3(3)				
2a層	1	1						11(2)	5(2)	2	41(20)				
2b層								2		1(1)	8(7)	7			
南K2c層											17(6)				
南K2d層	1					1		26(2)	6		61(36)	148.18			
南K3a層上層								2	1		2				
南K3a層			6					3			8				
南K3b層上面ゴミ層	72							64(1)	4(1)	2(2)	302(151)	115.48			
南K3b層	2	42				1		33	4(1)	1	253(194)	161.5			
南K3c層								1			2(1)				
南K3層上層	1	1				1									
南K3層	1	32				2		70(30)	8(1)	1	84(29)	92.98			
北K山層		1						10	1(1)		13(5)				
北KIV層						2		11			21(11)				
北KV層		7				1		15(3)	2	2	199(148)	31.9			
北K18・19層VI層								5	1		13(6)	24.0			
北K18・19層VII層	9	449	2		11	13	15	13	21		433(31)	143(2)	8(2)	2046(223)	8068.1
北K18・19層VIII層		1						2	1(1)		3(3)				
北K20・22層I層	1	12					1	1			146	18	5	234(23)	638.6
北K20・22層II層		1									80	9		61(8)	45.8
北K20・22層III層		1				1					20(1)	2		33(1)	54.0
投函		1						3	1	15(1)	7(2)	23(13)	3.0		
不明		14				1		6	1	96(4)	32(3)	3	235(68)	318.2	
1号建物跡															
2号建物跡															
1号柱列								3	22	5	43(1)				
2号柱列								1		1					
3号柱列															
1号溝									7(1)		45(23)				
2号溝															
7号溝								2	191(4)	15(2)	16(1)	213(52)	20.0		
10号溝															
1号分丁								1	12(3)	2	11(5)	3.0			
1号ト坑									63(20)	8(1)	210(149)	369.2			
2号土坑									45(3)	6(3)	36(37)	3390			
1号木簡埋設遺跡															
2号木簡埋設遺跡															
3号木簡埋設遺跡											4(1)				
4号木簡埋設遺跡															
その他の釘類のピット									34	2(1)	55(13)				
IV期の遺跡小計			1				1	6	374(33)	39(7)	16(1)	639(281)	3872.2		
門跡1								1	75	11	152(3)	9.0			
門跡2								2	115	25(1)	236(13)	32.6			
4号柱列															
5号柱列															
6号柱列									4		8				
7号柱列									1	1	3(1)				
8号柱列									13	4	21(8)	218.9			
9号柱列											1(1)				
2号溝											2				
3号溝															
8号溝									3(1)	1	7(3)	7.0			
11号溝															
その他の埋み類のピット	1					1			41	19	188(72)	3.0			
IIIb期の遺跡小計	1					1	1	2	252(1)	61(1)	598(101)	208.6			

カッコ内は炭化率の概

表11 第5地点出土木製品・漆塗製品集計表(2)
Tab. 11 Distribution of wooden implements at NM5(2)

カッコ内は長さしたものの数

目・遺物	木製品				漆塗製品		木				木羽(g)			
	下敷	箸	柱	その他	不明	漆	木筒	丸材	板材	角材		丸材	小片	
3号漆物跡												2	46.9	
10号柱列									1	7		9(3)		
11号柱列												6(3)		
12号柱列									1	1				
13号柱列												1		
14号柱列												1(1)		
15号柱列											1			
16号柱列														
4号漆														
9号漆		10		漆塗木製品1				26	4	87(1)	4(1)	115(45)	31.4	
16号漆										4		5(2)		
17号漆														
3号土坑						1				3(2)	2(2)	120(116)		
その他の皿・期のビット										2		25(25)		
皿・期の漆塗小計		11		1			1	26	4	98(3)	15(3)	294(205)	77.4	
その他の皿・期のビット		1		新2	1	1				15(4)	2	24(6)	1.7	
15号漆	1	17		漆物散り、漆1						103(2)	10(1)	146(17)	153.6	
4号土坑		2				1				7		43(23)	20.6	
その他の皿・期ビット		12		漆塗木製品1						38(2)	1(1)	38(8)	3.7	
皿・期の漆塗小計	1	31		3		1				148(14)	11(2)	227(50)	179.9	
4号漆物跡														
5号漆物跡												5(2)		
16号柱列														
17号土坑														
12号漆						1								
14号漆									3	1		31(15)		
21号漆												1(1)		
22号漆														
1~4号漆														
1~4号漆														
5号漆												3(2)	4	
6号漆														
2号漆片										34	2	14(2)		
1号石列遺物														
その他の1b期のビット										2	2	18(10)	9.1	
1b期の遺物小計						1				41	5	72(52)	13.1	
6号漆物跡		1								2		13(1)	78.4	
7号漆物跡														
13号漆														
18号漆														
19号漆														
20号漆		12		ワラジ漆塗物1						23	5	2(1)	167(30)	38.6
23号漆														
24号漆												5(8)		
25号漆														
26号漆														
27号漆														
28号漆														
29号漆														
30号漆														
31号漆														
7・8号漆										1			1	
9・10号漆									1	6	1(1)	8(3)		
11号漆														
1号漆片		2								3		1		
2号石列遺物														
3号石列遺物														
その他の1a期のビット						1								
1a期の遺物小計		15		3		1				35	6(1)	2(1)	198(42)	117.0
合計	15	790	4	34	6	22	18	36	17	2956(111)	394(28)	47(6)	3748(1386)	1036.64

表13 第5地点出土その他の遺物集計表(2)
Tab. 13 Distribution of various implements at NM5(2)

品・遺物	分類表							ガラス製品			石 器	土 器	金 器	銅 器	
	石	磁	硝	鉄	銅	銀	その他	ガラス	その他	その他					
1号短剣					不明										
10号短刀				短刀	不明										
11号短刀				短刀											
12号短刀					不明										
13号短刀					不明										
14号短刀					不明										
15号短刀															
16号短刀					不明										
1号鍔															
6号鍔															
9号鍔															
10号鍔															
17号鍔															
3号手鏡	3			手鏡	小刀 手鏡1										
その他の白銅のビッド					不明										
10号刺剣小片	2			短刀	短刀										
その他の鉄製のビッド					不明										
15号鍔				短刀	手鏡										
4号短刀															
その他の白銅製のビッド															
11号短刀の遺跡小片				短刀											
4号短剣					不明										
3号短剣															
16号短刀															
17号短刀															
12号鍔															
14号鍔															
21号鍔															
22号鍔															
1～4号小鍔															
1～4号鍔	1			短刀											
2号鍔															
4号鍔					不明										
2号短刀															
1号石刀遺物															
その他の1b類のビッド	1			短刀	短刀										
1b類の遺跡小片	2			短刀	短刀										
6号短剣				不明	鍔										
7号短剣															
13号鍔	1														
1号鍔															
19号鍔															
29号鍔															
21号鍔															
21号鍔															
26号鍔															
26号鍔															
27号鍔															
28号鍔															
29号鍔															
29号鍔															
29号鍔															
31号鍔															
7・8号鍔															
9・10号鍔															
11号鍔															
1号鍔															
2号石刀遺物															
3号石刀遺物	1														
その他の1a類のビッド															
1a類の遺跡小片	2			短刀	短刀										
合計	43			短刀 11 手鏡 21	短刀 11 手鏡 21										

表14 第5地点出土磁器観察表(1)
Tab. 14 Notes on porcelains at NM5(1)

品名	出土場所	器種	口径	高さ	器高	文様	器名	出土層	製作年代	備考	頁
401	基礎瓦 10-12層	中層瓦	11.6	4.9	3.6	花文 雲入唐草	中層瓦	1670年代	磁器	42	17
402	基礎瓦 10-12層	中層瓦	10.6	4.0	3.5	雲文 雲入唐草	普通	1670年代	磁器	46	17
403	基礎瓦 10層	小層瓦	7.4	—	—	花文(フコニヤク物)	普通	17C末~18C初	—	42	17
404	118 下層	小層瓦	8.4	3.0	4.6	雲文(フコニヤク物)	普通	17C初	—	42	17
405	G20 V-3層	小層瓦	9.7	3.7	5.6	雲文 雲竹唐文 雲入唐草	中層瓦	1680-1690年代	—	47	17
406	G18 V層	中層瓦	8.6	3.7	3.3	花文	中層瓦	17C初	—	43	17
407	H-8 V層	中層瓦	11.6	—	—	花竹唐文	中層瓦	17C末~18C初	くろひんかん	42	17
408	J-9 V層	中層瓦	10.2	4.1	5.7	雲文(フコニヤク物) 雲文 雲竹唐文	普通	17C末~18C初	—	43	17
409	K20 V層	中層瓦	11.8	4.8	5.3	花竹唐文	普通	17C末~18C初	くろひんかん	42	17
410	M20 1層	小層瓦	9.3	—	—	雲竹唐文	中層瓦	18C後半~19C初	—	42	17
411	M9 下層・M10 2層	中層瓦	11.2	3.8	5.3	花文 雲竹唐文 雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	17C初	—	42	17
412	D24 2C層・K4層 10層 包	小層瓦	7.2	3.1	4.9	外周半輪 雲竹唐文	中層瓦	18C後半	—	42	17
413	J28 1層・J28 2層	中層瓦	10.8	4.6	6.7	雲竹唐文 雲竹唐文 雲竹唐文	普通	1680 1690年代	—	42	17
414	6層埋め物	中層瓦	11.0	—	—	雲竹唐文	中層瓦	17C後半	—	44	15
415	J24 10-11層	瓦	8.4	—	—	雲竹唐文	普通	17C後半	—	42	17
416	J28 24層	小層瓦	8.6	—	—	雲竹唐文	普通	18C	—	42	17
417	F23 2層	小層瓦	7.4	3.8	4.3	外周半輪	普通	19C	—	42	17
418	J2: 25層	小層瓦	6.9	3.6	5.0	外周半輪 雲竹唐文(フコニヤク物)	中層瓦	17C末~18C初	—	43	17
419	大瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
420	F24 2層	小瓦	7.0	2.0	5.8	雲竹唐文	中層瓦	18C前半	—	43	17
421	J24 2層	中層瓦	9.2	4.1	5.8	雲竹唐文	普通	17C後半	—	43	17
422	K28 2層	中層瓦	11.4	3.2	6.5	雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C末~19C初	—	43	17
423	J28 2層	中層瓦	10.6	4.2	6.1	雲竹唐文 雲竹唐文 雲竹唐文	普通	1680-1690年代	—	43	17
424	J28 2層	中層瓦	—	—	—	雲竹唐文	普通	17C初~18C初	—	43	17
425	M17 2層	瓦	—	3.7	—	雲竹唐文	中層瓦	18C後半~19C初	—	43	17
426	M28 2層	小瓦	6.8	3.1	4.6	雲竹唐文 雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C前半	雲竹唐文	43	17
427	M26 2層	中層瓦	10.2	4.1	7.4	雲竹唐文 雲竹唐文	瓦	18C	雲竹唐文	43	17
428	F24 2層上層	中層瓦	10.0	4.0	5.4	雲竹唐文 雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C初~19C初	—	43	17
429	K20 2層木上層	瓦	—	4.3	—	外周半輪 雲竹唐文(フコニヤク物) 雲竹唐文	瓦	18C初	雲竹唐文	43	18
430	K22 1層	中層瓦	9.8	3.6	5.1	雲竹唐文 雲竹唐文	普通	19C前半	雲竹唐文	44	18
431	K20 1層	中層瓦	10.2	4.0	5.8	雲竹唐文 雲竹唐文(フコニヤク物)	普通	18C	くろひんかん	44	18
432	F4層	中層瓦	7.0	—	—	雲竹唐文	中層瓦	18C	—	45	18
433	J24 1層 埋め物	中層瓦	10.0	4.3	5.0	雲竹唐文	普通	17C末~18C初	—	44	18
434	J25 1層 埋め物	中層瓦	9.8	—	—	花文	中層瓦	18C	—	44	18
435	J24 2層 埋め物	中層瓦	10.0	—	—	花文	中層瓦	18C	—	44	18
436	9層木上層	瓦	—	4.4	—	雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C	くろひんかん	44	18
437	4層木上層	中層瓦	11.0	4.4	6.3	雲竹唐文(フコニヤク物) 雲竹唐文	普通	1680 1690年代	—	44	18
438	1層木上層	中層瓦	9.2	3.4	4.7	雲竹唐文 雲竹唐文	普通	19C前半	—	45	18
439	2層土上層 埋め物	中層瓦	8.4	3.8	4.3	雲竹唐文 雲竹唐文	普通	19C前半	—	45	18
440	2層土上層 埋め物	中層瓦	11.4	4.8	5.5	花文 雲竹唐文(フコニヤク物)	中層瓦	19C前半	—	45	18
441	15層埋め物	中層瓦	—	3.7	—	雲文 雲入唐草	瓦	18C?	—	45	18
442	6層埋め物	中層瓦	—	5.6	—	雲文 雲竹唐文 雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C末~19C初	—	45	18
443	7層	瓦	—	3.9	—	雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	19C中	—	45	18
444	J25 24層	中層瓦	2.9	5.1	5.3	雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C初~1	雲竹唐文	45	18
445	1層土上層・15土上層	中層瓦	8.4	4.5	4.6	雲竹唐文	普通	19C初~半	雲竹唐文	45	18
446	15層埋め物	埋め物	8.2	4.3	5.4	花文(フコニヤク物)	普通	1680-1690年代	—	45	18
447	7層埋め物	埋め物	7.5	3.4	5.3	花文	普通	17C初	—	45	18
448	3層土上層 埋め物	埋め物	6.5	3.1	4.1	花文(フコニヤク物) 雲竹唐文	瓦	18C後半	—	45	18
449	3層土上層 埋め物	埋め物	6.8	—	—	雲文	中層瓦	18C	—	45	18
450	K28 1層	埋め物	6.7	—	—	雲竹唐文(フコニヤク物) 雲竹唐文	中層瓦	17C初	—	45	18
451	M21 2層	埋め物	—	3.5	—	花文?	中層瓦	19C前半	—	45	18
452	埋め物	小瓦	5.8	2.4	3.7	雲竹唐文	普通	1680 1690年代	—	45	18
453	埋め物 埋め物	小瓦	13.7	2.7	3.3	花文	中層瓦	1680 1690年代	—	46	18
454	埋め物 埋め物	小瓦	10.9	—	—	雲竹唐文?	瓦	19C	雲竹唐文	46	18
455	埋め物 埋め物	小瓦	13.5	4.8	3.4	外周半輪 雲竹唐文 雲竹唐文	普通	17C末~18C初	雲竹唐文	46	18
456	埋め物 埋め物	小瓦	13.8	5.3	3.4	花文	普通	17C末~18C初	—	46	18
457	埋め物 埋め物	埋め物	7.2	5.1	5.3	花文	普通	17C末~18C初	雲竹唐文	46	18
458	J18 埋め物	小瓦	14.4	—	—	外周半輪 (埋め物)	中層瓦	17C初	埋め物	46	18
459	埋め物	大瓦	—	17.0	—	花文(フコニヤク物) 雲竹唐文 雲竹唐文	普通	17C末~18C初	—	46	18
460	J20 V層	小瓦	12.4	—	—	花文(フコニヤク物) 雲竹唐文 雲竹唐文	中層瓦	18C	くろひんかん	46	18
461	G22 埋め物	小瓦	—	5.0	—	花文	中層瓦	1680-1690年代	—	46	18
462	D20 34層	大瓦	—	8.5	—	雲竹唐文(埋め物)	中層瓦	17C	—	46	18
463	埋め物・K20 35層埋め物	小瓦	13.7	6.7	3.1	外周半輪 雲竹唐文	普通	17C後半	—	46	18

表15 第5地点出土磁器観察表(2)
Tab. 15 Notes on porcelains at NM5(2)

番号	品名	時期	口径	底径	高さ	文様	色	胎地	製作年代	備考	図
465	M20 2C・4C器・F26 2器	小・中世	3.3	2.0	2.1	雲文様	青	肥前	18C前半～3C前半	肥前	47-19
466	M20 2C器・M20 2A器	小・中世	14.2	9.0	4.4	牡丹文様	白	肥前	18C後半～3C前半	肥前	47-20
467	M20 2C器・M20 2A器	小・中世	14.0	7.7	4.2	花鳥文様	青	肥前	18C	肥前	47-18
468	K2 2A器	小・中世	13.8	9.2	2.7	梅花文様	青	肥前	18C	肥前	47-20
469	K2 2B器	小・中世	3.1	—	—	—	青	肥前	17C	肥前	47-20
470	K20 2A器	小・中世	13.8	7.6	3.6	小紋文様	青	肥前	19C前半～中	肥前	47-20
471	K20 2B器	小・中世	13.1	7.4	2.8	雲文様	青	肥前	18C	肥前	47-20
472	L20 2A器	小・中世	17.6	9.2	2.5	梅花文様	青	肥前	18C後半～3C前半	肥前	47-20
473	L20 2A器・M20 2A器	小・中世	10.6	6.4	2.2	梅花文様	青	肥前	19C前半～中	肥前	47-20
474	M20 2A器	小・中世	13.9	8.6	3.3	雲文様	青	肥前	18C	肥前	47-20
475	M20 2A器	小・中世	—	7.9	—	見立文様	青	肥前	18C後半～19C前半	肥前	47-20
476	K20 2A器	小・中世	—	7.5	—	見立文様	青	肥前	18C	肥前	47-20
477	K20 2A器	小・中世	18.0	8.8	4.8	牡丹文様	青	肥前	18C後半～19C前半	肥前	47-20
478	K20 2A器	小・中世	5.5	1.2	1.6	梅花文様	青	肥前	18C後半～19C前半	肥前	47-20
479	K20 2A器	小・中世	3.9	7.8	2.9	梅花文様	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
480	K20 2A器	小・中世	16.3	—	—	梅花文様	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
481	K20 2A器	小・中世	16.5	11.2	3.5	牡丹文様	青	肥前	18C後半～19C前半	肥前	47-20
482	D25 3B器・D26 3A器	小・中世	13.8	8.8	3.3	梅花文様	青	肥前	17C中	肥前	47-20
483	K20 2A器	小・中世	—	4.2	—	—	青	肥前	17C前半～18C後半	肥前	47-20
484	K20 2A器	小・中世	5.8	3.3	2.8	梅花文様	青	肥前	17C後半～18C後半	肥前	47-20
485	K20 2A器	小・中世	—	14.5	—	牡丹文様	青	肥前	18C	肥前	47-20
486	K22 2B器	小・中世	20.0	11.4	2.7	牡丹文様	青	肥前	17C後半～18C後半	肥前	47-20
487	K20 2A器	小・中世	5.4	2.1	2.1	梅花文様	青	肥前	17C後半～18C後半	肥前	47-20
488	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	1660年代	肥前	47-20
489	K20 2A器	小・中世	20.8	—	—	牡丹文様	青	肥前	18C後半～19C前半	肥前	47-20
490	K20 2A器	小・中世	13.8	7.8	4.4	梅花文様	青	肥前	18C中	肥前	47-20
491	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	17C後半～18C後半	肥前	47-20
492	K20 2A器	小・中世	—	3.4	—	牡丹文様	青	肥前	19C前半	肥前	47-20
493	K20 2A器	小・中世	6.4	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
494	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
495	K20 2A器	小・中世	4.4	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
496	M21 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	19C前半	肥前	47-20
497	M25 2A器	小・中世	10.4	—	2.5	牡丹文様	青	肥前	19C前半	肥前	47-20
498	K20 2A器	小・中世	5.3	—	3.1	梅花文様	青	肥前	18C	肥前	47-20
499	L27 2A器	小・中世	8.0	—	2.1	牡丹文様	青	肥前	18C前半	肥前	47-20
500	L27 2A器	小・中世	7.0	—	1.4	牡丹文様	青	肥前	19C前半	肥前	47-20
501	K20 2A器	小・中世	5.4	—	1.4	牡丹文様	青	肥前	19C前半	肥前	47-20
502	L28 2A器	小・中世	8.2	—	2.3	牡丹文様	青	肥前	19C前半	肥前	47-20
503	M27 1器	小・中世	3.0	4.1	1.0	梅花文様	青	肥前	18C後半	肥前	47-20
504	K26 2A器	小・中世	—	5.4	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
505	K20 2A器	小・中世	4.3	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
506	K20 2A器	小・中世	—	5.6	—	—	青	肥前	18C	肥前	47-20
507	K20 2A器	小・中世	—	4.6	—	—	青	肥前	18C後半	肥前	47-20
508	K20 2A器	小・中世	—	4.6	—	—	青	肥前	18C後半	肥前	47-20
509	K20 2A器	小・中世	8.0	—	—	—	青	肥前	18C	肥前	47-20
510	K20 2A器	小・中世	3.7	—	0.8	—	青	肥前	19C	肥前	47-20
511	K20 2A器	小・中世	5.8	—	—	—	青	肥前	18C	肥前	47-20
512	K20 2A器	小・中世	—	2.3	—	—	青	肥前	18C後半	肥前	47-20
513	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	18C後半	肥前	47-20
514	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
515	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
516	K20 2A器	小・中世	—	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20
517	M20 2A器	小・中世	7.6	3.0	3.7	梅花文様	青	肥前	18C後半	肥前	47-20
518	K27 2A器	小・中世	12.4	—	—	—	青	肥前	17C後半	肥前	47-20

表16 第5地点出土陶器觀察表(1)

Tab. 16 Notes on glazed ceramics at NM5(1)

発見番号	出土場所	器種	口径	底径	高さ	文様等	胎	土	生産地	年代	備考	図
201	基壇区 埋 10号	中足丸瓶	--	4.8	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
202	基壇区 埋 10号	中足丸瓶	13.0	--	--	--	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
203	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	4.4	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
204	12号 埋 1号	中足丸瓶	12.9	6.4	8.4	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
205	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	5.7	--	垂線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初	奈良	51
206	12号 埋 1号	中足丸瓶	16.2	4.6	6.3	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
207	12号 埋 1号	中足丸瓶	13.1	2.0	6.2	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
208	12号 埋 1号	瓶	1.2	--	--	垂線	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
209	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	5.1	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
210	12号 埋 1号	瓶	--	4.0	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
211	12号 埋 1号	瓶	--	4.9	--	--	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
212	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.2	3.9	6.4	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
213	12号 埋 1号	瓶	--	3.1	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
214	12号 埋 1号	中足丸瓶	9.6	3.1	3.3	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
215	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	4.3	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
216	12号 埋 1号	中足丸瓶	11.3	--	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
217	12号 埋 1号	中足丸瓶	11.6	--	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
218	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	4.8	--	波線/水文	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
219	12号 埋 1号	瓶	--	3.8	--	--	灰胎	中中	肥前?	18C	奈良	51
220	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	4.4	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
221	12号 埋 1号	瓶	6.4	2.8	3.3	--	灰胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
222	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	4.1	--	波線	灰胎 質人胎	中中	肥前?	19C初		51
223	12号 埋 1号	瓶	--	5.7	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
224	12号 埋 1号	瓶	3.9	--	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	18C		51
225	12号 埋 1号	中足丸瓶	8.4	2.4	4.7	波線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
226	12号 埋 1号	大足丸瓶	13.0	--	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
227	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	5.3	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
228	12号 埋 1号	中足丸瓶	8.8	4.9	5.3	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
229	12号 埋 1号	中足丸瓶	--	5.7	--	--	灰胎	中中	肥前?	18C		51
230	12号 埋 1号	中足丸瓶	12.6	5.2	3.1	--	灰胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
231	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.5	5.6	7.8	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
232	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.3	2.7	3.7	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
233	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.3	3.6	6.1	波線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
234	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.6	--	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
235	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.6	--	--	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
236	12号 埋 1号	中足丸瓶	11.7	--	--	--	灰胎	中中	肥前?	18C		51
237	12号 埋 1号	中足丸瓶	11.4	--	--	波線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
238	12号 埋 1号	瓶	11.4	--	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
239	12号 埋 1号	中足丸瓶	10.3	3.1	5.6	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
240	12号 埋 1号	中足丸瓶	11.6	6.8	2.0	波線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
241	12号 埋 1号	中足丸瓶	14.3	5.8	3.9	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
242	12号 埋 1号	中足丸瓶	13.6	--	--	--	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
243	12号 埋 1号	大瓶	32.1	--	--	波線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C		51
244	12号 埋 1号	中足丸瓶	22.0	--	--	波線/水文(波線)	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
245	12号 埋 1号	大瓶	23.5	--	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	18C		51
246	12号 埋 1号	大瓶	23.5	15.8	7.4	--	灰胎	中中	肥前?	18C		51
247	12号 埋 1号	中足丸瓶	12.5	4.8	3.1	--	灰胎	中中	肥前?	18C		51
248	12号 埋 1号	瓶	9.1	3.3	1.3	--	灰胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
249	12号 埋 1号	大瓶	37.4	--	--	--	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
250	12号 埋 1号	大瓶	33.0	--	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
251	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
252	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
253	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
254	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
255	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
256	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
257	12号 埋 1号	大瓶	26.2	--	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	18C		51
258	12号 埋 1号	大瓶	22.6	7.8	10.4	--	灰胎 質人胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
259	12号 埋 1号	大瓶	26.5	8.0	10.2	--	灰胎	中中	肥前?	18C末~19C初		51
260	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線/水文(波線)	灰胎	中中	肥前?	18C		51
261	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	18C		51
262	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	17C末~18C初		51
263	12号 埋 1号	大瓶	--	--	--	波線	灰胎	中中	肥前?	18C		51

表17 第5地点出土陶器觀察表(2)
Tab.17 Notes on glazed ceramics at NM5(2)

図番	品名	種類	口径	高さ	容量	文様	胎	土質	胎色	器底	年代	備考
254	I18 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
255	K20 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
256	通脱46 V10	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
257	H.8 V.8	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
258	H.8 V.8	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
259	J19 V.8	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
270	M12 V.8	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
271	M10 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
272	K27 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
273	K27 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
274	I21 陶・I24 陶	磁鉢	12.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
275	L26 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
276	M28 白磁	磁鉢	27.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
277	F25 白磁	磁鉢	32.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
278	J23 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
279	M29 白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
280	白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
281	J17 V.8	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
282	白磁	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
283	J-K17 V.8	磁鉢	34.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
284	I25 白磁 磁鉢	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
285	白磁 磁鉢	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
286	通脱46 V10	磁鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
287	K18 白磁	磁鉢	12.4	9.0	4.5	—	—	—	—	—	—	—
288	J18 白磁	白入	20.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
289	K21 通脱・K23 白磁	白入	—	6.0	—	—	—	—	—	—	—	—
290	J24 白磁	白入	10.6	8.4	8.1	—	—	—	—	—	—	—
291	K22 白磁 上段	白入	26.4	12.0	7.9	—	—	—	—	—	—	—
292	通脱・J23 白磁	白入	26.9	13.4	9.0	—	—	—	—	—	—	—
293	通脱46 V10	白入	12.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
294	I18 白磁	白入	5.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
295	M19 V.8	白入	4.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
296	通脱 30・K24 白磁	白入	12.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
297	K25 白磁 上段	白入	—	8.8	—	—	—	—	—	—	—	—
298	I29 白磁	白入	22.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
299	I29 白磁	白入	11.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
300	J24 白磁	白入	—	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—
301	I25 白磁	白入	8.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
302	通脱46 V10	白入	1.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
303	I23 白磁	白入	22.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
304	F25 白磁	白入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
305	I21 白磁	白入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
306	F24 白磁	白入	7.0	1.7	—	—	—	—	—	—	—	—
307	F24 白磁	白入	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
308	L27 白磁	白入	6.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
309	I24 白磁	白入	7.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
310	I29 白磁	白入	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
311	I25 白磁	白入	3.6	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—
312	J24 白磁	白入	7.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
313	白磁	白入	3.2	6.2	7.3	—	—	—	—	—	—	—
314	I21 白磁	白入	6.8	7.9	20.9	—	—	—	—	—	—	—
315	J24 白磁	白入	6.0	7.5	11.0	—	—	—	—	—	—	—
316	I25 白磁	白入	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
317	J24 白磁	白入	6.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
318	I25 白磁	白入	6.0	6.2	13.3	—	—	—	—	—	—	—
319	J24 白磁	白入	6.0	7.8	11.2	—	—	—	—	—	—	—
320	J24 白磁	白入	7.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
321	I25 白磁	白入	7.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
322	J24 白磁	白入	7.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
323	J24 白磁	白入	9.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
324	J24 白磁	白入	—	8.0	—	—	—	—	—	—	—	—
325	I21 白磁	白入	21.6	10.8	—	—	—	—	—	—	—	—
326	L29 白磁	白入	16.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表18 第5地点出土陶器観察表(3)

Tab. 18 Notes on glazed ceramics at NM5(3)

品目番号	出土場所	形状	口径	底径	高さ	文様等	釉	胎土	色澤	胎土下地	備考	図
327	J201 甕・9号 甕 1.3a	土瓶	12.3	5.3			黒釉	中々	大粒砂	15C		61.13
328	K21 2号 甕	蓋(1/4) 甕	16.8	—	—	無釉	黒・鉄釉 内: 灰青 灰入り	中々	大粒砂	15C		61.13
329	K21 2号 甕	甕(1/4) 甕	16.8	—	—	無釉	黒・鉄釉 内: 灰青 灰入り	中々	大粒砂	15C	何れか裏面付	61.13
330	J21 2号 甕	甕(1/4) 甕	17.6	—	—	無釉	黒・鉄釉 内: 白口土: 灰釉	中々	大粒砂	15C		61.13
331	M21 1号 甕	甕	—	—	—	無釉	鉄釉	中々	大粒砂	15C		61.13
332	L20 甕・K10 甕	仏堂	9.6	—	—	黒・黄(鉄) 甕	灰青 灰入り	中々	大粒砂	15C		61.13
333	J21 2号 甕	仏堂	8.6	—	—	無釉	灰青 灰入り	中々	大粒砂	15C		61.13
334	K20 2号 甕	甕	9.8	5.3	3.2	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
335	J21 2号 甕	甕	4.5	4.4	4.5	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
336	J21 2号 甕	甕	5.4	3.7	1.7	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
337	J25 1号 甕	甕	5.4	3.1	1.9	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
338	G26 甕	甕	—	—	—	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
339	L20 甕	甕	4.2	—	1.1	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
340	不明	甕	5.0	—	2.2	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
341	不明	甕	—	—	—	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
342	K21 甕	甕	7.1	—	—	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
343	J21 2号 甕	甕	—	—	—	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
344	K21 2号 甕	甕	5.4	—	—	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
345	J21 2号 甕	甕	6.2	2.5	1.2	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
346	J21 2号 甕	甕	4.9	3.3	1.3	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
347	J21 2号 甕	甕	2.8	2.6	2.5	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13
348	J21 2号 甕	甕	—	—	—	無釉	黒	中々	大粒砂	15C		61.13

表19 第5地点出土土師質土器観察表(1)

Tab. 19 Notes on ceramic plates at NM5(1)

品目番号	出土場所	口径	底径	高さ	内面	外面	胎土	色澤	胎土下地	備考	図
001	H14 甕	8.2	5.0	1.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
002	H20 甕	11.2	7.5	2.5	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
003	H12 甕	15.9	10.7	3.6	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
004	K20 甕	—	—	7.3	ロコナツ	小	白	なし			62.14
005	K20 甕	11.5	6.4	3.7	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
006	K20 甕	9.5	6.0	2.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
007	K20 甕	5.5	3.6	1.4	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
008	K20 甕	7.8	4.8	1.8	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
009	K20 甕	12.7	7.2	2.6	ロコナツ	金	白	なし			62.14
010	K20 甕	11.8	7.2	2.6	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
011	K20 甕	12.1	6.5	2.8	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
012	K20 甕	—	11.0	3.9	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
013	H14 甕	9.2	5.2	2.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
014	H14 甕	11.5	6.5	2.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
015	H14 甕	13.2	7.4	3.5	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
016	H14 甕	16.4	11.6	3.4	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
017	H14 甕	15.8	6.2	3.7	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
018	H14 甕	13.6	7.9	3.0	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
019	H14 甕	11.6	6.9	2.5	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
020	H14 甕	14.1	7.6	2.8	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
021	K19 甕	11.3	6.2	2.6	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
022	K19 甕	12.1	5.7	3.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
023	G15 甕	11.3	6.2	3.0	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
024	H14 甕	13.2	7.4	3.0	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
025	K19 甕	14.5	8.0	3.5	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
026	K19 甕	11.6	7.1	3.6	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
027	K19 甕	10.8	6.7	4.2	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
028	K19 甕	14.0	8.6	3.4	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
029	K19 甕	9.9	5.8	3.7	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
030	K19 甕	9.9	5.8	3.7	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
031	K19 甕	2.0	5.6	3.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
032	K19 甕	13.1	7.1	3.7	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
033	K19 甕	5.1	3.5	1.6	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
034	K19 甕	12.9	7.3	3.7	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
035	K19 甕	14.7	8.6	2.6	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
036	G19 甕	9.6	5.3	4.5	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
037	K19 甕	6.8	4.1	1.4	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
038	K19 甕	10.6	6.2	2.3	ロコナツ	ロコナツ	白	なし			62.14
039	L20 甕	6.9	4.0	1.9	無釉	無釉	白	なし			62.14

表20 第5地点出土土師質土器皿観察表(2)
Tab. 20 Notes on ceramic plates at NM5(2)

図録番号	出土番号	口径	底径	高さ	厚	重量	胎土	文様	備考	図録
440	129 1号	7.3	5.2	3.7	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 35
441	130 土師 2号	5.6	4.6	3.1	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 36
442	131 土師 3号	12.5	6.9	2.6	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 37
343	132 土師 4号	11.3	6.2	2.9	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 38
344	133 土師 5号	11.7	6.8	3.2	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 39
345	134 土師 6号	11.8	6.3	3.8	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 40
346	135 土師 7号	10.6	11.1	3.7	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 41
347	136 土師 8号	10.8	6.4	2.6	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 42
348	137 土師 9号	12.8	7.2	2.8	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 43
349	138 土師 10号	11.3	5.9	2.6	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 44
350	139 土師 11号	10.1	1.6	3.7	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 45
351	140 土師 12号	11.1	7.2	2.6	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 46
352	141 土師 13号	5.8	4.0	1.4	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 47
353	142 土師 14号	7.8	5.1	1.8	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 48
354	143 土師 15号	3.3	3.2	1.5	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 49
251	144 土師 16号	8.7	3.2	1.8	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 50
356	145 土師 17号	5.3	5.6	2.4	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 51
357	146 土師 18号	1.8	7.6	1.2	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 52
358	147 土師 19号	13.6	8.6	3.8	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 53
359	148 土師 20号	17.1	9.0	3.5	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 54
360	149 土師 21号	13.9	7.1	3.8	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 55
361	150 土師 22号	12.1	6.5	2.7	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 56
362	151 土師 23号	12.0	7.1	2.5	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 57
363	152 土師 24号	11.5	7.2	2.5	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 58
364	153 土師 25号	10.7	5.2	2.3	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 59
365	154 土師 26号	9.0	3.3	1.9	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 60
366	155 土師 27号	1.1	6.3	2.5	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 61
47	156 土師 28号	10.7	3.8	2.5	0.2	0.8	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 62
368	157 K17 1号	13.2	8.1	3.6	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 63
369	158 土師 29号	13.9	8.3	3.3	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 64
370	159 土師 30号	11.2	6.6	2.8	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 65
371	160 土師 31号	11.2	14.0	4.7	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 66
372	161 土師 32号	12.6	7.2	3.2	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 67
373	162 土師 33号	11.2	6.7	3.3	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 68
374	163 土師 34号	10.6	6.0	2.4	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 69
375	164 土師 35号	10.4	7.6	2.3	0.2	1.0	ロコナテ	ロコナテ	胎土の質悪	43 70

表21 第5地点出土その他の土師質土器・瓦質土器観察表
Tab. 21 Notes on various ceramics at NM5

図録番号	出土番号	口径	底径	高さ	厚	重量	胎土	文様	備考	図録
376	165 土師 36号	6.0	—	—	—	—	内面に白粉 外面ココナテ	—	胎土の質悪	43 71
377	166 土師 37号	5.8	4.8	9.2	—	—	内面に白粉 外面ココナテ	—	胎土の質悪	43 72
378	167 土師 38号	6.7	5.8	9.9	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 下部に白粉。底面に灰土質のミダリ。全体に	—	胎土の質悪	43 73
379	168 土師 39号	3.2	4.8	9.3	—	—	胎土の質悪 胎土の質悪 下部に白粉。底面に灰土質のミダリ。全体に	—	胎土の質悪	43 74
380	169 土師 40号	—	3.8	—	—	—	内面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 75
381	170 土師 41号	6.3	3.5	3.2	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 76
382	171 土師 42号	3.8	3.2	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 77
383	172 土師 43号	2.4	2.8	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 78
384	173 土師 44号	3.4	2.6	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 79
385	174 土師 45号	—	5.0	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 80
386	175 土師 46号	34.8	23.4	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 81
387	176 土師 47号	21.0	12.3	8.1	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 82
388	177 土師 48号	24.2	12.6	4.1	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 83
389	178 土師 49号	—	6.2	—	—	—	胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 84
390	179 土師 50号	—	3.6	—	—	—	胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 85
391	180 土師 51号	—	10.9	—	—	—	胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 86
392	181 土師 52号	29.9	20.2	11.4	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 87
393	182 土師 53号	—	11.4	—	—	—	胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 88
394	183 土師 54号	31.6	—	—	—	—	胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 89
395	184 土師 55号	30.2	29.2	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 90
396	185 土師 56号	30.0	—	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 91
397	186 土師 57号	—	16.0	—	—	—	内外面ココナテ 胎土の質悪 胎土の質悪	—	胎土の質悪	43 92

表22 第5地点出土軒丸瓦類観察表

Tab. 22 Notes on round eaves tiles at NM5

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当直径	瓦当内径	周縁幅	備考	図	図版
066	M28 2a層	三引両文	14.3	11.7	1.3		67	38
067	I 18 VI層	三引両文	15.0	12.5	1.3		67	38
068	基礎1区 ⑧層	三引両文	14.1	11.7	1.2		67	38
069	基礎4区 ⑦層	三引両文	14.8	12.4	1.2		67	38
070	9号溝 裏込め	三引両文	14.6	12.2	1.2		68	38
071	K20 ⑥層	三引両文	15.2	12.6	1.3		67	38
072	K20 ⑥層	三引両文	17.7	13.9	1.9		67	38
073	K20 ⑥層	三引両文	15.2	12.6	1.3		67	38
074	P i t 316	三引両文	14.7	12.5	1.1		67	38
075	J・K22 ⑦層	三引両文	14.2	11.8	1.2		68	38
076	不明	三引両文	14.9	12.5	1.3		68	38
077	基礎4区 ⑥層	九曜文	17.0	12.4	2.3		68	39
078	基礎1区 ⑧層	九曜文	17.0	12.4	2.3		68	39
079	基礎9区 VII-4層	九曜文	17.2	12.4	2.4		68	38
080	2号土坑 埋6層	九曜文	17.1	13.5	1.8	鳥伏間	69	39
081	掘乱	九曜文	—	12.3	2.6		68	39
082	L18 V層	連珠巴文	16.7	12.3	2.2		69	39
083	K20 ⑦層	連珠巴文	—	12.0	2.2		69	39
084	基礎7区 ⑧層	連珠巴文	17.2	12.0	2.6		69	39
085	L28 3層	巴文	16.0	11.6	2.2		69	39
086	D25 3b層	巴文	17.5	13.1	2.2		69	39
087	不明	巴文	16.0	12.4	1.8		69	39
088	12号溝	菊文	—	—	—		70	39
089	D25 3b層	菊文	—	—	—		70	39
143	I 18 VI層	不明	—	—	—		70	39

表23 第5地点出土軒平瓦類観察表

Tab. 23 Notes on flat eaves tiles at NM5

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当形状	瓦当幅	頭幅	備考	図	図版
090	K22 1層	四弁花+唐草3d類	不明	—	—		71	40
091	M26 2a層	三枚莖+唐草1類	不明	—	—		70	40
093	M26 2d層	細桔梗+唐草3b類	人刺	5.7	—		71	40
094	M29 2d層	?+唐草4類	不明	—	—		70	40
095	F24 3層	?+唐草4類	不明	—	—		70	40
096	M28 3層	梅+唐草3a類	太刺	5.5	—		71	40
097	基礎2区 ⑦層	甕持笹(太葉)+唐草2類	太刺	6.2	—		70	40
098	基礎1区 ⑧層	刺形桔梗+唐草3b類	太刺	5.5	—		71	40
099	基礎1区 ⑧層上面	甕持笹(細葉)+唐草2類	太刺	5.8	—		70	40
100	基礎1区 ⑧層上面	甕持笹(細葉)+唐草2類	太刺	5.5	—		70	40
101	基礎4区 ⑧層上面	細桔梗+唐草3b類	太刺	5.4	—	108と同范	71	40
102	基礎4区 ⑧層	特殊桔梗+唐草3c類	不明	—	—		71	40
103	基礎1区 ⑦層	梅+唐草3a類	太刺	6.1	—		71	40
104	基礎1区 IV a層	特殊桔梗+唐草3c類	不明	—	—		71	40
105	7号溝	三枚莖+唐草1類	不明	—	—		70	40
106	P i t 316 埋2層	刺形桔梗+唐草3b類	人刺	5.3	—		71	40
107	K・H21 III層	甕持笹(太葉)+唐草2類	不明	—	—		70	40
108	⑧層	細桔梗+唐草3b類	不明	—	—	101と同范	71	40
109	3号溝	?+唐草5類	不明	—	—		72	40
110	不明	四弁花+唐草3d類	不明	—	—		71	40
111	P i t 316	甕持笹(太葉)+唐草2類	太刺	5.9	—		70	40

表24 第5地点出土軒瓦観察表

Tab. 24 Notes on eaves-pan tiles at NM5

登録番号	出土場所	瓦小巴部分文様	瓦当垂れ部分文様	瓦当垂れ形状	備考	図	図版
092	M28 2a層	不明	?+	唐草5類	不明	小巴部分欠損	72 40
017	F22 1層	連続ニツ巴文	不明	不明			72 40
018	J27 1層	無文(万十)	無文	並刺			72 41
019	L25 2a層	ニツ巴文	?+唐草	不明			72 41
020	7号溝 埋2層	ニツ巴文	不明	不明			72 40
158	試験7区 9a層	ニツ巴文	三枚葺+附草1	並刺			72 41

表25 第5地点出土平瓦観察表

Tab. 25 Notes on flat roof tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	頭幅	尻幅	谷深(約)	谷深(%)	備考	図	図版
001	H21 2層	31.7	—	—	—	—	特殊 (凹面に分銅目を入れた後)	73	41
002	K22 2a層	23.1	—	—	—	—	特殊 (凹面に分銅目を入れた後)	73	42
003	K18 1層	—	—	25.5	—	3.3		73	41
004	基礎区 ①層	—	12.3(横穴の下端付)	—	—	—	特殊 (凹面に分銅目を入れた後)	73	41
005	基礎区 1b層	—	12.2~13.4	—	—	—	特殊 (凹面に分銅目を入れた後)	73	41
006	7号溝 2a層	25.1	—	—	—	—	刻印あり	74・88	42・51
007	門前区 2a層	—	11.5(横穴の中央付)	—	—	—	特殊 (凹面に分銅目を入れた後)	73	41
008	不明	28.2	22.4	—	2.4	—		74	42

表26 第5地点出土丸瓦観察表

Tab. 26 Notes on round roof tiles at NM5

登録番号	出土場所	胴長	頭幅	尻幅	玉縁長	備考	図	図版
009	K29 3層	27.4	16.4	16.5	3.9		74	42
010	K22 ⑧層	—	15.2	—	—	クギ彫りによる文様あり	77	43
011	K20 ⑥層	28.4	—	15.9	3.8		75	42
012	1号井 埋4層	—	—	14.8	3.3		77	43
013	1号土坑 埋5層	26.9	15.3	15.7	3.2		76	43
014	1号土坑 埋5層	25.0	15.2	15.7	2.6		76	43
015	不明	30.5	17.3	17.4	3.5		75	43
016	1号井列 柱4 埋2層	—	—	15.3	5.4	刻印あり	77・89	43・51
136	I21 ②層	—	—	—	—	クギ彫りによる紀年銘あり	77	43
137	P i t 22 埋2層	—	—	—	—	クギ彫りによる紀年銘あり	77	43

表27 第5地点出土椽瓦観察表

Tab. 27 Notes on pan tiles at NM5

登録番号	出土場所	全長	全幅	きき幅	きき足	備考	図	図版
027	M26 2a層	—	—	—	—	榫目あり	81	44
028	M26 2d層青粘土	—	—	—	—		80	44
029	K22 III層	22.3	—	—	—		80	44
030	攪乱	29.0	—	—	—	刻印「宮五()」(裏面) 福瓦	81・89	44・51
031	攪乱	—	—	—	—	刻印「宮一五」(裏面) 引掛	81・89	44・51
032	攪乱	28.0	27.0	22.3	21.8	刻印「宮五七」(裏面)	80・89	44・51
041	攪乱	—	—	—	—	刻印「宮三」	89	51
042	攪乱	—	—	—	—	刻印「宮四七」	89	51
043	攪乱	—	—	—	—	刻印「(宮)二九」	89	51
044	攪乱	—	—	—	—	刻印「(宮)五六」	89	51
045	攪乱	—	—	—	—	刻印「宮四六」	89	51
141	M26 2a層	—	—	—	—	榫目あり	81	44

表28 第5地点出土板瓦観察表

Tab. 28 Notes on pan tiles used for fence at NM5

登録番号	出土場所	全長	全幅	きき幅	きき足	接合方法	横断面形状	釘穴	備考	図	図版
021	L26 1層	—	—	—	—	不明	B	B	溝不明	78	45
022	L28 1層	—	—	—	—	不明	B	B	溝不明	78	45
023	L26 2a層	—	—	—	—	A1	不明	不明	溝不明	78	45
024	1号土坑 埋5層	—	32.8	29.1	—	不明	A	B	溝あり	79	45
025	1号土坑 埋5層	39.2	33.2	29.9	—	不明	A	B	溝あり	78	45
026	1号土坑 埋5層	—	32.7	29.4	—	B	A	不明	溝あり	79	45

表29 第5地点出土瓦斗瓦観察表

Tab. 29 Notes on ridge tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	厚	幅	耳長	備考	図	図版
033	撥乱	23.5	1.9	—	—	紐瓦斗 波形の溝あり	80	46
034	撥乱	24.6	1.7	—	—	紐瓦斗	63	46

表30 第5地点出土輪違い観察表

Tab. 30 Notes on ridge decoration tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	上幅	下幅	高	備考	図	図版
035	K27 2a層	13.6	7.5	13.5	4.9		82	47
036	K21 2b層	13.6	9.7	14.1	5.9		82	47
037	I18 VII層	13.7	10.3	—	6.1	刻印あり	82・88	47・51
038	基礎9区 VII-8層	13.3	10.0	15.1	6.6		82	47
039	13号溝	13.6	—	15.5	7.0		82	47
040	撥乱	12.8	9.6	15.6	6.7		82	47

表31 第5地点出土面戸瓦観察表

Tab. 31 Notes on filler tiles at NM5

登録番号	出土場所	長	幅	高	備考	図	図版
046	I24 2c層	11.3	—	—	繩状瓦痕(裏面)		83 48
047	G21 V層	9.3	11.8	5.1			83 47
048	G25 V層	9.4	11.4	5.1			83 48
049	G25 V層	9.3	12.2	4.5			83 47
050	J21 V層	9.1	—	—	繩状?瓦痕(裏面)		83 48
051	基礎1区 ⑧層上面	8.7	11.9	5.1			83 47
052	基礎1区 ⑧層上面	9.4	12.0	4.8			83 47
053	K18 VII層	11.2	13.1	5.8			83 47
054	基礎9区 VII-7層	12.1	12.6	5.5			83 47
055	9号溝	9.5	12.8	5.4			84 48
056	K22 III層	8.9	—	—	繩状瓦痕(裏面)		84 48
057	9号溝 埋1~3a層	8.5	—	—	繩状瓦痕(裏面)		84 48
058	13号溝	9.7	15.6	6.2			84 48
059	J22 ⑦層	8.9	12.3	4.7			84 48
060	P i t 316	9.3	11.7	4.7			84 48
061	P i t 316	9.3	—	—			84 48
062	P i t 316	10.3	12.5	4.7			84 48
063	J・K22 ⑦層	9.9	—	—	繩状瓦痕(裏面)		84 48
064	J・K22 ⑦層	10.2	12.0	4.8			84 48
065	J・K22 ⑦層	8.9	11.6	5.0			84 48

表32 第5地点出土土の他の瓦観察表
Tab. 32 Notes on various roof tiles at NM5

登録番号	出土場所	種類	備考	図	版
112	L28 1層	物付軒棧瓦	刻印あり	88	51
113	K29 1層	丸瓦類	刻印あり	89	51
114	2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
115	M26 1層・M26 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
116	M26 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
117	M21 2a層	平瓦類	刻印あり	89	51
118	M20 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
119	M20 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
120	L20 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
121	F23 2a層	平瓦類	刻印あり	88	51
122	G27 3層	平瓦類	刻印あり	88	51
123	F26 3層	平瓦類	刻印あり	88	51
124	K19 VII層	平瓦類	刻印あり	89	51
125	J18 VII-下層	丸瓦類	刻印あり	88	51
126	9区 1層	丸瓦類	刻印あり	89	51
127	L27 2a層直上座層	不明	刻印あり	89	51
128	I26 2c層	丸瓦類	刻印あり	89	51
129	M26 2d層	平瓦類	刻印あり	89	51
130	基礎9区 VII-6層	丸瓦類	刻印あり	89	51
131	1号溝渠	丸瓦類	刻印あり	89	51
132	溝渠	平瓦類	刻印あり	89	51
133	L28 1層	平瓦類	へう摺きあり	86	50
134	G18 2a層	平瓦類	へう摺きあり	86	50
135	K23 2a層	平瓦類	へう摺きあり	86	50
136	F23 2a層	平瓦類	糊目あり	86	50
137	L27 2a層	平瓦類	糊目あり	86	50
140	M18 2a層	不明	糊目あり	86	50
142	溝渠	不明	糊目あり	86	50
144	J25 2a層	棧瓦	刻印あり	89	51
145	2号土坑 埋5a層	棟瓦	角状伏隠瓦	85	46
146	2号土坑 埋5a層	棟瓦	角状伏隠瓦	85	46
147	不明	棟瓦	刻印あり	88	51
148	H24 2c層	不明	仮称「T字瓦」	86	50
149	K28 2d層	不明	〃	86	50
150	13号柱列 柱5	不明	〃	86	50
151	K29 2a層	不明	〃	85	46
152	基礎1区 (7層)	不明	〃	85	46
153	門跡2	不明	〃	88	49
154	M27 1層	不明	刻印あり	87・89	49・51
155	M28 2a層	不明	〃	87	49
156	J18 VII-上層	不明	〃	87	49
157	J18 VII-下層	不明	刻印あり	87	49
159	3号土坑 埋3層	瓦加工品	刻字あり	89	51

表33 第5地点出土下駄観察表
Tab. 33 Notes on wooden clogs at NM5

登録番号	出土場所	種類	長	幅	高	備考	図	版
027	基礎9区 VII-6層	角型通歯	21.4	8.95	7.10	鼻端残存 釘による歯の補修	96	56
028	F26 3b層	角型脚押通歯	21.9	9.45	—	—	98	57
029	F25 3b層上	角型脚押通歯	23.5	7.75	—	—	98	57
030	K20 (6層)	丸毛通歯	23.9	8.43	3.35	—	97	36
031	基礎9区 VII-6層	角型通歯	—	8.60	—	—	96	56
032	基礎9区 VII 1層	角型脚押通歯	—	—	3.50	芯釘孔にくりび痕跡	97	57
033	F29 3層中	角型通歯	22.4	8.75	2.10	—	96	56
034	J24 3層上	丸毛通歯	21.0	8.95	4.70	—	97	57
035	J18 VII-下層	長円型脚押通歯	—	7.00	3.80	—	97	57
036	基礎9区 VII-6層	角型通歯	—	—	3.50	—	96	56
037	J18 V層	角型通歯	18.4	7.40	3.50	釘による歯の補修	97	56
038	基礎9区 VII 1層	丸毛無歯中折り	—	8.55	—	—	98	57
039	基礎9区 VII 9層	丸毛無歯中折り	—	8.70	2.90	—	98	57
040	基礎9区 VII-9層	丸毛無歯中折り	—	7.25	2.90	—	98	57
133	基礎9区 VII-6層	通歯	—	9.10	7.20	—	97	37

表34 第5地点出土木簡観察表

Tab. 34 Notes on wooden tablets at NM5

登録番号	出土場所	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	特 徴 等	図	版
001	柱列2 柱?	170	23	6	表面向・側面に削痕明確に残る	94	54
002	K19 VI層	(166)	124	4	下端を薄く加工?	94	54
003	K19 VI層	(97)	(18)	3	上・下端を欠損	93	54
004	K19 VI層	224	(48)	7	竹筒? 釘跡 上・下端切断後調整	93	54
005	基礎9区 VII-3層・植物層	103	27	4	側面を磨き調整良好	93	54
006	K18 VII-4層	122	27	4	調整良好	93	54
007	K18 VII-4層	126	17	3	調整良好 下端を薄く加工	92	54
008	K18 VII-5層	165	27	4	調整良好	92	53
009	K18 VII-5層	149	36	2	加筆修正の為に下1/3程削り直し	92	53
010	K18 VII-5層	(91)	30	2	上端欠損	91	53
011	K18 VII-5層	104	64	10	調整良好	92	53
012	K18 VII-6層	112	11	3	調整良好	91	53
013	K18 VII-6層	120	23	6	側面に削り痕明確に残る	91	53
014	基礎9区 VII-7層	130	17	48	調整良好	90	52
015	K18 VII-7層	(80)	22	3	下端欠損	90	52
016	基礎9区 VII-7層	(69)	13	3	下端欠損 調整良好	91	52
017	K18 VII-7層	(106)	19	3	下端欠損	91	52
018	K18 VII-7層	167	(11)	3	左手分を欠損	90	52
019	K18 VII-7層	(71)	(18)	5	一端を薄く加工?	91	52
020	K18 VII-7層	114	15	3	調整良好	91	52
021	K18 VII-8層	142	30	6	表面に削り痕明確に残る	90	52
022	K18 VII-8層	(135)	(24)	1		90	52
023	K20 6層	(142)	(47)	1		90	52
024	K18 VII-8層	—	—	—	削り屑 かなな屑状のごく薄片	—	—
025	K18 VII-8層	11	9	0.9	削り屑 文字判読不能	—	—
026	K18 VII-2層	37	8	1	削り屑 文字判読不能	—	—

表35 第5地点出土木簡観察表

Tab. 35 Notes on combs at NM5

登録番号	出土場所	法 尺			備 考	図	版
069	P11387	a 9.00	b 3.90	c 2.45	黒漆塗り	94	56
092	基礎9区 VII-10層	a (3.50)	b (2.53)	c 1.05		94	56
098	E24 3b フミ層	a (3.15)	b (2.40)	c 1.40		94	56
134	E24 3b フミ層	a (3.70)	b (4.10)	c 1.80		94	56
135	15号溝 埋1段	a (3.70)	b —	c 1.10	黒漆塗り	94	56

表36 第5地点出土箸状木製品観察表

Tab. 36 Notes on wooden chopsticks at NM5

登録番号	出土場所	先端形状	全長 (mm)	最大径 (mm)	整形	備 考	図	版
138	9号溝 3b~4層	A A	179	5.0	不良		95	55
139	基礎9区 VII-7層	A A	295	5.9	不良		95	55
140	基礎9区 VII-2層	A A	233	5.8	良		95	55
141	J18 VII 下層	A B	242	6.1	不良		95	55
142	不明	A B	169	6.0	不良		95	55
143	基礎9区 VII-8層	A B	239	6.3	良		95	55
144	K18 VII-5層	A C	95	5.3	不良	先端を二次加工?	95	55
145	基礎9区 VII-6層	A C	233	5.8	不良		95	55
146	基礎9区 VII-5層	A C	133	5.4	良	先端を二次加工?	95	55
147	基礎9区 VII層	B B	380	9.8	不良	一部炭化	95	55
148	基礎9区 VII-7層	B B	239	8.2	不良		95	55
149	K18 VII 2層	B B	242	5.8	良		95	55
150	基礎9区 VII-2層	B C	240	6.7	不良		95	55
151	基礎9区 VII-7層	B D	228	6.1	不良		95	55
152	基礎9区 VII-6層	C C	108	4.1	不良	先端炭化	95	55
153	基礎9区 VII-7層	C D	236	5.7	不良		95	55
154	K18 VII-1層	B B	191	7.8	不良	先端炭化	95	55

表37 第5地点出土その他の木製品観察表

Tab. 37 Notes on various wooden implements at NM5

発掘層位	出土場所	種類	法	量	備	考	図	頁
078	基礎9区 VII-6層	竹製片	表 9.0 最大径4.0		穿孔あり		101	60
080	不明	竹製片			幅4-5cmに薄く削いた竹材を2-3層にして半楕圓に組んでいる		—	60
081	20号溝 3層	弓楯					—	60
082	F26 3層	曲柄	径 7.9 厚0.9		穿孔1 側面に面した溝が浅く残存 外面に縦線状付着物あり		99	58
084	基礎9区 VII 5層	杵	表27.5 厚1.1		穿孔1 若干痕あり		99	58
085	基礎9区 VII-7層	杵	表 6.3 最大径2.0				100	60
086	基礎9区 VII-6層	杵	径 9.0 厚0.6				99	58
088	基礎9区 VII-6層	短杖木製品	表22.9 最大径3.5 厚0.4		表面とも丁寧な布で半楕圓に仕上げられている		100	59
089	基礎9区 VII-8層	短毛	表11.9 最大径1.1 厚1.0		片上と下に縦線(半楕圓)あり 黒色塗料により彩色? 穿孔あり		100	60
090	基礎9区 VII 6層	不明	表(15.2) 最大径1.3		黒色塗料により彩色?		101	59
091	基礎9区 VII-3層	杵	径 8.9 厚0.2		穿孔1 片上縁近くに釘痕を呈し 不明付着物あり		99	58
093	基礎9区 VII-2層	杵	径(13.5) 最大径2.3 厚0.3				100	59
094	P11 453	杵	径17.6 厚高(6.4)		断面外側に黒線「線」		100	58
095	基礎9区 VII-7層	杵	表11.2 最大径3.5		穿孔1 一部に漆? により彩色? 掘取り風の整った削り		100	59
096	基礎9区 VII 2層	不明	表24.3 最大径2.4				101	59
100	1.18 埋溝	杵	径 6.9 最大径2.2				100	60
101	I123 2a層	杵	径 8.1 最大径2.1		上部は楕圓方形に、先端2cm程を楕圓形に彫形		100	60
102	基礎9区 VII 6層	杵	表7.25 最大径3.5		上面から側面に向く穿孔1 上面楕圓方形、先端楕圓形		100	60
103	基礎9区 VII-6層	短杖木	表30.6 最大径4.1 最大厚1.5		木目に平行する長方形の穿孔1 下方は平くなる		99	58
104	D21 3b 7層	短杖木	表15.3 最大径3.3 最大厚0.9		外面に平らなやや下に深い縦線状の切込み1条あり 103と同形・同質		99	58
105	15号溝 埋土	短杖木	表15.9 最大径5.9 最大厚1.0		外面に平らなやや下に深い縦線状の切込み1条あり 104より残存良好		99	58
106	L28 3層上	不明	表16.2 最大径3.1 最大厚0.25		片側に2.7cmの間隔でV字の切込み		101	59
107	F24 3層	不明	表 3.1 最大径5.0 最大厚0.9		片面に斜線状の溝 鉄釘あり		101	59
108	9号溝 埋込木	杵	径 6.5 厚0.4		中央に穿孔1 板皮?の縦じり		99	58
109	K19 埋溝	短杖木製品	径 3.9 厚0.3				101	59
110	P11 317	杵	径 7.2 厚0.4		穿孔1 孔の周りに彫れた痕跡 板皮?の縦じり		99	58
111	L28 3層	不明	径23.5 最大径1.5		一箇を欠く加工。他箇所は平削りに加工して穿孔1		101	58
112	基礎9区 VII 8層	不明	径 5.0 厚1.7 孔径1.1		中心に穿孔1 トド削ったごっこ型		100	59
113	基礎9区 VII 2層	短杖木製品	表 8.6 最大径1.5 最大厚1.05				100	58
114	基礎9区 VII 2層	短杖木製品	表30.0 最大径2.3 最大厚2.06				100	58
115	基礎9区 VII-6層	不明	表55.6 最大径3.1 最大厚1.4		下縁より13.2cmのところに穿孔(斜線)? 1		101	59
116	不明	不明	表(11.1) 最大径2.1 最大厚0.4		表面とも平削りに仕上げられている		101	60
117	基礎9区 VII 7層	杵	径(10.6) 厚0.5				99	58
122	基礎9区 VII-7層	短杖木製品	表17.1 最大径3.3 最大厚1.6		2ヶ所に釘痕存		101	59
123	基礎9区 VII-6層	短杖木製品	表17.8 最大径3.7 最大厚2.7				100	59
124	基礎9区 VII 6層	不明	表(17.6) 最大径2.8				101	59
126	基礎9区 VII-6層	杵	径14.7 厚1.0				99	58
127	基礎9区 VII 7層	器蓋の底板	径10.1 厚0.7		表面(凹縁部を除く)に黒色の付着物あり		99	58
128	基礎9区 VII-7層	不明	表(4.6) 幅3.5 厚1.7		表面とも丁寧な布で半楕圓に仕上げられている 長方形の穿孔1		101	60
129	基礎9区 VII-7層	不明付着物	表 9.1 厚1.3		長方形の穿孔1		101	60
137	基礎9区 VII 6層	不明	径 7.0 最大径2.9 最大厚1.0		両側の穿孔1		101	59

表38 第5地点出土漆塗製品観察表

Tab. 38 Notes on lacquerwares at NM5

発掘層位	出土場所	種類	径(高)	底径(軸)	最大径(厚)	高台径	文	備	考	高台径(高)	図	頁
042	基礎9区 VII-2層上	碗	—	—	(2.6) (0.7)	—	表: 内外瓦		不明文字形(朱)	103	61	
043	基礎9区 VII 7層	碗	—	—	(4.9) (1.7)	—	表: 内外瓦 外瓦黒			103	61	
044	基礎9区 VII-1層	碗	—	—	(1.9) —	—	表: 内外瓦 外瓦黒 外瓦黒瓦文(金)			103	61	
916	H18 2号山内溝上	碗	—	—	—	—	表: 内外瓦 外瓦黒 外瓦瓦文(朱)			—	61	
917	基礎9区 VII 7層	碗	—	—	(5.3) (0.7)	—	表: 内外瓦		「門」(朱)	103	61	
048	4号二坑	碗	—	—	—	—	表: 内外瓦 内外瓦黒		「門」(朱)	—	—	
050	基礎9区 VII 9層	碗	—	—	(4.8) (0.7)	—	表: 内外瓦 外瓦黒		前付者	102	60	
053	基礎9区 VII-7層	碗	—	—	(5.2) (2.2)	—	表: 内外瓦 内外瓦黒 内外瓦瓦文(金)			102	60	
054	P11 452 埋土	碗	—	—	(2.3) (0.6)	—	表: 内外瓦 内外瓦黒 内外瓦瓦文(金)		「又」(朱)	103	61	
055	基礎9区 VII 6層	碗	2.9	2.2	0.8	—	表: 内外瓦 内外瓦黒			103	61	
057	基礎9区 VII-6層	碗	—	—	(3.6) (0.3)	—	表: 内外瓦 内外瓦黒		「門」(朱)	102	60	
058	1号影石	碗	12.8	—	—	—	表: 内外瓦			102	60	
059	基礎9区 VII 5層	碗	—	—	—	—	表: 内外瓦			103	61	
066	J19 IV層	碗	—	—	(3.7) (1.1)	—	表: 内外瓦 内外瓦黒			103	61	
068	6号地 底面	碗	—	—	(7.4) (1.4)	—	表: 内外瓦 内外瓦黒 内外瓦瓦文(朱)		「平」(朱)	102	60	
070	基礎9区 VII 1層	碗	—	—	—	—	表: 内外瓦 内外瓦黒 内外瓦瓦文(朱)			103	61	
071	基礎9区 VII-7層	碗	—	—	(2.5) —	—	表: 内外瓦 内外瓦黒			103	61	
072	基礎9区 VII 6層	不明	30.1	3.2	0.8	—	表: 内外瓦 内外瓦黒		「門」(朱)	103	61	
136	基礎9区 VII-6層	不明	6.8	(2.1)	0.7	—	表: 内外瓦		前付者	103	61	

表39 第5地点出土古銭観察表
Tab. 39 Notes on coins at NM5

発見者氏名	出土場所	銭名	外径 (mm)	厚径 (mm)	重量 (g)	備考	国	数量
001	J26 1層	寛永通宝	25.0	6.2	2.2	一部欠 錆化顯著	104	62
002	L20 2a層	寛永通宝	23.4	6.7	2.4	変形 錆化显著	104	62
003	L28 2a層	(厚首銭)	—	—	0.9	3/4残	104	62
004	M25 2a層	寛永通宝	—	—	1.0	1/4残	104	62
005	M25 2b層	寛永通宝	22.3	7.0	2.0	完全	104	62
006	J24 2d層上面	淳和通宝 (寛貞)	24.2	7.6	2.9	変形 磨痕(北東)	104	62
007	J24 2d層上面	興永通宝	21.5	6.8	2.1	一部欠 梳木痕(北)	104	62
008	F25 2d層	寛永通宝	—	—	0.5	1/3残 錆化顯著	104	62
009	J24 2d層	和時开宝	—	6.2	2.3	一部欠 劣化顯著 磨痕(北東)	104	62
010	J27 2d層	寛永通宝	23.9	6.5	3.0	変形	104	62
011	J27 2d層	寛永通宝	24.6	5.9	3.4	変形	104	62
012	J27 2d層	永樂通宝	24.8	5.8	3.2	完全	104	62
013	E29 3層	寛永通宝	—	—	0.8	1/4残	104	62
014	E28 3層中	天造永宝 (行雲)	24.3	6.5	3.0	変形 涙米粒(北東)	104	62
015	3層	寛永通宝	—	—	1.2	1/3残	104	62
016	J29 3a層	寛永通宝	—	5.5	1.8	一部欠	104	62
017	D26 3b層	寛永通宝	—	—	0.4	1/6残	104	62
018	E25 不能	寛永通宝	24.2	5.8	2.8	変形	104	62
019	J122 IV層	寛永通宝	—	6.2	0.9	一部欠 錆化显著	104	62
020	基礎区 Ⅷ-3層	寛永通宝	23.9	5.9	3.4	変形	104	62
021	I18 Ⅷ層下層	寛永通宝	25.0	5.6	3.5	変形 文銭	104	62
022	804 噴射口2	寛永通宝	23.4	5.9	2.5	完全	104	62
023	3号石字土塼横 掘方垣1層	寛永通宝	23.6	6.3	3.3	変形	104	62
024	13号溝 堀土	寛永通宝	22.8	5.5	2.8	一部欠	104	62
025	3号2号 堀土	寛永通宝	—	6.1	1.4	一部欠 錆化显著	104	62
026	3号2号 堀土	寛永通宝	24.1	6.4	2.2	一部欠	104	62
027	3号2号 堀土	元永通宝	—	5.8	1.5	一部欠 錆化显著	104	62
028	1号溝北端 掘方垣1層	寛永通宝	—	—	1.3	一部欠 錆化显著	104	62
029	7号溝	寛永通宝	20.9	6.2	2.0	変形	104	62
030	P 1 L254	寛永通宝	24.8	6.3	3.9	完全	104	62
031	不明	寛永通宝	23.9	5.4	3.3	変形 錆化显著	104	62
032	不明	寛永通宝	23.7	5.1	1.9	完全 錆化显著	104	62
033	3号水塼埋込溝横	寛永通宝	—	—	0.9	1/2残 錆化显著	104	62
034	P 1 t 8	寛永通宝	22.1	6.7	1.7	変形 錆化显著	104	62
035	P 1 t 8	寛永通宝	24.5	5.8	2.5	完全	104	62
036	2号建物跡 柱1	寛永通宝	—	—	1.2	一部欠 錆化显著	104	62
037	2号建物跡 柱3	寛永通宝	—	—	2.3	2/3残 錆化显著	104	62
038	不明	寛永通宝	23.4	6.4	2.4	完全	104	62
039	不明	寛永通宝	—	—	1.0	3/4残 錆化显著 磨痕	104	62
040	1号溝横	寛永通宝	24.8	6.5	4.1	完全 文銭	104	62
041	不明	寛永通宝	20.9	6.4	1.5	変形 錆化显著	104	62
042	不明	元永通宝 (華雲)	23.7	7.2	2.4	変形 錆化显著 磨痕(北東)	104	62
043	不明	寛永通宝	23.0	6.1	2.5	完全	104	62

表40 第5地点出土煙管(吸口)観察表
Tab. 40 Notes on pipes (mouthpieces) at NM5

発見者氏名	出土場所	全体形状	土径 (mm)	ラウコ径 (mm)	吸口径 (mm)	備考	国	数量
044	L26 2a層	II B	—	—	6.2	—	105	63
045	L27 2a層	II B	24.3	10.6	3.0	ラウコ管が現存	105	63
046	K22 2b層	不明	—	—	—	—	105	63
047	D24 3層	II A	73.3	7.1	2.9	水口キセル 観念	105	63
048	D27 3層	不明	28.6	10.3	—	—	105	63
049	F25 3b層	II B	40.5	5.8	3.7	観念	105	63
050	F26 3b層	II B	68.4	7.5	3.6	観念	105	63
051	K18 IV層	II B	—	11.1	—	観念	105	63
052	基礎区 Ⅷ-7層	II B	39.4	8.3	3.5	観念	105	63
053	I18 Ⅷ層下層	II B	—	—	4.0	観念	105	63
054	不明	I B	21.9	4.8	5.9	観念	105	63

表41 第5地点出土煙管(雁首)観察表

Tab. 41 Notes on pipes (stems and bowls) at NM5

登録番号	出土場所	全体形状	火皿形状	接合方法	首の部 アワセメ	全長 (mm)	火皿 直径 (mm)	碗口 径 (mm)	備考	図	図版
055	K29 2a 層直上層層	II C	1b	3	左下	—	15.3	10.1	—	—	105 63
056	D29 3層中	II B	1b	2	右下	58.2	14.6	9.6	—	—	105 63
057	E28 3層中	II B	1b	2	左下	—	13.4	5.8	—	—	105 63
058	F25 3a層	II C	1a	3	右下	—	—	—	鍍金	—	105 63
059	D24 3b層	II B	1a	1	右下	—	—	—	—	—	105 63
060	D26 3b層	II B	1b	1	右下	37.0	13.8	—	—	—	105 63
061	E25 3b層	II B	不明	1	右下	28.2	13.1	—	—	鍍金	105 63
062	E26 3b層	II B	不明	1	左中	—	—	—	9.0	鍍金	105 63
063	E25 3b層	II B	不明	1	左中	—	—	—	8.2	—	105 63
064	G18 V層	不明	不明	不明	右下	—	—	—	—	—	105 63
065	G18 V層	II	不明	不明	右下	—	—	11.1	—	—	105 63
066	G18 V層	II B	1b	2	左中	60.9	13.2	6.9	—	—	105 63
067	H21 V層	II B	1b	2	左中	46.7	14.7	7.3	—	—	105 63
068	M19 V層	I B	1b	3	右下	36.3	16.3	11.2	—	—	105 63
069	K18 VII 2層	不明	1b	不明	不明	—	—	16.6	—	—	105 63
070	L18 VII 下層	II B	1b	1	右下	66.5	14.4	—	9.3	鍍金	105 63
071	L1層	II C	不明	不明	右下	—	—	—	8.5	—	105 63
072	L6層 埋2層	II B	不明	不明	右下	—	—	—	7.8	—	105 63
073	P1 t 354 埋1層	II B	2b	1	右下	44.5	15.4	—	8.3	鍍金	105 63
074	不明	不明	1b	不明	不明	—	14.5	—	—	—	105 63
075	P1 t 9R	不明	1b	不明	不明	—	17.0	—	—	—	—

表42 第5地点出土その他の金属製品観察表

Tab. 42 Notes on various metal implements at NM5

登録番号	出土場所	種類	素材	備考	図	図版
076	P1 t 347	匙	銅	鍍金 柄面に蓮字形の刻文	106 64	—
077	P1 t 387	針状金属製品	銅	鍍金	106 64	—
078	P1 t 387	針状金属製品	銅	鍍金	106 64	—
079	P1 t 387	へら?	銅	鍍金	106 64	—
080	G1層 埋2層 針26	針	銅	—	—	—
081	D26 3b層	針?	銅	—	—	—
082	D28 3層中	銅金具	銅	鍍金	106 64	—
083	不明	不明	銅	—	—	—
084	D25 3a層	銅金具	銅	—	—	—
085	D25 3b層上面	不明	銅	—	—	—
086	不明	銅金具	銅	—	—	—
087	E25 3層	針状金属製品	銅	鍍金	106 64	—
088	D25 3b層	針	銅	—	—	—
089	G1層 埋1層	火打金具	鉄	—	—	—
090	G24 3層	銅金具	銅	—	—	—
091	L21 III層	不明	銅?	埋入?	—	—
092	F24 3層	行囊	鉄	—	—	—
093	3層上段	小刀	鉄	内部に木製残存	106 64	—
094	L22 2d層	毛抜き	鉄	柄部分に木製残存	106 64	—
095	G24 3層	釘	銅	—	106 64	—
096	L21 IV層	火箸	鉄	—	106 64	—

表43 第5地点出土その他の遺物観察表

Tab. 43 Notes on various implements at NM5

登録番号	出土番号	種類	長 (単位)	幅 (単位)	厚	材質	備考	図	図版
S01	基礎3K 11-6層	石鏡	1.10	1.13	0.21	手製泥作	—	107 65	—
S02	F21 3X層	鏡片	(8.9)	6.9	—	銅製片鏡	—	107 65	—
S03	P1 t 354	不明	3.3	—	—	石製片鏡	—	107 65	—
S04	P1 t 366	銅鏡?	—	—	—	—	—	—	65
S05	埋1層 埋2層	銅鏡	(9.1)	6.2	—	銅製片鏡	—	107 65	—
S06	P1 t 154	不明	—	—	—	—	—	—	107 65
S07	L24 3層	火打石	3.4	1.9	1.6	木製	—	107 65	—
B01	8層 埋2層 埋3層	鏡	—	—	—	—	銅・木(裏面) 逆鏡 紫熱変色	—	65
B02	E24 3b 埋2層	鏡?	6.5	0.6	—	—	—	—	107 65
C08	L22 2b層	古銅製土師器	3.5	—	0.7, 1.0	—	土師器 片蓋に瓦片状の文様の墨押し? 中央に穿孔!	—	65
C09	埋2 2c層	土師器	2.0	1.9	0.3	—	土師器	—	65
C10	不明	片蓋形土師器	5.6	4.3	0.3	—	—	—	65
C11	K18 VII 3層	漆土師器	—	1.9	1.4	—	土師器 片蓋に3条の平行文線	—	65

〈引用・参考文献〉

- 愛知県陶磁資料館 1984 『近世城館跡出土の陶磁』
- 朝倉治彦・安藤菊二・樋口秀雄・丸山信編 1970 『事物起源事典（衣食住編）』東京堂出版
- 浅野二郎・鈴木啓・野崎準・谷口悟編 1986 『栗川城本丸・庭園』栗川町文化財調査報告書第6集
- 阿刀田令造 1936 『仙台北下絵図の研究』齊藤報恩会博物館図書部研究報告第四
- 伊東信雄 1967 『仙台北の歴史』『仙台北』pp.1~22 仙台市教育委員会
- 伊藤正義ほか 1990 『東北の陶磁史』福島県立博物館
- 江戸遺跡研究会 1991 『よみがえる江戸』新人物往來社
- 江戸遺跡研究会 1992 『考古学と江戸文化』江戸遺跡研究会第5回大会発表要旨
- 江戸陶磁土器研究グループ 1992 『江戸出土陶磁器・土器の諸問題1』シンポジウム資料
- 江戸遺跡研究会 1993 『遺跡にみる幕末から明治』江戸遺跡研究会第6回大会発表要旨
- 大橋康二・西田弘子ほか 1988 『別冊太陽No.63 古伊万里』平凡社
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』ニューサイエンス社
- 大竹憲二 1989 『大堀・長井屋窯跡』浪江町教育委員会
- 大堀相馬焼協同組合・創業三百年祭実行委員会 1988 『創業二百年記念誌』
- 奥津春生 1967 『仙台北の地形・地質』『仙台北』pp.123~165 仙台市教育委員会
- 小田原市教育委員会 1990 『小田原城とその城下』
- 金森安彦 1985 『三の丸隅門跡（VII）の調査』『仙台北三の丸発掘調査報告書』
仙台市文化財調査報告書第76集 pp.509~546
- 元興寺文化財研究所 1982 『中・近世瓦の研究—元興寺篇』
- 九州陶磁文化館 1984 『国内出土の肥前陶磁』
- 九州陶磁文化館 1990 『柴田コレクション展（I）』
- 九州陶磁文化館 1991a 『柴田コレクション展（II）』図版編・資料編
- 九州陶磁文化館 1991b 『肥前の色絵「その始まりと変遷」展』
- 古泉弘 1990 『江戸を掘る』柏書房
- 小林清治編 1982 『仙台北と仙台北の城・要害』日本城郭史研究叢書2
- 佐久間光平・山田しょう・田中秀和 1989 『宮城・仙台北二の丸跡（第五地点）』『木簡研究』11
pp.83~85 木簡学会
- 佐久間光平・佐藤憲幸ほか 1993 『上野館跡（III）』宮城県文化財調査報告書第149集
- 佐藤宏一ほか 1987 『宮城町西館跡、利府町町楽・大神台遺跡』宮城県文化財調査報告書第123集
- 佐藤 巧 1967 『仙台北の建築』『仙台北』pp.23~87 仙台市教育委員会
- 佐藤広史ほか 1990 『切込窯跡』宮城町文化財調査報告書第3集
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡』
- 新宿区歴史博物館 1990 『江戸のくらし—近世考古学の世界—』
- 関 善内 1974 『焼物と陶工たち』萬葉堂書店
- 芹沢長介編 1978 『切込』東北大学文学部考古学研究会

- 芹沢長介ほか 1981 『日本やきもの集成』1 平凡社
- 芹沢長介 1983 「東北地方の近世陶磁」『世界陶磁全集』9 pp.227～259 小学館
- 芹沢長介 1987 「東北の近世陶磁」東北陶磁文化館
- 仙台市教育委員会 1967 『仙台城』
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集
- 高橋良一郎 1977 『ふくしま文庫40 相馬のやきもの』福島中央テレビ
- 田口昭二 1983 『美濃焼』ニューサイエンス社
- たばこと塩の博物館編 1983 『きせる』
- 坪井利弘 1976 『日本の瓦屋根』理工学社
- 坪井利弘 1977 『図鑑瓦屋根』理工学社
- 東京大学遺跡調査室 1989 『理学部7号館地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1
- 東京大学遺跡調査室 1990 a 『法学部4号館・文学部3号館建設地遺跡』
東京大学遺跡調査室発掘調査報告書2
- 東京大学遺跡調査室 1990 b 『医学部附属病院地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1990 『山下会館・御殿下記念館地点』
東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書4
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1985 『東北大学埋蔵文化財調査年報』1
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1988 『仙台城二の丸跡第5地点の調査—現地説明会資料』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1990 『東北大学埋蔵文化財調査年報』3
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1991 『仙台城二の丸跡第9地点の調査—現地説明会資料』
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報』4・5
- 東北大学埋蔵文化財調査室 1989 「仙台城二の丸跡第5地点の調査」『考古学ジャーナル』312 pp.24～29
- 都立一橋高校内遺跡調査団 1985 『江戸 都立一橋高校地点発掘調査報告』
- 長崎窯業試験場 1982 『波佐見古陶磁文様集』肥前波佐見焼振興会
- 横崎彰一ほか 1980 『日本のやきもの集成』3 平凡社
- 萩路昌枝 1990 「江戸時代の儀礼的な宴会の食器について」『医学部附属病院地点』
東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3 pp.908～911
- 土生慶子 1987 『伊達政宗像 いろはは』東光出版
- 橋本強 1990 『埋もれた江戸』平凡社
- 平凡社編集部編 1984 『やきもの事典』
- 本山総一郎 1978 『宮の本』柴田書店
- ポーラ文化研究所 1989 『日本の化粧—道具と心模様』ポーラ文化研究所コレクション2
- 港区麻布台一丁目遺跡調査会 1986 『郵政省飯倉分館構内遺跡』
- 山内幹夫ほか 1989 『国営清戸川農業水利事業関連遺跡調査報告 中平遺跡』福島県文化財調査報告書第208集
- 結城慎一 1985 「瓦」『仙台城三の丸跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第76集 pp.158～182
- 結城慎一・渡辺誠 1989 「大年寺惣門」『仙台平野の遺跡群』仙台市文化財調査報告書第87集
pp.37～55

REPORT
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESEARCH ON THE CAMPUS OF
TOHOKU UNIVERSITY

vol. 6 March 1993

The Commission of Buried Cultural
Properties on Campus, Tohoku University
Katahiracho, Sendai 980 JAPAN

THE EXCAVATION OF THE SECONDARY CITADEL OF THE SENDAI CASTLE

This is a report of the *Ninomaru* Loc. 5 (west of Library at Kawauchi Campuse of Tohoku University), which was excavated by the Commission of Buried Cultural Properties on Campus, in 1985-88.

The History of Ninomaru (the secondary citadel of Sendai Castle)

The main citadel of Sendai Castle was built in A.D.1600 by Masamune DATE, the first *daimyo* of *Sendai-han* (feudal clan comprising a governmental organization in Edo period) appointed by the TOKUGAWA shogunate. The main citadel is known today as the ruin of Aobajo which is located on a hill 120m above sea level.

It was a strategic location because its eastern and southern boundaries were guarded by cliffs of 70m.

However, when the age of war in Japan was over, the primary citadel on the high hill became useless, and in 1638, Tadamune DATE, the second *daimyo*, built a secondary citadel on a lower terrace which had been used as the house of Muneyasu DATE (4th son of Masamune DATE).

The *Ninomaru* had practically been the center of the government of *Sendai-han* for some 250 years until the Meiji Restoration. Although it was destroyed by earthquakes and fires a couple of times, it was quickly reconstructed each time.

In 1886, the Tokugawa shogunate was replaced by the new government of the Emperor (the Edo period was over and the Meiji period began). Japan put an end to 200 years of national isolation, and Western culture was imported rapidly. Prefectures were estab-

lished instead of feudal clans, and the DATE family's rule was over. In 1871, the *Ninomaru* was occupied by the Japanese Imperial Army which had been newly organized in Western style. In 1882, almost all of the structures of *Ninomaru* were lost in a fire, and its brilliant history was over.

The site was continuously occupied by the Imperial Army, until the American Army occupied it after World War II. The site area became the Tohoku University campus in 1957 and an organized excavation began in 1983. So far, 5 locations have been excavated.

The Results of the Excavation at Loc.5

The excavations revealed that preservation of structures and artifacts was fairly excellent. Largely six phases belonging to Edo period (1615-1868) and one phase belonging to Meiji period (1868-1912) are recognized in the archaeological structures found at Loc.5.

The I a phase (1620—the middle 17th century)

The ruins of buildings and garden are probably related to the *Nishi-yashiki*, residence of Iroha-hime (the eldest daughter of Masamune DATE).

Masamune married Iroha-hime to Tadateru Matsudaira (the seventh son of Ieyasu Tokugawa, the first *shogun* of Edo period) in 1606. Just after Ieyasu's death, Tadateru lost his fiefs. So Iroha-hime was divorced and came back to the DATE family. In 1620, Iroha-hime began to live at *Nishi-yashiki*, north of Muneyasu's residence.

The structural remains of the I a phase consist of buildings constructed on foundation stone, rain gutters lined with stones, ponds, and so on.

Many ponds are associated with the garden placed northwest by buildings.

Ceramics such as Chinese Porcelains (Jingdezhen ware, Swatow ware) and early Japanese porcelains (Hizen ware) were found.

The I b phase (the middle 17th century—the late 17th century)

Structures of the I a phase were rebuilt more than once. East part of the ponds had been filled up, and the house was constructed there on foundation stones. Ponds were enlarged to the south part of this residence, and a well was dug on the east shore of the pond.

Probably, after Iroha-hime died in 1661, buildings of *Nishi-yashiki* continued there for

twenty to thirty years.

Among the ceramics, sherds of lady figure overglazed enamels are most interesting.

The II phase (the end of the 17th century—the beginning of the 18th century)

This phase corresponds to the time period from the abolition of *Nishi-yashiki* to the extension of *Ninomaru*. After *Nishi-yashiki* ceased to be used, ponds of the garden located at northwest part of this residence were filled up with the landfill, which is 1.7 meters thick and contains many archaeological materials.

At the IIa phase, a pit and two ditches running from west to east existed at the north part of this site. At the IIb phase, north and east parts of this site was used as kitchen gardens for a short span of time.

Wooden artifacts include lacquerwares. Wooden tablets were preserved in relatively good condition in the fill of ponds due to the near-constant saturation of the soil.

Ceramics belonging to this phase consist of a lot of Hizen ware and a few of other ware (Ohbori-Souma ware, Kyoto ware and so on).

The III phase (the beginning of the 18th century—the middle 19th century)

This phase corresponds to the time period of *Ninomaru*. This site was used as *Oku*, which is the private place for *daimyo* and his wives.

Many pillar-holes and ditches were found, superimposed in plan, at the center of this site. These remains include buildings and pillared fence related to *Oku*. The ditches running from west to east were discovered at the north of the buildings.

Probably, a road existed between the ditches. The area north of the road was used as *Baba* (a riding ground). These structures were rebuilt more than once. The old stage of phase III is the IIIa, new stage is the IIIb. Outer walls of *Oku* were accompanied with ditches. At the IIIb phase, the gate was built on the north line of *Oku*. The gate had been rebuilt not less than once, too. The gate of the old stage is complicated in structure, stone bases, stones below foundation and foundation boards has remained in the post holes. The gate of the new stage is simple, wooden plank attached to the base of pillars had been in the pit.

As many women lived at *Oku*, artifacts discovered there include a lot of makeup utensils, ornamental hairpins and smoking pipes. Those give us clues to the research for samurai'

s wives who lived in a local castle town of Sendai.

Ceramics in the 18th century mainly consist of two products: Hizen, Ohbori-souma (Fukushima prefecture). In the first half of 19th century, Ohbori-souma were especially numerous, and varieties. Nearby minor kilns such as Tsutsumi (Miyagi prefecture), Kirigome (Miyagi prefecture) and Hirashimizu (Yamagata prefecture) supplied a few of ceramics to this site.

The IV phase (the Meiji period and after)

This site was used by the Imperial Army. We discovered several features such as structural remains of buildings, lavatories laid wooden boxes, a well of brick construction, ditches lined with stones, covered conduits and garbage pits. Many kinds of objects belonging to the middle 19th century were found at the garbage pits.

The excavation tells us that archaeological features of the early Edo period as well as *Ninomaru* are finely preserved under Kawauchi campus of Tohoku University. We hope that many people use this report as a help to understand the Sendai Castle which is a symbol of Sendai, a castle town.

写 真 图 版



1. 調査前全景 (西から)



2. 調査区全景・IV期相当 (南から)

図版1 第5地点全景(1)
Pl. 1 Views of NM5 (1)



1. 調査区全景・Ⅲ～1 b 期相当 (南から)



2. 調査区全景・Ⅲ～1 a 期相当 (南から)

図版 2 第 5 地点全景(2)

Pl. 2 Views of NM5 (2)



1. K・L29区・調査区南壁セクション (北から)



2. D25・26区・調査区東壁セクション (西から)



3. K18区・調査区北壁セクション (南から)



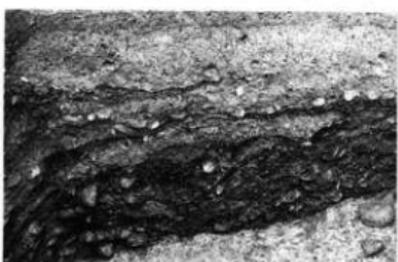
4. K18区・北壁セクション (南から)



5. J18区・調査区北壁セクション (南から)



6. J20・21区・1期セクション (西から)



7. 基礎9区・北壁セクション (南から)



8. 基礎8区・北壁セクション (南から)

図版3 第5地点断面

Pl.3 Cross sections of NM5



1. 右：14号溝・左：19号溝（東から）



3. 13号溝（東から）



2. 基礎1区・9号溝（南から）



4. J・K23・24区・10号池（東から）



5. L・M24～26区・10号池（南から）



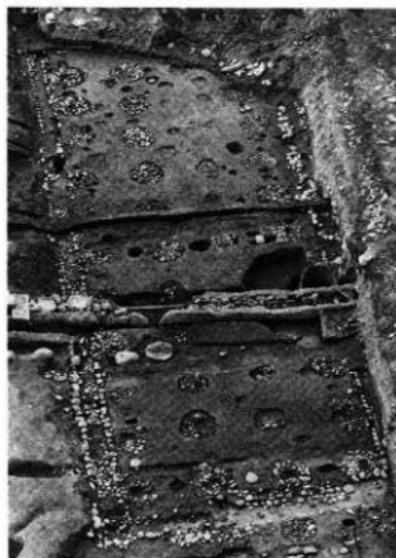
6. 10号池内敷石検出状況（東から）



7. 7号建物跡（西から）

図版4 第5地点I a期の遺構(1)

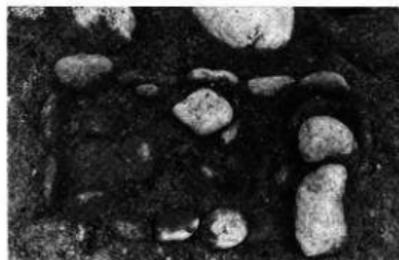
Pl.4 Features of phase I a at NM5 (1)



1. 6号建物跡 (南から)



2. 20号溝南西屈曲部 (南から)



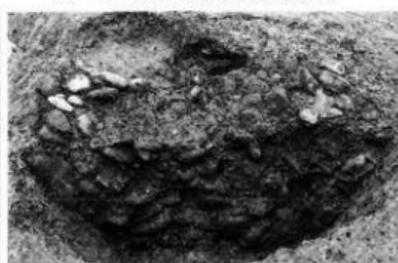
3. 1号配石遺構 (東から)



4. ピット387内遺物出土状況 (北から)



5. 6号建物跡柱穴2根石セクション (東から)



6. 6号建物跡柱穴33根石セクション (北から)

図版5 第5地点I a期の遺構(2)
Pl.5 Features of phase I a at NM5 (2)



1. 28号溝 (南から)



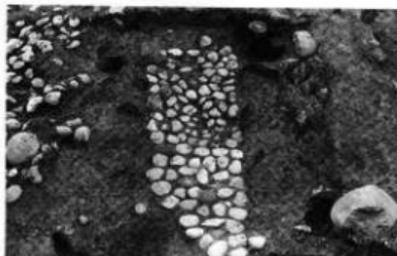
2. 26号溝 (南から)



3. 27号溝 (北から)



4. 24号溝 (西から)



5. 27号溝内敷石検出状況 (南から)

図版6 第5地点I a期の遺構(3)
Pl.6 Features of phase I a at NM5 (3)



1. M20区・4号池(北から)



2. 基礎9区・4号池(東から)



3. 基礎11区・2号池(南から)



4. 12号溝検出状況(東から)



5. K20区・⑥層下面の状況(北から)



6. 基礎1区・⑧層瓦出土状況(東から)



7. K20区・⑥層下面の状況(西から)

図版7 第5地点I b期の遺構(1)

Pl.7 Features of phase I b at NMS (1)



1. 4号建物跡柱穴3・7 (西から)



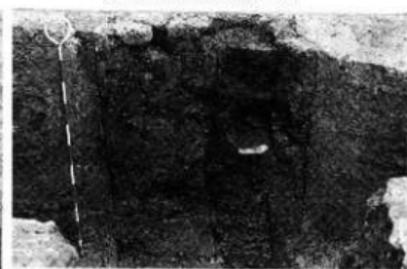
2. 4号建物跡柱穴6 根石検出状況 (東から)



3. 22号溝縁石列 (北から)



4. 17号柱列 (南から)



5. 17号柱列セクション (北から)

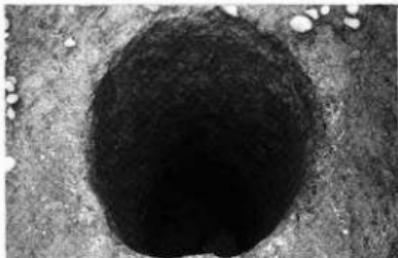


6. I26区・5号池 (南から)

図版8 第5地点I b期の遺構②
Pl.8 Features of phase I b at NM5 (2)



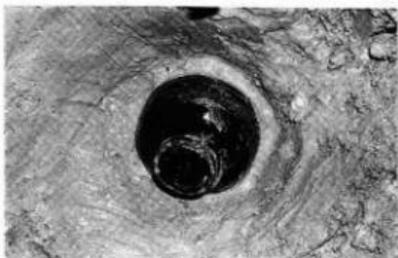
1. 2号井戸および6号池周辺石敷面 (南から)



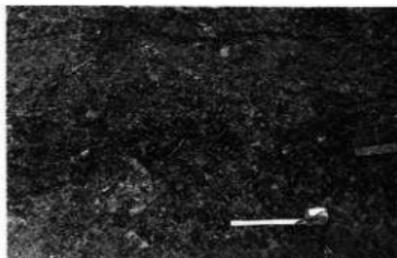
2. 2号井戸 (西から)



3. 6号池セクション (北から)



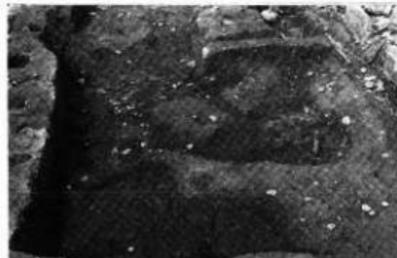
4. 6号池内漆椀出土状況 (北から)



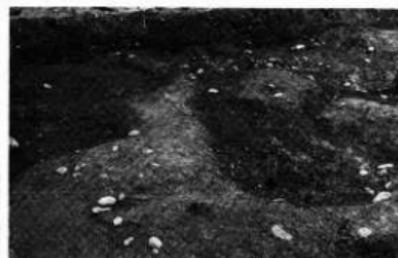
5. E24区・3b上ゴミ層遺物出土状況 (南から)



6. E25区・3b層上・下駄出土状況 (西から)



7. 庭園廃絶後の6・10号池埋没状況 (南から)

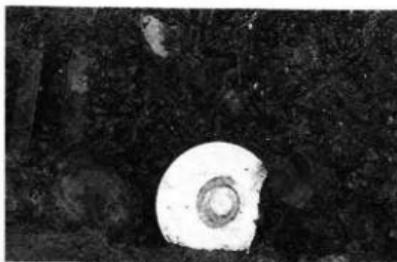


8. 庭園廃絶後の6・10号池埋没状況 (東から)

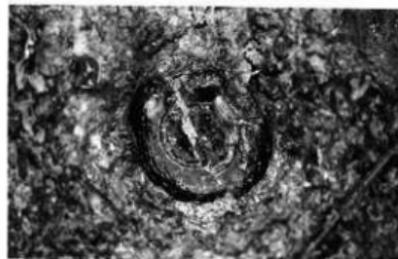
図版9 第5地点I b期およびII期の遺構
Pl.9 Features of phase I b and II at NM5



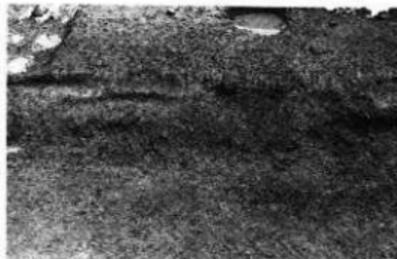
1. 15号溝内下駄出土状況 (南から)



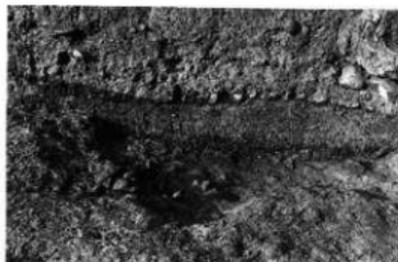
2. 基礎8区・VII-②船遺物出土状況 (南から)



3. 基礎8区・VII-①層漆髹出土状況



4. 15号溝 (北から)



5. 4号土坑 (西から)



6. G・H18区・畑状遺構 (南から)



7. 北区・畑状遺構 (東から)

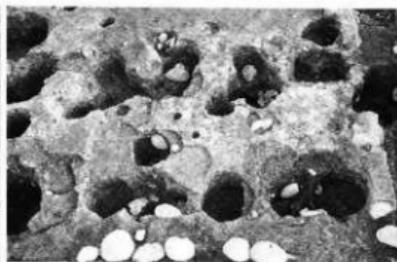


8. D・F26~29区・畑状遺構 (南から)

図版10 第5地点II a期・II b期の遺構
Pl. 10 Features of phase IIa and IIb at NM5



1. D~J24・25区・Ⅲ期遺構群 (東から)



2. D~G24・25区・Ⅲ期遺構群 (北から)



3. D~G24・25区・Ⅲ期遺構群 (東から)



4. 9号溝掘りあげ状況 (東から)



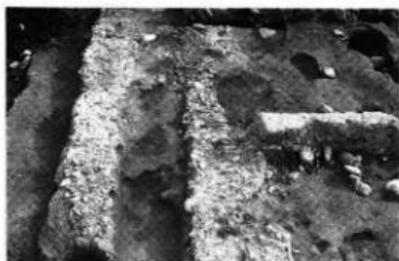
5. 9号溝東端掘りあげ状況 (南から)



6. 左:16号溝・右:17号溝 (南から)

図版11 第5地点Ⅲ期・Ⅲa期の遺構

Pl. 11 Features of phase III and IIIa at NM5



1. G23・24区・整地層⑨道路状遺構 (西から)



2. 6号溝 (北から)



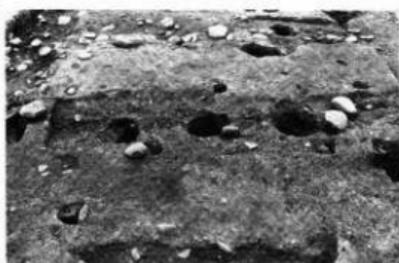
3. 3号土坑 (南から)



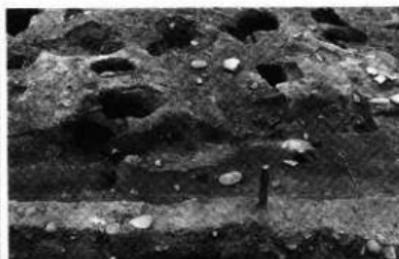
4. 8号溝 (東から)



5. 11号溝 (北から)



6. 2号溝 (南から)



7. 5号溝 (南から)

図版12 第5地点IIIa期の遺構
Pl.12 Features of phase IIIa at NM5



1. 門跡1・2全景(北から)



2. 門跡1地中梁および門跡2本柱2(南から)



3. 門跡2本柱1の基礎検出状況1(東から)



4. 門跡2本柱1の基礎検出状況2(東から)



5. 門跡2本柱2の基礎検出状況(南から)



6. 門跡2控柱2の基礎検出状況(東から)



7. 門跡2支柱1の基礎検出状況(南から)



8. 門跡2支柱2の基礎検出状況(西から)

図版13 第5地点III b期の遺構

Pl. 13 Features of phase IIIb at NM5



1. 左：7号溝・中央：1号柱列・右：3号溝（南から）



2. 7号溝（南から）



3. L26・27区・7号溝内木材出土状況（北から）



4. 3号溝（南から）

図版14 第5地点IV期の遺構(1)
Pl.14 Features of phase IV at NM5 (1)



1. 1号溝北辺 (東から)



2. 1号溝東辺 (南から)



3. 2号暗渠および杭列 (北から)



4. 7号暗渠 (西から)

図版15 第5地点IV期の遺構(2)

Pl.15 Features of phase IV at NM5 (2)



1. 2号建物跡 (北から)



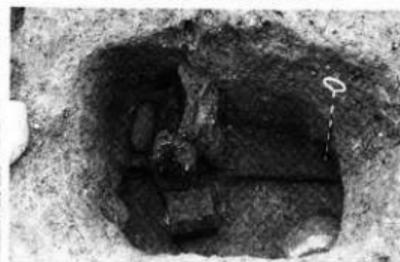
2. 1号建物跡 (北から)



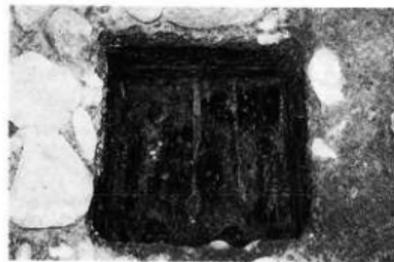
3. 1号土坑内遺物出土状況 (北から)



4. 1号柱列柱穴17 (南から)



5. 1号柱列柱穴18 (南から)



6. 3号木箱埋設遺構 (西から)



7. 4号木箱埋設遺構 (東から)

図版16 第5地点IV期の遺構 (3)

Pl.16 Features of phase IV at NM5 (3)



图版17 第5地点出土磁器(1)
Pl. 17 Porcelains from NM5 (1)

S = 1 : 3



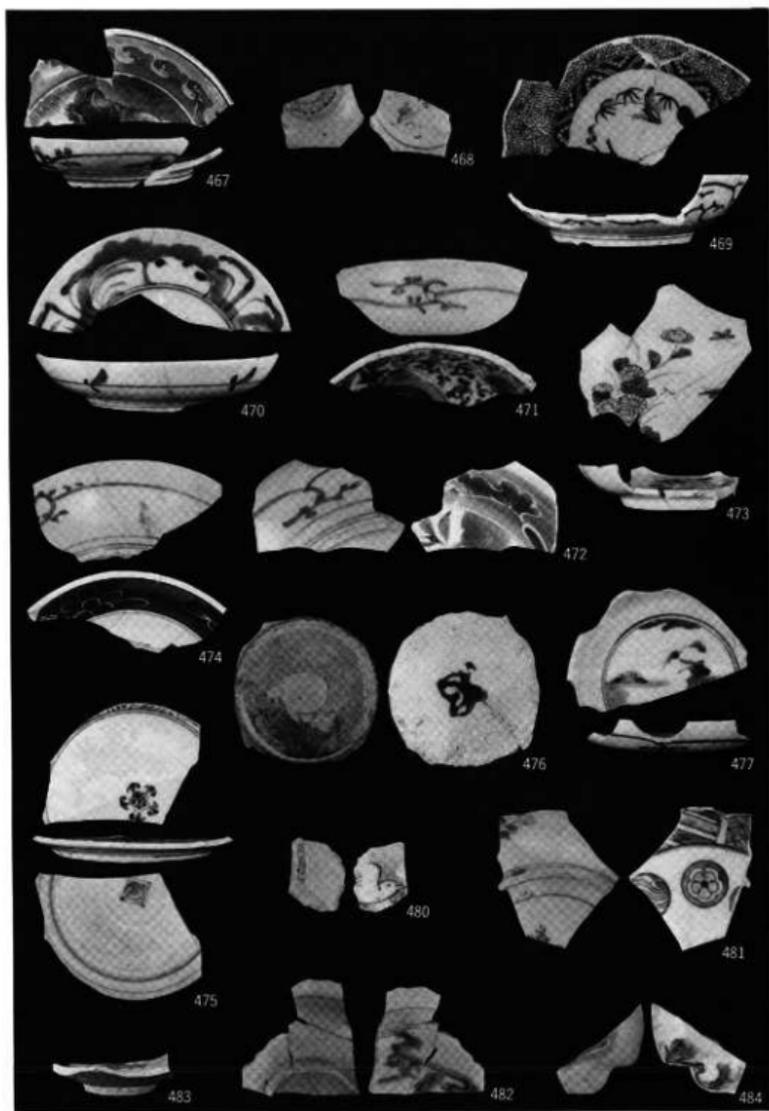
图版 18 第 5 地点出土磁器(2)
 Pl. 18 Porcelains from NM5 (2)

S = 1 : 3



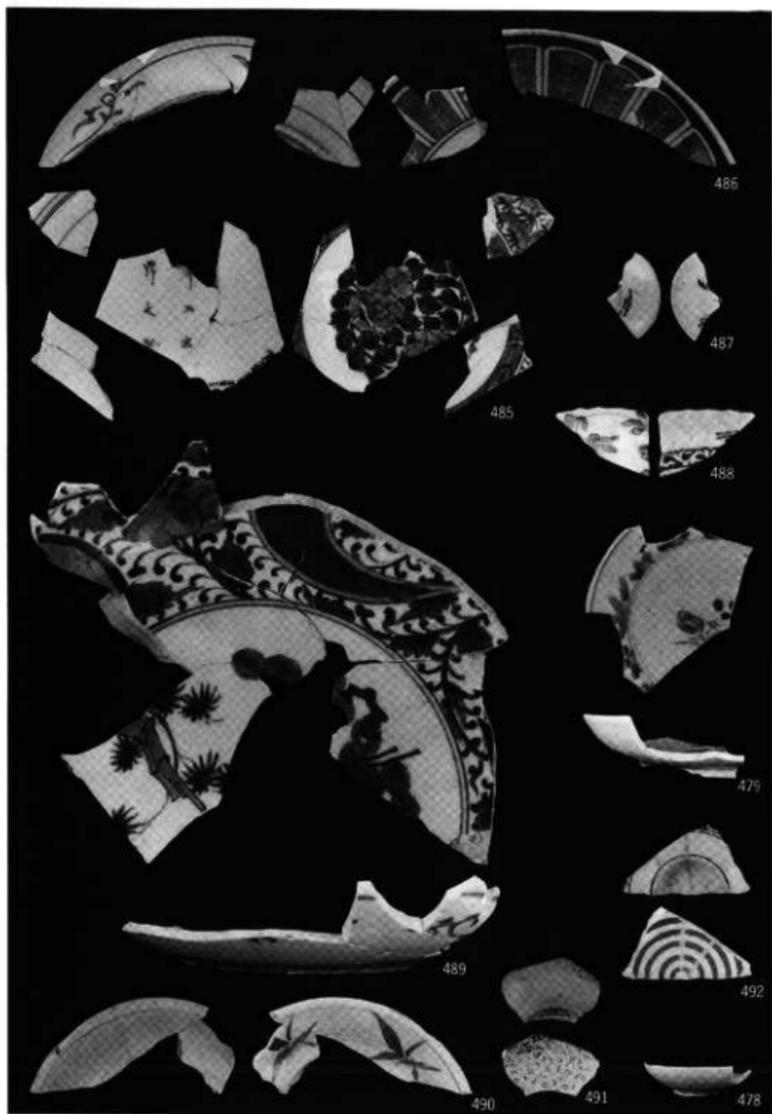
图版19 第5地点出土磁器(3)
Pl. 19 Porcelains from NM5 (3)

S = 1 : 3



图版20 第5地点出土磁器(4)
Pl. 20 Porcelains from NM5 (4)

S = 1 : 3



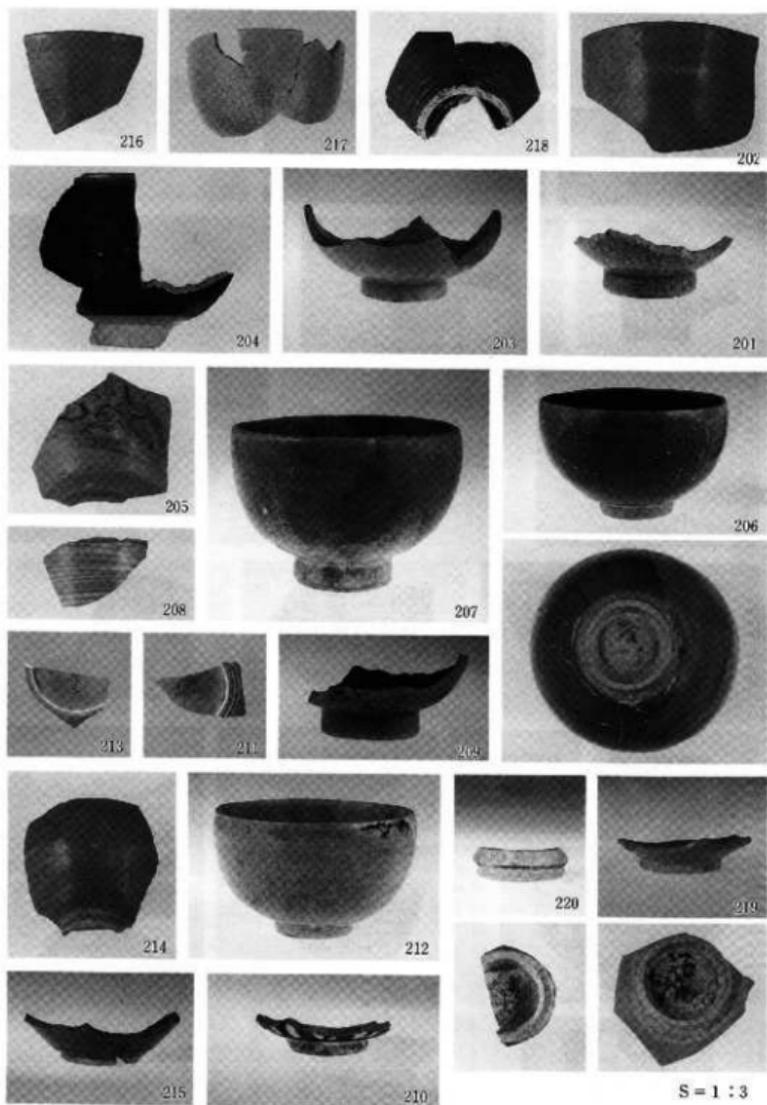
图版21 第5地点出土磁器(5)
Pl. 21 Porcelains from NM5 (5)

S = 1 : 3

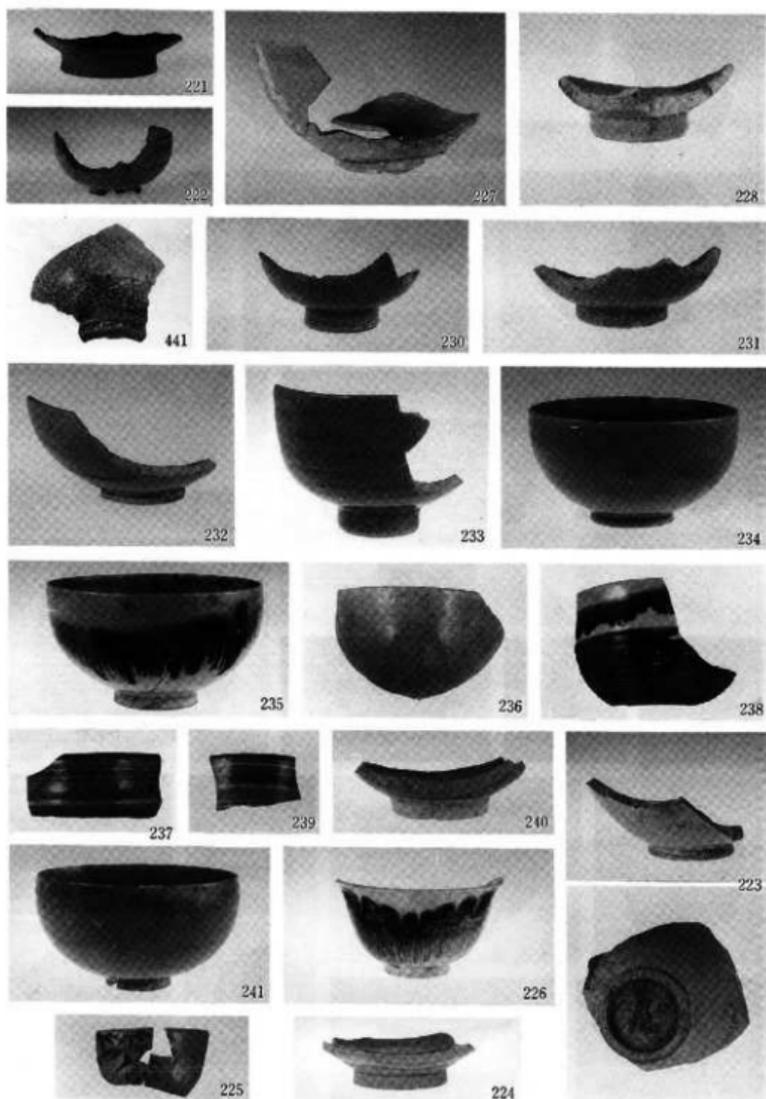


图版22 第5地点出土磁器(6)
Pl. 22 Porcelains from NM5 (6)

S = 1 : 3

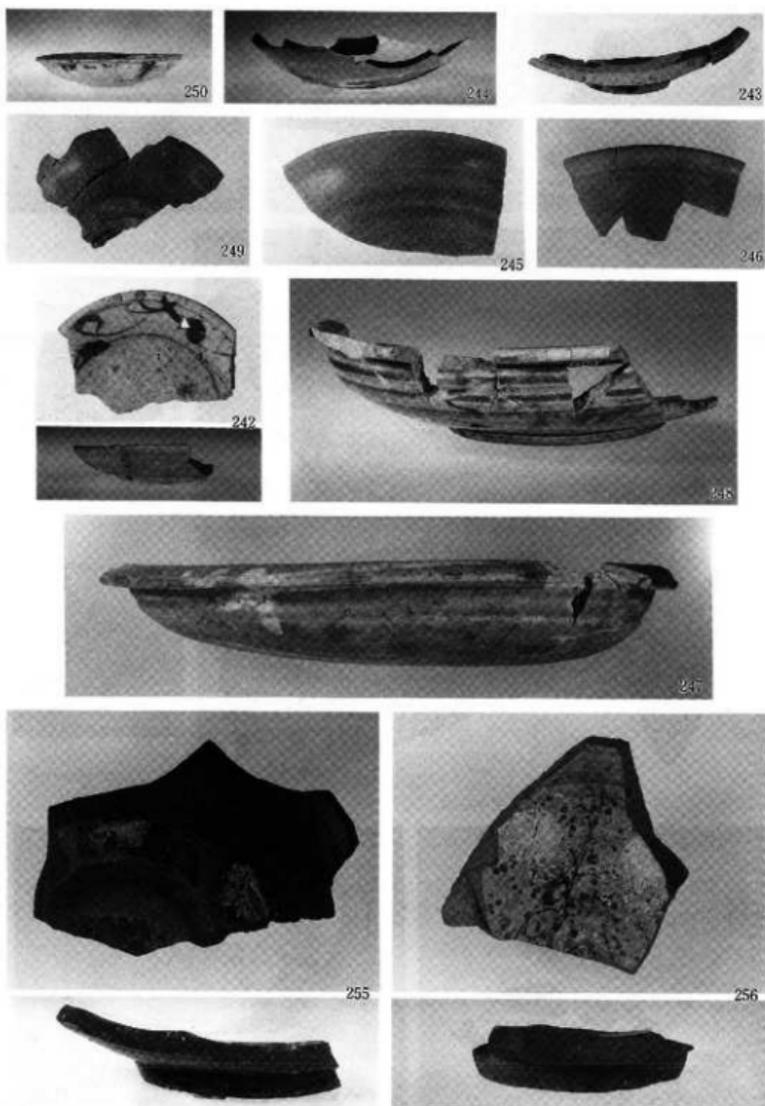


图版23 第5地点出土陶器(1)
Pl. 23 Glazed ceramics from NM5 (1)



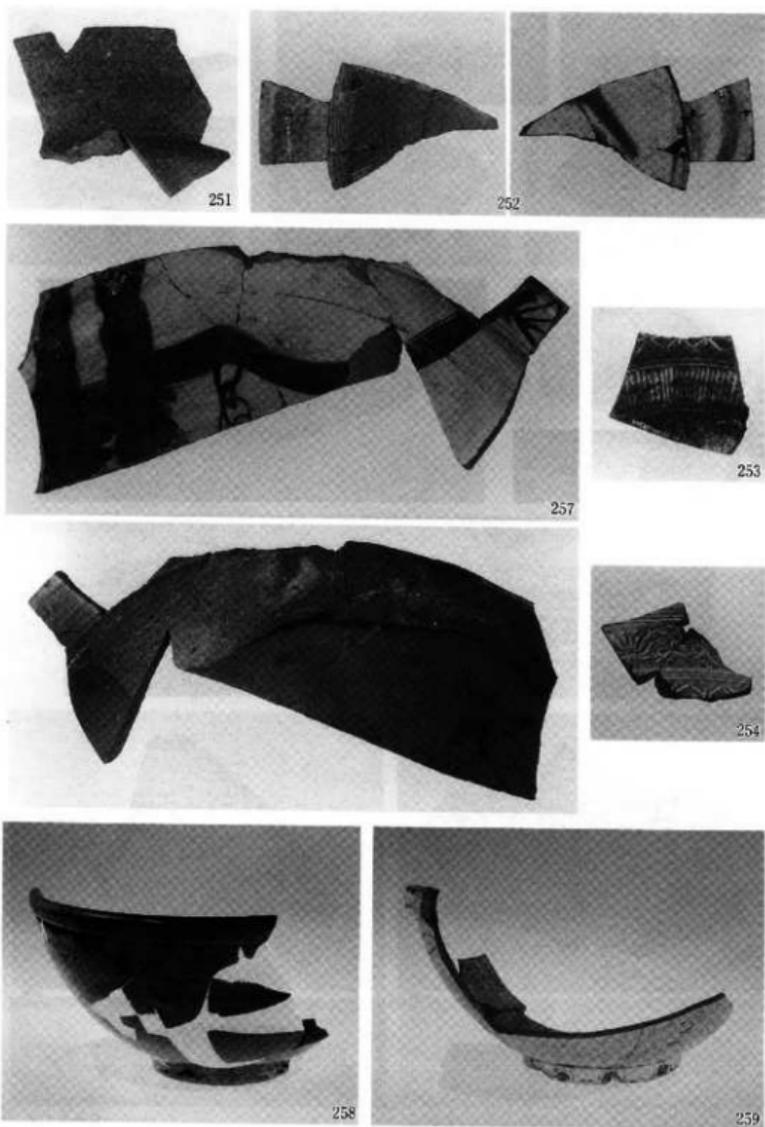
S = 1 : 3

图版24 第5地点出土陶器(2)
Pl. 24 Glazed ceramics from NM5 (2)



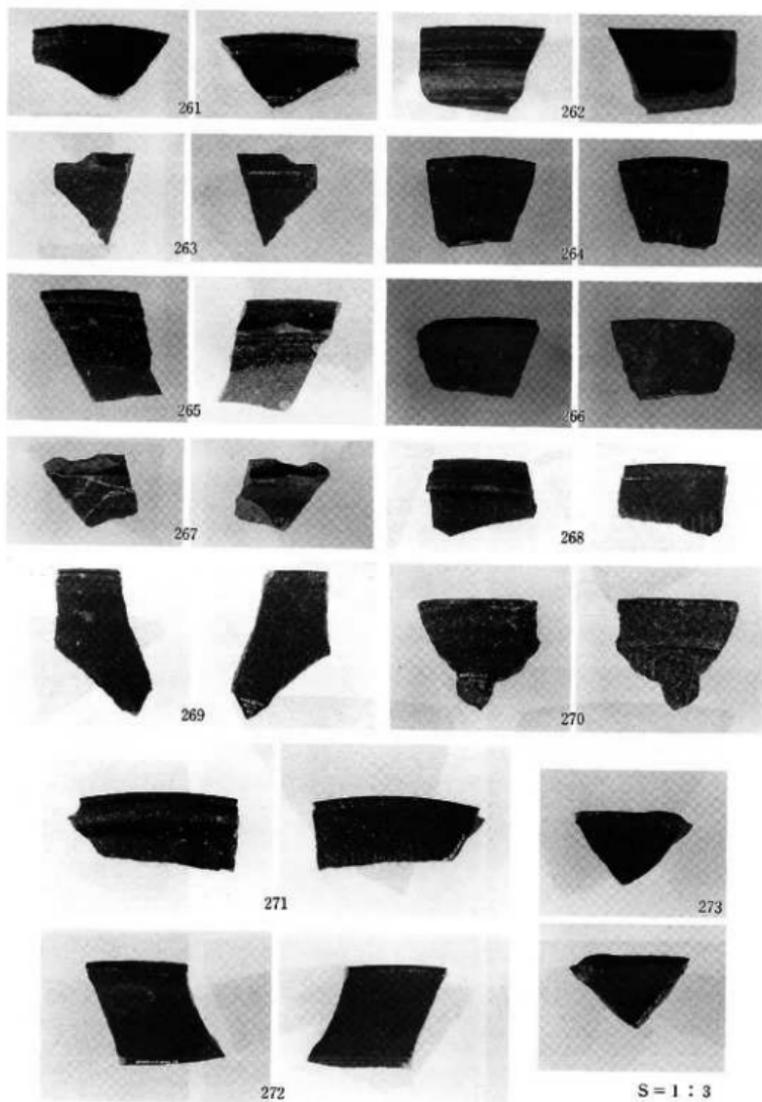
图版25 第5地点出土陶器(3)
Pl. 25 Glazed ceramics from NM5 (3)

S=1:3

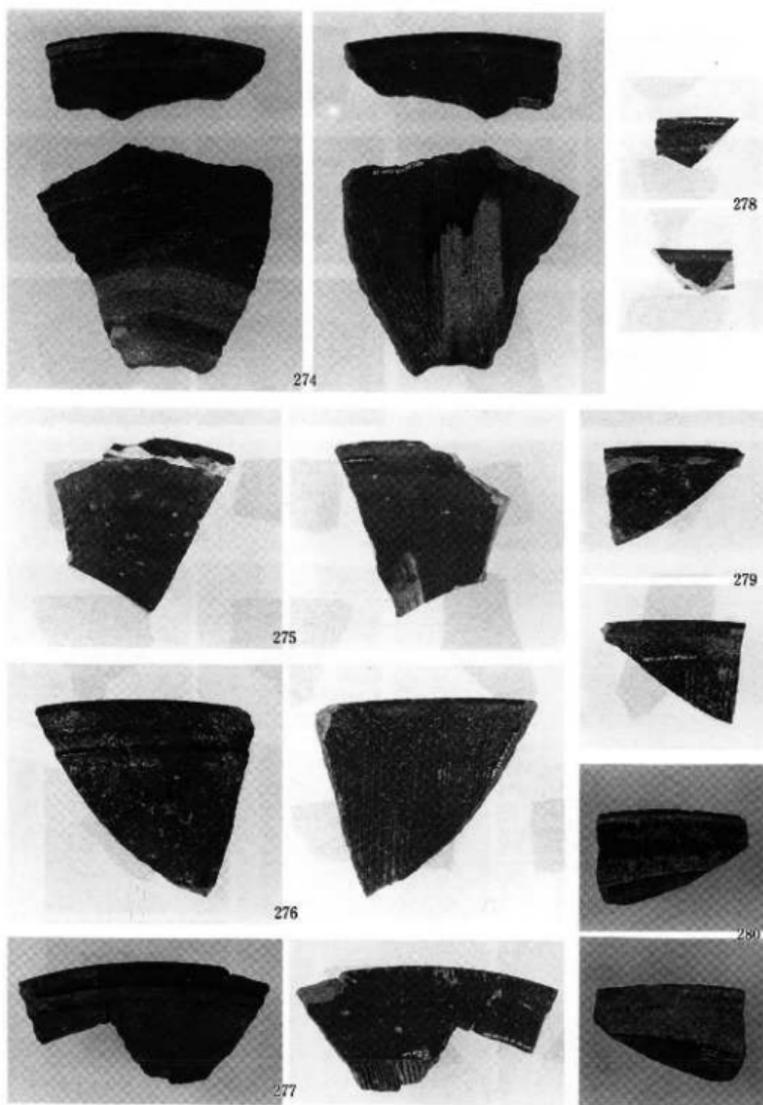


图版26 第5地点出土陶器(4)
Pl. 26 Glazed ceramics from NM5 (4)

S = 1 : 3

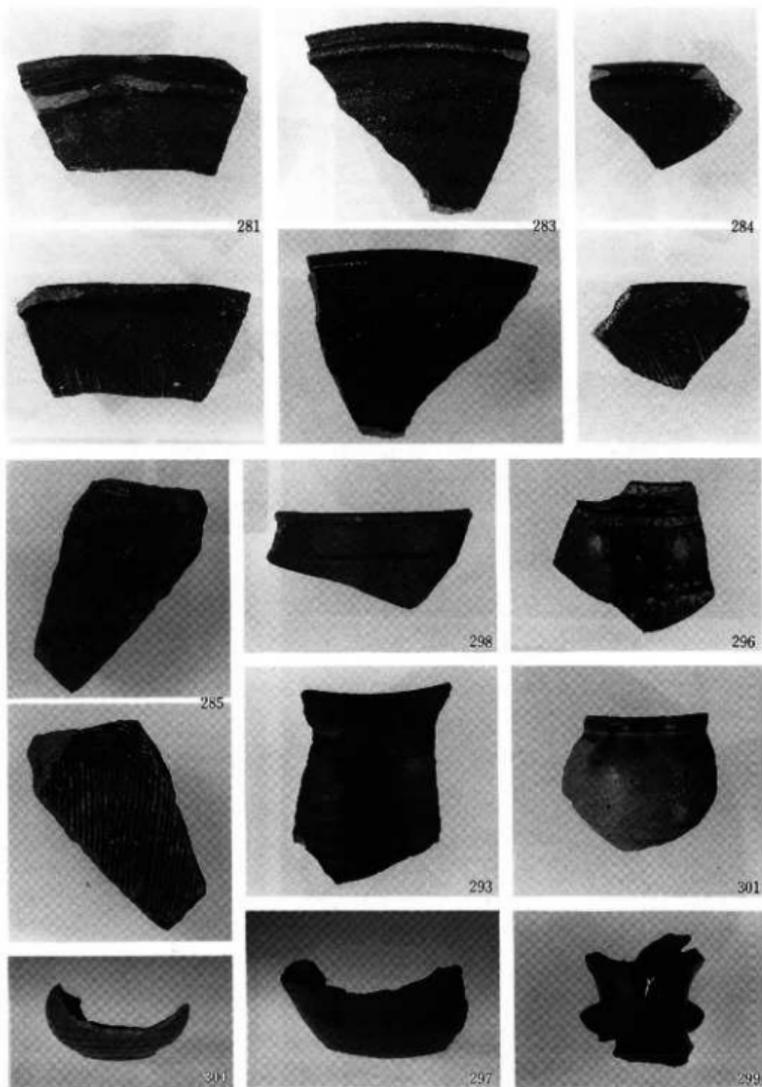


图版27 第5地点出土陶器(5)
Pl. 27 Glazed ceramics from NM5 (5)



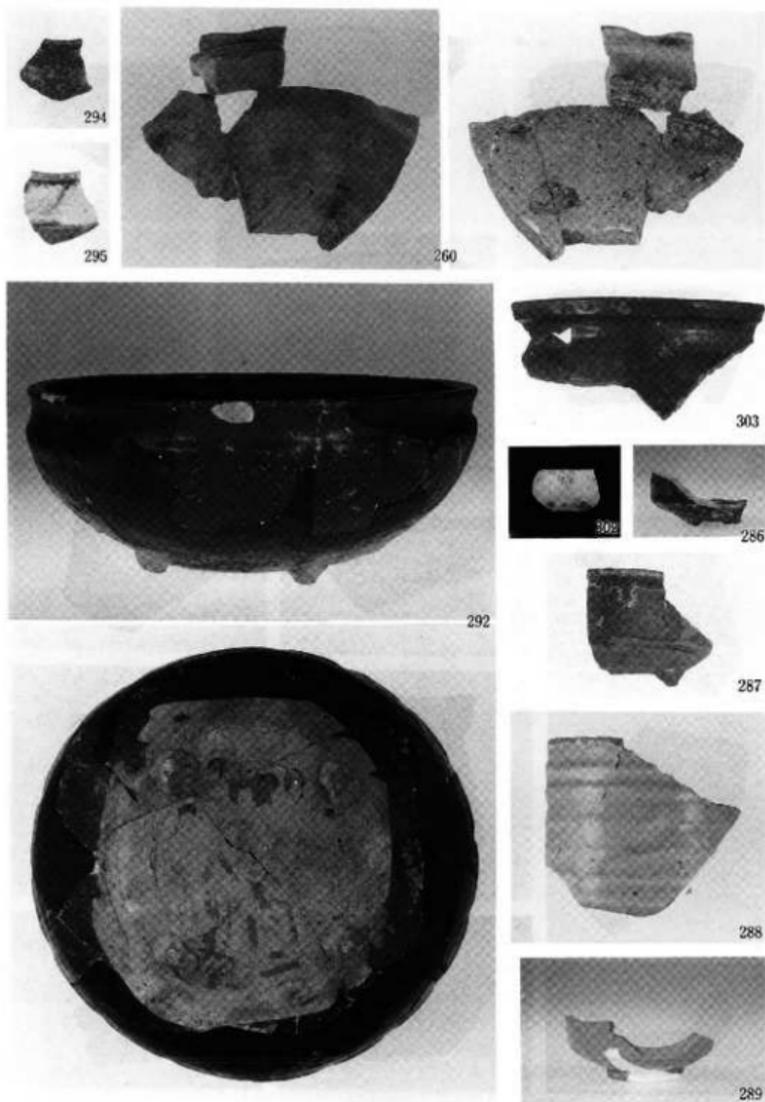
图版28 第5地点出土陶器(6)
Pl. 28 Glazed ceramics from NM5 (6)

S = 1 : 3



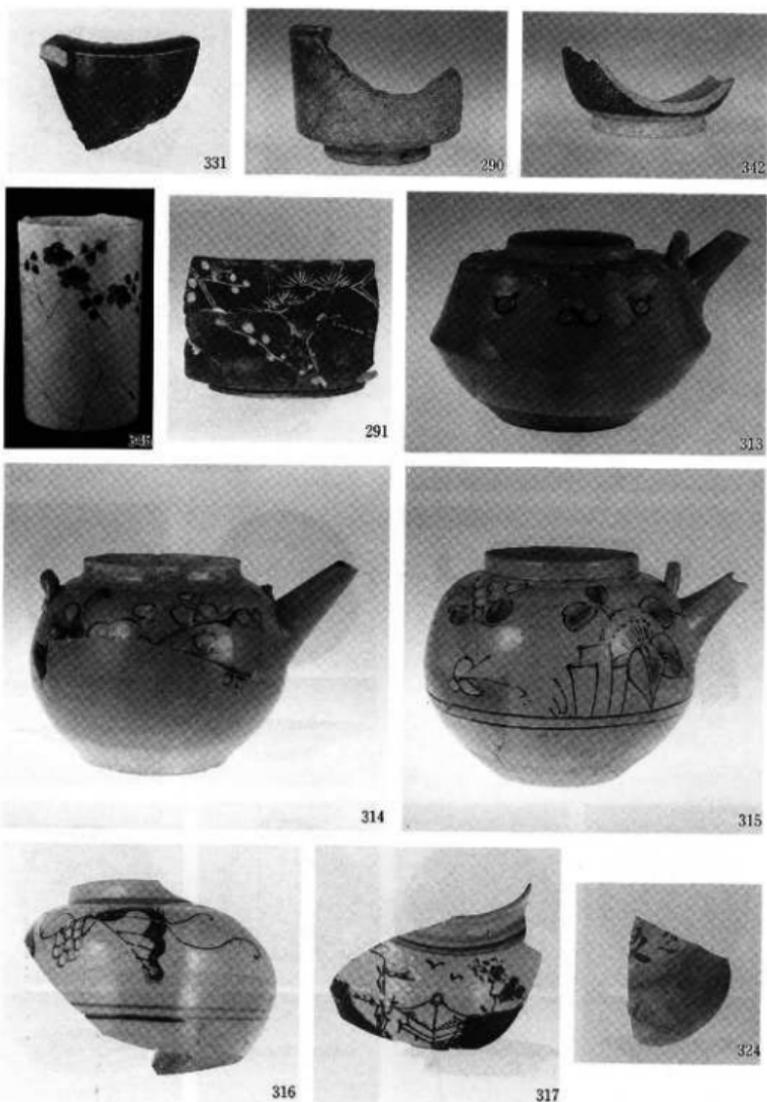
S = 1 : 3

图版29 第5地点出土陶器(7)
Pl. 29 Glazed ceramics from NM5 (7)



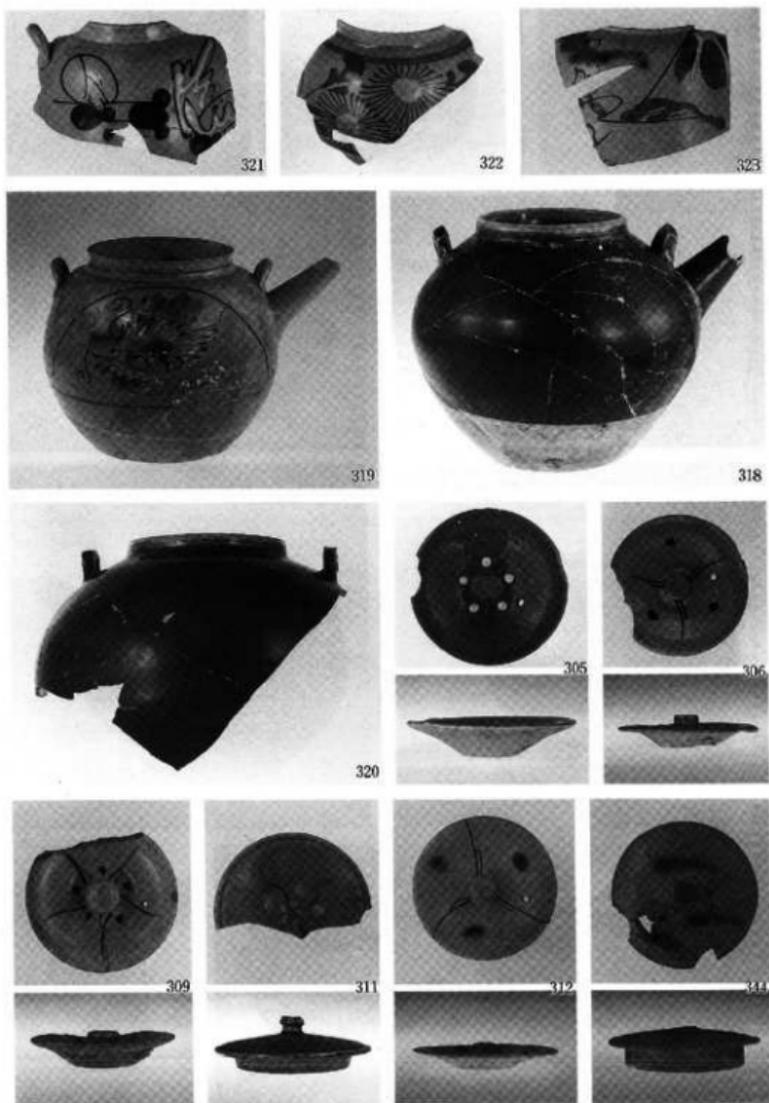
S = 1 : 3

图版30 第5地点出土陶器(8)
Pl. 30 Glazed ceramics from NM5 (8)



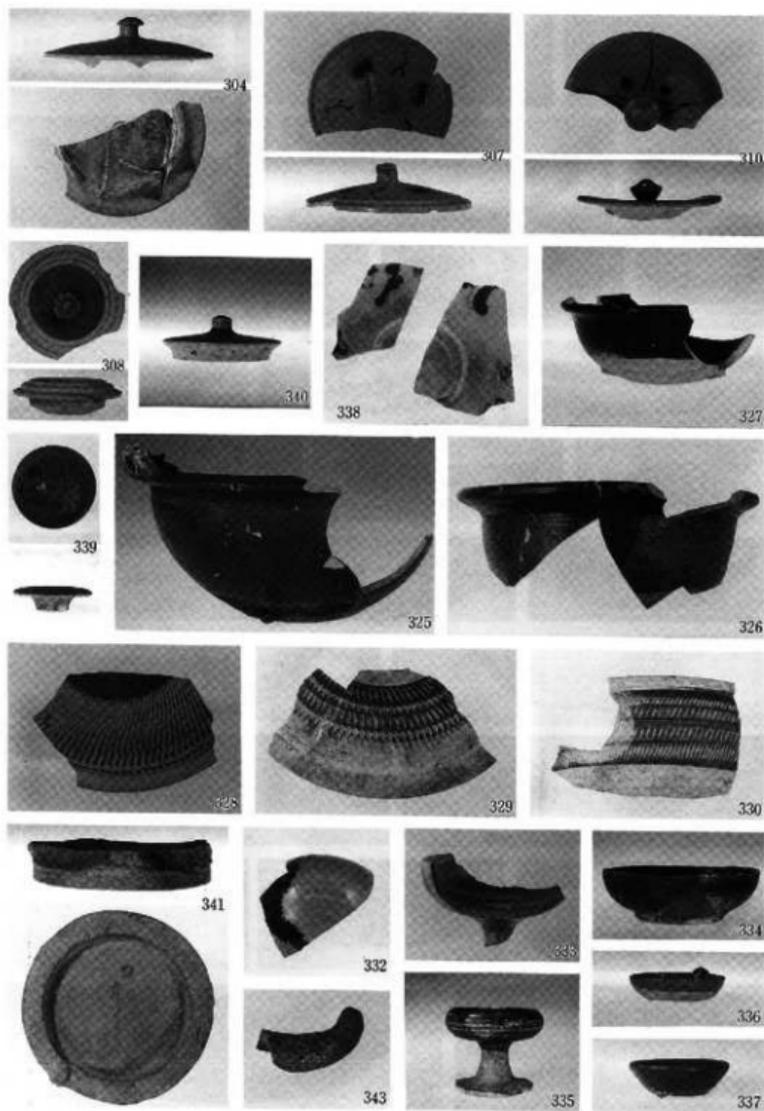
S = 1 : 3

图版31 第5地点出土陶器(9)
Pl. 31 Glazed ceramics from NM5 (9)



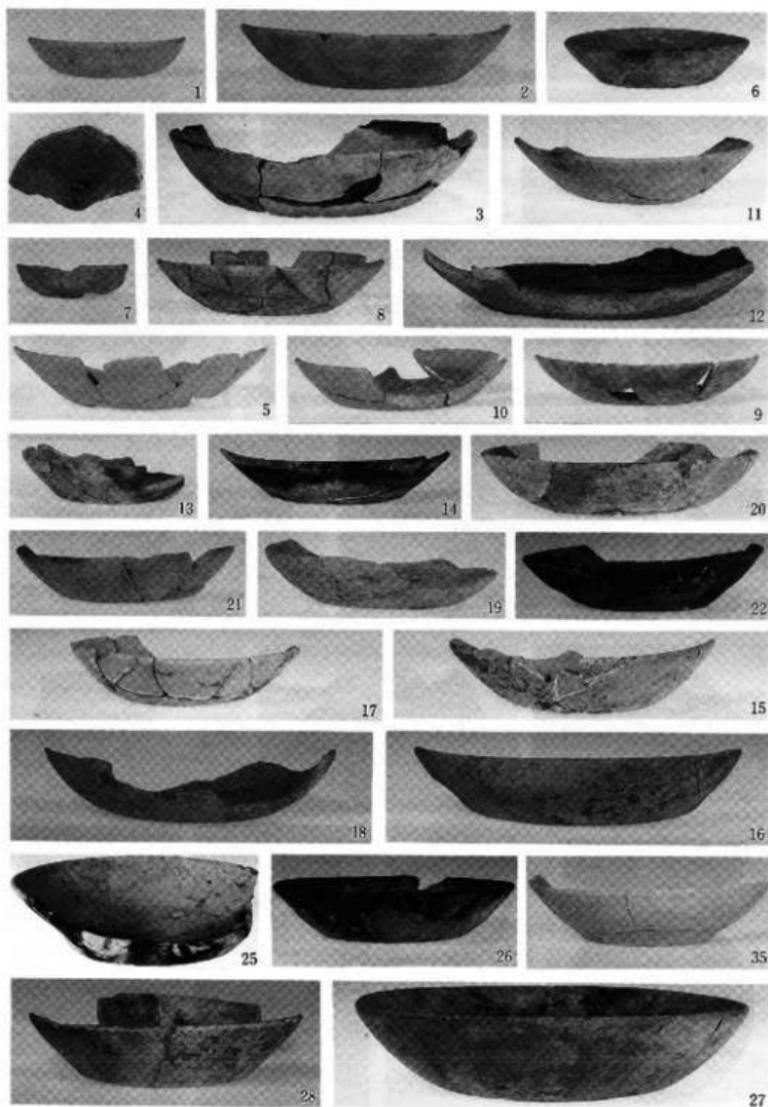
S = 1 : 3

图版32 第5地点出土陶器(10)
Pl. 32 Glazed ceramics from NM5 (10)



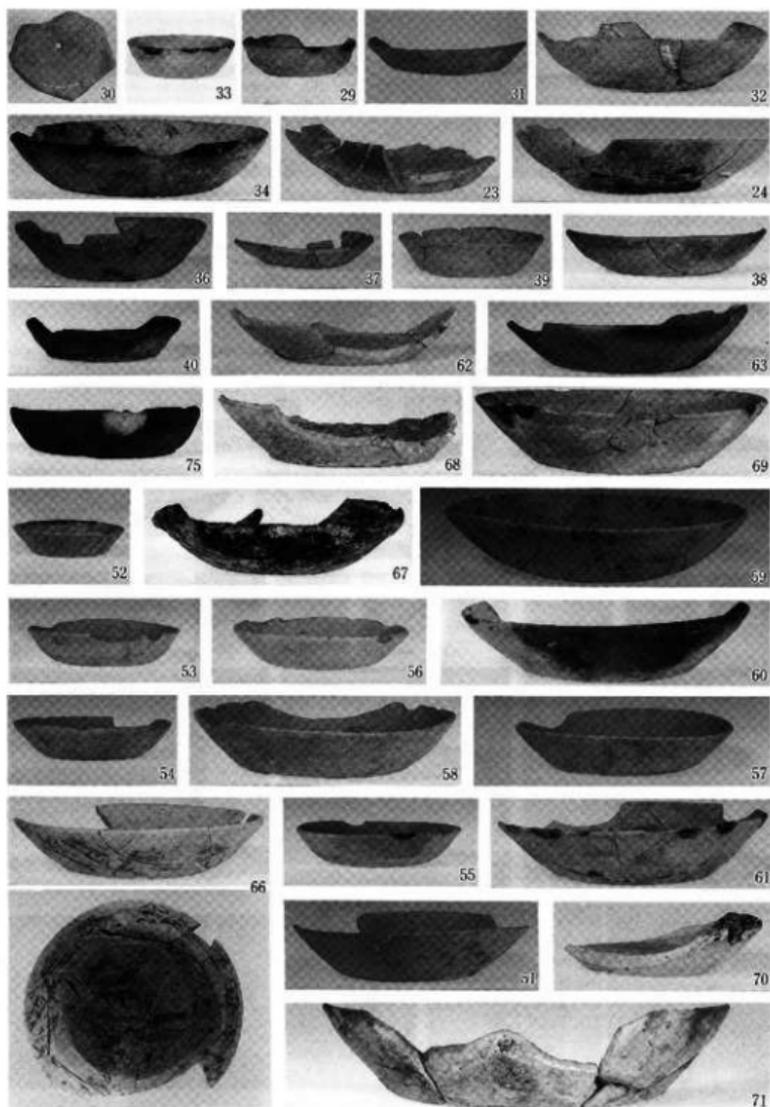
S = 1 : 3

图版33 第5地点出土陶器 (11)
 Pl. 33 Glazed ceramics from NM5 (11)



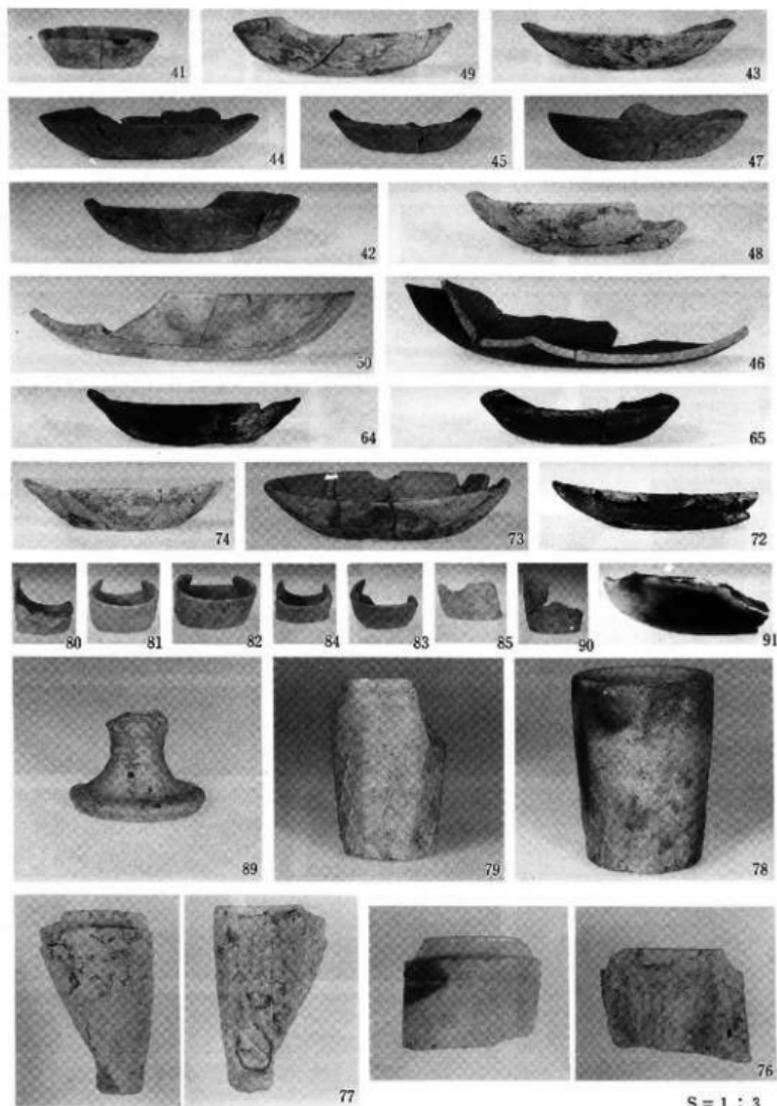
S = 1 : 3

图版34 第5地点出土土器(1)
Pl. 34 Ceramics from NM5 (1)

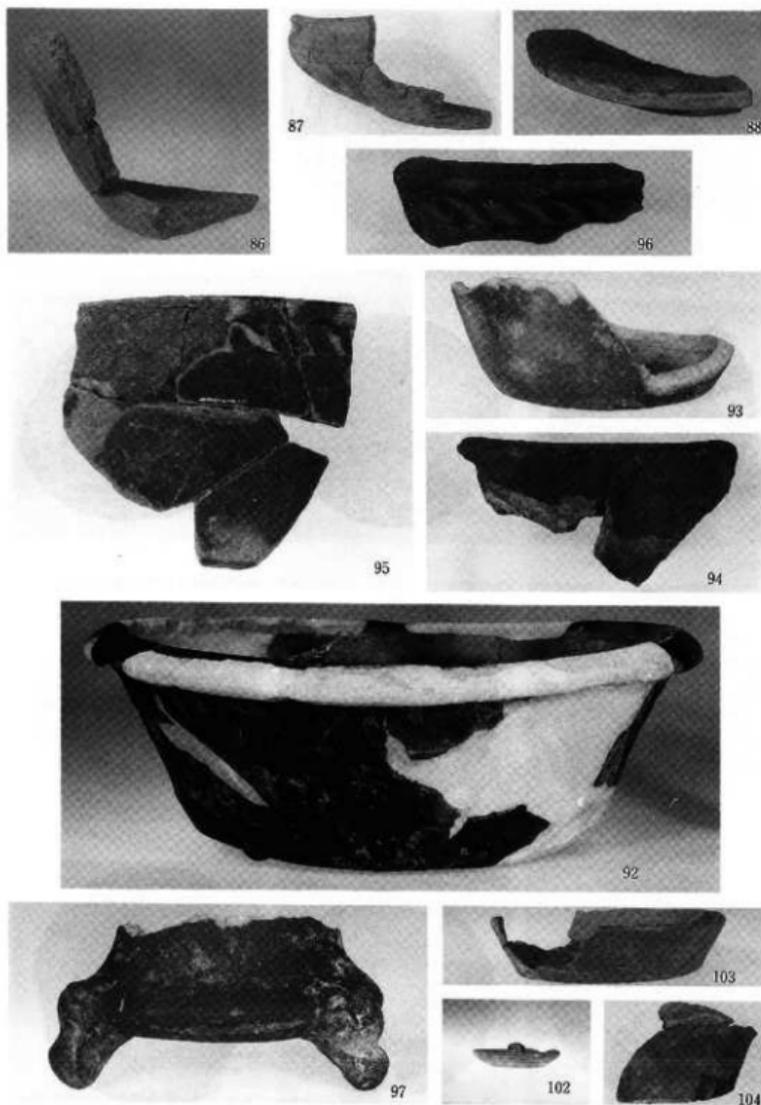


S = 1 : 3

图版35 第5地点出土土器(2)
Pl. 35 Ceramics from NM5 (2)

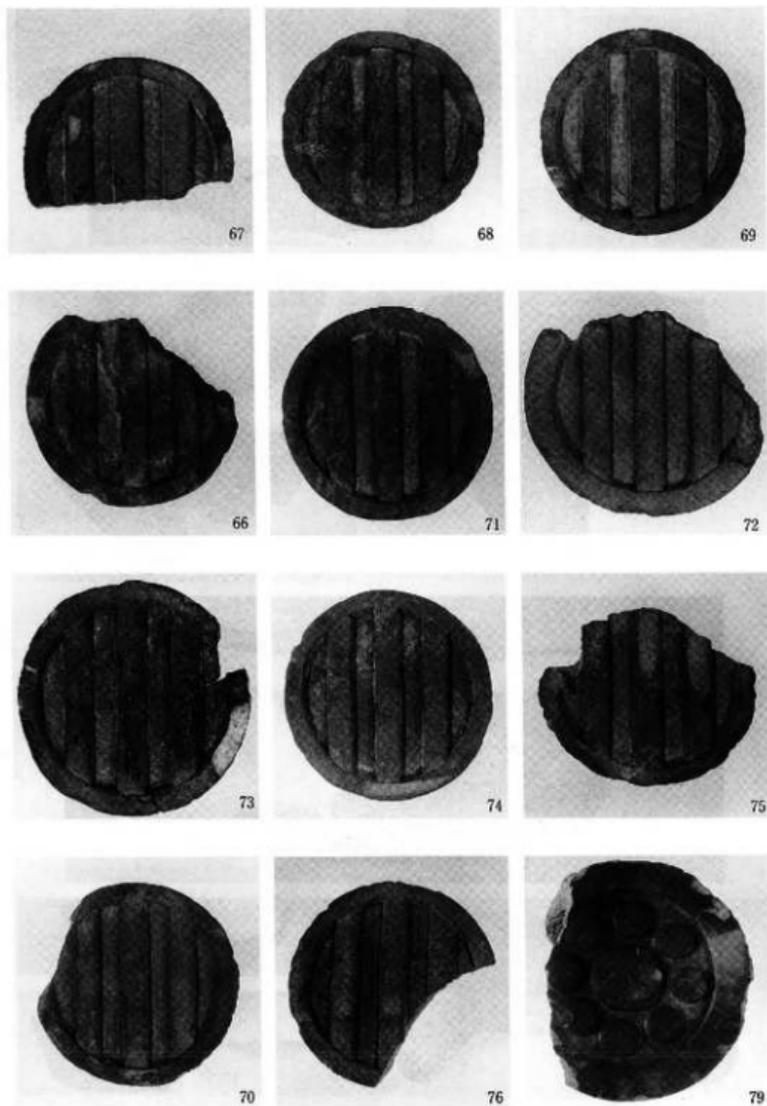


图版36 第5地点出土土器(3)
Pl. 36 Ceramics from NM5 (3)



S = 1 : 3

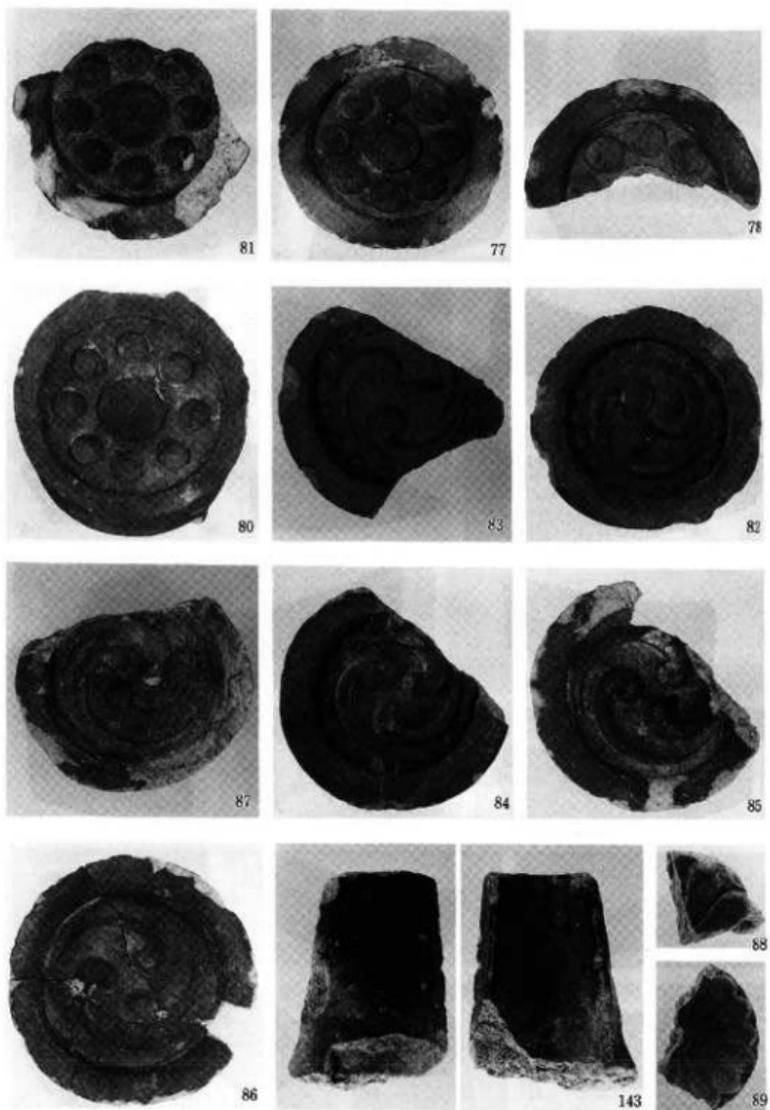
图版37 第5地点出土土器(4)
Pl. 37 Ceramics from NM5 (4)



图版38 第5地点出土軒丸瓦(1)

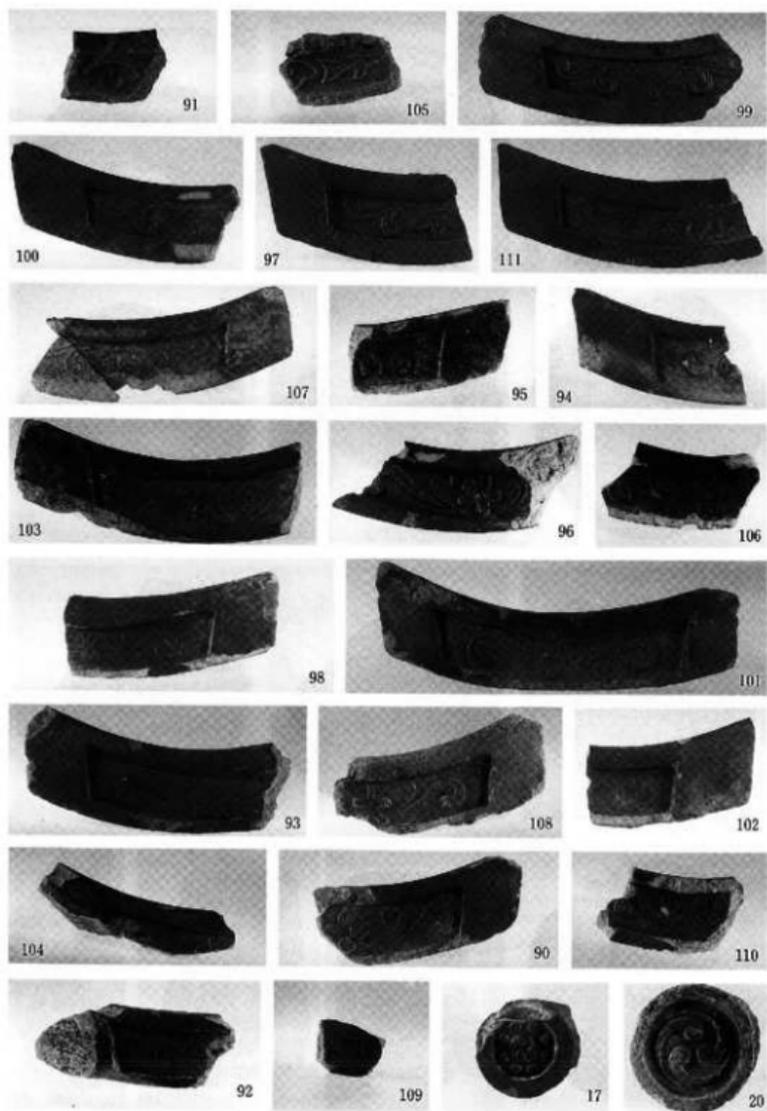
Pl. 38 Round eaves tiles from NM5 (1)

S = 1 : 4



图版39 第5地点出土轩瓦(2)
Pl. 39 Round eaves tiles from NM5 (2)

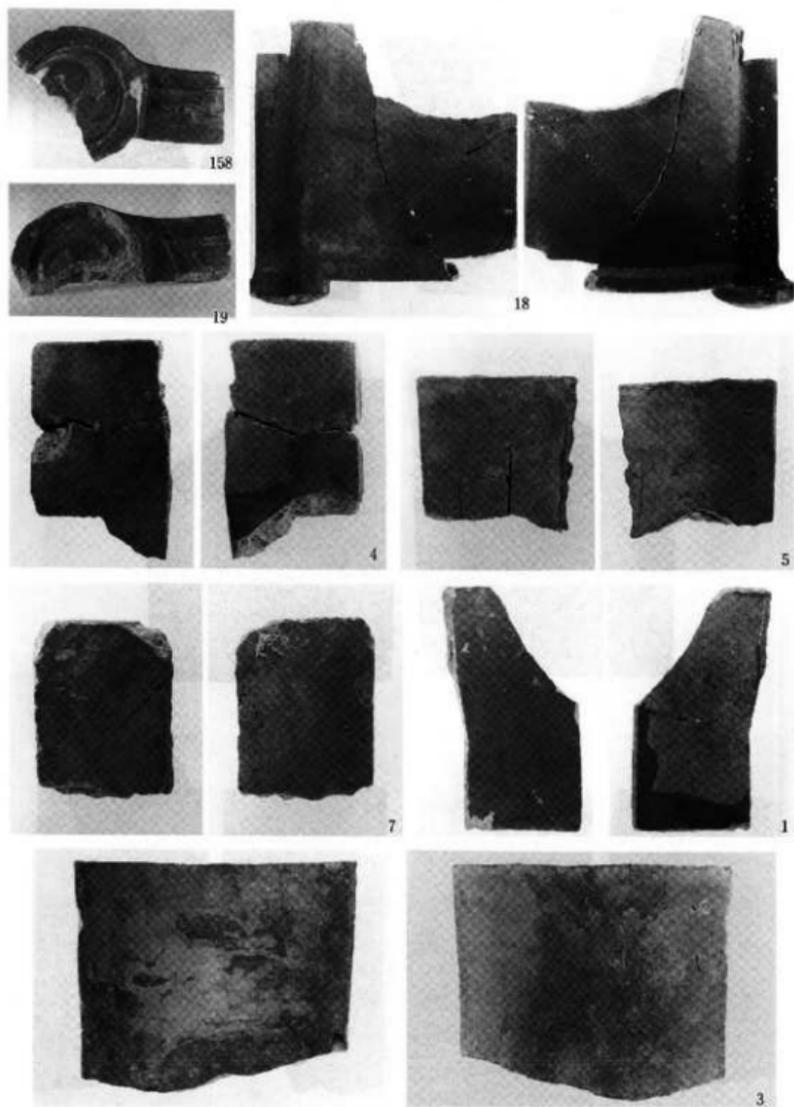
S = 1 : 4



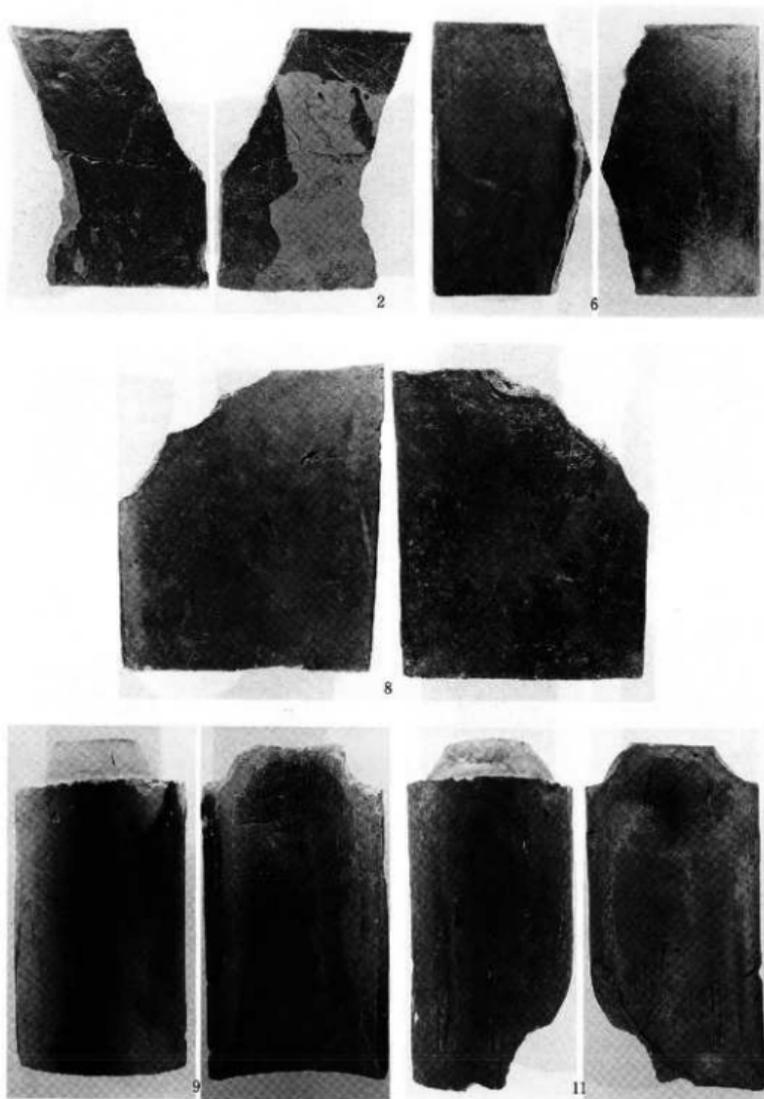
S = 1 : 4

图版40 第5地点出土軒平瓦·軒棧瓦(1)

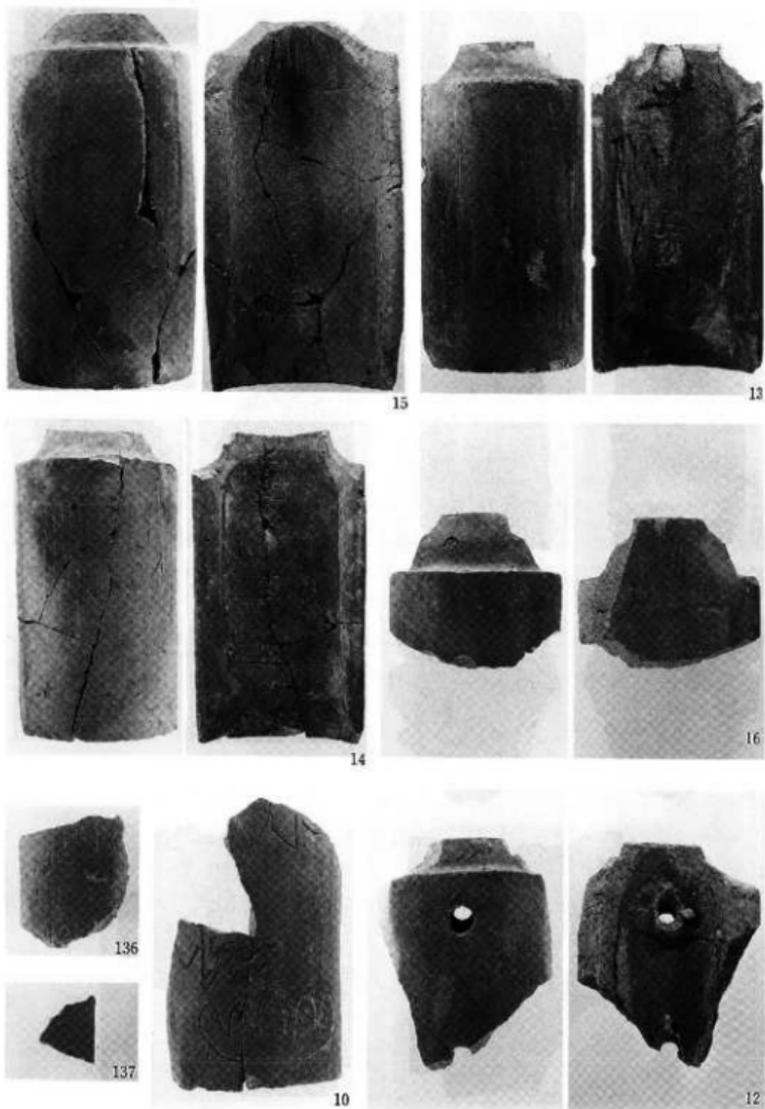
Pl. 38 Flat eaves tiles and eaves-pan tiles from NM5



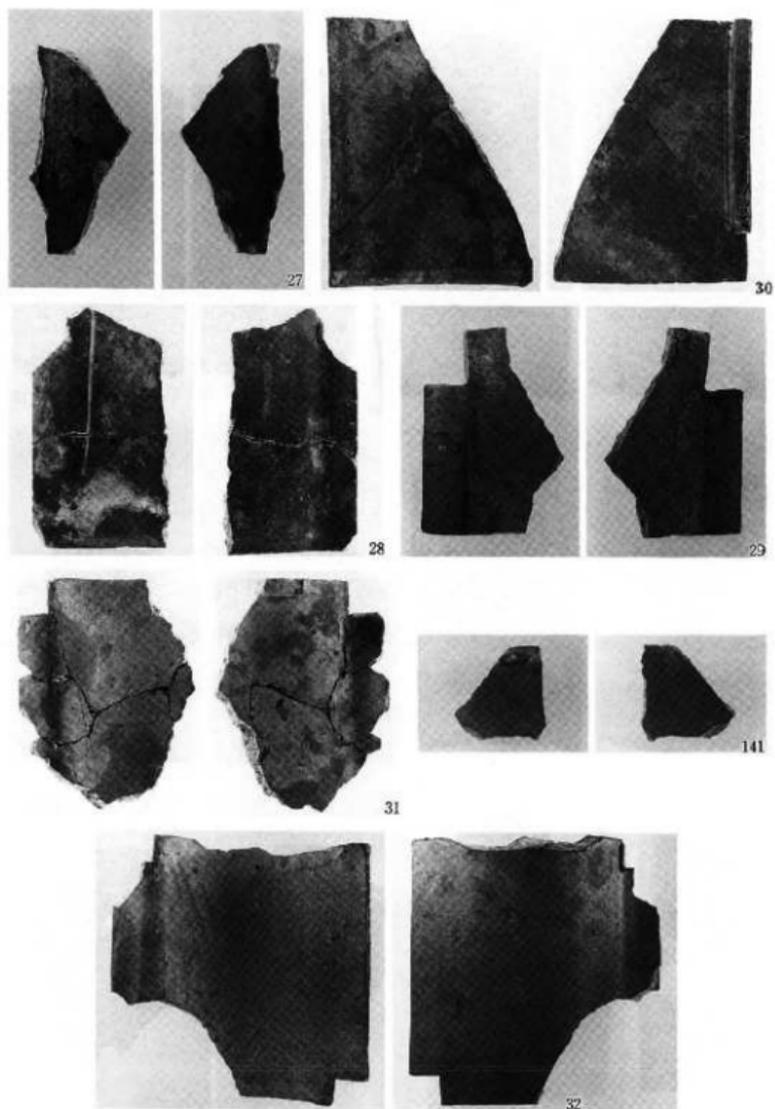
19, 158 S = 1 : 4
 18 S = 1 : 6
 他は S = 1 : 5
 図版41 第5地点出土軒椽瓦(2)・平瓦(1)
 Pl. 41 Eaves-pan tiles and flat roof tiles from NM5



图版42 第5地点出土平瓦(2)·丸瓦(1)
 Pl. 42 Flat roof tiles and round roof tiles from NM5

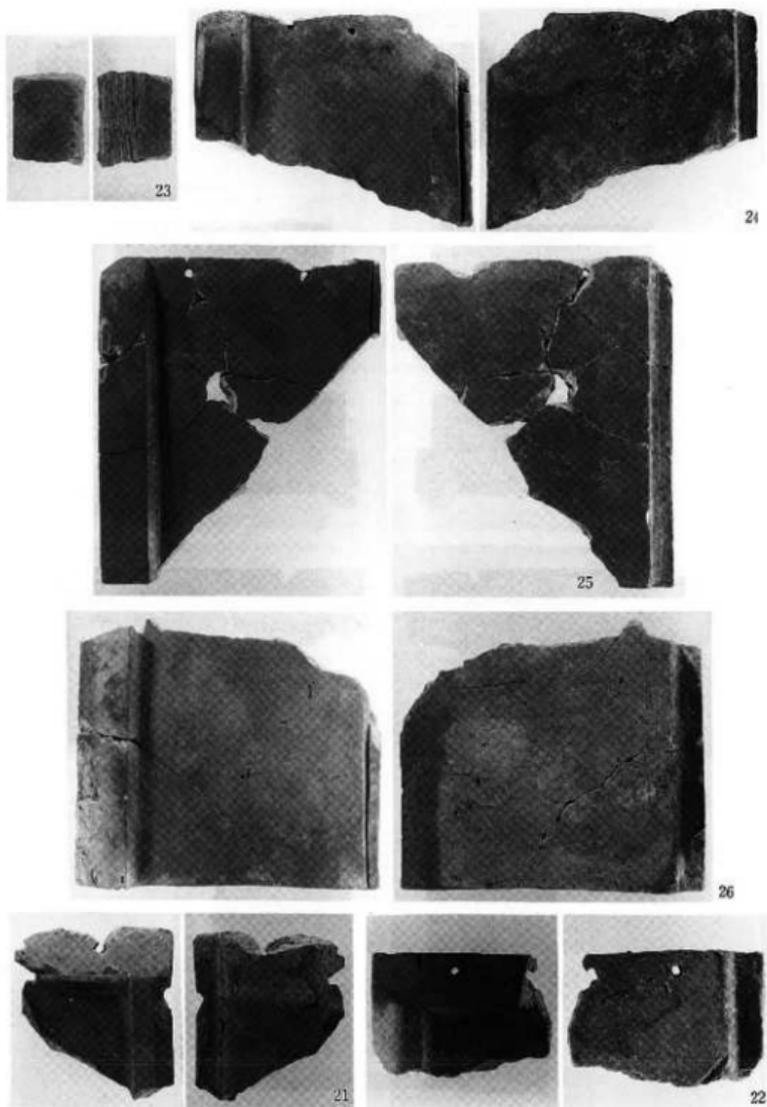


图版43 第5地点出土瓦(2)
 PL. 43 Round roof tiles from NM5 (2)



图版44 第5地点出土残瓦(1)
Pl. 44 Pan tiles from NM5 (1)

S = 1 : 6



图版45 第5地点出土板瓦
Pl. 45 Pan tiles used for fence from NM5

S = 1 : 6



151



152



33



34



145

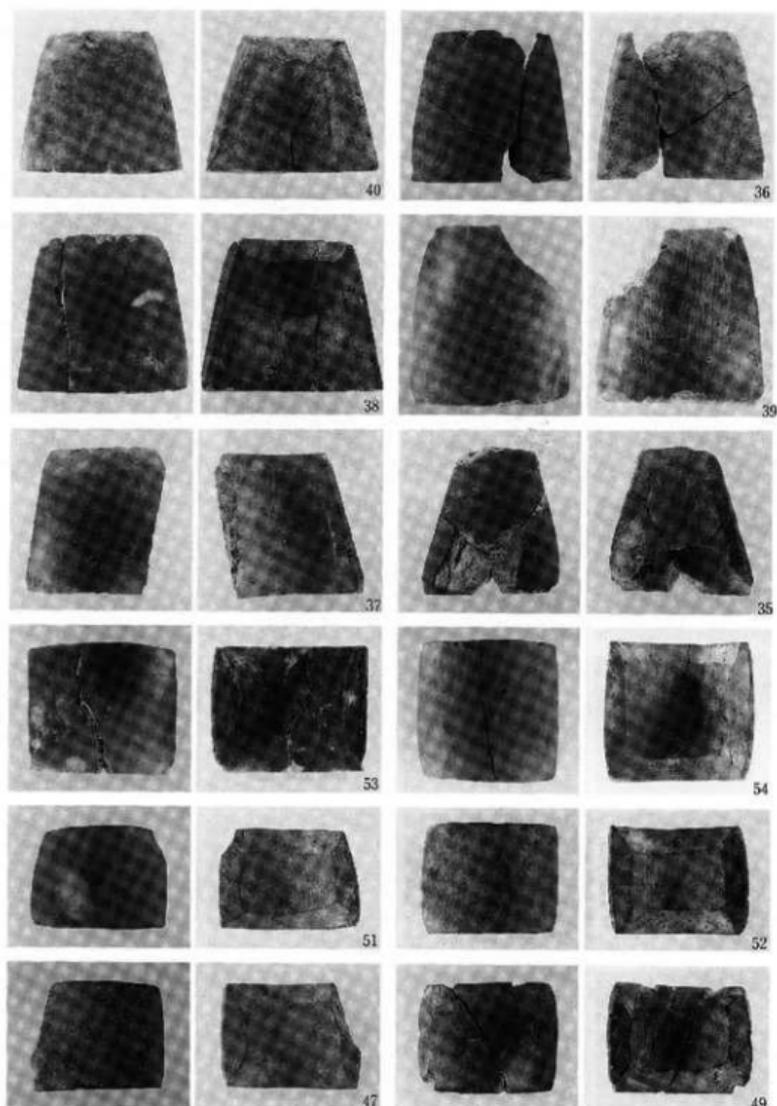


146



S = 1 : 6

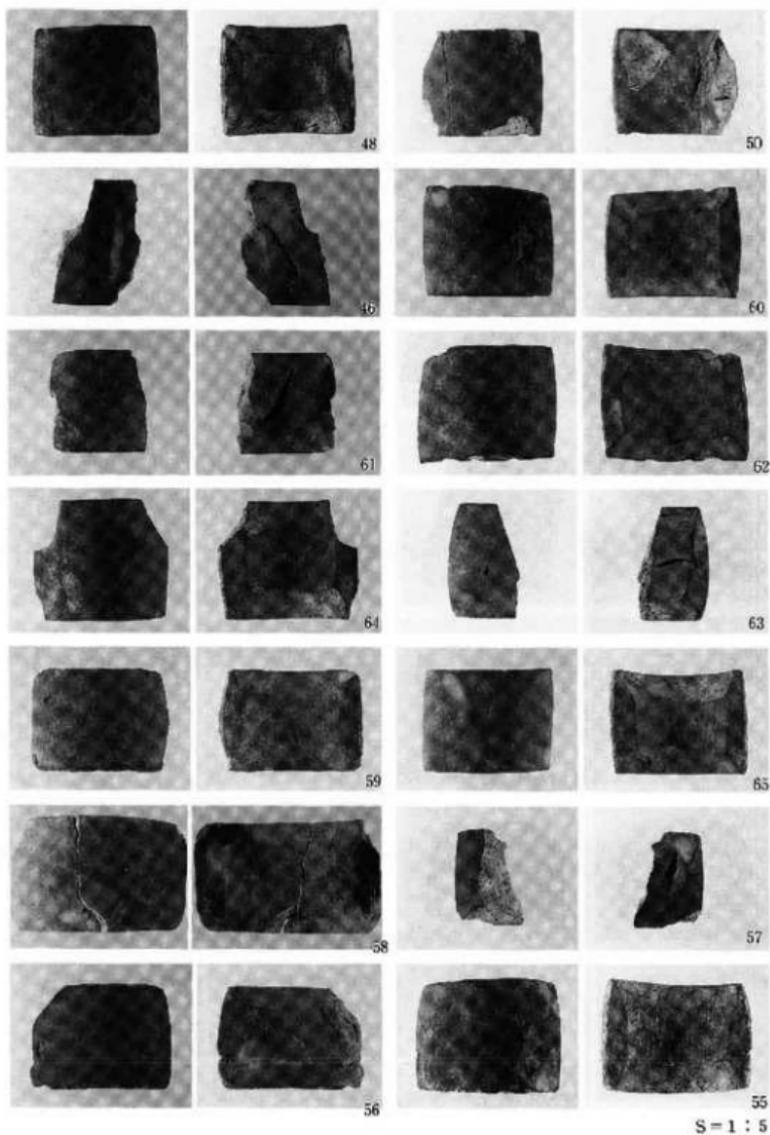
图版46 第5地点出土椽瓦(2)·鬻斗瓦·椽瓦
Pl. 46 Pan tiles, ridge tiles and ridge cover tiles from NM5



S = 1 : 5

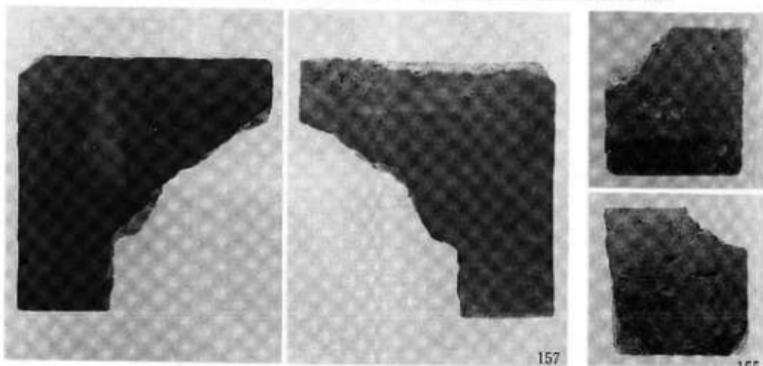
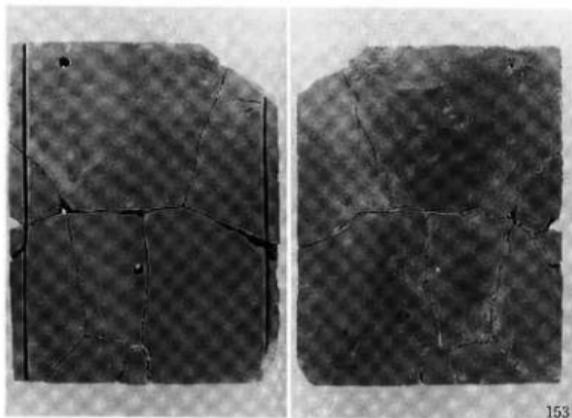
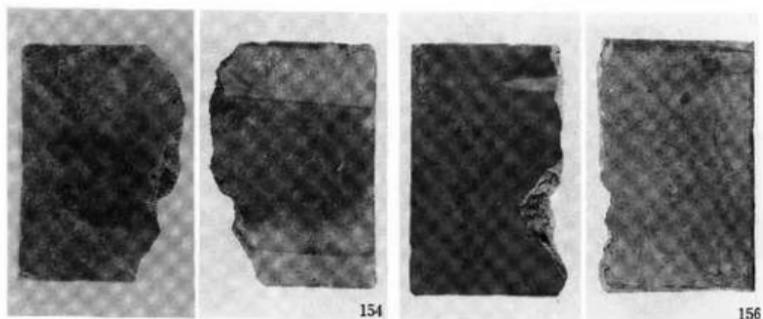
図版47 第5地点出土輪造い・面戸瓦(1)

Pl. 47 Ridge decoration tiles and filler tiles from NM5



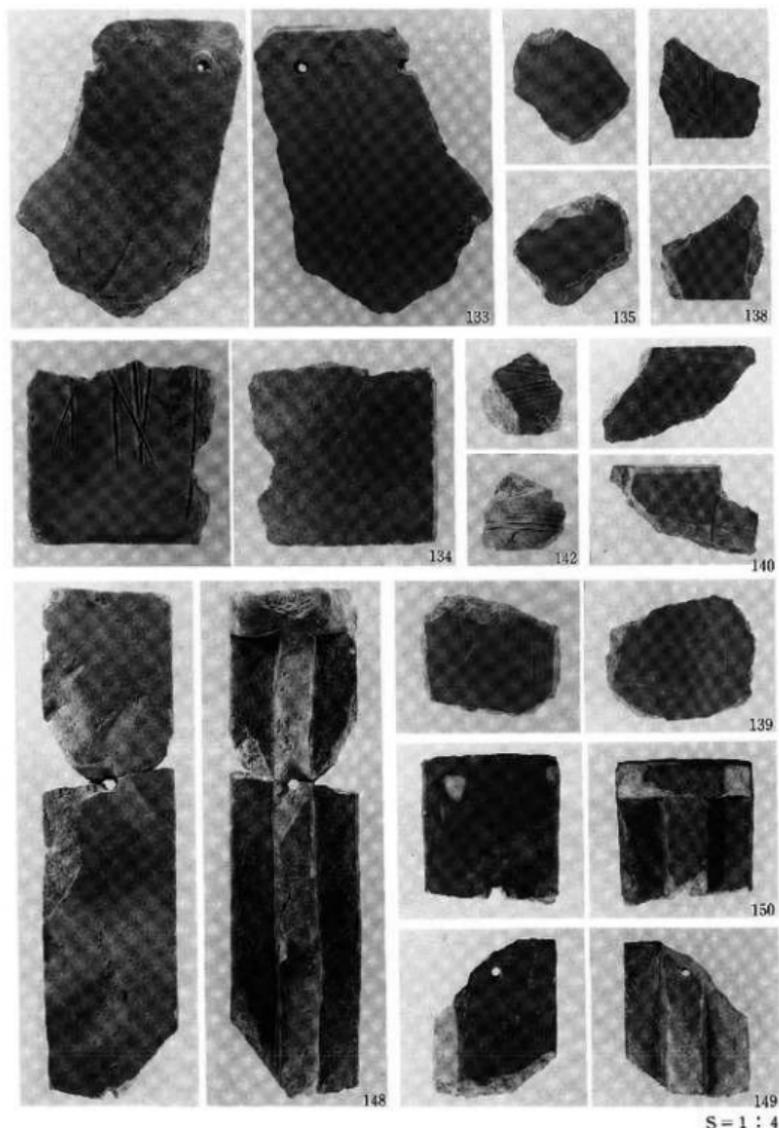
S = 1 : 5

图版48 第5地点出土面瓦(2)
Pl. 48 Filler tiles from NM5 (2)

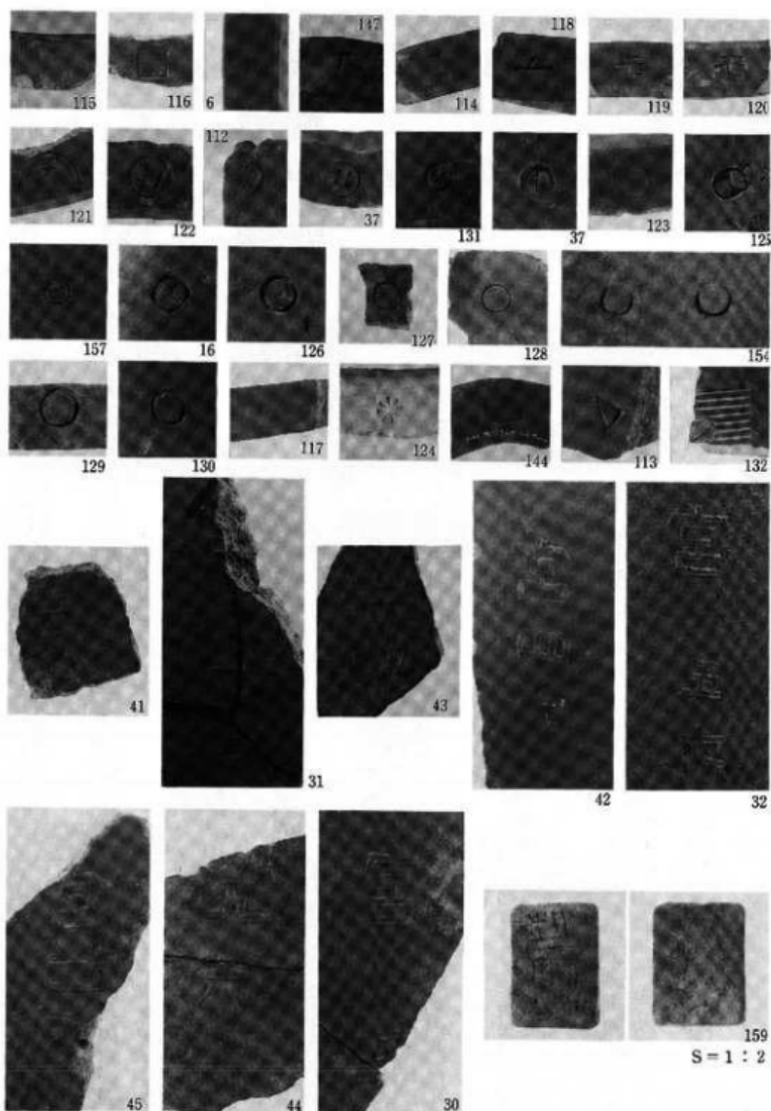


S = 1 : 6

図版49 第5地点出土その他の瓦(1)
Pl. 49 Various roof tiles from NM5 (1)



図版50 第5地点出土その他の瓦(2)
Pl. 50 Various roof tiles from NM5 (2)



图版51 第5地点出土刻印瓦·瓦加工品

Pl. 52 Roof tiles with seal impression and converted roof tile from NM5



图版52 第5地点出土木简(1)
Pl. 52 Wooden tablets from NM5 (1)

S = 1 : 2



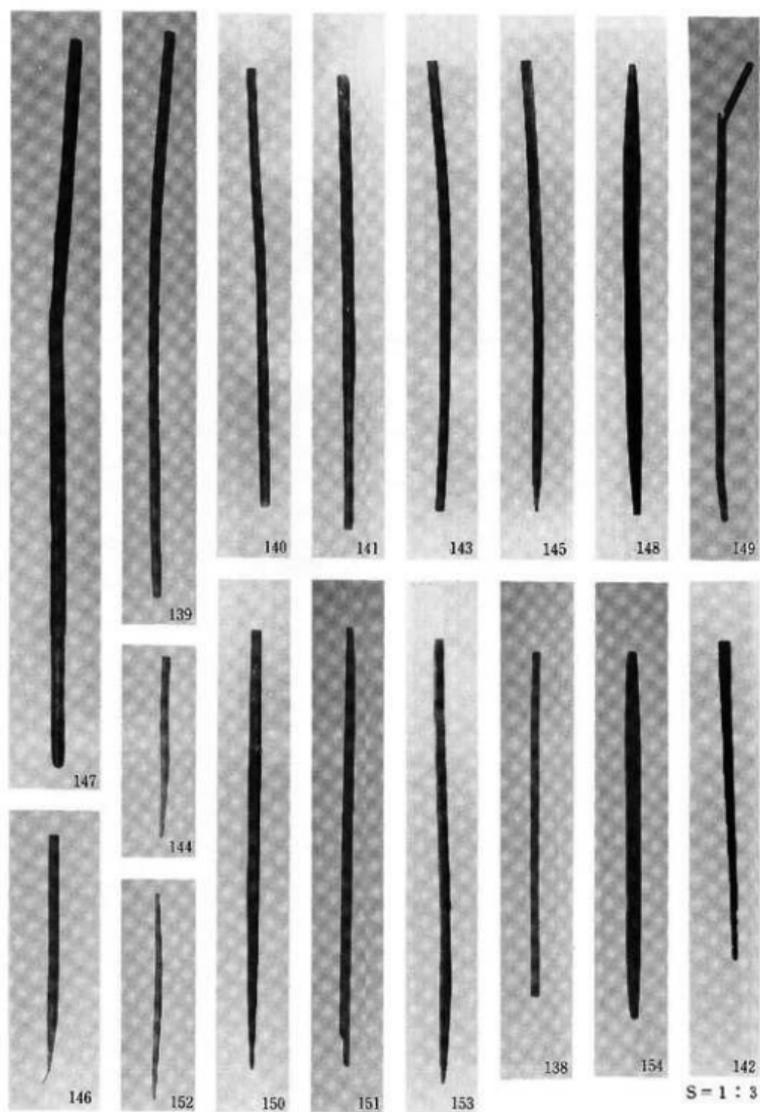
图版53 第5地点出土木简(2)
Pl. 53 Wooden tablets from NM5 (2)

S = 1 : 2

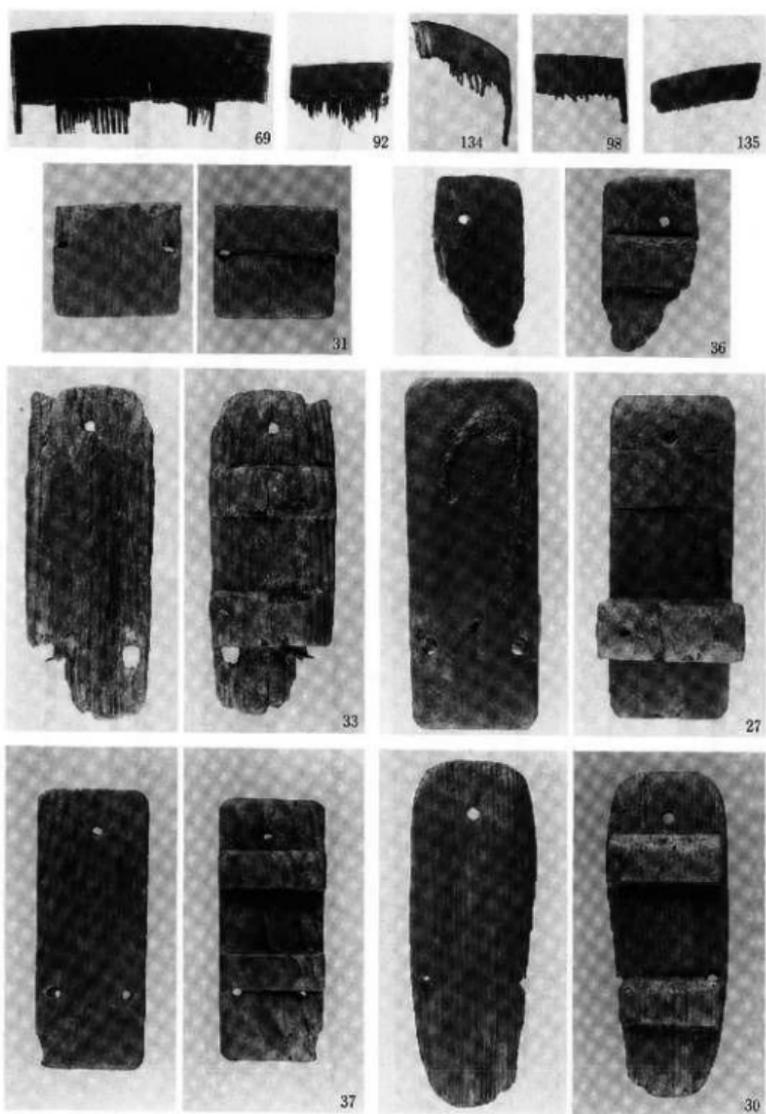


図版54 第5地点出土木簡(3)
Pl. 54 Wooden tablets from NM5 (3)

S = 1 : 2

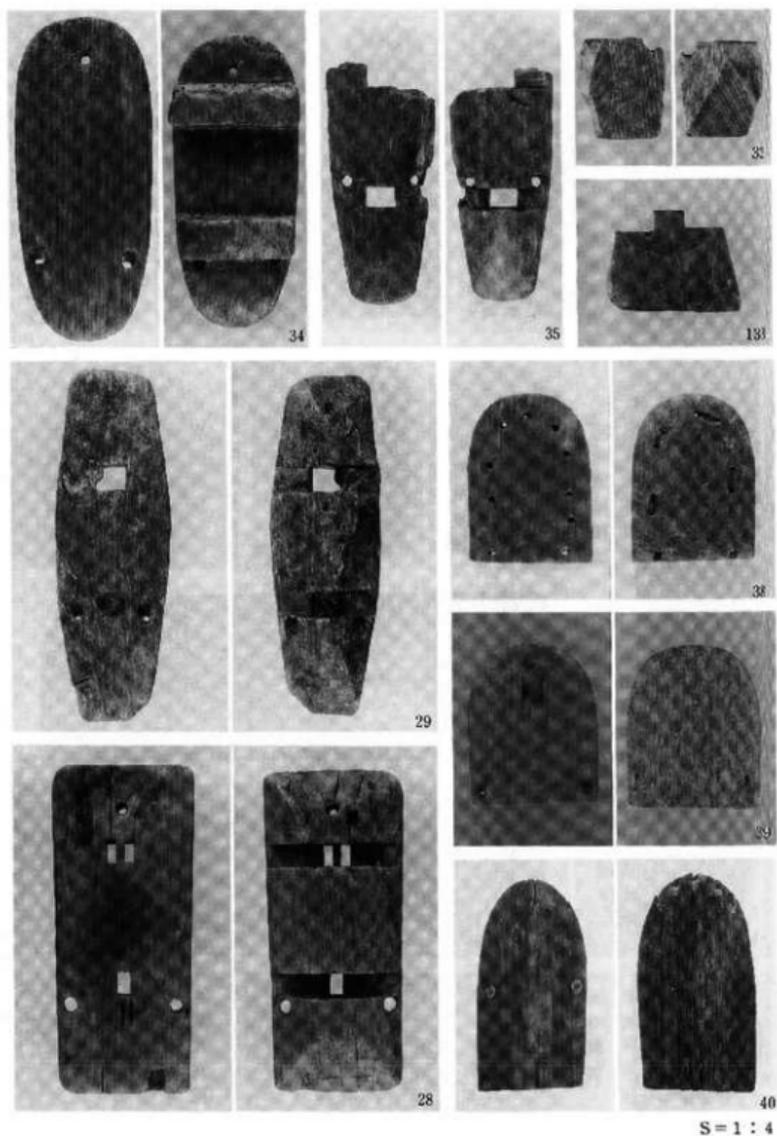


図版55 第5地点出土箸状木製品
Pl. 55 Wooden chopsticks from NM5



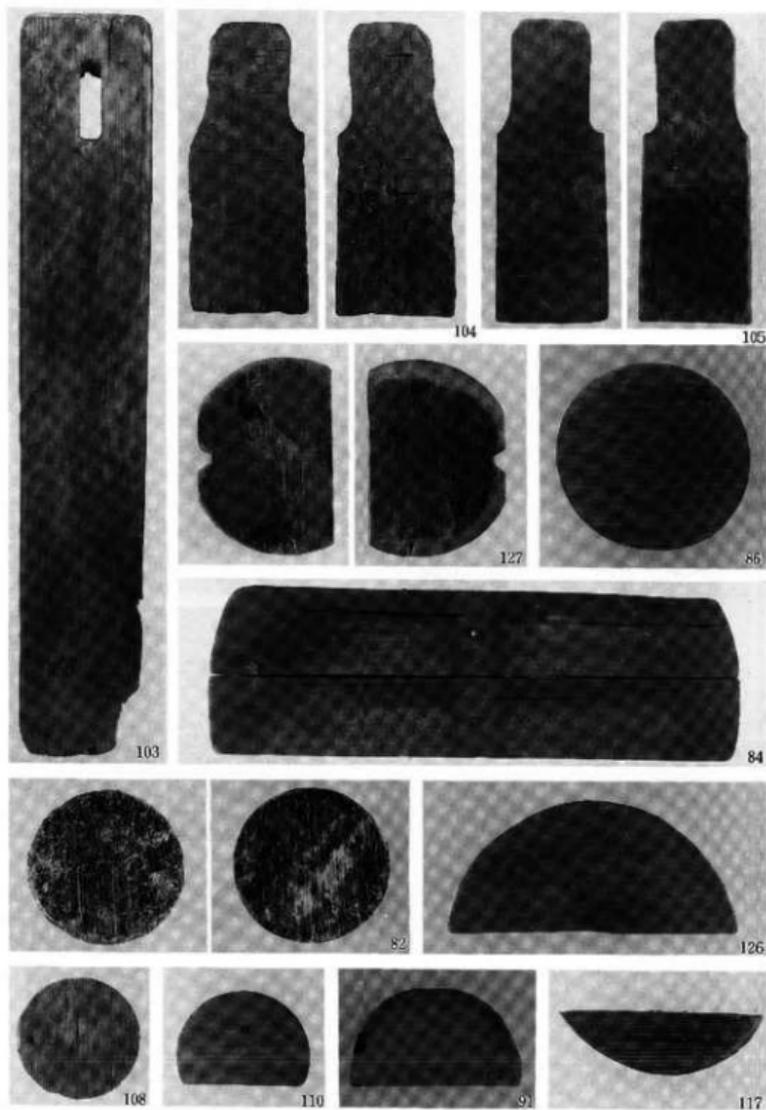
图版56 第5地点出土櫛・下駄(1)
Pl. 56 Combs and clogs from NM5

櫛 S=1:2
下駄 S=1:4



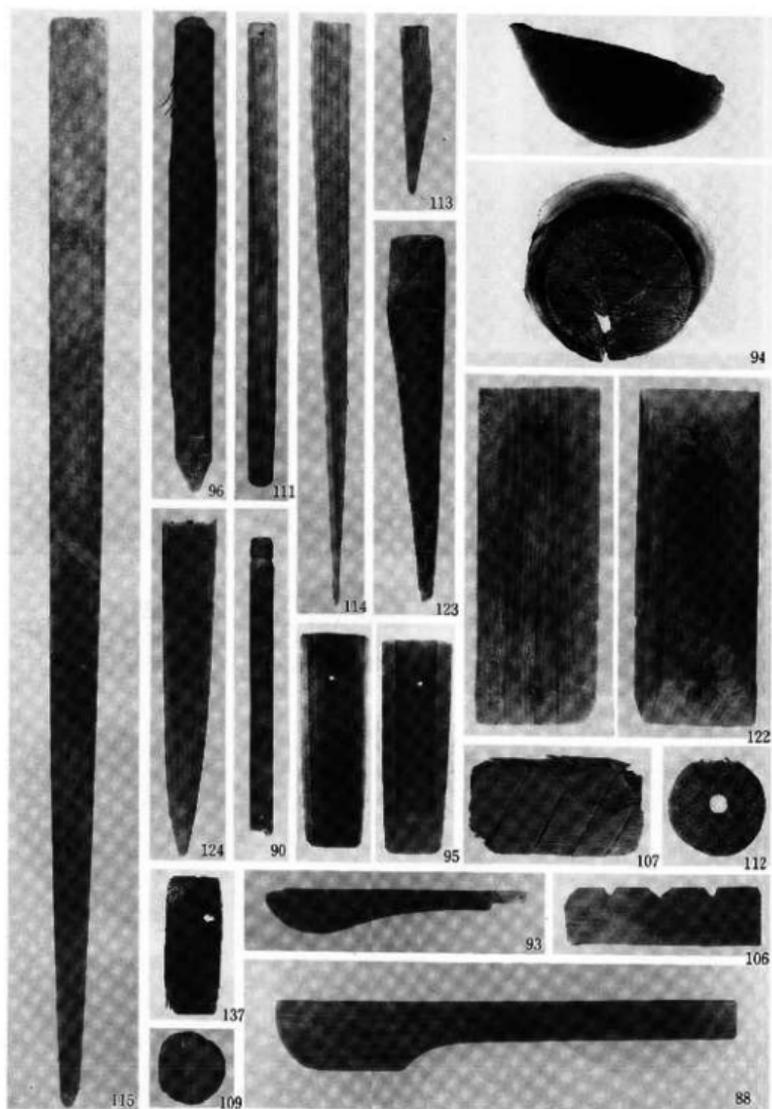
图版57 第5地点出土下鞋(2)
Pl. 57 Clogs from NM5 (2)

S = 1 : 4



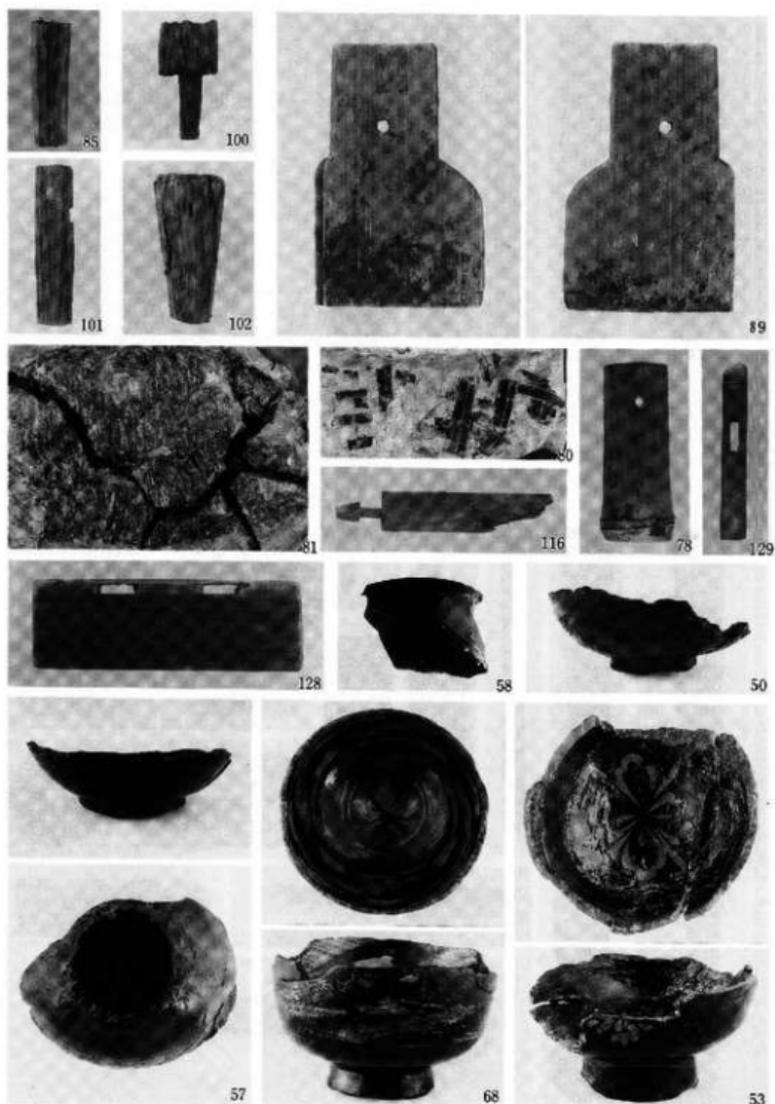
S = 1 : 3

図版58 第5地点出土その他の木製品(1)
Pl. 58 Various wooden implements from NM5 (I)



S = 1 : 3

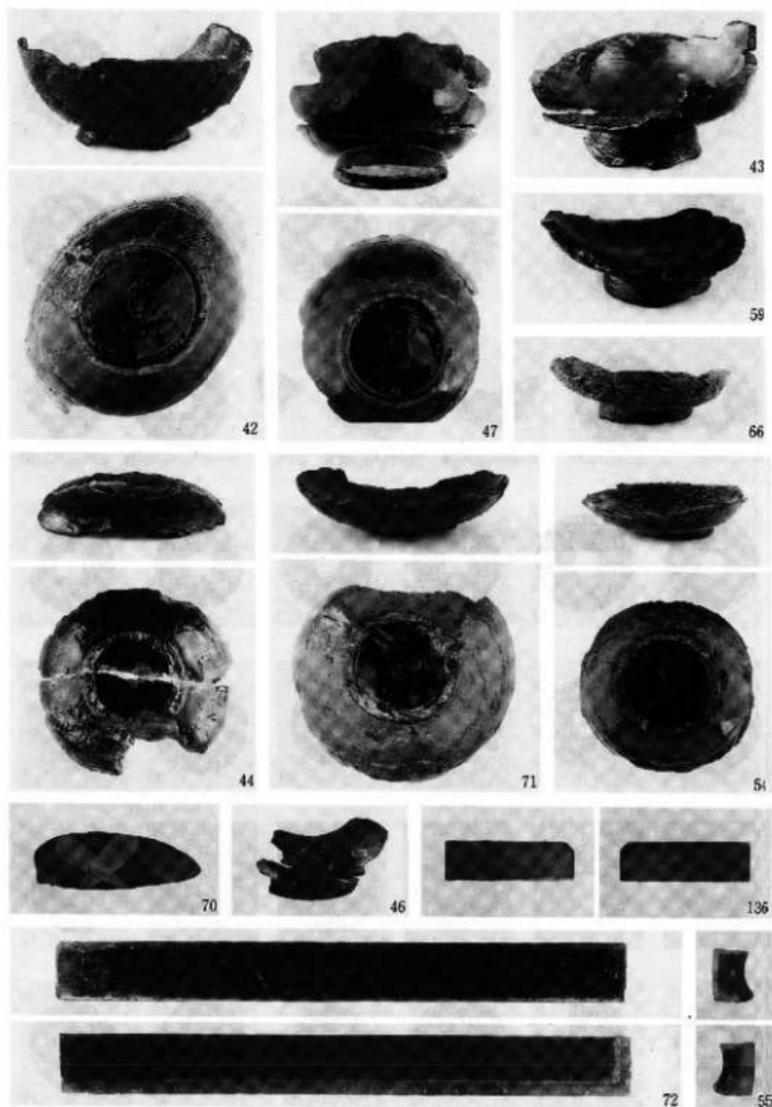
図版59 第5地点出土その他の木製品(2)
 Pl. 59 Various wooden implements from NM5 (2)



S = 1 : 3

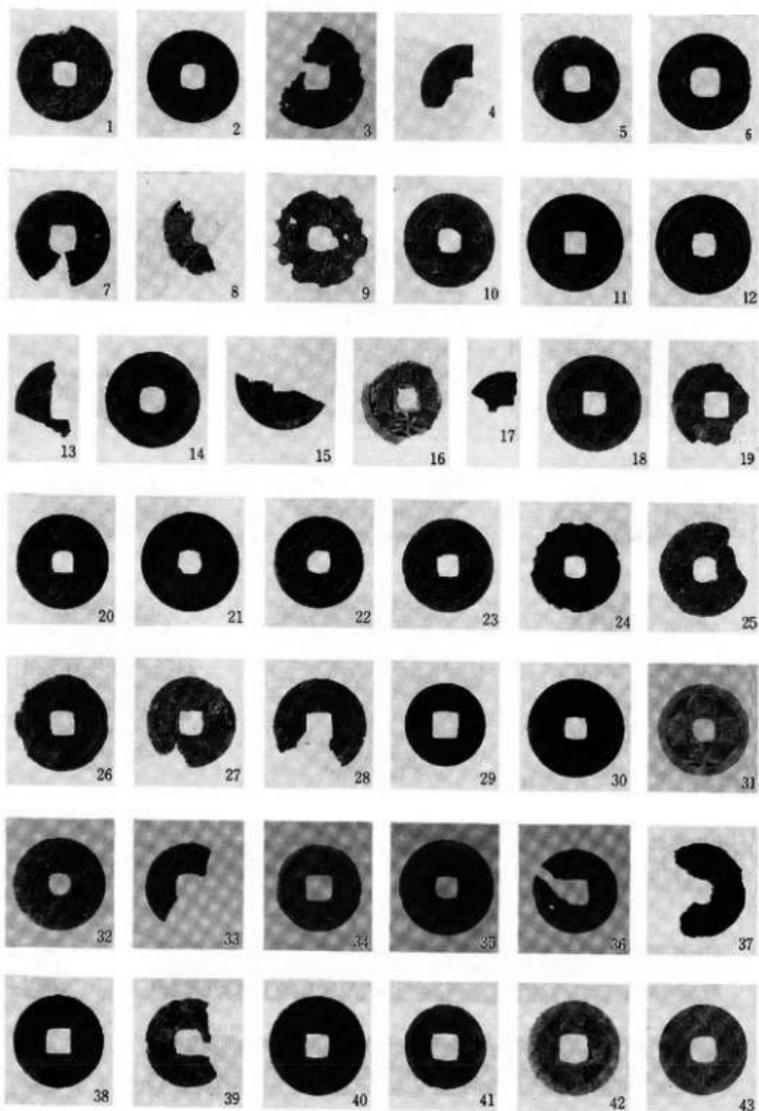
図版60 第5地点出土その他の木製品(3)・漆塗製品(1)

Pl. 60 Various wooden implements and lacquerwares from NM5



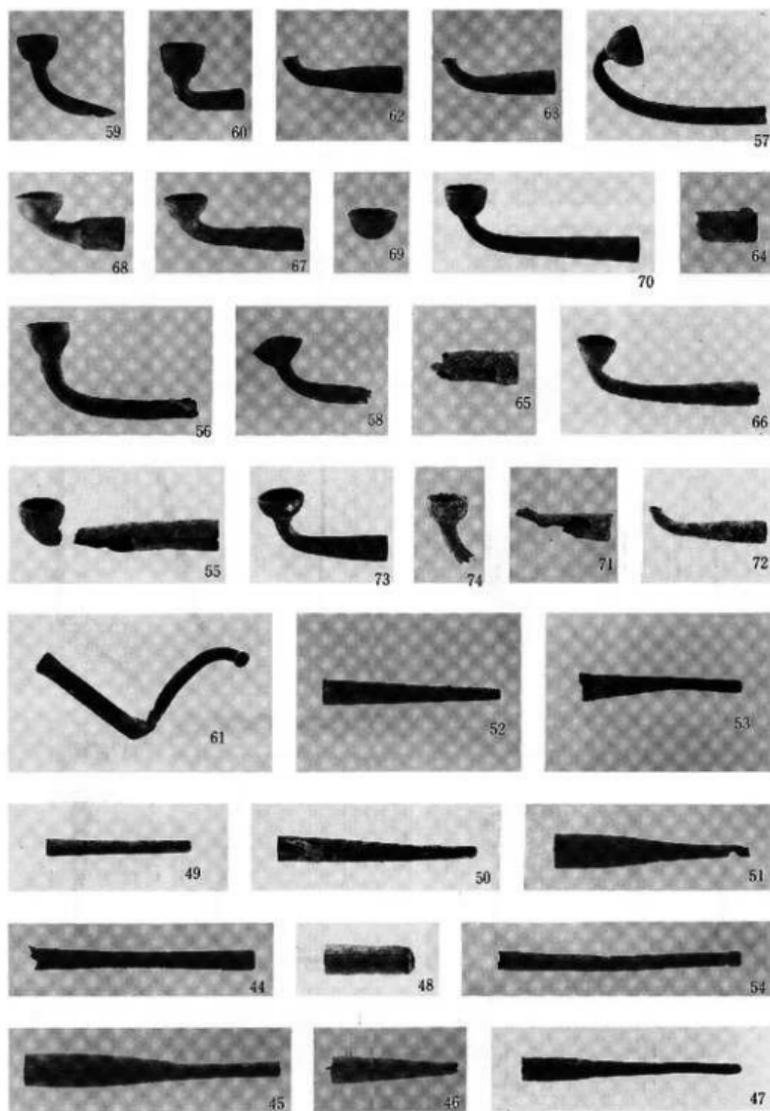
图版61 第5地点出土漆塗製品(2)
Pl. 61 Lacquerwares from NM5 (2)

S = 1 : 3



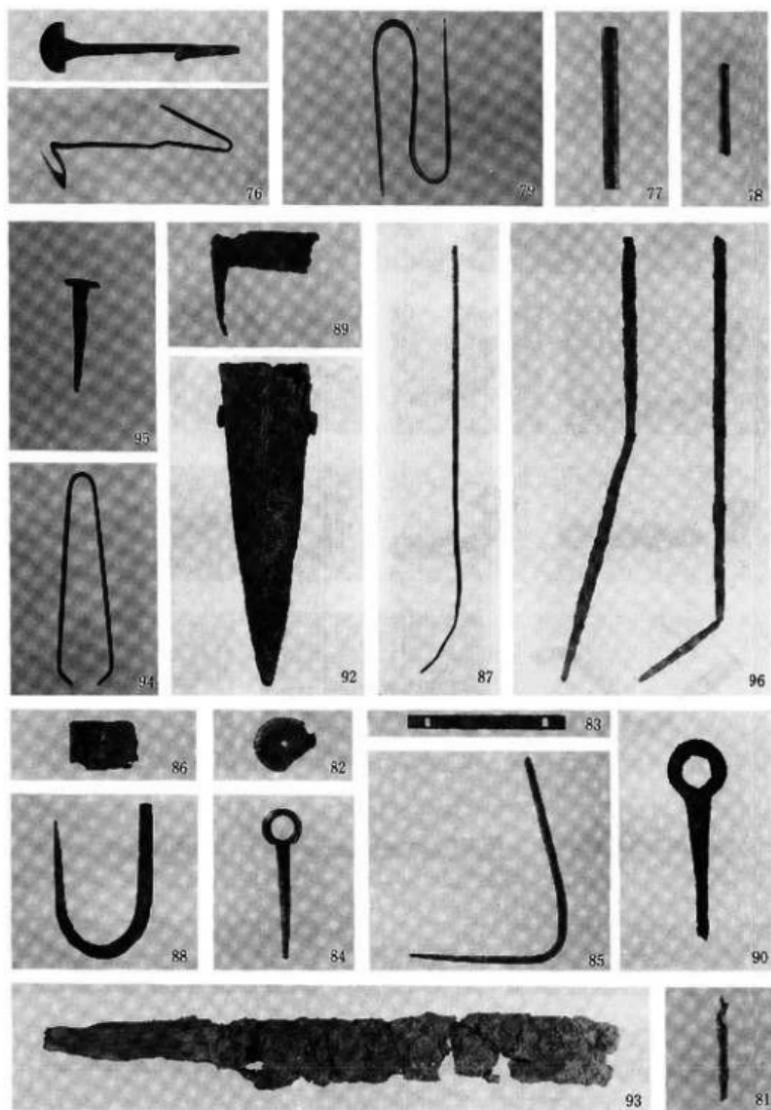
S = 2 : 3

图版62 第5地点出土古钱
Pl. 62 Coins from NM5



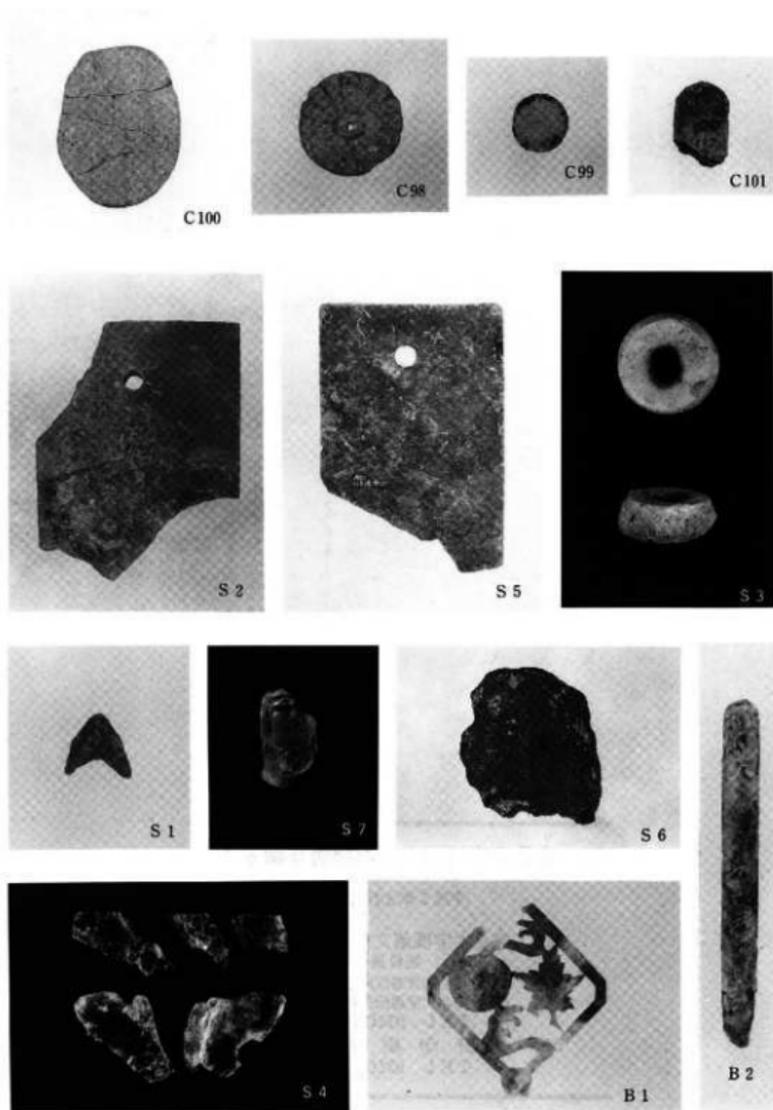
S = 1 : 2

圖版63 第5地点出土煙管
Pl. 63 Pipes from NM5



S = 1 : 2

図版64 第5地点出土その他の金属製品
Pl. 64 Various metal implements from NM5



図版65 第5地点出土その他の遺物
 Pl. 65 Various implements from NM5

S1・B1・B2 S=1:1
 その他 S=1:2

東北大学埋蔵文化財調査年報 6

平成 5 年 3 月 25 日

発行 東北大学埋蔵文化財調査委員会
委員長 西澤 潤一

〒980 仙台市青葉区片平 2 丁目 1-1
東北大学遺伝生館研究センター内
TEL 022(227)6200(内)3311

印刷 今野印刷株式会社
TEL 022(288)6123
